

同じ、あらふ、水をかけて洗ひきよめる。ふく、風が物を吹あげる。

【灑沃】水をやそぐ、水をそぐきかけて洗ひ清める。

【灑掃】水をまき散してはき清む。

【灑然】驚くさま。

【灑々】雨のしめやかにふるさま。

【灑落】さつぱりしたるさま、洒落。

類語 高灑 垂灑 洗灑 淋灑 掃灑 霑灑 播灑 脫灑 揮灑 蕩灑

灑

灑の俗字

灘

せ、はやせ(石多く水勢早き所)又水が走り流れる所。水のほとばしり流れるさま。國訓など(陸に遠くして波のあらし所、あらうみ)。

【灘師】海の急流又は早瀬などを知りて案内するもの、水先案内。

灑

カウ

ひろし(廣)おほいなり(大)灑々は廣大なるさま。

灑

ハ

灑

【灑橋】ハケウ 長安の東にあり、昔人を送る者がこの橋畔にて柳の枝を折り送別の意を表したる故事に因り名高し。

【灑橋上】ハケウロジヤウ 詩思をねるに適したる所。

灣

ワン

湾

水の曲り入りこみし所、いりえ。【灣入】ワンニフ 海水の陸地に入りこむと、又そのところ、入江。

【灣曲】ワンキョク 弓形にまがる。

【灣角】ワンカク かも、まがり角。

【灣洞】ワンドウ 川の隈に水の流れめぐるをいふ。

灑

エン

灑

【灑】たゞよふ、波がゆれうごく。【灑】(四川省夔州府の南にあり)【灑々】エンエン 月光の水に映じてうつしく光る貌。

火部

火

タワ

火

【火】ひ(燃えて光熱を發するもの)ほのほ、火えん、きりび、燧の火。【五行の一】、また星の名。やく(燒)もえる、やける。【凡て發光體をいふ】、又もえる如く光るもの。【火をつけてもやす、火を放つ、火事】兵制、卒十人を火と稱す。【心の

物に激してのぼせるをいふ。あかし、ともしび、又おき(炭火)たきび、火をたく。物事の急にせまるさま。

【火刀】火槍に同じ。

【火口】火山の噴火する口。ほくち、ひうち。火をつける材料。火門。

【火化】火にて物をにること。

【火山】火山。火を吹き出す山。

【火斗】火のし、熨斗。

【火夫】汽罐の火をたく職の人。

【火片】火のこ、火塵。

【火主】火事を出したもと、火もと。

【火田】草木を燒きはらひて肥料となし耕作すること。水田に對して畑をいふ。

【火中】火の中、又火中に入れてやきすてる。

【火牛】齊の田單が牛の尾に火をつけて敵を破りし故事。

【火刑】火罪に同じ。

【火把】たいまつ、松明。

【火宅】煩悶の盛んなる現世を火中の家にとへていひし語。

【火印】やきはん、烙印。

【火伴】同じ團體のなかま。

【火門】鐵砲の火氣を筒に通ずる穴

【火攻】火をせめ、やきうち。

【火技】火器を取扱ふわざ。

【火兵】大砲小銃の稱。

【火舍】香爐。火鉢の類。

【火災】火のわざわひ、火事。

【火定】佛敎信者が小乘の涅槃に入らんとして自ら火中に投じ死ぬと。

【火花】火花。ひばな。煙花、はなび。電氣が放射する時發する光。

【火星】地球に最も近き惑星。

【火盆】物を煮て食す。

【火食】火のこ、火塵。

【火炬】たいまつ、松明。

【火急】火の出る如く急なる意、極めて俄かなること、大至急、特急。

【火車】火攻めに用ゐる具。地獄の火のくるま。悪婆。瀛車又は火輪車。

【火酒】焼酎、酒精分多く強烈なる一種の酒。

【火事】火災に同じ。

【火魚】海魚の一、かながしら。

【火脈】火熱の傳はる地下の道。

【火耕】草を田畑にて燒きその上に種子をまく耕作法。

【火教】宗教の一、拜火教。

【火焔】ほのほ。ねなし葛の異名。

【火速】火急に同じ。

【火毬】石綿にて織りし耐火性の布をいふ。

【火罪】火あぶりの刑。

【火筒】火ふき竹。

【火雲】ひでりぐも。夏の雲。

【火鈴】手でふり鳴らす一種の鈴。

【火遁】火によつて姿をかぐす術。

【火傷】皮膚が火又は熱湯等にて傷められるをいふ、やけど。

【火飯】やきめし、やきいひ。

【火鼠】深山に棲む獸、ひねづみ。

【火埃】のろしのだい。

【火漆】封臘の異稱。

【火葬】死者を燒きて葬むる、土葬。水葬の對。

【火綿】無煙火薬の原料にする爆發藥、木綿の纖維を精製し強硝酸と強硫酸の混和液にて處理して製す。

【火筆】夏のあつきことをいふ。

【火箭】火をつけて射る矢、又信號用の火具の名。

【火器】銃砲の類、又ひいれ。

炬

燼の俗字

炊

スキ

炒

いる(煎)

【炒米】サウマイ いりごめ、やき米。
【炒豆】イラマノ 火でいりたる豆。

炎

エン タン

炎

【炊子】スキシ めしたき、炊事夫。
【炊夫】スキフ 飯たきの男。
【炊事】スキジ 飯をかしぐ、轉じて一般の食料料理の義、にたき。
【炊烟】スキエン 飯をたぐるときにのぼるけむり、かまどのけむり。
【炊果】スキカ 動きのぼると、炊果に作る。
【炊柱】スキキ 肉桂樹を焚きて飯を炊く意、轉じて奢侈なること。
【炊婢】スキヒ 飯たき女、下女、炊婦。
【炊器】スキキ 飯をかしぐ、めしをたくと。
【炊金銀玉】スキキンギョク 金をかしぎ玉を食物とする義、轉じて非常なる美食、又盛んなる御馳走の意。
【炊骨食子】スキボクシ 史記の楚世家に「莊王が宋を攻めし時城中食盡き遂に子を易へて食ひ骨を折りて炊ぐ」とあり食物の非常に缺乏したるをいふ

【炒米】もゆ、やける、もえ上る【ほのほ(煽)】もえ上る【あつし(熱)】やく【焚】やける、もやす【さかんなり(盛)】南方の天の【東北の風】美しく盛んなる貌
【炎上】エンジョウ 火災に罹りて焼けると
【炎天】エンテン 夏の暑き空【南方の天】
【炎灼】エンシヤク 火のもえあがるさま。
【炎旱】エンカン 火のもえあがるさま。
【炎々】エンエン 美しく盛んなり【火勢のさかんなるさま】
【炎帝】エンテイ 夏炎を司る神、夏の神、又單に夏の意。
【炎毒】エンドク 暑さの苦しき。
【炎威】エンキ 暑気のはげしきさま、夏のはげしき暑さ。
【炎荒】エンクワウ 遠き南方の未開地。
【炎情】エンジョウ 思ひを焦す、一筋に思ひ

【炎精】エンセイ 夏のほ、又かけるふ、陽
【炎日】エンニツ 夏の異名。
【炎暑】エンショ あつさのきびしきをいふ。
【炎海】エンカイ むしあつしこと。
【炎塵】エンチン 日中のあつきほこり、又火のこ。
【炎涼】エンリョウ あつさと涼しさ、轉じて人情の厚薄にいふ。
【炎陽】エンヤウ 夏の異名。
【炎暑】エンショ あつさのきびしきをいふ。
【炎海】エンカイ むしあつしこと。
【炎塵】エンチン 日中のあつきほこり、又火のこ。
【炎精】エンセイ 夏のほ、又かけるふ、陽
【炎日】エンニツ 夏の異名。
【炎暑】エンショ あつさのきびしきをいふ。
【炎海】エンカイ むしあつしこと。
【炎塵】エンチン 日中のあつきほこり、又火のこ。

炕

カウ

【炕】かわく(乾)ほす、かわかす、ひる【あぶる(炙)】たゆ(絶)【高ぶるさま】はる(張)【あぐ(抗)】をんだる(床下に火氣を通じて室内をあたくめるしかけ)

炙

セキ シヤ

炤

セウ

【炕牀】カウシヤウ 満洲又は北清地方にて室内に設くる火床のこと、をんだる。
【炕暖】カウナン 火氣を通じてあたくむ。
【炙】あぶる(肉をやく)火あぶりにす【苦痛を與へる、迫害する】したしみ近づくと【あつし(熱)】やく(焼)あぶりものやき肉
【炙子】シヤシ 俗にあぶりこ、中に火を置き上に衣服などを掛けて暖める籠。
【炙殺】シヤツ 火あぶり、苦痛を與へて殺す意。
【炙鞭】シヤクワ 辯舌のよどまぬこと。
【炙燥】シヤウ 火にあて、乾かす。
【炙魚】シヤギョ 焼きたる魚、やきざかな。
類語 膾炙シヤイ 親炙シヤシ 燂炙シヤシ 炙炙シヤシ 燂炙シヤシ 燂炙シヤシ 燂炙シヤシ

【炬】キョ コ
【炬燵】キョコ たいまつ、松明。
【炬燵】キョコ 暖をとる装置、火爐。
【炬燵】キョコ たいまつ、松明。
【炬燵】キョコ 暖をとる装置、火爐。
【炬燵】キョコ たいまつ、松明。
【炬燵】キョコ 暖をとる装置、火爐。

炫

ケン ゲン

【炫】ひかる、かゞやく、かゞやかす【てらす】あきらか(明)【ひかり、かゞやく、光明】みえをはる、てらふ、誇り示す
【炫光】ケンクワウ 光りかゞやくこと。
【炫炳】ケンペイ 前に同じ。
【炫怪】ケンクワイ 異色ありて特に人目につくこと。
【炫然】ケンゼン 光りかゞやく貌。
【炫耀】ケンゴウ ひかりかゞやく。
【炫燿】ケンゴウ 誇り示す、みえをはる。
【炬】キョ コ
【炬燵】キョコ たいまつ、松明。
【炬燵】キョコ 暖をとる装置、火爐。
【炬燵】キョコ たいまつ、松明。
【炬燵】キョコ 暖をとる装置、火爐。

炭

タン

【炭】すみ(木をむしやきにして製したる燃料、木炭)炭をもやした火【火氣が傳はりて火となりしもの】はひ(灰)【元のこり】元素の名【石炭の略】
【炭火】タンカ 火のつきたる炭、すみび。
【炭山】タンサン 石炭を埋蔵せる山、又はその土地。
【炭斗】タント すすとり、木炭を入れる籠。
【炭化】タンカ 化学上の語、或る物體が炭素となる作用、又炭素と化合すること。
【炭田】タンデン 炭層の多き土地。
【炭末】タンマツ すみの粉、こなずみ。
【炭坑】タンカウ 石炭を掘出す坑。
【炭庫】タンコ 炭山に埋蔵する石炭量。
【炭庫】タンコ 石炭を入れる倉庫。
【炭素】タンソ 元素の一、無味無臭にして廣く自然界に存在す。
【炭層】タンソウ 地中岩石の間に存在せる石炭の層。
【炭酸】タンサン 無水炭酸が水と化合して生

【炭鐵】タンクワウ 石炭の別名。
【炭團】タドン 炭の粉をこねて丸めし物。
【炭水化合物】タンシキウワツ 炭素と水素との化合物。
【炭酸加里】タンシキウ 植物性の灰中に多く存する溶解しやすき白色粉末。
【炭酸瓦斯】タンシキウガス 炭素と酸素の化合物

類語

懸炭タン 炭泥タン 石炭タン 獸炭タン
炭炭タン 塗炭タン 氷炭タン

炮

ハウ

①やく、あぶる、肉を毛ぐるみにして焼くこと、まるやき②物につまみで焼くこと、又そのやきもの③祭を焼きて行ふ祭の名④やく(灼)⑤庖に通ず⑥刑罰の一⑦俗に砲に通ず
【炮煮】ハウシヨ あぶるとにる。
【炮礮】ハウロク 素焼の平たい土鍋。
【炮烙之刑】ハウロクノケイ 殷の紂王の行ひし一種慘酷なる火刑、火あぶりの刑。

炯

ケイ キヤウ

耿に通ず、あきらか(明)
【炯々】ケイケイ 明らかなるいましめ。
【炯戒】ケイケイ 明かなる貌。
【炯眼】ケイガン あきらかに物を見ぬく、明察の意。
【炯鑒】ケイカン あきらかなるてほん。

焦

ハウ ベウ

①やく、あぶる(炮と同じ)②ほこる(矜)氣づよくあはる
【焦然】ハウカウ 自ら矜りてあはる貌。

炸

タイ

始に作る、すゝ(煤)
【炸】サク サ アフ
①火氣によつて裂けはじける、爆發する②あげる(食物を油にてあぐ)
【炸發】チラハツ 火薬が爆發すること。
【炸彈】チラダン 炸薬を罐にこめしもの、又炸薬の彈丸。
【炸藥】チラヤク 砲彈の中にしこみて彈體を爆發せしめるくすり。

炳

ヘイ

①あきらか(明)②いちぢるし(著)③明かなる火、又著明なるさま
【炳乎】ヘイコ 次に同じ。
【炳々】ヘイヘイ あきらかなる貌。
【炳然】ヘイゼン 顯著なる貌、明らかなる貌。

炷

シユ

①とうしん(燈心)とうしみ、とうすみ、燈中の火心②たく、香を焚く、薫す

六畫

烈

レッ

①はげし、火勢きびし②たけし(猛)③あらし(暴)きびし、きつい、甚しい④たゞし(正)氣象がつよく正し⑤ひかる(光)明らか、いちぢるし、又明らかに知れる⑥うつくし(美)⑦そこなふ(害)⑧のこり(殘)⑨わざ(事業)てがら、功業⑩さく(裂)⑪列に通ず⑫高大又は至雄の意⑬憂ふる貌⑭あぶる(炙)もやす、やく

烏

ウ

ウ

(善)①うつくし(美)②かすか(微)③やはらか(和)④よろこび(慶)さいはい
①鳥の名、からす②歎聲、あゝ③いづくんぞ(安)なんぞ(何)どうして、何とて④黒色を烏といふ、くらし⑤日又は歳月の意
【烏牛】ウウウ 毛の黒き牛、くろらうし。
【烏衣】ウイ 燕の居る所を烏衣國といふに因み燕のこと。
【烏江】ウカウ ①川の名、楚の項羽が自殺したる所②黒龍江の異名。
【烏有】ウイウ いづくんぞ有らんの意、即ち物事のあらざること、跡かたもなし。
【烏合】ウカウ 烏の集りの如く規律のたゞざるにいふ(例)烏合の衆。
【烏角】ウカク 黒色の角ある頭巾。
【烏府】ウフ 御史臺、法律を司る役所の異名
【烏兔】ウト ①日と月の異稱②つきひ。
【烏金】ウカキン ①鐵の異名又赤銅の稱②高利の金。
【烏炭】ウタン すみ、木炭。
【烏孫】ウソン 支那西域の一族、又其人種。
【烏扇】ウセン 草の名、ひあふぎ。

【烏魚】ウキョ 鰻の異名、又やつめうなぎ。
【烏賊】ウジク いか。
【烏蛇】ウジヤ 蛇の一種、からすへび。
【烏珠】ウジュ 烏の黒星。
【烏帽】ウバウ 黒色の帽子。
【烏雲】ウウン ①くらくも②婦人の黒がみ③陣法の名。
【烏散】ウサン うたがはしきこと。
【烏喙】ウケイ ①鳥頭に同じ②烏のくちばし③食慾なる人の相にいふ。
【烏號】ウガウ 黃帝の使用したる弓の名。
【烏臺】ウタイ 烏府に同じ。
【烏銅】ウドウ 金屬の名、しやくどう。
【烏濬】ウジュン ①南方の野蠻人種の名②物笑ひの種となる、おろかなること。
【烏髮】ウハツ くるがみ、黒髪。
【烏頭】ウトウ 毒草の名、とりかぶと。
【烏鵲】ウジヤク 鳥の名、かさゝぎ。
【烏糖】ウタウ 黒砂糖。
【烏椏】ウラシ 木の名、かんらんの一。
【烏銀】ウギン ①銀を硫黄にてふすべたるもの②烏炭に同じ。
【烏樺】ウカバ 樺科の落葉喬木の一種。
【烏呼】ウコ 嘆息の聲、あゝ。
【烏文木】ウブンボク こくたんの異名。
【烏玉玦】ウキョクツツ 墨の異名。

類語

倮烈レツ 誠烈レチ 雄烈レユ
壯烈レツ 武烈レブ 剛烈レゴウ 風烈レフク
芳烈レフク 忠烈レチウ 猛烈レマウ
前烈レベン 成烈レテイ 大烈レタイ 遺烈レイ
寒烈レバン 動烈レブン 威烈レキ 休烈レキ
鴻烈レコウ 孝烈レコウ 勁烈レキ 霜烈レソウ
嚴烈レゲン 餘烈レフ

休

カウ

①ほこる(矜)氣づよくあはる②よし

【無宿】ムシユク 居宿する所なし、やどなし。
 【無庸】ムヨウ 功勞なきの意。
 【無望】ムバウ 思ひもよらぬこと、期せざること。
 【無情】ムジヤウ まことなし、不親切、心なし、つれなし。
 【無食】ムシキ 無慾に同じ。
 【無常】ムジヤウ 佛語、世上の事物の生滅轉變して定めなきをいふ、はかなき貌。
 【無貳】ムジ 二心なし、忠實なる心にいふ。
 【無量】ムリヤウ 數量の極めて大なること。
 【無筆】ムヒツ 文字を知らぬ、又その人。
 【無期】ムキ 期日に一定の限りなきこと。
 【無寧】ムシロ いつそ、それよりも。
 【無視】ムシ あたり軽んずる貌、有れどもなきが如く見ること。
 【無電】ムデン 無線電話の略稱。
 【無極】ムキョク ①絶対無限なる。②宇宙の根元③物の限りなきをいふ。
 【無逸】ムイツ ①佚遊安樂することなきをいふ。②書經周書の篇名。
 【無欺】ムキ いたづら、益なし。
 【無算】ムサン 數量の極めて多きこと。
 【無罪】ムズイ 裁判上犯罪の成立せざるをいふ、期ち罪なきこと。
 【無資】ムシ 無資本に同じ、もとでなし。

【無銘】ムメイ 刀劍類等に作者の名の印してないこと。
 【無辜】ムコ 罪なき者。
 【無勢】ムセイ 人數の少きをいふ(例)多勢に無勢。
 【無爲】ムイ 自然に任せて何のなすこともなき貌(例)無爲にして日を暮す。
 【無慾】ムヨク 慾心がない。
 【無窮】ムキウ 窮りなし、はてなし、限りなし。
 【無稽】ムケイ ①たがらぬ、よるところなし。②えんがない、ゆかりのないこと。③死者を弔ふべき親類のなきこと。④俸祿を給せられざること。⑤不幸の意に通ず。
 【無聲】ムセイ 音を立てぬ、聲を出さぬ。
 【無漏】ムロウ 佛語にて煩惱なき意。
 【無邊】ムヘン 廣々として物の限りなき貌。
 【無實】ムジツ ①事實のなきこと。②無き罪を有るが如くせられること。
 【無點】ムテン 調點のつかぬ漢文、白文。
 【無慮】ムリョ ①およそ、おほかた、すべて、たいてい。②並ぶものなし、二つとない。③裏と表が同じ様に見える仕立方。
 【無慙】ムゼン ①恥づべきことを知らず。②

情なきと、又いたはしいと。
 【無籍】ムシキ 戸籍に姓名を記さぬこと、又その者。
 【無數】ムスウ 數知れず、數量が數知れず多きこと。
 【無論】ムロン 言ふまでもなし、もちろん。
 【無德】ムトク 人望なきをいふ。
 【無謀】ムボウ かんがへなし、無理又は亂暴の意に通ず。
 【無疆】ムキヤウ ①はてなし、かぎりなし、きはみなし。②並ぶものなし。③極めて珍らしき意。④善にも惡にも此上なきものに言ふ。
 【無靈】ムレイ ①齊の宣王の夫人鍾離春が無靈の醜女にして號して無靈女といひしに因み醜婦のこと。②鹽魚に對し鮮魚人鳥。③人手の少きことをいふ。
 【無性】ムシヤウ ①なまけること、不精。②たよりなし、無沙汰。
 【無音】ムイ ①おろか、不肖、自己の謙稱。②たつしやである、無病息災。③何もなす事なき意。
 【無異】ムイ ①かはりなし、たつしや。②道理に反する貌。

【無粹】ムスチ ①風流を解せぬこと。②人情にうとまきこと。③無作法、無禮。
 【無聊】ムレウ ①爲す事なく退屈なるをいふ。②頼みなきこと。
 【無冀】ムキ 望み求める所なし。
 【無類】ムライ ①やくざ、ならずもの。②安んずるなし、苦しい。③憎み罵る語、又愛するの極わざと罵る語。
 【無禮】ムレイ 禮儀にかなはざるをいふ。
 【無難】ムナン ①さはりなし、無事。②一物もなきさま、總ての物のつきし貌。
 【無分別】ムフンベツ 考へがない、無鐵砲。
 【無主物】ムシユツ 法律上所有者なき物件。
 【無生物】ムセイブツ 自力を以て生活を營み又は成長することなき物の總稱。
 【無主義】ムシユギ 生活又は活動の準繩とすべき一定の主義なきをいふ。
 【無言劇】ムゴンゲキ しぐさのみにてせりふのなき劇、又映畫劇をもいふ。
 【無多路】ムタロ ①ほどこかし、遠からぬ意。②小指と並べる指、くすりゆび、べにさし指。
 【無字碑】ムジヒ 立派なる風采を具へ見識ある人物の如く見えてその實は無學なる人のこと。

【無邪氣】ムシヤキ よこしまなる心なし、あどけなし、つみがない。
 【無何有】ムカウ 私心なし、むなし、又は虛無の貌。
 【無花果】ムクワクワ 果樹の一、いちじく。
 【無所畏】ムシヨク 恐れざるさま。
 【無制限】ムシゲジ ①はてしなし、かぎりなし、止まる所なし。②抵當物なくして金錢の貸借をなすにいふ。
 【無所屬】ムシヨク 何れの黨派にも屬せずして獨立せること。
 【無定見】ムテイケン 一定の主義節操なく見識の定まらざるをいふ。
 【無風帶】ムフウタイ 回歸無風帶とも言ひ地球上の南北兩緯度とも凡そ三十度の所年中無風なる地帯。
 【無定形】ムテイケイ 固體の未だ結晶せざる間をいふ。
 【無思慮】ムシリョ ①深き考へのなきをいふ。②無邪氣に通ず、あどけなし。
 【無垢衣】ムコウイ 無垢を見よ。
 【無記名】ムキメイ 姓名を記さぬこと。
 【無造作】ムソウサ 容易、てがる、たやすし。
 【無條件】ムジョウケン 法律上の語、契約をなすに當り他日不確實なることの起れる

時決定を與ふべき意思表示のなきと。
 【無神論】ムシロン 有神論の對、宇宙間に神の存在することを否定する論。
 【無神經】ムシケイ 感じのぶきをいふ。
 【無責任】ムセキニン ①法律上又は道德上の責任を負はぬこと。②自己の責任を輕んずるにも言ふ。
 【無規律】ムキリフ 規律なきと、だらしなし。
 【無患樹】ムクワンジュ ①むくろじの木の實。②人をあはれみいたはる心のなきをいふ。
 【無等雙】ムトウサウ ならぶものなし、無二、無雙。
 【無意識】ムイシキ 睡眠の時の如く自我の觀念の活動せぬ状態、又故意でなきこと。
 【無感覺】ムカンカウ ①感じのぶきこと。②情のうすきと。③感情を押へつげると。④無煙炭を發し燃焼するも煙を發せぬもの。
 【無意的】ムイテキ 意志の支配を受けず單に感覺のみによりて營まれる作用。
 【無產黨】ムサンタウ 無產階級を代表して組織せられたる政治上の黨派。
 【無關心】ムクワンシン 無我の念を全然はなれたる貌をいふ。
 【無趣味】ムシユミ ①趣味とすべきものゝな

【無盡藏】ムジンザウ 天地自然界に萬物の無盡なるをいふ。中より取り出すとも盡くすることなくして藏せらるること。
 【無盡講】ムジンカウ 頼母子講の一種。
 【無縁寺】ムエンジ 東京市の回向院の如く弔ふべき者なき死者のみを葬りたる寺院。
 【無聲詩】ムセイシ 書や繪畫をいふ。
 【無機酸】ムキサン 無機物より製したる酸類。
 【無機體】ムキタイ 化學上の語、生活機能をもたぬ物體をいふ。
 【無機物】ムキブツ 化學の語、礦物を構成する物質。
 【無縁塚】ムエンソウ 後を弔ふものなき亡者の塚。
 【無作法】ムサハフ 禮儀に適はぬこと。
 【無沙汰】ムサタ 久しくたよりがない。
 【無骨者】ムボウモノ 禮儀にならぬ鄙びたる人。
 【無禮講】ムレイカウ 貴賤上下の別なく打寛ぎ遠慮なく振舞ひて酒宴など催すこと。
 【無二無三】ムニムサン 傍目も觸らず一心になる貌。
 【無用長物】ムヨウナガブツ 有るとも何んの益もなき意。
 【無宇宙論】ムウチュウロン 神を離れて宇宙の

存在を否定せんとする學理的の見解。
 【無妄之福】ムバウノフク 必然的に受くべき幸福をいふ。
 【無形資本】ムケイノシケン 得意又は技能等の如く形はなれども之を活用することによつて増加せられる資本。
 【無官太夫】ムクワンノタイフ 昔四位又は五位の位にありて官職なき人のこと、公卿の子の未だ元服せざる者を言ふ。
 【無品親王】ムキンシンワウ 親王にして位階なき者。
 【無怨無德】ムエンムトク 恩も怨もなしの意にて普通の交際をいふ。
 【無理往生】ムリワウジヤウ 承諾せざる者に對し暴力又は他の力を以て無理に我意に従はしめること。
 【無限責任】ムゲンセキニン 會社の債務について負擔する責任の無限なること。
 【無記名株】ムキメイカブ 株主名簿にも株券面にも其所有者の名の記載なき株券。
 【無産階級】ムサンカイキウ 有産階級の對、最下層階級、下流民、佛語プロレタリアートの譯。
 【無理算段】ムリサンダン 程度を越え或は適當の手段によらずして強ひて物の融通をなすこと。

【無量壽佛】ムリヤウジュフツ 阿彌陀佛の異名。
 【無爲而化】ムキニシテカス 教育・政治等を行はずとも自然に國家の治まること。
 【無理無體】ムリムタイ 甚しく道理に反する貌。
 【無偏無黨】ムヘンムタク 不偏不黨に同じ、何れの黨派にもくみせず中正にして公平なるをいふ。
 【無間地獄】ムケンヂゴク 佛語、八熱地獄の一、阿鼻地獄、絶間なく苦痛を受ける義。
 【無風狀態】ムフウジヤウタイ 地球上の無風帶に風浪のなき如く靜閑無爲にして善惡共に何等の事件も動搖もなき狀態。
 【無意識的】ムキシキヤク 睡眠中の心意狀態の如く自我の觀念が自由を區別して他物を自己の對照として認めざる狀態。
 【無意作用】ムイヤクワウ 無意識にて行はれる心的作用。
 【無影無跡】ムエイムセキ 全然その事のなきをいふ、あとかたもなし。
 【無腸公子】ムチヤウコウシ 蟹の異名。
 【無線電信】ムセンデンシン 電線を用ゐずして通信をなし得る電信。
 【無線電話】ムセンデンワ 電波により電線を架せずして通話し得る電話、ラヂオ。
 【無煙火藥】ムエンクワヤク 火藥の一種にして

爆發する時にも煙を發せぬもの。
 【無學文盲】ムガクマンマウ 學問がないこと。
 【無縫天衣】ムフウテンイ 天女のつくりし衣服、自然に巧妙を極めたる文章に喩ふる語。
 【無病自灸】ムヘンチキウ 徒に辛勞する貌をいふ。
 【無可無不可】ムカクムカク 執著する所のなき意。言ふ程の功なし。是非の論すべきなし。
 【無記名投票】ムキメイトウ 選舉人が投票紙に自己の姓名を記せざる投票の方法。
 【無政府主義】ムセイフシユイ 國家組織を排し個人の自由意志による社會を建設せんとする主義、英語アナキズムの譯。
 類語 有無 虛無 絕無 皆無

【焦】セウ 國調こがる(甚しく思ふさま、慰ひしたふ)。
 【焦土】セウド 燒け土、家などの燒けて跡形もなくなるに用ふ(例)焦土と化す。
 【焦心】セウシン 氣をもむ、心をいたむ、いらだつ。
 【焦灼】セウシャク やく、やける。
 【焦味】セウミ にがきあぢ。
 【焦迫】セウハク いらだつ。事物のさしせまる貌。
 【焦眉】セウメイ 危急の眼前にせまりたる貌。
 【焦桐】セウドウ 琴の異名。
 【焦思】セウシ 心を痛む、焦慮。
 【焦萃】セウスイ 我が妻の謙稱。
 【焦卷】セウケン 日にやけて縮まること。
 【焦慮】セウリョ 心配する、氣をもむ。
 【焦勞】セウラウ 心をいためて案じわづらふこと。
 【焦著】セウシヨ 極めてあつし。
 【焦燥】セウサウ いらつ。心が落つかぬ貌。
 【焦點】セウテン ①球面鏡又はレンズ等に光線の集合する點。②一般に事物の中心をさしていふ。
 【焦心苦慮】セウシンクリョ 心をこがし苦心すること。
 【焦眉之急】セウメイノキヤク 甚しく危急なる場合をいふ。

【焦熱地獄】セウネツヂゴク 佛語、八大地獄の一。
 【焦頭爛額】セウトウランガク 非常なる危險を冒して勤勞するをいふ。
 【烈】リョ 烈の古字。
 【焮】ケン ①てらす(燦)②皮膚の一部に熱を發すること。
 【焮衝】ケンシヨウ 皮膚の一部局に熱を發して痛むこと。
 【焰】エン ①ひかり(光)②ほのほ(焰)。
 【焱】エン ①ほのほ(焰)②ひばな(火華)③焰のあがるさま。
 【然】セン ①もえる、もやす②しかり、さやうである、承認又はうべなふ語③斷定の語、

【煙水】 エニスキ 霞が、つた水面。
 【煙汀】 エニタイ 霞の中に隠れる水ぎは。
 【煙月】 エニゲツ 煙れる如くおぼろなる月のこと。
 【煙包】 エニパウ 煙草入の異名。
 【煙雨】 エニウ 曇りあめ、細雨。
 【煙波】 エニハ 煙水に同じ。
 【煙花】 エニクワ ①都市などのにぎはひ。②娼妓または娼妓の異稱。
 【煙突】 エントツ けむり出し、煙筒。
 【煙草】 エニウ ①たばこ、又煙をこめたる草。②煙包に同じ。
 【煙袋】 エニタイ 霞のたなびく景色。
 【煙景】 エニケイ 霞のたなびく景色。
 【煙筒】 エニエン 煙とほのぼ。
 【煙筒】 エントウ 煙突に同じ。
 【煙風】 エニラン 山のかすみ。
 【煙滅】 エニノフ 煙の如く消えらる。
 【煙管】 エニクワン きせる、パイプ。
 【煙毒】 エニドク ①石炭の煙の中に含む毒。②鉛を精煉する時出る有毒なる煙。
 【煙幕】 エニマク 軍艦・飛行機等が我が所在をくらますために吐き出す煙の幕。
 【煙塵】 エニチン ①けむりとちり。②戦争の塵けむり。
 【煙盤】 エニバン 煙草盆の異名。
 【煙樹】 エニジュ 煙霧につままれたる樹木。

【煙霏】 エニヒ 煙霧に同じ。
 【煙靄】 エニイ 同上。
 【煙瘴】 エニシヤウ 南地にはやる悪性の風土病。
 【煙霧】 エニム けむときり、かすみもや。
 【煙霽】 エニラン 煙の如くもやの立ちこめたる山の峰。
 【煙霞】 エニカ 煙とかすみ。①山水の景色をいふ。
 【煙火中人】 エニクワチウノヒト 俗世界の人のことをいふ。
 【煙霞痼疾】 エニカコシツ 山水を激愛する癖。
 類語
 炎煙 エニ 松煙 エニロウ 浮煙 エニ 長煙 エニヤウ
 陰煙 エニ 晨煙 エニ 寒煙 エニ 空煙 エニ
 水煙 エニ 晚煙 エニ 煤煙 エニ 喬煙 エニ

【煤】 テフ エフ ①やく(灼)②うてる、ゆてる、水に入れて煮たてる。
 【燧】 管に同じ
 【燧】 燧の俗字
 【煤】 バイ ①すゝ(煙が物に附着して生じたる黒い塵)煙塵②いしずみ(石炭)③すみ(墨)④すゝばむ
 【煤田】 バイデン 石炭の層の多量なる土地。
 【煤印】 バイイン すゝにて書く意、墨書。
 【煤油】 バイユ 石油、石炭油。
 【煤炭】 バイタン 石炭。
 【煤埃】 バイアイ すゝとほこり。
 【煤煙】 バイエン すゝけむり、石炭の煙。
 【煤氣】 バイキ ①すゝけむり②石炭瓦斯。
 【煤廠】 バイヤウ 石炭置場、又は石炭賣場。
 【煤氣井】 バイキセイ 石油の涌出する井戸。
 類語
 埃煤 バイ 奇煤 バイ 寶煤 バイ 墨煤 バイ

青煤 バイ 松煤 バイ
 【煥】 クワン ①ひかり、火のひかり。②あきらか(明)③あたゝか④かゞやく、光輝をはなつ、光りかゞやく。⑤あや(文)
 【煥乎】 クワンコ ひかりかゞやく貌。
 【煥發】 クワンパフ かゞやく現はれる。
 【煥彰】 クワンシヤウ あらははれること。
 【煥綺】 クワンキ かゞやくてあやある貌。
 【煥蔚】 クワンウツ うつくしくあやある貌。
 【煥麗】 クワンレイ 輝きて花やかなる貌。

【照】 セウ ①てらす、光を放つ、光にさらす、彼此を引合す、つきあはす。②かゞやく、てる、光りがうつる、日がさす、晴天である。③ひかり、又あきらか(明)つや。④光る。⑤くらべ察す(對照)規則等にあてはめる、明らかに知る。⑥證明書又は旅券の類。⑦寫眞
 【照子】 セウシ カゞみ、鏡。
 【照尺】 セウシヤク 著弾の距離を定める爲め銃身の上に取りつけたるもの。
 【照査】 セウシャ 彼と此をつきあはせてしらべる。
 【照考】 セウカウ 彼と此と對照して考へる。
 【照明】 セウメイ 舞臺上の一切の光線藝術、又電灯等を利用する一切の光線。
 【照映】 セウエイ てらす、うつす。
 【照校】 セウカウ 照し合して誤れるを正す。
 【照胤】 セウイン あきらかに繼ぐ。
 【照破】 セウハ 悉くてらす、てらしつくす。
 【照袋】 セウタイ 鏡を入れる袋。

【照準】 セウジュン ①照しあはせる標準、目あて。②銃身又は砲身を目標に的中するやうに据ゑること。
 【照會】 セウクワイ ①てらしあはす。②かけあふ、問ひ合す。③官廳の書類。
 【照々】 セウセウ かゞやく明らかなる貌。
 【照影】 セウエイ かげ、うつし、肖像。
 【照徹】 セウテツ 照しとほす、あまねく照す。
 【照察】 セウサツ あきらかに見ぬこと。
 【照應】 セウエイ 前後を照し合せて釣合をとる。
 【照應】 セウエイ しようこ。
 【照臨】 セウリン ①月が上から照し臨むこと。轉じて神佛が人を監し又君主が天下を治めること。いふ。②他人の來ることをいふ敬語。
 【照覆】 セウフク てらし合せて返す意、即ち手紙の返事、回答。
 【照耀】 セウヤウ かゞやく、てらす。
 【照鏡】 セウキヤウ ①かゞみにてらす。②有りのままを明らかに見る意。
 【照覽】 セウラン ひいき、ひきたて。
 【照覽】 セウラン ①あきらかに見る、てらしみる。②次に同じ。
 【照鑑】 セウカン 神佛が明らかに監視すると
 【照魔鏡】 セウマキヤウ 惡魔を照らしてその本

【煦】 ク ①あつし(熱)②あたゝむ(温)日光にてあたゝめる。③めぐむ(恩)なさけをかける。
 類語
 煦燠 ク 華煥 ク 炳煥 ク 昭煥 ク 明煥 ク 照煥 ク 燭煥 ク 啓煥 ク

【煦】 ク ①あつし(熱)②あたゝむ(温)日光にてあたゝめる。③めぐむ(恩)なさけをかける。
 類語
 煦燠 ク 華煥 ク 炳煥 ク 昭煥 ク 明煥 ク 照煥 ク 燭煥 ク 啓煥 ク

【煦】 ク ①あつし(熱)②あたゝむ(温)日光にてあたゝめる。③めぐむ(恩)なさけをかける。
 類語
 煦燠 ク 華煥 ク 炳煥 ク 昭煥 ク 明煥 ク 照煥 ク 燭煥 ク 啓煥 ク

體を見ぬく鏡。

類語

返照ヘン 夕照セウキ 朗照セラウ
 隱照セウ 餘照セウ 落照セラウ
 晨照セウ 晚照セウ 偏照ヘン
 過照セウ 燭照セウ 偏照ヘン
 均照セウ 殘照セウ 辨照ヘン
 過照セウ 殘照セウ 辨照ヘン
 過照セウ 殘照セウ 辨照ヘン
 過照セウ 殘照セウ 辨照ヘン

煨

煨(ウイ) うづみ火(埋火)火鉢
 の中の火、蓄へたる火。火中にうづめて物を焼く、くべる。

煩

煩(ハン) わづらはし、ごてくする、繁雜。いかりあらそふ。もだゆ(悶) わづらふ、わづらひ、思ひなやむ、苦勞する。わづらはす、面倒をかける、又めんだらうきし。

煩

煩(ハン) 手(ハン) 手をわづらはす、事に關して手数をかけること。

【煩冗】ハンジャウ わづらはしきと、煩舞。【煩多】ハンタ わづらはしい、うるさい、繁多。

【煩治】ハンチ 煩はしき政治をいとふ心。【煩急】ハンキツ 手数がかゝつてきびしい。

【煩冤】ハンエン たへがたい心配。【煩逆】ハンギャク 胸がわるくむかつく。

【煩苛】ハンカ 煩雜でこま／＼とうるさい。【煩務】ハンム わづらはしき務め、うるさい勤務。

【煩細】ハンサイ こまかくしてうるさい。【煩勞】ハンラウ わづらひつかれること。

【煩累】ハンルイ 煩はし、面倒。【煩亂】ハンラン 心がわづらひ亂れること。

【煩蒸】ハンジヤウ むし熱くして氣もちわるし、又そのあつさ。

【煩語】ハンゴ くだ／＼と煩はしき言葉。【煩悶】ハンモン もだえるしむ、思ひなやむ、煩懣。

【煩想】ハンシャウ わづらはしきおもひ、うるさく物と思ふ。

【煩濁】ハンジヤク 煩冗に同じ。【煩碎】ハンサイ 次に同じ。

【煩瑣】ハンサウ わづらはし、くだ／＼し。【煩厭】ハンエン うるさく思ふ、厭ふ。

【煩雜】ハンザツ 秩序亂れてわづらはしき貌。

【煩慮】ハンリョウ うるさき思ひ。【煩憂】ハンユウ 心配すること。

【煩弊】ハンハイ 事のしげきに過ぎてあしきをいふ。【煩熱】ハンネツ 煩蒸に同じ。

【煩論】ハンロン くだ／＼と論ず、こま／＼と説く、又その議論。

【煩劇】ハンゲキ わづらはしくせはし。【煩數】ハンスウ たび／＼にてうるさき貌。

【煩禮】ハンレイ 禮儀作法のくだくわづらはしきこと、又そのもの。

【煩襟】ハンキン 俗事のためにわづらはしくおもふこと。

【煩擾】ハンジョウ わづらはしくさわがし。【煩懣】ハンマン 胸がつかへてくるしい。

【煩簡】ハンカン 繁雜と簡易、煩はしいことと手輕なこと。

【煩鬱】ハンウツ 氣がめいる、氣がふさぐ。【煩惱】ハンノウ 情慾のわづらひ。

【煩瑣哲學】ハンサウテツガク 西洋にて中世に行はれた哲學、基督教を保護して其眞理なることを證明せんとしたもの、其議論があまり煩瑣である故かく名づける。又スコラ哲學ともいふ。

【熊人】ユウジン 熊がよく後尾にて立ち人の如くなるよりいふ、熊のこと。

【熊侯】ユウコウ 天子の射的。【熊魚】ユウイコ 熊の掌と魚、二つ共美味なるよりうまき物の意。

【熊掌】ユウシヤウ 熊の掌、珍味として賞せらる。

【熊膽】ユウタン くまのあ、藥物として用ふ。【熊羆】ユウヒ 熊とひぐま、轉じて強力の形容。

【熊羆】ユウヒ 熊掌に同じ。【熊虎將】ユウコウシヤウ 勇猛なる將帥。

【熊羆士】ユウヒシ 勇武の士、強き力。【熊經鳥伸】ユウキウニョウ 仙術を使ふ者が不老不死の目的にて身體を訓練すること。

【熊羆入夢】ユウヒニユメ 男子を生む夢のつげをいふ。

【熏】クン ①くすべる、ふすぶ、煙らせる、いぶす、煙をあて、黒くす、すくせせる。②あつし(熱)③火氣の盛んなる貌。④やく(灼)⑤やはらぎよるこぶ(和悅)⑥東南

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

【熊】クマ ①くま(猛獸の名)②人の名③山の名

煨

煨(セン) さかんなり、勢力が盛大である。火の盛んなる貌、又火をおこす、火がおこる。おだてる。おこす、あふる、助け盛んならしむ。國訓あふる(扇にて風を起す、風をあて、火勢を盛んにす、酒を多く飲む、暴飲する、痛飲する、戸など風にうごく)あぶり(あふるの名詞、又馬具の一)

煨

煨(セン) さかんなり、勢力が盛大である。火の盛んなる貌、又火をおこす、火がおこる。おだてる。おこす、あふる、助け盛んならしむ。國訓あふる(扇にて風を起す、風をあて、火勢を盛んにす、酒を多く飲む、暴飲する、痛飲する、戸など風にうごく)あぶり(あふるの名詞、又馬具の一)

煨

煨(セン) さかんなり、勢力が盛大である。火の盛んなる貌、又火をおこす、火がおこる。おだてる。おこす、あふる、助け盛んならしむ。國訓あふる(扇にて風を起す、風をあて、火勢を盛んにす、酒を多く飲む、暴飲する、痛飲する、戸など風にうごく)あぶり(あふるの名詞、又馬具の一)

十畫

煨

煨(セン) さかんなり、勢力が盛大である。火の盛んなる貌、又火をおこす、火がおこる。おだてる。おこす、あふる、助け盛んならしむ。國訓あふる(扇にて風を起す、風をあて、火勢を盛んにす、酒を多く飲む、暴飲する、痛飲する、戸など風にうごく)あぶり(あふるの名詞、又馬具の一)

類語

苛煩ハン 冥煩ハン 累煩ハン 類煩ハン
 劇煩ハン 喧煩ハン 憂煩ハン

煨

煨(セン) さかんなり、勢力が盛大である。火の盛んなる貌、又火をおこす、火がおこる。おだてる。おこす、あふる、助け盛んならしむ。國訓あふる(扇にて風を起す、風をあて、火勢を盛んにす、酒を多く飲む、暴飲する、痛飲する、戸など風にうごく)あぶり(あふるの名詞、又馬具の一)

煨

煨(セン) さかんなり、勢力が盛大である。火の盛んなる貌、又火をおこす、火がおこる。おだてる。おこす、あふる、助け盛んならしむ。國訓あふる(扇にて風を起す、風をあて、火勢を盛んにす、酒を多く飲む、暴飲する、痛飲する、戸など風にうごく)あぶり(あふるの名詞、又馬具の一)

の風カハルかほる(燻)又香を焚きてにほひをしみ込ませる(燻)燻に同じ、ふ(醉)をヒに通ず、ひぐれ

【燻灼】クシヤク やける、もえる、夢の極めて盛んなる貌。

【燻風】クシヤウ 東南の風。

【燻籠】クシヤウ いぶしかご、伏籠。

【燧】ケイ エイ

①あきらか(明)小さきあかりヒカひかり(光)光りかゞやくクくらます、目がくらむ②屋下の燈火ヒをみぐさ(藥草の)一③螢に通ず④星の名⑤うたがふ(疑)まどふ、まどはす

【燧惑】ケイワク 災禍を興へ又兵亂を起す星の名。

【燧煌】ケイワウ 光りかゞやく。

【燧々】ケイケイ 光りかゞやくさま。

【燧燭】ケイロク かすかなるともしび。

【燧】ケイ 燧の俗字

【燧】ケイ 燧の俗字

燧砲は①おぼづ②、火砲③砲身

十一畫

【燧】ヘウ

火のこ、とび①、とび②する、又風がおこる

【燧起】ヘウキ 火のこの飛ぶ如く盛に起る貌

【熟】ジュク ジュク

①(煮)よく火を通す、充分に煮沸す、にゆ(食物の)よく②甑(こと)た③だる(爛)なる(成)みのる、うむ、み

が④いる⑤し⑥ば⑦し⑧ら⑨か(審)あきらか、精密⑩つら⑪し⑫み

、よく⑬充分發育して完全な體となる⑭充分に習ひ覚える、なれる

【熟手】ジュクテ 事にまうなれたる人。

【熟字】ジュクジ 熟語を現はす文字。

【熟考】ジュクカウ 十分に思案をする、つらく考へる。

【熟否】ジュクヒ 熟せること、熟せぬこと。

【熟知】ジュクチ よく知る、知りつくす。

【熟省】ジュクセイ つらく考へてみる、よく考へて見る。

【熟客】ジュクキヤク 常の客、定客。

【熟臥】ジュクワ よくねる、よくふせる。

【熟計】ジュクケイ 考へてはかる。

【熟食】ジュクシヨク 食物を煮やきすること。

【熟思】ジュクシ 熟考に同じ。

【熟柿】ジュクシ ことごとく知りつくす。

【熟睡】ジュクスイ よく熟したる柿の實。

【熟速】ジュクソク よくねむる、熟睡。

【熟煮】ジュクニ よくねむる、熟睡。

【熟視】ジュクシ 十分煮ること。

【熟歳】ジュクサイ 心をとめてみる、よく見る。

【熟路】ジュクロ みのりよき年、豊年。

【熟語】ジュクゴ 二個以上の文字を組合して或る一つの意味をあらはす語。

【熟睡】ジュクスイ 熟睡に同じ。

【熟察】ジュクサツ よくしらべる。

【熟聞】ジュクブン つら①きく、よくきく。

【熟銅】ジュクドウ よく鍛へたるあかぢね。

【熟圖】ジュクト 熟計に同じ。

【熟練】ジュクレン 一つの技に能くなれたることをいふ②ねりぎぬの衣服。

【熟醉】ジュクスイ 十分に酒に酔ふ。

【熟談】ジュクタン よく相談す、ゆつくりと談合す。

【熟慮】ジュクロ よく考へる。

【熟擇】ジュクタク こまかにえらぶ。

【熟諳】ジュクタン よくそらんず。

【熟蕃】ジュクバン 野蕃人にしてやゝ文化に浴して進歩し政府の命令に服する者。

【熟順】ジュクジュン 能くうれたる果實のつづ

【熟鐵】ジュクテツ 能く鍛へたるくろがね。

【熟議】ジュクギ 十分によく談じはかる。

【熟劑】ジュクザイ ①にえたゞれる②果實がうみくづれる③慣れて感じが無い。

【熟覽】ジュクラン 心をとめて詳しく見る。

【熟讀】ジュクダク 心をとめてよく讀む。

【熟寫】ジュクシャ 十分に成育したかひこ。

【類語】

習熟ジュク 熟熟ジュク 未熟ジュク 蒸熟ジュク 和熟ジュク 半熟ジュク 成熟ジュク

【燧】イフ シフ

①盛んなる光ヒカかゞやく②ひかる(光)光の鮮明なる貌③ぼたる(螢)

【燧】イフ 燧に同じ

【燧】キウツ

十一畫

【燧】ヘウ

火のこ、とび①、とび②する、又風がおこる

【燧起】ヘウキ 火のこの飛ぶ如く盛に起る貌

【熟】ジュク ジュク

①(煮)よく火を通す、充分に煮沸す、にゆ(食物の)よく②甑(こと)た③だる(爛)なる(成)みのる、うむ、み

が④いる⑤し⑥ば⑦し⑧ら⑨か(審)あきらか、精密⑩つら⑪し⑫み

、よく⑬充分發育して完全な體となる⑭充分に習ひ覚える、なれる

【熟手】ジュクテ 事にまうなれたる人。

【熟字】ジュクジ 熟語を現はす文字。

【熟考】ジュクカウ 十分に思案をする、つらく考へる。

【熟否】ジュクヒ 熟せること、熟せぬこと。

【熟知】ジュクチ よく知る、知りつくす。

【熟省】ジュクセイ つらく考へてみる、よく考へて見る。

【熟客】ジュクキヤク 常の客、定客。

【熟臥】ジュクワ よくねる、よくふせる。

【熟計】ジュクケイ 考へてはかる。

【熟食】ジュクシヨク 食物を煮やきすること。

【熟思】ジュクシ 熟考に同じ。

【熟柿】ジュクシ ことごとく知りつくす。

【熟睡】ジュクスイ よく熟したる柿の實。

【熟速】ジュクソク よくねむる、熟睡。

【熟煮】ジュクニ よくねむる、熟睡。

【熟視】ジュクシ 十分煮ること。

【熟歳】ジュクサイ 心をとめてみる、よく見る。

【熟路】ジュクロ みのりよき年、豊年。

【熟語】ジュクゴ 二個以上の文字を組合して或る一つの意味をあらはす語。

【熟睡】ジュクスイ 熟睡に同じ。

【熟察】ジュクサツ よくしらべる。

【熟聞】ジュクブン つら①きく、よくきく。

【熟銅】ジュクドウ よく鍛へたるあかぢね。

【熟圖】ジュクト 熟計に同じ。

【熟練】ジュクレン 一つの技に能くなれたることをいふ②ねりぎぬの衣服。

【熟醉】ジュクスイ 十分に酒に酔ふ。

【熟談】ジュクタン よく相談す、ゆつくりと談合す。

【熟慮】ジュクロ よく考へる。

【熟擇】ジュクタク こまかにえらぶ。

【熟諳】ジュクタン よくそらんず。

【熟蕃】ジュクバン 野蕃人にしてやゝ文化に浴して進歩し政府の命令に服する者。

【熟順】ジュクジュン 能くうれたる果實のつづ

【熟鐵】ジュクテツ 能く鍛へたるくろがね。

【熟議】ジュクギ 十分によく談じはかる。

【熟劑】ジュクザイ ①にえたゞれる②果實がうみくづれる③慣れて感じが無い。

【熟覽】ジュクラン 心をとめて詳しく見る。

【熟讀】ジュクダク 心をとめてよく讀む。

【熟寫】ジュクシャ 十分に成育したかひこ。

【類語】

習熟ジュク 熟熟ジュク 未熟ジュク 蒸熟ジュク 和熟ジュク 半熟ジュク 成熟ジュク

【燧】イフ シフ

①盛んなる光ヒカかゞやく②ひかる(光)光の鮮明なる貌③ぼたる(螢)

【燧】イフ 燧に同じ

【燧】キウツ

く、又その火。
 【燐々】レウレウ 光るさま、あきらかなる貌。
 【燐燐】レウレウ かわりび、篝火。
 【燐原火】レウレウ 野をやく火、その火の盛んにもえひろがること、惡意の長じ易きことにたとへていふ語。

燐

リン
 燐

①おにび(鬼火)陰火、怪火②元素の一(動物の骨を生成するものにして發火點低く空氣中にて自然に燃焼す)
 【燐寸】リンセン すりつけぎ、悴兒、マツチ。
 【燐火】リンカ 燐の青き火③きつね火。
 【燐酸】リンサン 強壯劑として用ゐらるゝ結晶狀の酸。
 【燐鹽】リンオン 海鳥の糞及び尿水等の腐敗せる中に存する酸化物。
 【燐灰石】リンカウイセキ 六方晶系の礦物にて燐酸肥料の原料として用ふ。
 【燐酸肥料】リンサンホレウ 植物に燐酸を供給せしめる肥料。

燒

セウ
 燒

①やく(燒)たく、やきすてる②火を放

つ①もやす(燃)もえる、やける、又その火②野をやくこと、のび③國訓やく(炙る、立ち働らく、熱して固める、嫉妬を起す、日にやける、にらぎ)
 【燒刃】セウジン 刃物の刃を燒き急に水中に冷卻して鍛えたる物、やきば、やいば。
 【燒印】セウイン 燒きて捺す銅・鐵製の印、やきいん、やきはん。
 【燒夷】セウイ 焼きはらふ、やき平らぐ。
 【燒灼】セウシャク やく、やける。
 【燒卻】セウケツ やきすてる。
 【燒死】セウシ 燒けてしぬ、やけじに。
 【燒香】セウキョウ ①香をたく②香を燒きて佛にたむける、上香。
 【燒酎】セウチウ アルコール分の強き一種の酒、又支那の火酒。
 【燒瀾】セウラン 水火の難、やけること、瀾れること。
 【燒棄】セウキ 焼きすてる。
 【燒煉】セウレン 丹をやき金をねる道家の術。
 【燒盡】セウジン 燒きつくす、のこらず燒く。
 【燒點】セウテン 焦點に同じ③光線・熱等の一點に集中する所④目あて、又は中心となる所。
 【燒毀】セウキ 燒灼に同じ。

【燒付】セウツケ ①寫眞の種板に感光紙をあて日光にさらすこと②陶磁器に模様をかき消えぬやうにする③めつき。
 【燒生】セウセイ やけ野に草の茂りたる所。
 【燒野】セウノ 野火でやけた野はら。
 【燒筆】セウペン 細き木の端を燒きて下畫をかくに用ゐるもの。
 【燒鍔】セウツバ 鐵製にして鍔術に用ふ。
 【燒鎌】セウカマ 燒刃の鋭き鎌。
 【燒鏡】セウキョウ 火に燒きて布帛の皺などをのすに用ゐる鏡。
 【燒鹽】セウエン 素燒の壺に入れて蒸燒きにしたる食鹽。
 【燒石膏】セウセキコウ 石膏を熱して水分を除去したるもの。
 【燒磚窯】セウセンキョウ 瓦をやくかまど。
 類語
 延燒 セウエン 坐燒 セウザ 焚燒 セウブン 屋燒 セウウ
 縱燒 セウジュウ 燃燒 セウネン 類燒 セウレイ 炎燒 セウエン

燂

ハン
 燂

①やく(燒)②あぶる(炙)③肉をやくこと④膳に同じ、祭に供する肉、ひもろぎ
 【燂肉】ハンニク 字解の③を見よ。
 【燂劫】ハンキョウ 人家をやいておびやかす。

【燂燂】ハンシキ 夜間にあげるのろし(晝間のろしは烽火といふ)。

燕

エン
 燕

①鳥の名、つばめ
 【燕】エン 鳥の名、つばめ。
 【燕名】エンメイ 鳥の名、つばめ。
 【燕支】エンシ 焉支に作る、又臙脂と通ず紅色を取る草の名、べに。
 【燕毛】エンマウ 宗廟祭の後の酒宴に於て毛髪の色によつて座席を定めし禮をいふ。
 【燕出】エンシュツ 天子の微行、おしのび。
 【燕石】エンシキ ①玉に似たる石、支那の燕山より産出す②似て非なるもの又は眞價のなきものにとふ。
 【燕好】エンコウ 丁寧に待遇すること。
 【燕京】エンケイ 北京の別名。
 【燕居】エンキョ ひとまでやすむ、くつろぐ。
 【燕室】エンシツ 休息する部屋。

【燕娛】エンゴ 打くつろぎ楽しむ。
 【燕息】エンシツ くつろぎやすむ。
 【燕婉】エンエン ゆつくりとしてしとやかなるさま、又美人。
 【燕巢】エンサウ つばめの巢。
 【燕麥】エンバク からすむぎ、すいめむぎ。
 【燕朝】エンチウ 天子の休息せられる御殿。
 【燕窠】エンカウ 燕巢に同じ。
 【燕窩】エンワウ 食品の一、一種の燕の巢。
 【燕翼】エンエツ 祖先がその子孫を助け安んずること、又その計策。
 【燕樂】エンラク 團樂してたのしむ。
 【燕窩】エンワウ かさの一種、あくち、くちがさ。
 【燕子花】エンシキウ 草の名、かきつばた。
 【燕去月】エンキョツツキ 陰曆八月の異名。
 【燕尾服】エンビフク 西洋風の禮服の名、上著の形が燕の尾に似たるより言ふ。
 【燕尾箭】エンビセン ふたまたの形して開きたるやじり。
 【燕巢三子幕】エンサウサンシキョ 極めて危険なることに喩へし語。
 【燕領虎頭】エンリョウコトウ あごは燕の如く頭は虎の如き人物。
 【燕許大手筆】エンキョダイシユヒツ 雄大なる文章の形容。

【燕趙悲歌士】エンチウヒカシ 燕趙の地方に昔より國家を愛へて慷慨する人士の多かりしことに因み志士をいふ。
 【燕雀安知鴻鵠志】エンシキヤクイワクシツコウシツ 燕雀の如き小鳥は鴻鵠の如き大鳥の本心はわからずとの意より偉人の心は凡人のはかり知る所にあらずるをいふ。
 類語
 紺燕 エンコン 周燕 エンシュウ 乳燕 エンニウ 來燕 エンライ
 往燕 エンワウ 去燕 エンキョ 酒燕 エンシユ
 【燂】セン
 あたゝむ、食物を湯につけて温める、ゆびく
 【燂】ラン
 燂に同じ、たゞる②酒のかん
 十三畫
 【營】エイ
 ①いとなむ②はかる(度)計畫す③つく

營

エイ

光燭 クワツウ 敗燭 クワツウ

十八二十五畫

燭 シヤク

燭

①ともしび(燈火)②かざりび(篝火)た
いまつてらす、てる(照)
【燭火】シヤク かざり火、炬火。

燿 クワン

①熱したる火②火を擧ぐ③のろし(烽
火)④神明にそなへる火

爨 サン

爨

①かまど(爐)へつゝひひかしぐ(炊)飯
をたく②飯たきの女、おさん
【爨炊】サン めしをたく、炊事。
【爨婢】サン 飯たき女、おさん。

爪部

爪 サウ

爪

①つめ(手足の指の甲をなす角質のもの)
鳥獸の指の端にある角質鉤状のもの、
總て物のはしにあり爪の形せるもの、
琴など弾ずる時指頭にかぶせるもの
②たすけ、たのみとなるもの③つめ
切る、爪でひつかく、爪にてあとをつ
ける④とる(取)⑤つまむ(摘)

【爪牙】ツウガ 鳥の爪と獸の牙、轉じて自
分の守りとなるもの、又自分のなにかま。
【爪痕】ツウコン つめきず、つめあと。
【爪印】ツウイン 印形のかはりに爪にすみ又
は朱肉をつけておすこと、又其印。
【爪弾】ツウバダマ ①しりぞけて寄せつけぬ
こと、擯斥②三味線を爪にて音低く弾
くこと。

訓讀
【爪を匿す】ツウカク つめをかくす猛獸猛禽等が
隠りに爪をあらはさぬ如く名人が才能
をかくす意(例)能ある鷹は爪を匿す。

爬 ハ

①かく(搔)爪でひつかく、ひきむしる、
かなぐる②とる(把)

争 サウ

争

【爬行】ハカウ 爪をかけてはい歩くこと。
【爬搔】ハカウ かく、ひつかく。
【爬痒】ハカウ かゆき所をかく。
【爬蟲類】ハカウルキ とかげ・わに・へび等の
如く皮膚に甲鱗を被り爬行する冷血動
物の總稱。
【爬羅剔抉】ハカウチキツク 隠れたる物事をそ
ぐり出す②人の缺點をあばく③隠れた
る人物を探し出す。

争 サウ

争

【争子】サウシ 親の不善を諫める子。
【争友】サウイウ 忠告して善導する友。
【争功】サウコウ 手がらを取り合ふ、功名を
あらそふ。
【争光】サウコウ 功績顯著にして日月にも
比すべきにいふ。
【争臣】サウシ 君の非行を諫めて善導する
臣。

火部 (四畫)

争 サウ

争

①あらそふ、あらそひ、優劣をせり合
ふ②きそふ(競)うばひ合ふ、我先にと
あらそふさま③いさむ(諫)意見をす
④うつたふ(訟)けんくわをする⑤をさ
む(理)⑥わきまふ(辨)⑦いかでか、ど
うして

争 サウ

争

【争子】サウシ 親の不善を諫める子。
【争友】サウイウ 忠告して善導する友。
【争功】サウコウ 手がらを取り合ふ、功名を
あらそふ。
【争光】サウコウ 功績顯著にして日月にも
比すべきにいふ。
【争臣】サウシ 君の非行を諫めて善導する
臣。

争 サウ

争

類語

有爲 ウイ 云爲 ウン 至爲 シ 作爲 サ
所爲 ソ 無爲 ム 與爲 ユ 施爲 シ

十四畫

爵 シヤク

爵

①さかづき、すゝめ形の形せる杯②くら
ゐ(位)官位、位階をさづく③つかさ(主
掌)④すゝめ(古く雀に用ふ)

【爵位】シヤクイ ①くらゐ②爵と位。
【爵服】シヤクフク 位とそれに適當する服装
【爵秩】シヤクシツ 位と扶持。
【爵祿】シヤクロク 前に同じ。
【爵號】シヤクガウ ①爵位の名稱②爵位稱號
【爵羅】シヤクラ 雀を取る網、雀羅。

類語

貴爵 キシヤク 天爵 テンシヤク 高爵 カウシヤク 貶爵 ヘンシヤク
玉爵 タマシヤク 祿爵 ロクシヤク 人爵 ジンシヤク 封爵 フウシヤク
豐爵 トヨシヤク 顯爵 ケンシヤク 名爵 メイシヤク 襲爵 ジュシヤク

父部

【争訟】サウショウ 法律の定める手續を以て
とりさばくこと、あらそひ、うつたへ。

【争奪】サウダツ あらそひうばふ、とりあひ。
【争端】サウタン あらそひのもと、喧嘩のい
とこち。

【争權】サウケン 權力をきそふ。
【争議】サウギ 議論をたゝかはして争ふ。
【争論】サウロン 争ひいひあふ、口論。
【争罵】サウバ 争ひのゝしる、けんくわ。
【争闘】サウトウ あらそひたゝかふ。

類語

分争 ブンサウ 喧争 ケンサウ 力争 リシヤウ 戦争 センサウ
忿争 フンサウ 兵争 ヘイサウ 軋争 レンサウ 挺争 テイサウ
雄争 ユウサウ 交争 カウサウ

爨 サン

爨

①こゝに(日)ゆゆるし(緩)又そのさま
②いかる(怒)③かふ(易)かへる④かな
しむ(哀)⑤うれふ(愁)

【爨田】サンデン 支那古代の税法の一、今ま
で政府の收入に歸した税を更にきりか
へて人民のものとするもの。

【爨書】サンショ 犯罪に關する書類、獄書、
古代裁判官などの偏頗の處置をふせぐ
ため互に獄書を交換して之を取調べし

めた故にいふ。

八畫

爲 キ

爲

①なる、なり、たる、たり②つくる(作)
こしらへる、生産す③なす、する、行
ふ④をさむ(治)をさめる、修業す⑤な
さしむ、せしむ⑥はたらき、しわざ、
所業、おこなひ(行)⑦ふり、まね⑧た
め、ために⑨たすく(助)⑩する、せらる、
せらる、させらる⑪あてる、あてがふ
⑫いふ、なづける⑬おもふ、みなす⑭
まなぶ、習ふ⑮思ふ、おもへらく⑯ま
ねす、いつはり装ふ

【爲政】キセイ 政治を行ふこと。
【爲問】キモン しばらくして、や
ゝ久しうして、おつゝけ。

【爲人】キニン ロトナリ うまれつき、性質。
【爲替】キハヒ 離れし地に金錢を送るに正
金のかはりに手形でする法。

【爲我的】キガク 自利主義の形容詞。
【爲三表裏】キサンハツリ 内と外に分れて互ひ
に相援引する意。

【爲三表裏】キサンハツリ 内と外に分れて互ひ
に相援引する意。

【爲三表裏】キサンハツリ 内と外に分れて互ひ
に相援引する意。

父

①ちち、ておや、生れたるものより生みたるものをいふ。②おきな(老叟)郷村の重なる老人。③男子の美稱(多く老年のものにいふ)。④おやち、いなかおやちの通稱、身分いやしき老人。

【父子】フシ 父と子。
【父兄】フケイ 父と兄。
【父母】フボ 父と母。子の父と母に對する如き關係にあるもの。

【父老】フラウ 一郷一村の重立つたとして、郷黨の先輩。
【父君】フクン 自分の父の敬稱。
【父執】フシツ 父の友人をいふ。

【父師】フシ 父親と先生、教授をうける人。
【父祖】フソ 祖先。父と先祖。
【父事】フジ 父として尊び仕ふ。

【父道】フダウ 父たる者の守るべき道義。
②父の行ひし道。
【父爺】フヤ 父の謙稱、おやぢ。

【父禮】フレイ 父親につかへる道。
【父母國】フボクニ ふるさと、故郷。
【父爲子隱】フチハコトナニカス 父親が子の罪惡を隠す如き人情の美しきをいふ。

【明るい】①ひろし、ひろくして心よし。②神靈が明らかである、あらたか。光りかゞやきてあかるし、又あきらかにす。③たがふ(違)みだる、あやまる。

【爽快】サウカイ さわやかな心地よし。
【爽氣】サウキ さわやかなる心もち。
【爽涼】サウリウ 涼しく心地よし。
【爽味】サウマイ 夜明け方、しのめ、拂曉。

【爽塏】サウエン 土地高くして乾燥せる所、たかみ、高臺。
【爽然】サウゼン 爽快なる貌。②失意の貌、ぼんやりしたるさま。
【爽德】サウタク ①明らかなる徳。②間違つた行ひ、失徳。

【類語】 英爽(エイサウ) 味爽(ミサウ) 俊爽(ジュンサウ) 豪爽(ゴウサウ) 秀爽(シュウサウ) 清爽(セウサウ) 澄爽(テイサウ)

【爾】ジニ

①なんぢ(汝)②しかく、しか、かくの如く、このやうに、そんなに③しかり④ちかし(通)然。如。乎と共に形容の助辭。⑤おほし(衆)⑥花の盛んなる貌。⑦のみ(語尾にありて意味なき語)たいそれば

【類語】

【爾今】ジコン このうち、以後、自今。
【爾汝】ジジョ 人をかろんじ呼ぶ稱、なんぢ、うぬ。②きさまなど、呼ぶ程親しい間柄(例)爾汝の間柄。
【爾來】ジライ ①ちかごろ、このごろ。②其後、それ以來。
【爾時】ジジ その當時、そのころ。
【爾後】ジゴ そのうち、それより後。
【爾雅】ジガ ①言語文章の美しく、正しきこと。②魯の喜公の著作せし字書。

【爾曹】ジサウ おまへがた、汝等。
【爾々】ジジ ①さやう／＼、②しかく。
【爾餘】ジヨ その他、そのほか。
【爾靈山】ニレイサン 旅順にありて日露戦争の時激戦のありし山。

【訓讀】 爾の極に匪ざる莫し。莫レ匪ニ爾極一なんぢのまよふにあらざるなし。帝堯の善政を賞せし語、人民が太平を樂しむことを得るは帝堯の至り盡せる徳政のおかげである。
【爾に出づる者は爾に反る】出ニ乎爾一者反ニ乎爾一なんぢに對するものはなんぢに對する。むくいは其者の行爲に應じて廻り來る意。

【類語】

【爺】ヤ

①ちち(父)②尊敬する語、大人。③國訓おやち(としより、又我父の謙稱)。
【爺々】ヤヤ ①父の俗語。②大人、らし(長上に對する尊稱)。

【交】カウ

①易の卦をなす六つの畫段。②ならぶ(徵)③かたどる(象)まじはる(交)。

【交】カウ

①さわやか(清快)さつぱりしてこゝろよし、勢よし。②あきらか(明)あかるい。又そのさま。③よあけ(味爽)夜があけて

【祖】ソ

祖の漢字

【爽】サウ

【月】ゲツ

①ほこ(爰)②木を兩分せし形、木の右半を片とし左半を月とす。③一説に牀の俗字。

【月】ゲツ

爺

①ちち(父)②尊敬する語、大人。③國訓おやち(としより、又我父の謙稱)。
【爺々】ヤヤ ①父の俗語。②大人、らし(長上に對する尊稱)。

【交】カウ

①易の卦をなす六つの畫段。②ならぶ(徵)③かたどる(象)まじはる(交)。

【交】カウ

①さわやか(清快)さつぱりしてこゝろよし、勢よし。②あきらか(明)あかるい。又そのさま。③よあけ(味爽)夜があけて

【祖】ソ

祖の漢字

【爽】サウ

【月】ゲツ

①ほこ(爰)②木を兩分せし形、木の右半を片とし左半を月とす。③一説に牀の俗字。

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【月】ゲツ

【牀褥】シヤウジヨク ねどこ、ねだい。

類語

安牀 シヤウ 高牀 シヤウ 御牀 シヤウ 空牀 シヤウ
臥牀 シヤウ 方牀 シヤウ 眠牀 シヤウ 匡牀 シヤウ
禪牀 シヤウ 女牀 シヤウ

洞

【洞】カ かし(舟をつなぐ杭) 漢代の郡名

詳

【詳】シヤウ ①めひつじ(牝羊) ②さかんなり(盛) ③雲の名 ④かし(船をつなぐ杭) ⑤群々 ⑥シヤウシヤウ 物事の盛んなるさま。

十三畫

牆

シヤウ

情

【牆】シヤウ ①かし(舟をつなぐ杭) ②漢代の郡名 ③めひつじ(牝羊) ④さかんなり(盛) ⑤雲の名 ⑥かし(船をつなぐ杭) ⑦群々 ⑧シヤウシヤウ 物事の盛んなるさま。

【牆壁】シヤウヘキ かこひのかべ、ぬりかべ。

類語

禁牆 シヤウ 倒牆 シヤウ 薜牆 シヤウ 蕭牆 シヤウ
短牆 シヤウ 女牆 シヤウ 卑牆 シヤウ 壞牆 シヤウ

片

ヘン

片部

【片】ヘン ①ひら、木や紙のひとひら、はし、きれ、かけら ②木をわかつ、わかれたる木、わかつ(判) ③さく ④ひらく ⑤一つの物事の半分、又二つのもの、一方 ⑥かたん ⑦はなびら(花瓣) ⑧英國の貨幣の單位、ペンス(Penny, Pence) のあて字邦貨の四錢一毛五絲 ⑨片々 ⑩ヘン ⑪きれん ⑫かたん、一方 ⑬斷片のひらくと飛ぶさま。 ⑭片言 ⑮ヘン ⑯ひとことば、一語 ⑰一方のみの言ひ分、かたこと。 ⑱片月 ⑲ヘン ⑳ゆみはり月、かたわれ月。 ㉑片帆 ㉒ヘン ㉓一片の帆 ㉔眞帆に對する語、かたほ。 ㉕片志 ㉖ヘン ㉗少しの意、自己の志の謙稱。

【片時】ヘンジ かたどき、少しの時間。

片思

【片書】ヘンシヨ 片簡に同じ。

片紙

ヘンシ

【片格】ヘンコク 前に同じ。

片雲

【片語】ヘンゴ 少しのことば、一言半語。

片影

【片輪】ヘンリン 一寸した文書、短かき手紙。

片翼

【片簡】ヘンカン 少しのかきつけ、斷簡。

片絲

【片腕】カタクデ 片方の手、轉じて最も力となる補佐の人。

片麻岩

【片田舎】カタクナカ へんびなるなか、片山里。

片假名

【片假名】カタカナ 我が國字の一、漢字の編又は旁から變態して作れるもの。

片意地

【片言折獄】ヘンゴシヨク 一言にてさいばんをきめる。

片言雙語

【片務契約】ヘンムケイヤク 當事者の一方のみ

片務契約

【片務契約】ヘンムケイヤク 當事者の一方のみ

類語

玉片 シヤウ 花片 シヤウ 萬片 シヤウ 氷片 シヤウ
石片 シヤウ 飛片 シヤウ 一片 シヤウ 風片 シヤウ
碎片 シヤウ 鴉片 シヤウ 斷片 シヤウ

四一十畫

版

ヘン

版

【版】ヘン ①いた(板)城を築く時土を兩方よりかぶせる板 ②ふだ(簡牘) ③戸籍台帳 ④一丈の長さ、又一説に長さ八尺或は二尺の長さ ⑤しやく(笏) ⑥そむく(叛) ⑦戸口を記す帳簿、戸籍 ⑧書物を版木にほりて世にひろめる、轉じて印刷の意 ⑨版木 ⑩ヘン ⑪板木に作る、文書圖書等を印刷したる板、はんぎ。 ⑫【版本】ヘン ⑬板木を印刷せる書物、印本。 ⑭【版行】ヘンコウ 板行に作る、書籍を印刷して世に公にすること。 ⑮【版金】ヘンキン 昔の大小判、後の大判の稱。 ⑯【版築】ヘンチク 城をきづく、しろぶしん。 ⑰【版鋪】ヘンポ 築城に用ゐる道具。 ⑱【版圖】ヘンツ 版は戸籍、圖は地圖、領土

の義。

【版權】ヘンケン 著作物を複製又は翻譯し若しくは之れを發行する權利をいふ、現今は之れを著作権といふ。

版籍

【版籍】ヘンセキ 戸口を記した帳簿、轉じて領土、又書物のこと。

版腹

【版腹】ヘンブク 物を書くふだ、轉じて書きもの、文書。

版籍奉還

【版籍奉還】ヘンセキオウワン 明治維新の際諸藩が其土地人民を朝廷に返せしむ。

牌

ハイ

牌

【牌】ハイ ①ふだ(凡て事物を書きしるして標示するに用ゐるもの) ②かけふだ、立札 ③たて(盾) ④ぬはい、木主、又看板 ⑤【牌勝】ハイバウ ⑥ふだ、かけふだ、看板。 ⑦【牌樓】ハイロウ 市街にあるやぐらの門。

窓に同じ

臉

トウ

ユ

チウ

【臉】トウ ①かき(垣)低きかき、又それを築く板 ②おまる(便器)不淨を入れる器、しゆびん ③かきを築く短き板

牒

テフ

牒

【牒】テフ ①ふだ(札)文字を書くもの、又文書 ②官府の命令文 ③系圖がき(系譜) ④うつしぶみ(移文) ⑤うつたへぶみ(訴狀) ⑥ちやうめん(帳簿) ⑦ゆかいた(牀板) ⑧【牒狀】テフジヤウ ⑨まはしぶみ、回狀 ⑩役所の公文書 ⑪訴訟文書、うつたへぶみ。 ⑫【牒案】テフアン ⑬かきつけのたぐひ、文書類。 ⑭【牒語】テフゴ ⑮玉牒 テフコク ⑯書牒 テフショ ⑰訟牒 テフソウ ⑱官牒 テフカン ⑲録牒 テフロク ⑳名牒 テフメイ ㉑簡牒 テフカン

榜

ハウ

マウ

【榜】ハウ ①かけふだ、がく、標示するふだ ②【榜示】バウシ ③かまげ示す。

【勝札】バウチツ かけふだ、看板。
十一—十五畫

【牖】 窓に同じ

【牖】 イウ

竈

①まど(窓) 壁ある格子まど
②ひらく、みちびく(導)いざなふ(誘)
【牖戸】イウコ ①出入口②窓の開閉の口③窓のとびら

類語

穴牖イウツ 雙牖イウツ 茅牖イウツ 戸牖イウツ
窓牖イウツ 開牖イウツ 扁牖イウツ 房牖イウツ

【牘】 トク

牘

①てがみ(手紙)②文字を書き記すふだ
③樂器の名④かきつけ、かきもの、文書
【牘箋】トクセン てがみ、書翰、ふみ、書簡、書状。

類語

牙部

【牙】 ガゲ 牙

①きば、身をまもるためになるもの、きばの形したる物の總稱、又特に象のきば、象牙②かむ(嚼)③天子又は將軍の旗、又軍府の治所④きざし(牙)⑤はがみ、はぎしり⑥きばの形をし腰に佩びる玉⑦さいとり、賣買の仲介人
【牙爪】ガサツ さいとり、轉じて防衛の具。
【牙行】ガキョウ 牙僧に同じ。
【牙保】ガホ 同上。
【牙城】ガシヤウ 本城、天守、本丸。
【牙門】ガモン 大將の居る陣門。
【牙商】ガシヤウ 牙僧に同じ。
【牙郎】ガロウ 同上。
【牙旗】ガキ 天子又は將軍の旗、竿頭象牙を以て飾るより言ふ。
【牙婆】ガバ 物事の周旋をして口錢をとる

憲牘トクン 筆牘トクツ 簡牘トクン 章牘トクヤウ 文牘トクン 尺牘トクヤ
版牘トクン 奏牘トクツ 札牘トクツ

老女、きもいりばい。
【牙牌】ガハイ 骨牌、かるた。
【牙錢】ガセン 口錢、手數料。
【牙刷】ガサツ 是みがき楊子、齒ブラシ。
【牙僧】ガクワイ さいとり、なかいひ。
【牙營】ガエイ 大將軍の陣屋、本陣、中堅。
【牙旗】ガキ 象牙のこはせ、書物や巻物の表に取附けるもの。
【牙婆】ガバ 象牙にて作りたる數取り、轉じて算盤のこと。
【牙護】ガゴ 本陣、大本營。
【牙保罪】ガホザイ 不正品の賣買をして口錢をとりし罪。
【牙關を咬定す】咬定牙關 ばくわんをかぎて歯をくひしはりものをいはぬこと。

類語

大牙ガタイ 爪牙ガツ 崩牙ガツ 衝牙ガツ
鋸牙ガキョ 高牙ガク 牙牙ガク 犬牙ガク
齒牙ガシ 輔牙ガホ 象牙ガゾ

【穿】 タウ

八畫

穿

牛部

【牛】 ギウ

牛

①さしふ(支)②さしふ、ばしら(支柱)

①うし(獸の名)②星の名、二十八宿の一、ひこぼし
【牛刀】ギウタウ 牛を割くに用ゐる刀、轉じて大才力のこと。
【牛皮】ギウヒ ①牛のかは②鉛と砂糖と澱粉にて製したる菓子。
【牛羊】ギウヤウ うしとひつじ。
【牛衣】ギウイ ぼろのきもの。
【牛耳】ギウジ 同盟の主人公、一つの團體を支配することをその團體の牛耳を執るといふ。
【牛李】ギウリ 唐の牛僧孺と李宗閔、此の兩人は互ひに黨派を立て、相争ひし故後世朋黨のあひしのぐとにいふ。
【牛乳】ギウニウ うしの乳汁。
【牛後】ギウゴ 鶏口の對、うしのしり、大なる者に從屬し支配を受くるに言ふ。
【牛疫】ギウエキ 牛につく流行病の一。
【牛桃】ギウタウ すすらうめ、櫻桃。

【牛宿】ギウシュク 星の名、いなみぼし。
【牛馬】ギウバ うしとらま。
【牛痘】ギウトウ 牛のはうそう、種痘に用ゐらる。
【牛腹】ギウフク わき腹の張りたる所。
【牛酥】ギウソ 牛乳より製した食品、バター。
【牛飲】ギウイン 馬食の對、牛の如く飲むこと。
【牛豎】ギウジュ 牛かひの子供、牛飼の童子。
【牛蔓】ギウマン あかねぐさの異名。
【牛藻】ギウソウ 浮草の一、馬藻ともいふ。
【牛醫】ギウイ 牛の病氣を診療する醫者。
【牛旁】ギウバウ 野菜の名、午旁。
【牛頭】ギウトウ 人身牛頭の鬼にして空想上に存する地獄の獄卒。
【牛酪】ギウラク 牛乳を精煉してつくれる食品、バター。
【牛尾草】ギウビサウ 多年生草の一、しほで。
【牛尾魚】ギウビギョ 魚の名、こち。
【牛角歌】ギウカクノカ 齊威が齊の桓公に仕官を求めし時牛角を叩きてうたひし歌
【牛馬走】ギウバサウ 牛馬の如く奔勞する者自己の謙稱。
【牛刀割鶏】ギウタウセテトリ 大なる技量を小事に用ゐることに喩ふ。
【牛渡馬勃】ギウワババク 藥品の原料、牛尿や馬糞。

【牛飲馬食】ギウインバシヨク 盛んに飲食すると
【牛驥同皁】ギウキドウソウ 賢者も愚者も同一に待遇を受けるといふたとへ。
【牛頭天王】ゴツテンノウ 祇園精舎の守護神。
【牛頭馬頭】ゴツツ 地獄の獄卒。
【牛頭栴檀】ゴツセンタン 熱地に産する香木。
訓讀
【牛耳を執る】執二牛耳 ぎうじをとる。同盟の首謀者、轉じて一黨派の首領。
【牛を食ふの氣】食レ牛之氣 うれしきよき。幼にして志氣の勝れること、存牛の氣象。
【牛に汗し棟に充つ】汗レ牛充棟 うれしきよき。むなみにあつ 藏書の多きにいふ語。
【牛を帯び懐を佩ぶ】帯レ牛佩レ懐 うれしきよき。刀を賣りて牛を買ふが利益、みだりに刀劍をおべる者を嘲りていひし語。
【牛に對して琴を彈す】對レ牛而彈レ琴 うれしきよき。愚者に向ひて聖賢の道をとくかす、何の甲斐もなきこと。
【牛を桃林の野に放つ】放レ牛于桃林之野 うれしきよき。兵亂の全く平定せしをいふ語。
【牛の意を搏つも蟻蝨を破るべからず】搏二牛之意一不レ可三以破二蟻蝨一 うれしきよき。うつけしをよめるべからず 大なるものには勝

つことを得るも小なるものには勝つ能はざるに喩へし語。

類語

- 耕牛 コウキウ 斗牛 トウキウ 童牛 ドウキウ 風牛 フウキウ
- 犍牛 ケンキウ 肥牛 ヒキウ 蝸牛 カウキウ 犀牛 セイキウ
- 牝牛 ヒンキウ 犂牛 レイキウ 野牛 ノキウ

二畫

【牝】

ヒン

牝

①め、めす、めん、動物の女性(畜母)一説に飛ぶものは雌雄といひ走るものは牝牡といふ②たに(谿谷)③かぎのあな、かぎあな

- 【牝戸】 ヒンコ 女子生殖器の一部、陰門。
- 【牝瓦】 ヒンカ ひらがはら、屋根の上にあふむけて葺く瓦、めがはら。
- 【牝牡】 ヒンボ めすとをす、雌雄。
- 【牝期】 ヒンキ 動物の交接期、さかりのつくとき。
- 【牝遊】 ヒンイウ 畜類のさかりのつくこと。
- 【牝雞司晨】 ヒンキシシン 婦人が勞力を有し夫をさし措きて萬事を支配するにたとへていふ。

【牟】

ボウ ム

①牛の鳴き聲の形容②むさぼる(食)③とる(取)うばふ(奪)④かつ(勝)⑤まさる(倍)⑥おほいなり(大)⑦すゝむ(進)⑧をかす(冒)⑨おほむぎ(大夢)⑩土の釜(くらし)⑪昏⑫ひとみ(眸)⑬かぶと(兜)⑭務に通ず

三畫

【牡】

ボウ ボモ

牡

- ①を、をん、をす、動物のをす(畜父)②とざし(閉)とざす③かぎ(鑰)ぢやらまへ、戸のくるゝ
- 【牡丹】 ボタン 灌木の一、初夏美麗な大輪の花を著ける、花王、洛陽花。
- 【牡瓦】 ボウカ 下向に葺く瓦、をがはら。
- 【牡蛤】 ボウカク 次と同じ。
- 【牡類】 ボウレイ 貝類の一種、かき。
- 【牡鑰】 ボウケツ かぎ、鍵。

【牢】

ラフ ロウ

牢

①をり(牛馬を養ひ入れる所)②ひとや(罪人を容る所)らうや③あてがひぶち④牛羊家の三牲具はるを牢といふ⑤かたし(堅)又そのさま、かたむ(固)⑥あたひ(値)⑦こす(澆)⑧いけにへ(犠牲)⑨くら、こめぐら、米倉

- 【牢記】 ラウキ 能く記憶すること。
- 【牢晴】 ラウセイ 天氣のよくはれたること。
- 【牢檻】 ラウカン 牢獄に同じ。
- 【牢懸】 ラウケン 牢愁に同じ。
- 【牢獄】 ラウゴク らうや、ひとや。
- 【牢籠】 ラウロウ 人を己が術中にまめる①ひとまとめにとること。
- 【牢不可破】 ラウイコパ 堅固にして破れる能はざるさま。

類語

【物】

ジン

物

①みたす(満)ふさぐ(塞)②ます(益)③しなやか(柔)

四畫

【牧】

ボク モク

牧

①牛馬をはなしがひにす、のがひ②まき、家畜をのがひにする所、牧場③やしなふ(畜養)④まちはづれ(郊外)⑤みる(察)⑥つかさどる(司)⑦をさむ(治)⑧のぞむ(臨)⑨古代九州の長官の名、轉じて一地方を治める者、をさ(長官)⑩田を司る官⑪つかふ(使)⑫腹黒き牛⑬井田の半⑭一牧を以て一井とす

- 【大牟】 オホム 堅牢
- 【完牟】 カンム 固牢
- 【獄牟】 ゴクム 獄牢
- 【小牟】 コム 小牢
- 【牧子】 ボクシ 家畜を養ふ者、牧者。
- 【牧牛】 ボクウ 牛を放養する、又その牛。
- 【牧司】 ボクシ 地方の長官、牧民官。
- 【牧民】 ボクミン 地方の民を治めること。
- 【牧田】 ボクデン 六畜を飼養するところ。
- 【牧正】 ボクセイ 鳥獸を飼養する官名。

【物】

ブツ モチ モツ

物

①もの(凡てこの世に存在し形體あるもの)いふ②こと(事)ことがら、事實又同種類の意③みる(相)形状相貌等

- 【牧伯】 ボクハク 地方官又は諸侯の稱。
- 【牧笛】 ボクフエ うしがひの吹きならす笛。
- 【牧師】 ボクシ 基督教の教會の主任者、耶穌教の傳道者。
- 【牧草】 ボククサ まきばのくさ、まぐさ。
- 【牧畜】 ボクチク 畜類を放養すること。
- 【牧園】 ボクエン 牛馬を養ふこと、又その人。
- 【牧場】 ボクチヤウ 牛馬などを放ちかふところ、まき場、牧地。
- 【牧童】 ボクドウ 牛かひのこども。
- 【牧養】 ボクヤウ 畜類を養ふこと。
- 【牧豎】 ボクジュ 家畜をかふ童子、牧童。
- 【牧牛兒】 ボクウジ 牛飼ひの童子。
- 【牧畜時代】 ボクチクジダイ 牧畜を以て生業としたる古の時代。
- 【牧猪奴説】 ボクチクヌノタハムレ かけごと、とばくの類。
- 【舟牧】 フナボク 畜牧
- 【民牧】 ミンボク 群牧
- 【群牧】 グンボク 養牧
- 【放牧】 ホウボク 民牧

- 【物々】 ブツブツ それん、のもの、物と物。
- 【物則】 ブツソク 萬物自然に存する法則。
- 【物表】 ブツベウ 物外に同じ。
- 【物品】 ブツピン しなもの、物貨。
- 【物界】 ブツカイ 有形なる自然界の範圍。
- 【物故】 ブツコ 死ぬこと、死(物は没の古字、故は古くなること)。
- 【物果】 ブツクワ 世の中のかゝり合ひ。
- 【物候】 ブツコウ 萬物がその氣候に適應すること。
- 【物色】 ブツシキ ①人相書にて人を探す②一般に物事をさぐり求めること③ものいろ、あやめ。
- 【物我】 ブツガ 物と我、物界と心界。
- 【物怪】 ブツカイ へんげ、ものゝけ、ばけもの。
- 【物々】 ブツブツ それん、のもの、物と物。
- 【物則】 ブツソク 萬物自然に存する法則。
- 【物表】 ブツベウ 物外に同じ。
- 【物品】 ブツピン しなもの、物貨。
- 【物界】 ブツカイ 有形なる自然界の範圍。
- 【物故】 ブツコ 死ぬこと、死(物は没の古字、故は古くなること)。
- 【物果】 ブツクワ 世の中のかゝり合ひ。
- 【物候】 ブツコウ 萬物がその氣候に適應すること。

【物理】ブツリ ①もの、性質、もの事の道理 ②物理学の略。

【物終】ブツシユウ 冬の異名。

【物情】ブツジヤウ ①事物のありさま ②世間のやうす、世の中のあるさま。

【物象】ブツシヤウ ①自然の風景 ②物の形。

【物産】ブツサン 其土地に産出する物品。

【物資】ブツシ ①なもの、材料。

【物華】ブツカワ 物のひかり(主として寶物の精彩をいふ)。

【物價】ブツカ 物のねだん、貨物と貨幣との交換の比例。

【物論】ブツロン ①物とりのさま、世間のうはさ。

【物慾】ブツヨク 物質に對する慾念。

【物質】ブツシツ 一定の容積及び重さ價值等を有する物の總稱。

【物議】ブツギ 世論、世間の取沙汰。

【物騒】ブツサウ 世間の様子の穢かならぬ貌

【物權】ブツケン 法律上直接に有體物の上に行はれ一般に對抗し得る權利。

【物體】ブツタイ ①有形にして知覺精神なきもの ②物質より成る體形。

【物具】ブツグ ①鍔及びその附屬品 ②道具 ③調度、器具。

【物頭】モノガシラ 幕府時代弓組・鐵砲組などの足輕のかしら。

物

【物活論】ブツカクワロン 生命・生活力は物質を離れては存せず物質其の物に之を有すとすの說。

【物理学】ブツリガク 物の性質及び運動・エネルギー等について研究する學問。

【物質界】ブツシツカイ 有形物又は自然科学の範圍。

【物的證據】ブツカキシヨウコ 人證に對する語、證據となるべき物件をいふ。

【物換星移】モノカハリホシウツル 時世の有様が次つぎとつりかはること。

【物々交換】ブツブツカウカウケン 通貨の仲介なくして直接に物品と物品を交易すること。

【物價調節】ブツカチヤウセツ 法令又は其他の方法により物價の高低を平調ならしめること。

【物理的變化】ブツリテキヘンクワ 物體に變化が起るともその物體を構成せる物質には變化を及ぼさざる作用をいふ、化學的變化の對。

【物質不滅則】ブツシツフメツツツ 物質は種々なる原因によりて常に其の形質を變ずるも質量に於ては決して増減することなき原則をいふ。

【物質的文明】ブツシツテキカクブンメイ 形に現はれたるもの、文明、精神的文明の對。

訓讀

【物あれば必ず則あり】有レ物必有レ則 ありばかならずのりあり 事物にはすべて一定した規則がある。

英物ブツイ 幣物モツイ 寶物モツウ 官物ブツワン

外物ブツガイ 造物ブツゾウ 三物ブツサン 品物ブツヒン

萬物ブツマン 庶物ブツシヨ 群物ブツグン 方物ブツホウ

海物ブツカイ 禮物ブツレイ 天物ブツテン 生物ブツセイ

動物ブツドウ 植物ブツショク 尤物ブツユウ 群物ブツグン

舊物ブツコウ 奇物ブツキ 珍物ブツチン 靈物ブツレイ

棄物ブツキ 賤物ブツゼン 風物ブツフウ 財物ブツサイ

怪物ブツクワイ 美物ブツメイ 人物ブツニョウ 廢物ブツハイ

五畫

【牲】セイ ①神を祭り、又は賓客に供へるいけにへ(神を祭り、又は賓客に供へる畜類)

【牲牢】セイラウ いけにへの羊や牛。

【牲豢】セイセン 毛色の純白なるいけにへ。

【牲殺】セイサツ いけにへとなる物を殺す。

【牲饋】セイクイ いけにへとする牛。

類語 玉牲セイヨク 犠牲セイ 三牲セイ 六牲セイ

性

牲

肥牲ヒセイ 五牲ゴセイ 牢牲ラウセイ 下牲ゲセイ

【抵】テイ ①ふる(觸)さはる、あたる ②いたる(至) ③あふ(會) ④おふかた(大略)

【抵牾】テイギ ①くちがふ、さはる。 ②低觸(テイシヨク)さしさはる、あたりさはる

六畫

【怪】ケン セン セン

①いけにへ、毛色の純なる牲牛 ②まるのまゝのいけにへ

【特】トク シ ジ

①めらし(牝牛) ②めらうま(牝馬)

【特】トク トク

①をらし(牡牛) ②凡て動物のをすにいふ、又一定のいけにへの牛 ③たゞ、ひとり(獨)ひとつ、ひとりだち(獨立) ④たぐひ(匹) ⑤ぬきんでる、格別である

抵

牾

特

①ことに、とりわけ、別段に、格別に ②三歳になるけもの ③つれあひ(配偶者)

【特立】トクリツ 世にぬきんでたるさま。

【特地】トクヂ ことに、とりわけ。

【特有】トクイウ そのものにのみ有する意。

【特色】トクシキョク ①他にすぐれたるありさま ②他にことなるありさま。

【特旨】トクシ 特別なるおぼしめし。

【特別】トクベツ ①とりわけ、なみ／＼ならず、格別の意。 ②比類のなきわざ。

【特技】トクギ 比類のなきわざ。

【特例】トクリイ 例外のしきたり、特別の例。

【特免】トクメン 特旨をもてゆるす。

【特性】トクセイ 其物のみに有する格別なる性質。

【特命】トクメイ 特別の命令、特別の任命。

【特定】トクテイ 特別にきめる、又その定め。

【特典】トクテン 特別のおきて、特別の例。

【特効】トクカウ 特別なる効能。

【特約】トクヤク 普通の約束以外に取かはす格別なる契約。

【特長】トクチャウ 特にすぐれたる長所。

【特宥】トクイウ 特典で刑罰をゆるす。

【特恩】トクオン 特別のめぐみ。

【特派】トクハイ 特別に派遣すること。

【特待】トクタイ 特別にとりあつかふ。

物

【特得】トクトク 特有に同じ。

【特進】トクシン 漢代以後諸侯の功績顯著なる者に賜はりし名譽の稱號。

【特設】トクセツ 特に其事の爲めに設ける。

【特殊】トクシユ 普通以外の意。

【特異】トクイ 特殊に同じ。

【特赦】トクシヤ 特有に同じ。

【特創】トクサウ 獨力を以て作りはじめること。

【特賣】トクバイ 特別の廉價にて賣り出す。

【特稱】トクショウ 普通以外の特別の稱呼、又とくべつとなへる。

【特許】トクキョ 或る發明品を獨占し之を利用する特別の權利を與ふること。

【特報】トクホウ 規定の時刻外に發する報知又は責任關係にある事件以外の通報。

【特筆】トクヒツ 特別に大きく書きしるすと(例)特筆大書す。

【特等】トクトウ とくべつによい等級。

【特發】トクハツ 特別に發すること、別仕立の發送又は報知。

【特徵】トクテウ ①特旨を以て任官す ②他に類のなき長所。

【特處】トクチュ 獨居の意。

【特價】トクケン 特別に安くしたる代價。

【特種】トクシュ ①特別なる種類 ②新聞雜誌等に於て他の新聞雜誌等には記載され

ざる獨特の記事をいふ。
 【特選】トクセン 特に選びあげる。
 【特質】トクシツ 特に其物にのみある性質。
 【特廟】トクベウ 夫婦は合せ祭るを例とすれども妾は配祀することを得ず特別にたまやを設けるより妾のたまやをさして言ふ。
 【特操】トクサウ 固く守りて變らぬ志。
 【特點】トクテン 他に比して異なる箇所。
 【特權】トクケン その人のみが特別に行ひ得る權利。
 【特待生】トクタイセイ 授業料を免じ特別に待遇する優等生。
 【特別法】トクベツポフ 或事柄・或場所のみに限りて特にさだめたる法律。
 【特別税】トクベツゼイ 一町村の經濟を立てるために條例に従ひて特に課する税金。
 【特殊鋼】トクシユカウ 工業用鋼鐵にして合金鋼ともいふ。
 【特許局】トクキョク 工業所有權に關する事務を掌る役所。
 【特許權】トクキョケン 特許局より特に其者にのみ製作販賣することを許された權利。
 【特別公債】トクベツコウサイ 特別の法により特別なる時に募集する公債。
 【特別擔保】トクベツタンボ 特別に設定したる擔保。

擔保。
 【特別興行】トクベツコウキヤウ 活動寫眞に於てフィルム製作に特に多額の入費を要したる場合之を公開映寫するに當り特に觀覽料を引上げる興行。
 【特務巡查】トクムジュンサ 隱密に或特別の任務に従事する巡查、略して單に特務ともいふ。
 【特筆大書】トクヒツダイシヨ 極めて顯著なることの形容、又はその事を書き記すこと。
 【特別裁判所】トクベツサイバンシヨ 特別の民事又は刑事訴訟のみを取扱ふ裁判所。
 【特殊教育學】トクシユケウイキガク 普通教育に對する語、盲啞者白痴等の教育法を研究する學。
 【特別當座預金】トクベツタウザヨキョウ 小切手を發行しない小口の當座預金をいふ。
 【特命全權公使】トクメイゼンケンコウシ 一國の君主・主權者又はその國を代表する公使。
 類語
 峻特トクジュン 挺特トクテイ 殊特トクシュ 貞特トクテイ 崇特トクシュウ 秀特トクシュウ 奇特トクキツ 傑特トクケツ 怪特トククワイ 絕特トクケツ 獨特トクトク

【輕】ケイ 人名(戰國時代の人)
 【犖】バウ まだらうし(黑白雜毛の牛)
 【牽】ケン
 ①ひく(引)前方へ引き進める、ひつぱる、ひきとめる②ひきゐる(牽)引つれて行動を指揮す、又ひかれてゆく動物③かゝはる(拘)④物を引くに用ゐるもの、つな(繩)紐⑤迫りてなましむ⑥星の名、たなばたの男星⑦蔓草の一、あさがほ⑧ひかる、引張られる、ひきつけられる
 【牽牛】ケンギウ ①星の名、ひこぼし②あさがほ。
 【牽引】ケンイン 引きよせる、互に引合ふ。
 【牽束】ケンソウ 拘泥すること、束縛すること。
 【牽曳】ケンエイ ひく、ひきずる。
 【牽制】ケンセイ 牽掣に通ず、他をひきとめて自由を束縛する。
 【牽強】ケンキヤウ 無理にこじつける。

【牽絆】ケンバン 手足まとひ。
 【牽掣】ケンセイ 牽制に同じ。
 【牽纏】ケンテン 引きまつはる、つきからまること。
 【牽聯】ケンレン つらなりつゞくさま。
 【牽縶】ケンキヤウ ひきつなぐ、自由ならしめたる説。
 【牽牛花】ケンギウカウ 朝顔の花。
 【牽牛星】ケンギウセイ 牽牛の①に同じ。
 【牽強附會】ケンキヤウフワウイ むりにこじつけること(例)牽強附會の説。
 類語
 引牽ケンイン 羈牽ケンキヤウ 連牽ケンレン 拘牽ケンクウ
 【犖】バウ さかふ、そむく、もとる
 【犖】バウ コク 犖をり、牛馬を入れる牢
 【犀】セイ ①猛獸の一、さい②かたし、又兵器の堅固なるもの③さね(ゆふがほのさね)④額上の骨が髮の生際に入りて隆起す

るもの、貴人の相といふ⑤木犀は香木の①、もぐせい⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 【犀牛】サイギウ 牛の異名。
 【犀甲】サイキヤウ 犀の皮の體。
 【犀舟】サイシユ 堅固なる兵船。
 【犀利】サイリ 武器のするどきこと、又文勢の強きことにいふ。
 【犀角】サイカク 犀の角、藥用に供す。
 類語
 角犀カク 龍犀リウキヤウ 文犀ブンイン 木犀モクセイ
 【犁】レイ 犁に同じ
 【犂】レイ ①からすき、すき(農具の一、主として牛馬にひかせて耕す)②たがやす(耕)③夜あけごろ④むすぶ(結)⑤くろし(黒)又老人の皮膚の垢じみたること⑥まだらうし(雜色牛)⑦恐れをのむく貌
 【犂牛】レイギウ 黒き牛、又はまだら牛ともいふ。
 【犂且】レイヂ 夜あけ、あかつき、曉天。

【犂老】レイラウ 老人、年よりて皮膚のあかじみたるよりいふ。
 【犂然】レイゼン 恐れをのむく貌。
 【犂明】レイメイ 黎明に作る、夜あけごろ。
 【犂】ハン ①奔の古字、はしる②國調ひしめく(おしあひさわぐさま)
 【犂】ジュン ①たけ七尺の牛②體黄色にして唇の黒き牛
 【犂】ケン 九—十畫
 去勢したる牛、きんきりうし
 【犂】ホウ 野牛の一、駱駝の如く背の高きもの
 【犂】進の俗字

犒

カウ コウ

犒

●ねぎらふ(勞)飲食を贈りて軍士を慰問する意②ねぎらひ(慰問の贈物)

犒

カウライ 戦士をねぎらひてものを賜ふこと。

類語

宴犒カウ 給犒カウ 支犒カウ 豐犒カウ

犒

ラク

犒

●まだらうし、雑色の牛②あきららか(分明)又そのさま③すぐれたるさま

犒

カイ

●畜類の強きもの②去勢したる牛、きんきり牛

十一二十三畫

犒

パウリ

犒

犒

トク ドク

犒

●からうし、毛の長きもの②牛に似て尾の長き畜類、又其の尾③旆牛④黒色の牛

類語

耕犒カウ 斑犒カウ 健犒カウ 空犒カウ 乳犒カウ 牲犒カウ 駒犒カウ 黄犒カウ 紙犒カウ 孤犒カウ 禽犒カウ 青犒カウ

類語

野牛の一種

犒

ハク

犒

ギ サ

犒

●いけにへ(神に供へる畜類にして特に毛色の純なるもの)轉じて他の爲めに身命をすてるもの②いけにへの牛の形を彫りたるさかだる③翡翠にて飾りたる酒器

【犠牲】キセイ ①天地宗廟を祭るに用ゐる生きたる牛②或る目的を達せしめん爲めに提供したるもの(例)生命を犠牲として衆人を救ふ。

【犒牲】カウケン 前の①に同じ。

犒

シウ

●人名②牛の息する聲

犒

前に同じ

犬部

犬

ケン

●いぬ(家畜の一にて大なるを犬、小なるを狗といふ)②國訓卑劣なるものに冠して用ふ、俗に刑事のとを犬といふ

【犬牙】ケンガ ①犬のきば②物の出たり入りたりして相合はざるにいふ。

【犬戎】ケンジュウ 支那の西方の五びす。

【犬效】ケンキョウ 己が忠義を諱稱していふ。

【犬馬】ケンバ ①犬と馬②己が勢力を諱稱していふ(例)犬馬の勞を致す。

【犬猿】ケンエン ①いぬとさる②非常に仲のわるきに喩ふ。

【犬走】イヌバシリ 溝と築地との間にある平地のこと。

【犬馬心】ケンバココロ 臣子の報效を思ふ義

【犬馬勞】ケンバノラウ 自己の骨折りをいふ。

【犬馬齒】ケンバノコハヒ 我が年齢の諱稱、犬齒、馬齒。

【犬追物】イヌマツモノ 鎌倉時代の武人の遊戯

【犬牙相制】ケンガアヒヒキ 彼我の境土が相交錯して犬牙の如く互ひに控制する貌。

【犬兎之爭】ケントノアラヒ 犬兎相争ひて共に斃れ田夫の獲る所となりし故事に因み二者利を争ひ卻つて第三者の爲めにその利を奪はれるをたとへていふ。

【犬儒學派】ケンジュウガクハ ソクラテスの弟アシテステネスの首唱せしものにして徳は實行的意思なりとなす極端なる克己的倫理説。

【犬羊狐鼠賊】ケンヤウコウソクザク けだものにも等しき逆賊。

類語 蜀犬ケンロク 田犬ケンデン 食犬ケンシヨク 疾犬ケンシツ 猛犬ケンマウ 怪犬ケンクワイ 守犬ケンシユ 吠犬ケンハイ 特犬ケントク 駿犬ケンジュン 義犬ケンギ

犒

狂犬ケンキヤウ 乳犬ケンニウ 獵犬ケンリツ 愛犬ケンアイ

犒

●大字が漢字の偏に来る時の形②國訓けものへん、いぬへん

二一三畫

犒

ハン ボン

犒

●をかす、しのぐ(凌)ふれる(觸)あたる(當)抵抗す、たがふ(差)さかふ、反對す、法を無視す、おきてを破る、女を姦す、うちかつ②こゆ(超)③うつ(伐)うち入る、亂入す④してかす、引おこす

【犯人】ハンニン 法律上の罪を犯したる者。

【犯法】ハンポフ おきてを破りをかす。

【犯則】ハンソク 規則をかすむこと。

【犯逆】ハンギャク をかすむこと。

【犯禁】ハンキン 禁制を破る、法をかす。

【犯罪】ハンザイ 罪を犯すこと。

【犯罪】ハンザイ 法律上の刑に處せらるべき不法行為。

【犯顔】ハンガン 君主の機嫌の如何を憚らずして諫めること。

犒

チュウ

●貴州・雲南地方の蠻族の名②ちん(犬の一種)

犒

ヘン

めぐる(廻)めぐりつどく

犒

ジャウ

●かたち、すがた、なりふり、ありさま、おもむき、情勢

①のぶ(陳)ありさまを語る、次第を話す
 ②有様やおもむきを表示す(かきつけ、ふだ、てがみ、文書(特に書状))
 【状態】ジヤウケン 進士試験及第者の第一番
 【状況】ジヤウケン やうす、もやう。
 【状師】ジヤウシ 辯護士、法律家、代言人。
 【状詞】ジヤウシ 訴訟に關する書類。
 【状貌】ジヤウバウ すがた、かたち、かほかたち。

【状態】ジヤウタイ やうす、有様。
 【狀元三擧喫者不レ盡】ジヤウケンサンキョウキツキヤウケツチヤウケン 鄉試・省試・廷試の三つの試験に一等にて及第せし者は一生衣食に困らぬの意。

類語

異狀ジヤウ 奇狀キヤウ 美狀ミヤウ 驟狀ソウヤウ
 殊狀ジュヤウ 無狀ムヤウ 陳狀チンヤウ 貌狀ボウヤウ
 形狀ケイヤウ 儀狀ギヤウ 行狀コウヤウ 容狀ヨウヤウ
 委狀ウイヤウ 醜狀ウイヤウ 告狀コウヤウ 情狀ジョウヤウ
 白狀ハクヤウ 書狀ショヤウ

狽

狽は匈奴の別名
 イン
 キヤウ

狂

キヤウ

狂

①くるふ、気がふれる、狂人になる
 ②さわぐ(騒)あばれる、常態をはずれる、又その行爲(まどふ(惑)まどはす)くるはす(犬の走る貌)國訓くるふ、くるひ(戯れ遊ぶ、機械が損すること、あてが外れる、心が亂れる、正しくなくなる)
 【狂人】キヤウジン きちがひ、精神病者。
 【狂犬】キヤウケン ①かみつく犬、狂狗(恐水病にかゝりし犬)。
 【狂夫】キヤウフ 狂人、また馬鹿なおこなひをする者。
 【狂句】キヤウク 俳句の一、おどけの意をふくむもの。
 【狂生】キヤウセイ 行爲が狂人じみた書生。
 【狂妄】キヤウバウ 狂ひて道にたがふ。
 【狂言】キヤウゲン ①理にたがひたる言、又は常度にはづれし大言(古の俳優、田樂に屬し又は能樂の間に行ふおどけのしぐさをなすもの)歌舞伎居のしくみ(特にしくんだい)はりごと。
 【狂佻】キヤウテウ きちがひじみて輕々しいこと。
 【狂花】キヤウカ 時ならずして咲く花、かへりざき、くるひざき。

【狂易】キヤウエキ 本心を失ふさま。
 【狂勃】キヤウボツ 狂氣じみてわがまゝなり
 【狂奔】キヤウペン 或事に熱中して甚しく奔走するさま。
 【狂風】キヤウフウ つよき風、暴風。
 【狂悖】キヤウボウ 狂勃に同じ。
 【狂虐】キヤウキョク 亂暴で人をしへたげる。
 【狂直】キヤウチヨク きちがひじみて素直なるをいふ。
 【狂疾】キヤウシツ きちがひ、狂人。
 【狂氣】キヤウキ 氣がふれる、きちがひ。
 【狂草】キヤウソウ 字體の一、くづしがき。
 【狂喜】キヤウキ 甚しくよろこびて常態を失ふさま。
 【狂亂】キヤウラン くるひみだれる、又そのさま。
 【狂詩】キヤウシ おどけの意味をふくむ詩。
 【狂狷】キヤウケン 狂は常規にはづれて大きな志をもつてゐると、狷は並はづれて義理がたいと、皆中庸の道に合はぬ行ひ。
 【狂惑】キヤウワク くるひまどふ、みだれまどふ。
 【狂歌】キヤウカ 歌道に準ぜずしておどけたる歌(狂人じみたる聲にて歌ふと)。
 【狂態】キヤウタイ 狂人じみたる行爲、又そ

のありさま。

【狂號】キヤウゴウ 物ぐるはしくなき叫ぶ。
 【狂暴】キヤウバウ 狂人じみて亂暴なり。
 【狂醉】キヤウスイ 酔ひて甚しく亂れる貌。
 【狂濤】キヤウタウ あれくるふ大波。
 【狂瞽】キヤウコ ①物事の是非善惡を辨ぜぬ愚者(きちがひじみて向ふみずのと)。
 【狂簡】キヤウカン 志大にして行ひの粗略なる貌。
 【狂痴】キヤウチ 愚かにしてきちがひじみたること。
 【狂顛】キヤウテン 氣の狂ひたること、きちがひ。
 【狂藥】キヤウヤク 酒の異名、きちがひ水。
 【狂躁】キヤウソウ 物狂ほしくさわがしいこと、心が狂ふて落付かぬ。
 【狂瀾】キヤウラン ①はげしくあれくるふ波
 ②物事の崩れ衰ふるにたとへていふ。
 【狂譟】キヤウソウ 狂躁に同じ。
 【狂攘】キヤウジヤウ ①くるひみだれる(を)かし取る。
 【狂騷】キヤウソウ 狂躁に同じ。
 【狂犬病】キヤウケンシヤウ 狂犬にかまれて生ずる病氣、恐水病。
 【狂信者】キヤウシンシヤ 迷信の度の高くなりて病的となりし者。

訓讀

【狂言綺語】キヤウゲンキゴ 人情に投ずる如くかざりし文章。
 【狂瀾を既倒に廻らす】キヤウランキテウタマヘス 狂瀾を既倒に廻らす(押よせたる大勢を元におししかへすこと)。

類語

愚狂ジュキヤウ 清狂セイキヤウ 酒狂シュキヤウ 醉狂スイキヤウ
 猖狂シャウキヤウ 顛狂テンキヤウ 詐狂セウキヤウ 悖狂ハイキヤウ

狂

①なる、なれて意に介せぬ(たゞす(正)足あと(ゆび(指)むさぼる(食))
 【狂恩】キヤウオン 恩になれて最初ほどに有がたみを感じぬ貌。
 【狂習】キヤウシユ 物事になれること。

狄

①えびす、北方のえびす、王化に俗せぬ民(下土)おほしか(とほし(遠)いそがし(忙))諸侯の奥方の著物(低き位の伶人)音聲のはやきさま
 【狄人】テキジン 支那北方のえびす。

類語

五畫

狂

①狙の子、こだぬき(獸類の動き走る貌)
 白狄ハクテク 或狄ウチテク 北狄ホクテク 介狄ケイテク

狽

鳥が翼をひろげるさま
 白狄ハクテク 或狄ウチテク 北狄ホクテク 介狄ケイテク

狽

①狸の屬、野貓(狸)に同じ

狽

①なる、手なれる、習熟す(ちかづい(近)したしむ(親)なれあなどる、かろんず(輕)たはむれる(戲)かはる(交)やすんず(安))
 【狽邪】カフジャ 心不正にして恩を忘れる。
 【狽近】カフキン なれちかづく、親しむ。
 【狽弄】カフロウ なれ戯れる。
 【狽昵】カフニツ 狽近に同じ。

【狢客】カフカク 人のもてあそびとなる者、たいこもち。
 【狢書】カフショ なぶりがき、樂書、いたづらがき。
 【狢愛】カフアイ 近づけて愛す、又その者。
 【狢愛】カフセツ みだりがはしき意。

類語

恩狢 カン 愛狢 カフアイ 獲狢 カフワ
 戲狢 カフキ 昵狢 カフチ 欺狢 カフワン
 遊狢 カフク 通狢 カフツ 慣狢 カフラン

狐



きつね(野獸の一)野干
 【狐火】コウカ きつねび、燐火。
 【狐公】コウコウ 狐のをす、雄狐。
 【狐兎】コトキツねとうさぎ、轉じて小人輩のこと。
 【狐臭】コシウ わきが、腋臭。
 【狐狸】コリ 狐とたぬき、又は單に狐。
 【狐惑】コウカク うたがひまどふ。
 【狐媚】コビ 狐の人をだますことに因み巧みにこびへつらふこと。
 【狐疑】コウギ 疑深きにいふ、うたがひ惑ふ。
 【狐貉】コカク きつねとむじな、又その皮にて作りたる衣服、貴人の衣。

【狐憑】コヒヨウ きつねつき。
 【狐白裘】コハクキウ 白狐の腋下の皮にて作りたるころも、貴重高價なる毛衣。
 【狐格子】コウコウキ 破風の後に設けある窓格子、きつねまど。
 【狐濡尾】コウヌビ 小狐は水を済るに勇むも其の尾を濡らして遂に涉る能はざることに因み事をなすに始めは易く後は難きをいふ。
 【狐死首丘】コウシコウキ 狐は死するも其の首を正しくして己がすみかなる丘に向ふことに因み人の故郷を忘れざるをいふ。
 【狐朋狗友】コウトウキウ 惡友、不善なる友にたとふ。
 【狐假虎威】コウカコウキ 君主の權威を假りて群下を恐れしむる人臣をたとへていふ。
 【狐鼠之盜】コウソウタウ 小盗人、こそどろ、あきすねらい。

類語

妖狐 コウキ 三狐 コウサン 輕狐 コウイ 麗狐 コウリ
 疑狐 コウギ 雄狐 コウユウ 短狐 コウタン 奔狐 コウホン
 素狐 コウソ 神狐 コウシン 城狐 コウジヤウ 群狐 コウグン
 文狐 コウブン 巨狐 コウキョウ 白狐 コウヒヤク 野狐 コウヤ

狢

【狢】ヒ (人に似たる怪獸) 山都、鼻羊等に作る。國訓やまわらは(狢の年をへたるもの) 淫慾さかんなる人

狢

わがまゝなる振舞、又一説にとびあがる

狢

さる、くろざる、ましら

狢

走る、獸がおどろきはしる

狗



いぬ(家畜の一) 犬の小さきもの 熊虎の子

【狗公】コウコウ 牡犬、をすいぬ。
 【狗肉】コウニク 犬の肉。
 【狗吠】コウバイ いぬがほえる、又其聲。

狙

【狙】シヨツ ①さる、てながさる、又やまこ(狙)わるがしこし(狢)ねらふ、うかいふ(狙)見當をつける

狙

【狙公】ソコウ 猿づかひ、さるまはし。
 【狙害】ソコウ 時機を窺ひて妨害を加ふ。
 【狙擊】ソコウ ねらひうつ。

狢

頭が犬に似た猿

狢

【狢】ハク ①狢に似たる獸(よく羊を狩る) 國訓(こま(こまいぬ))
 【狢犬】コマイヌ 高麗から渡つて来た犬の象を石に彫りつけ神社の前庭などにすゑておくもの。

六畫

狢

【狢】タワン 類に同じ、貉の屬、あなぐま、まみ

狢

【狢】グワン ①犬の鬮ふ聲、かみ合ふこゑもとるねぢける

狢

【狢】コシイ ①ねぢける、もとる。【狢】コシイ 前に同じ。

狢

【狢】カウ ①顔が美しくして心がねぢける。又もとる(戻)くるふ(狂)氣がふれる。はやし(疾)はしい、すばやい。【狢】はしい(瘡)するい。【狢】みだる(狢)【狢】まじはる(交錯)

狢

【狢】カウ ①わるがしこいやくにん。【狢】カウ ①すばやいうさぎ、ずるい鬼。【狢】カウ ①わるがしこきこと。【狢】カウ ①わるがしこき少年。【狢】カウ ①美しく心のねぢけたる小供。

狢

【狢】カウ ①ごさかしくしてすばやい。【狢】カウ ①づるくして嘘言をつく。【狢】カウ ①奸智に富むをいふ、わるがしこくずるいこと。

狢

【狢】カウ ①前に同じ。【狢】カウ ①同上。【狢】カウ ①狢に同じ。

類語

韓狗 カン 天狗 テン 木狗 ボク 狂狗 キヤウ
 傑狗 ケツ 功狗 コウ 疾狗 シツ 屠狗 ト
 性狗 ショウ 吠狗 ハイ 走狗 ソウ 良狗 リヤウ
 庸狗 ユウ 短狗 タン 乳狗 ニュウ 狢狗 コウ

【狗蚤】カウソウ 害蟲の一、のみ。
 【狗尾】カウビ 犬の尾、劣悪なるものをいふ。
 【狗屠】カウト 狗をほふる、いぬころし。
 【狗盜】カウタウ ①小盗人、こそどろ。②いぬのまねをして忍びこむぬすびと。
 【狗齋】カウサイ 狗と豚。
 【狗馬】カウバ いぬとらま。
 【狗鼠】カウソウ いぬとねずみ、人格のいやしき者に喩へいふ。
 【狗竊】カウセツ 小ぬすびと、小賊。
 【狗馬心】カウバシン 我まごころの謙稱、犬馬の心。
 【狗尾續貂】カウビツテウ 善美なものに粗悪なものがつづくこと、貂は貂の尾を以て飾つた侍中の冠即ち貂蟬の冠で之に狗の尾の冠が續くのは尊貴に卑賤が連り君子に小人が同席するに同じとの意。
 【狗猪不食】カウシホシキ 犬や豚でさへ人の食残りはくはぬ意にて不義不道のにくみきらふべきをいふ。

【狢】カウト 奸智に長けて物を害ふと。
【狢三窟】カウトシラウ 狢狢なる兎が三個の穴をもつ如く人の難をのがれるにたくみなるをいふ。

【狢死走狗】カウトシラウクニラム 韓信が歎息した言、兎がなくなると今まで狩に用ゐた狗も煮ころされる、敵が亡びてしまると今まで功のあつた大将も誅せらるるといふたとへ。

類語

潘狢カウイン 内狢カウイ 狂狢カウイ 輕狢カウイ
凶狢カウイ 鹿狢カウイ 雄狢カウイ

狢

カク むじな(狸に似たる野獸)

狗

狗の俗字

狩

シウ シュ

①かり、鳥獸を捕へること、特に冬期の獵草を焼き拂ひする②かる、かりす③命を受けて守る土地、任地【狩人】シユジン かりうど。
【狩田】シウヂン かり(冬季行ふ狩)。

【狩獵】シユレフ かり、又は狩りをすると。
【狩子】カウコ 遊獵に鳥獸をかり出す人、せこ、勢子。
【狩衣】カウイ 昔の官服の一種。
【狩野派】カウノハ 明應年間狩野正信の創始せる畫風。

七畫

狢

ヘイ

①のいぬ、野犬②ひとや、をり、牢獄【狢狂】ヘイカウ 字解の②を見よ。

狢

キシ

①ぶた、ゐのこ②太古の支那の帝王の名

狢

ケン

①せまし(狢)ためらふ(猶豫)②氣みちかし、短慮③片意地といはれる程義を固守すること
【狢介】ケンカイ かたいち。
【狢辰】ケンチン 心が狭く物事を容れる度量なくして理にさからふをいふ。

【狢急】ケンキウ 心せまく氣の短きをいふ。
【狢狢】ケンケン 心がせまい、狢量。
【狢陸】ケンリク 前に同じ。

狸

リ

狸に作る、たぬき、野獸の一種
【狸奴】リヌ 狸の異名。
【狸爺】リヤ さらとばけて心の横着なる男をさしていふ。
【狸突入】リツキイリ ねたふりをしてゐること、そらねいり。

狢

カフ

①せまし(廣の對)小さい、多くない②せむ、せままる、又せましとす
【狢小】カフコウ 狢くしてちひさし。
【狢院】カフイエン 土地がせまくけはし。
【狢巷】カフコウ 町のせまき通り。
【狢長】カフチャウ 狢くして長し。
【狢軌】カフキ 軌條の狢き鐵道、幅三尺六寸以内のもの(廣軌の對)。
【狢窄】カフサウ せまし、せまき鏡。
【狢斜】カフセツ 支那長安の曲巷にして娼婦の住みし所②轉じているまち、遊里。

八畫

狢

ゲイ

①し、獅子の類②佛教にて獅子座の意、轉じて高僧の座席。
【狢下】ゲイカ 僧侶を敬して言ふ語。
【狢座】ゲイザ 佛座の敬稱、獅子の座。

狢

ヘウ

つむじかぜ(旋風)はやて
【狢風】ヘウフウ はやて、つむじかぜ。

狢

クワ

①さる、猿の一種、尾長ざる②狢狢は雲南・四川・貴州地方の蠻人の一種

狢

シヤウ

①あばれる、たけりくるふ②あばれまはる

【狢量】カフリヤウ 心が小さい、度量が狢い。
【狢路】カフロ せまき道路。
【狢徑】カフケイ せまきこみち、ちかみち。
【狢義】カフギ 廣義の對、範圍をせまくして見た意味。

【狢壁】カフテイ せまし、てせま。
【狢間】カフマ ①銃眼ともいふ、城の壁にある小き孔②物と物とのせまき間。
【狢劍豆】カフケントウ なたまめ、刀豆。

狢

ギン

犬の争ひかみあふ聲
【狢々】ギンギン 字解を見よ。

狢

サン

①し、獅子の屬、ライオン②佛教にて佛の坐する獅子座、轉じて高僧の座席
【狢視】サンシ 字解を見よ。

狢

ラウ

①おほかみ(野獸の一)②みだる(亂雜)③狼の如く殘忍にして物をそこなふもの④あはてる、うるたへる、狼狢(狼は後足短く狼は前足短く兩獸共に行きて

離れる時には身體の平均を失ひてうるたへるより出でし語)
【狢火】ラウカ 狼の如く後をかへりみて恐れると②人相の名稱、狼の如くうしろをふりかへるとの出来る首をいふ。
【狢藉】ラウセキ 物の縱横に散亂する貌、狼の臥する時草を敷くに其の跡亂るゝによりて云ふ③亂行、暴行。
【狢露】ラウロ 狼の頭の形をつけたる大旗
【狢子野心】ラウシヤン 狼の子の心あらく馴らす可らざるに因み將來禍をなすものに喩ふ。

【狢狼】ラウロウ 狼の一種②狼狼はあわつ、うるたへる

【狢狼】ラウロウ 狼の一種②狼狼はあわつ、うるたへる

【狢狼】ラウロウ 狼の一種②狼狼はあわつ、うるたへる

狢

バイ

【狢狼】ラウロウ 狼の一種②狼狼はあわつ、うるたへる

【猖狂】シヤウキヤウ たり狂ふ、狂ひまはる。
【猖獗】シヤウケツ 勢の盛んなるにいふ、はげしくあばれまはる。

猗

イ ア 猗

①去勢したる犬。つよき犬。つく(附)すなほ、又女の形容。樹木等のしなやかなるさま。②歎息の聲、あゝ。③すなほなるさま。④調子を整へる爲め語尾に置くことば、兮に同じ。⑤さゝなみ

【猗姿】イキ 風に伏し靡く貌。
【猗々】イイ 美しくさかんなる貌。
【猗嗟】イキ 歎息の聲、あゝ。
【猗與】イキ 前に同じ。
【猗靡】イキ 相隨ふ、なびく、しなやか。②女の容色の美はしきにいふ。
【猗猗】イキ すなほなるさま。
【猗頓之富】イキ トン 巨萬の富(猗頓は春秋時代の大富豪)。

猗

サウ

①豹に似て一角五尾の獸、狐に似て翼ある獸ともいふ。②あら／＼し、にくにくし。【猗猗】マウマウ あら／＼しくにくにくしきと

猗

セイ

猛

バウ ミヤウ

①たけし、たけん／＼し、あら／＼し、きびし、つよし(強)②わるし(悪)③いかる(怒)④やぶる(破)⑤残酷である、ひどい

【猛士】マウシ たけきものゝふ。
【猛火】マウカ 勢ひはげしき火。
【猛犬】マウケン たく強き犬。
【猛志】マウシ 堅固なるこゝろざし。
【猛壯】マウソウ たく盛んなり、猛く強し。
【猛卒】マウソツ たく強き兵士、勇卒。
【猛戾】マウレイ たく強き兵士、勇卒。
【猛虎】マウコ 激しき雨。
【猛雨】マウウ 激しき雨。
【猛政】マウセイ 激しき政治。
【猛威】マウキ 激しき威。
【猛勇】マウユウ たく勇まし。
【猛風】マウフウ はげしき風、暴風。
【猛省】マウセイ 深く自らかへりみる。
【猛悍】マウカン たく強しき威。

猗

強くあらしき貌。
【猛惡】マウアク ①強くして悪し②勢ひ強し
【猛烈】マウレイ ①たくしてはげし②いきほひのはげしきさま。
【猛浪】マウラウ 大なみ、激浪。
【猛勁】マウケン 強くして強し。
【猛將】マウショウ 勇悍なる大將。
【猛捷】マウセツ すばやくしてわるづよし。
【猛進】マウシン 勢ひはげしく進む。
【猛毅】マウキ 志強くしつかりせる貌。
【猛銳】マウエイ たくしてするどし。
【猛然】マウゼン 勢ひはげしき貌。
【猛獸】マウジウ 性質あら／＼しく勢たけき獸類の總稱。
【猛者】マウシャ ①勇氣ありてたけきものゝふ。②勢はげしき者。
【猛禽類】マウケンレイ 鷹・鷹等の如く性質たけく他動物を捕へ食ふ鳥類。
【猛虎伏草】マウコウフクソウ 優れたる者はひそみ居るとも遂に世に知られること。
【猛將如雲】マウショウジョウモウゴトシ 勇猛の將士の甚だ衆多なる形容。

類語

剛猛 マウコウ 鷲猛 マウジュ
武猛 マウブ 精猛 マウセイ
勇猛 マウユウ 激猛 マウゲキ
嚴猛 マウエン 賊猛 マウゾク

猜

サイ

①うたがふ(疑)うたがひ。②そねむ、ねたむ(嫉)③もとる(恨)④うらむ(怨)⑤他の美しきをきらひにくむ

【猜忌】サイニ ねたみ心深くて無慈悲。
【猜忌】サイキ 疑ひそねむ、いみそねむ。
【猜恨】サイコン ねたみうらむ、うらみ悪む。
【猜怨】サイエン ねたみうらむ。
【猜嫌】サイケン 猜疑に同じ。
【猜毀】サイキ ねたみそしる。
【猜疑】サイギ ねたみ疑ふ、ねたみて氣をまはすにいふ。
【猜隙】サイカキ ねたみあひて伸あしきと。

類語

沈猜 サイン 嫌猜 サイン 怨猜 サイン 雄猜 サウ

粹

ソツ

にはか、にはかに、だしぬけ
【粹然】ソツゼン にはかに、だしぬけに。

九畫

猗

コ

猗の異名
【猗孫】コサン さる、猗猗。
①おほし(多)さかんなり(盛)②みだる入りまじる(亂雜)③みだりにす、混雜さす④みだら、けがらはし、又そのこと、情事をつましまぬ⑤みだりに、むやみに、やたらに⑥謙讓の辭に用ふ

【猗雜】コザク 男女の情事に關する露骨なる談話。
【猗糞】コクワン みだりがましきこと。
【猗狼】コウロウ 悲猗コウ 積猗コウ 紛猗コウ

類語

凡猗 コウ 悲猗 コウ 積猗 コウ 紛猗 コウ

猗

ワ

ちん、犬の一種(狎)
【猗】エン さる(猗)てながざる、ましら

猗

サウ シヤウ

①しやう／＼(猗の屬)②想像上の動物(能く酒のみ舞ふもの)
【猗々】シヤウシヤウ 猗の名③大酒家のこと。
【猗々血】シヤウシヤウケツ 猗々に同じ。
【猗紅熱】シヤウコウネツ 身體が赤くなり烈しく熱の發する病氣(傳染病の一)。
【猗々緋】シヤウシヤウヒ 紅色の極めて鮮明なるもの。

【猪口】チウコウ ①形の小さな酒杯②猪の名。
【猪肉】チウニク 支那にて猪肉のこと。
【猪突】チウトツ 猪の如く向ふ見ずにつき進むこと、眞一文字に進む貌。
【猪勇】チウユウ 猪の如く眞一文字に進むこと、向ふ見ずの勇氣。
【猪鼻】チウビ あふむきたる鼻、しゝばな。
【猪脊】チウコウ 人の頭の短くして猪の如くなるをいふ、あくび。
【猪武者】チウシムシヤ 向ふ見ずの勇者。
【猪牙船】チウキヤフネ 明暦年間江戸で作られ

類語

剛猛 マウコウ 鷲猛 マウジュ
武猛 マウブ 精猛 マウセイ
勇猛 マウユウ 激猛 マウゲキ
嚴猛 マウエン 賊猛 マウゾク

猪

チウ

【猪】チウ 猪の如く向ふ見ずにつき進むこと、眞一文字に進む貌。

【猪突猪勇】チヨトフキエウ 猪の如く向ふ見ずに進みぬのこの如く強い。

猫

ベウ メウ

ねこ、家畜の一

【猫兒】ベウジ 猫の子、こねこ。
【猫車】ベウシヤ 荷物を運送する一輪車。
【猫柔】ベウジウ 猫の如く柔和で内心陰險なるをいふ、又ねこかぶり。
【猫額】ネコジキヒ 狭き所、又せまき土地などにいふ(例)猫額大の天地。
【猫自殺】ネコジサツ 劇薬「猫イラズ」を嚙みて自殺することを略していふ。

猓

キ

胡に作る、はりねずみ(猓の名)毛刺

猓

猓の俗字

猓

ダウ ジウ

さる(猓の屬)てながさる、ましら
【猓升】ジウシヤウ 猓の木に上るをいふ。

猓

ソン

さる(猓)猓

猓

エン

さる、猓の俗字、猓に作る、てながさる、ましら

【猓猴】エンコウ 手長猓、ましら。

【猓劇】エンゲキ さるしばる、猓の遊戯。

【猓臂】エンビ 身長の割に長き手、長き肘。

【猓響】マルグワウ 口にはましてもて聲を出すを止めるもの。

【猓樂】マルカク 滑稽を演ずる一種の舞樂。

【猓智慧】マルチエ あさちえ、しめくまりなき才智。

【猓取月】エンコウツキツル 分をかへりみずして妄りに大望をいだき遂には身を亡ぼすにたとへていふ。

類語

猓猴(エン) 猓猴(エン) 心猿(エン) 猓猴(エン)

猓

クワツ

猓

犬部

(十畫)

猓・猓・猓・猓・猓・猓

類語

猓猴(エン) 猓猴(エン) 猓猴(エン) 猓猴(エン)

猓

カツ

いぬ(口先の短き犬)

猓

コウ

さる、ましら(猓の一)

猓

ヘンヒ

猓の屬、かはをそ(猓)犬の如くして猓に似たる猓

猓

イウ エウ

さる、猓の屬にして疑ぶかき猓(猓)ためらふ、疑惑、決せぬさま(猓)なほ、まだ、引つゞきて、さら、だに、いままも、やはり(猓)より、から(猓)はかりごと(猓)うごかす、うごく(猓)かくのごとし(猓)「なほ何々す」と讀みかへしてよむ

猓

猓

【猓子】イウシ 猓ほ子の如しの意、兄弟の子、をひ(猓)養子、義子。

【猓與】イウヨ 次に同じ。

【猓與】イウヨ 尤豫又は猓與に作る(猓)遲疑して決せざるにいふ(猓)一定の期日を延すこと。

【猓太教】ユダヤケウ ユダヤ人の宗教、キリスト教。

【猓吹毛】サネケラフクゴトシ 軽くして易きにたとへて言ふ。

猓

イフ

猓

【猓死】ゴクシ 牢屋にて死ぬこと。
【猓舍】ゴクシヤ 牢屋、かんどく。
【猓囚】ゴクゴ ひとや、牢獄。
【猓者】ゴクシヤ 獄吏に同じ。
【猓則】ゴクシヤ 囚人の守るべき規則。
【猓訟】ゴクシヤ 獄は罪の争ひ、訟は財産に關する争ひ、裁判ごと。
【猓裡】ゴクシ 牢屋のうち、牢内。
【猓箇】ゴクシ 牢屋のまど、牢獄のうち。
【猓訴】ゴクシ 罪の訴へ。
【猓據】ゴクシ ひとやのつかさ、刑務所の役人。

類語

嘉猓(イウ) 大猓(イウ) 微猓(イウ) 帝猓(イウ) 王猓(イウ) 泉猓(イウ) 清猓(イウ) 遠猓(イウ) 鴻猓(イウ) 高猓(イウ) 光猓(イウ)

十畫

猓

エウ

【猓民】ケツワシ 猓がしこい者。
【猓者】ケツワシ 奸智に長じたる役人。
【猓賊】ケツワシ 猓で人を害すること。
【猓兇】ケツワシ 猓がしこし、又その者。

類語

猓猓(イウ) 猓猓(イウ) 巧猓(イウ) 兇猓(イウ) 猓猓(イウ) 邪猓(イウ) 巨猓(イウ)

猓

ガイ

おろか、分別がない

猓

ギョク ギョク

猓

【猓つたへ、さばき、つみ(罪)】(猓)ひとや、らうや、罪人を入れ置く所
【猓丁】ゴクテイ らうばん、獄卒。
【猓囚】ゴクシヤ 牢屋にある罪人、囚人。
【猓卒】ゴクシヤ 牢番、今の看守(猓)地獄で亡者を責めるといふ鬼。
【猓吏】ゴクシ 囚人を扱ふ官吏。
【猓門】ゴクメン 猓屋の門(猓)斬罪に處せられし者の首をさらすこと。

猓

シ

猓

【猓子吼】シウシ 猓子が一たび吼ゆれば百獸は威服する如く佛一たび法を説けば惡鬼外道も説服せらるゝといふ譬(猓)雄辯を形容する辭(猓)強悍なる妻が夫を怒鳴りつけること。
【猓子座】シウシヤ 佛又は高僧の坐る座席。

類語

決猓(イウ) 斷猓(イウ) 折猓(イウ) 地獄(イウ) 牢猓(イウ) 亂猓(イウ) 訟猓(イウ) 陰猓(イウ)

【獅子舞】シシマヒ 獅子の形をして舞ふ舞樂
 【獅子身中蟲】シシシナウムシ 獅子の身中に寄生して害を及ぼす蟲の如く内部にひそみ居て禍をなす者。
 【獅子奮迅勢】シシランジニイキホヒ 獅子のあばれる如くはげしきいきほひ。

十一—十二畫

獮

獮に同じ

獯

シヤウ サウ

ね犬

すゝむ、ほめすゝむ

類語

優獎シヤウ 翼獎シヤウ 勳獎シヤウ 嘉獎シヤウ

獯

シヤウ

しか(樂の類)のろ

獯

ガウ ゴウ

いぬ、猛き犬、つよき犬

獯

ケツ

獨

トク ドク

獨

①ひとりもの、ひとり、たいひとり、相手がない、人の補助を受けぬ②單に其事に限る意味をあらはす語③のみは、何々のみは④國の名(獨逸の略)

【獨子】トクシ 兄弟姉妹なき者、ひとりご、たつた獨りの子。
 【獨力】トクリキョク 自分一個のちから。
 【獨夫】トクフ ①獨身の男子②惡政を行ひ國民より見はなされし天子。
 【獨占】トクセン 他の競争者をしりぞけて己れ一人にて利を占む、ひとりじめ。
 【獨立】トクリツ 人によらず己一人の實力にて生活活動する意。

【獨自】トクジ 衆に秀で共者只一人の意。
 【獨行】トクコウ ①つれなくしてたゞ一人行く②己一個の力にて事をなす。
 【獨身】トクシン ①自分一人、單身②ひとり身、つれあひなくして暮す者。
 【獨房】トクバウ ①はなれざしき②一人入れる部屋③囚人を一人入れて置くところ
 【獨吟】トクイン 一人にて詩歌を作り歌ふ。
 【獨歩】トクム ①才能ひいで並び進む者な

獯

ヘイ

ね犬

①たける(哮)②くるふ(狂)③たけり狂ひて盛んにはびこる

類語

朽獎ヘイ 積獎ヘイ 故獎ヘイ

獯

キツ

①おどろく(驚)あわてる②くるふ(狂)③はしる(走)とぶ(飛)

獯

レウ ラウ

①かり、夜の獵、宵田②嶺南地方の蠻族の名

十三畫

獯

ケン

①律義すぎて世に合はぬさま②をどる(躍)はねる(跳)はやし(疾)きびし(急)

【獨唱】トクカウ 樂譜により一人にて詩歌を吟唱すること、ソロ。

【獨夜】トクヤ 一人にて淋しく居る夜。

【獨活】トクカウ 植物の名、うど。

【獨酌】トクシヤク 相手なく一人にて酒をのむこと。

【獨鉞】トクコ 眞言宗に用ゐる佛具の名。

【獨裁】トクサイ 君主の獨斷を以て政治を行ふこと。

【獨眼】トクガン かため、かんち。

【獨善】トクゼン 己一人のみ善行をばげむ。

【獨樂】トクラク 己一人のたのしみ②玩具の一、こま。

【獨擅】トクゼン 我が思ひのまゝになす意。

【獨學】トクガク 師友のたすけなく己一人にて學問すること。

【獨斷】トクダン ①己一人にてきめる②研究もつまず確かな證明もせず唯斯くあるべしと判斷すること、英語 Dogma の譯

【獨懷】トククワイ 人に告げず己が心一つに思ふこと。

【獨覺】トクカク 獨り自ら道理を覺ること。

【獨木舟】トクボネ 木をくりぬきてつくりし舟、まるきぶね。

【獨木橋】トクボネキ 丸まるきばし。

【獨立國】トクリツコク 他國の干渉を受けずして獨立權を有する國。

【獨壇場】トクダンチャウ ひとりぶたひ、己一人の勢力範圍。

【獨眼龍】トクガンリウ かための英雄。

【獨舞臺】トクブタイ ①一人の役者にて技を演ずること②己れ一人にて思ひのまゝに振舞ふさま。

【獨立自營】トクリツジエイ 獨力を以て事を行ひ己の人格を高め卑劣などをせぬ意。

【獨立自營】トクリツジエイ 獨力にて事業をいとなむ。

【獨學孤陋】トクガクコロウ 獨學者が師友の助けなく見聞のせまきをいふ。

獯

クワイ

【獨立不慚影】トクリツコウゲニハヂズ 獨居して何等良心にとがめることなきをいふ。

【獨を慎む】トクヲヒヤム 己自身をつつしみ人の見ぬ所にも言行を正しくすること。

類語

閑獨トク 孤獨トク 專獨トク 寡獨トク

①わるがしこし(黠)②惡才多き貌③みだる(亂)

【獯】トク 狡獪、わるがしこし。

【獯】トク 狡獪、わるがしこし。

【獯】トク 狡獪、わるがしこし。

【獯】トク 狡獪、わるがしこし。

獬豸は神獸の一

獬

カイ

獬

獬

獬

セン

獬、秋の獵

【獬田】センテン 獵を爲すと(特に秋の狩)。

獬

ケン

獬は夏時代の北方の蠻族(周代には獬狂・漢以後は匈奴といふ)

獬

ヒン

かはをそ(獬の異名)一説には獬の小さなもの、又獬の屬

獬

ダウ

あし(惡)容貌がにくくし、あらし(荒)

性質があしきついで、強暴。
【獬】ワウマウ わるづよい、強暴。
【獬】ワウマウ あらきかせ、暴風。

獲

クワク

獲

①(得)狩して獸を捕ふ、又その獲物、負ふ、せおふ②手に入る、とる、とらへる③えらる、信ぜらる、氣に入る④けがれる、けがされる、つかれるさま⑤戦時の分捕品⑥苦しむ⑦昔の勇士鳥獲の名⑧はしたため、下婢⑨獲得⑩クワク 得る、取る、手に入る。⑪獲麟⑫クワク 麒麟を得たと、孔子が春秋を著して「哀公十四年春、西狩獲麟」といふ句に筆をとめた故事に因み絶筆の意にも用ゐる。
【獲物】エモノ ①狩又はすなどりにて得たもの②自分のえてな武器。

類語

攻獲クワク 弋獲クワク 採獲クワク 捕獲クワク 俘獲クワク 漁獲クワク 殺獲クワク 禽獲クワク

獵

獵の俗字

獵

獬

ドウ

①いかる(犬が怒る)②人の名

十五畫

獬

レフ

獬

①かり、鳥獸を狩りとらへること、特に冬の獵(春は蒐、夏は苗、秋は獬といふ)②かゝる、かりをす、又とらふ(捕)③うごかす(震)④しへたぐ(虐)⑤(歴)⑥つぐ(次)⑦ふむ(踏)⑧風のふくさま⑨國調すなどり(魚をとる)⑩獵犬⑪レフケン 狩獵に使役する犬。⑫獵夫⑬レフフ 獵師に同じ。⑭獵戸⑮レフコ かりうどの家、又かりうど。⑯獵期⑰レフキ 狩獵を許される時期。⑱獵服⑲レフフク 狩獵の時のきもの。⑳獵師⑲レフシ かりうど、獵人。㉑獵虎⑲レフコ 海獸の一、らつこ。㉒獵船⑲レフセン ①漁船②海獸を捕へる船。㉓獵較⑲レフカク 獵したものゝ多少をくらべる。㉔獵銃⑲レフシユウ 狩獵に用ゐるてつばら。

獬

ダウ

①大の驚く貌②さる(獬)③たはむれる④いぬ

獬

クワク

①あらいぬ②あらし、粗野、あし(暴悪)③獬房④クワクレイ 暴悪にして理にもとる。⑤獬俗⑥クワクク あらくあしき風俗。⑦獬悍⑧クワクカン 人情があらくきついで。⑨獬惡⑩クワクアツク わるづよい。⑪獬々⑫クワククワク 禮儀風俗などの粗暴なこと、あらいこと。

獸

ジウ

獸

①けもの、けだもの②ほじ、獸心③ジウシン 獸の如き心、人道にもとれる人(例)人面獸心。④獸炭⑤ジウタン 獸の骨をやきて造る炭、骨炭。

獬

ダツ

獬

十六—二十畫

【獸革】ジウコク 獸類のなめしがは。【獸疫】ジウエキ けだもの、流行病。【獸行】ジウカウ 人道にそむきたる行爲。【獸待】ジウタイ 獸類の如く待遇す。【獸圍】ジウケン 次に同じ。【獸檻】ジウカン けものをいれる檻。【獸畜】ジウシヤク ①けもの②畜類の如く扱ひて養ふこと。【獸慾】ジウヨク いまはしき色情をいふ、下劣なる情慾(例)獸慾を逞うす。【獸醫】ジウイ 牛馬など家畜の疾病を治療する醫師。【獸啼鳥跡】ジウタイウツウシ 獸の如く集り鳥てはびこるさま。【獸聚鳥散】ジウシュウウツウサン 獸の如く集り鳥の如くちりうせる、聚散常なき意。

類語

海獸ジウカイ 百獸ジウヤク 奇獸ジウキ 禽獸ジウキン 鳥獸ジウニョウ 猛獸ジウマウ 毒獸ジウドク 仁獸ジウニ 野獸ジウヤ 怪獸ジウクワイ 瑞獸ジウズキ 馴獸ジウジュン 畜獸ジウシヤク 格獸ジウカク

獻

ケン

獻

かはをそ、かはらそ
①たてまつる(神佛又は目上に物をささげること)すゝむ②かしこし(賢)又その人③國調こん(酒を進めてさす杯の數、料理の取合せ、獻立)④獻上⑤ケンシヤウ さしあぐ、たてまつる。⑥獻本⑦ケンポン 書物を進呈すること。⑧獻呈⑨ケンテイ 獻上に同じ。⑩獻可⑪ケンカ 獻替に同じ。⑫獻身⑬ケンシン ①一身をなげ出す②己が利害を顧みず全力をつくして事に當るさま(例)獻身的の努力。⑭獻芹⑮ケンケン 人に物を贈り又は意見を述べにふ謙辭。⑯獻供⑰ケンキョウ 物を奉ること、さしあぐ。⑱獻金⑲ケンキン 金子をたてまつる。⑳獻納⑳ケンナフ たてまつり納む、奉納。㉑獻替㉒ケンタイ 善を進め惡をやめさせる義で君主を補佐すること。

【獻歲】正月元旦のこと。

【獻酬】杯のやりとり。

【獻策】よき謀策をすゝめる。

【獻詠】自作の歌詩を君上又は神社にたてまつること。

【獻謀】はかりごとを進む、献策。

【獻饋】物品食物等の贈物のこと。

【獻芹意】人に物を贈る謙辭。

【獻立表】料理の種類を組合せ書付けて表示したるもの。

類語

【嘉獻】嘉獻。文獻。進獻。

【貢獻】奉獻。納獻。登獻。

【彌】おほざる、ましら(獸の一種)は、おほざる(母猿)おほざる。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

【彌】おほざる、ましら。

周時代の北方の種族

獲

クワク

おほざる、大猿、大獲。

【獲孫】おほざる、ましら。

玄部

玄

ケンゲン

①くろ、天の色、赤ぐるき色②天の異名③深遠なる道理、特に老子の説

【玄人】老子の言より出てし語にして極めて深遠なる意、又その貌。

【玄元】老子の言より出てし語にして極めて深遠なる意、又その貌。

【玄衣】黒色のよるひ。

【玄目】おほざる、ましら。

【玄冬】冬(水が黒きよりいふ)。

【玄々】老子の言より出てし語にして極めて深遠なる意、又その貌。

【玄甲】黒色のよるひ。

【玄仗】道、のり。

【玄同】彼と我との別なく混同する

をいふ。

【玄牝】老子の数の玄妙なる所。

【玄色】黒茶色。

【玄米】しらげざる米、くろごめ。

【玄武】天の北方の神。

【玄冥】雨の神、水神④刑殺を司る神。

【玄妙】幽遠精妙の意。

【玄圃】崑崙山にある仙人の居所。

【玄孫】孫の孫、やしやこ。

【玄鳥】つばめ、燕。

【玄理】深遠なる道理、又學説。

【玄術】深遠なる道理⑤老莊の學又は佛學。

【玄黃】黒と黄、又天の色と地の色、轉じて天地、宇宙⑥馬の病むこと⑦黒又は黄色の幣帛⑧五行説から配當された中央の帝。

【玄教】玄妙なる教⑨老莊の教。

【玄酒】水の異名。

【玄虚】奥ぶかきさま、又老莊の説。

【玄間】空中、天、宇宙。

【玄奥】ふかくして測り難きこと。

【玄端】黒色の禮服。

【玄學】老・莊一派の學説。

【玄徳】人に知られぬかくれた徳

行①おくぶかく測り知るとの出来ぬ徳

【玄談】老莊の道のはなし。

【玄駒】蟻の異名②小さき馬③鯉の異名。

【玄默】奥ぶかかくして何事もいはずさま。

【玄誤】深遠なるはかりごと。遠謀、深謀。

【玄覽】奥ぶかき所を心をおちつけて萬物を見ること。

【玄關】①玄妙なる道に進む端緒又佛門に歸依する入口②禪寺の客殿に入る門③家の正面の入口。

【玄武岩】火成岩の一種。

【玄米食】従來の白米に代り衛生・經濟等の方面より利益多き玄米を常食とすること。

【玄蕃寮】大寶令の制、普治部省の所管にして佛事僧尼又は外國人の送迎を掌りし役所。

【玄之又玄】眞理のいやが上に深きをいふ。

【玄元皇帝】唐時代に老子におくりし稱號。

【玄圃積玉】文章の美をいふ語玄圃にある数々の玉。

【玄裳編衣】鶴の姿の形容、黒のはかまと白のうはぎ。

【玄米饗者】大正十二年の關東大震災直後東京より一時關西に移住したる饗者の綽名、玄米の配給を受けて一時を忍びたるより出てし語。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

【玄】おほざる、ましら。

妙

妙に同じ

絃

シ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

率

シユツ、ソツ

茲

くろし(黒)くろぬりの弓

玉部

玉

ギョク シク

玉

玉

【玉】 たま、寶石類の總稱、又玉の如き美しきもの。天皇に關する物の上に置く美稱。他人の事に關する物事の止に添へる美稱。玉の如くす、玉となりて、玉として。瑪瑙に似たる鑽石。玉に加工する人。國調たま(丸きもの、丸き形、しるもの)きよく(藝)娼妓のあげだ、(鶺鴒)。

【玉人】 玉にてつくれる人形。美人の稱、轉じて婦人の美稱。玉みがきの職工。皎潔なる人にいふ。

【玉山】 玉にて製したる酒酌。

【玉斗】 玉にて製したる酒酌。

【玉札】 他人の手紙の敬稱、玉書、玉翰。

【玉女】 美しき女、又仙女。他

人の娘をいふ敬稱。

【玉肌】 玉の如く美しきはだ。

【玉卮】 玉杯に同じ。

【玉成】 有徳の人となるの意。

【玉匣】 玉にて裝飾せるはこ。

【玉佩】 玉製のおびもの。

【玉門】 玉門關。御所・宮闕。

【玉杯】 杯の美稱、又玉にて作りたるさかづき。

【玉花】 雪の異名。

【玉兔】 月の異名。

【玉珎】 腰におびる玉の環。

【玉帛】 玉ときぬ、轉じて寶物のこと。

【玉歩】 他人の歩みの敬稱。

【玉食】 おごつた食物、美食。

【玉冠】 玉にて飾りたる冠、冕。

【玉函】 美しき小箱。玉手箱。

【玉帝】 道教にて天上世界の神、天帝、玉帝。

【玉姿】 容姿の美しきをいふ、又他人の容貌の敬稱。

【玉皇】 玉帝に同じ。

【玉條】 美しき杖。緊要なる規則。高貴の血統。

【玉虹】 橋の異名。

【玉音】 天子のおことば。琴などのよき音。

【玉砌】 玉の如き石だゝみ。

【玉面】 美しき顔、又他人の顔の敬稱。

【玉章】 他人の詩文や手紙をいふ敬稱、たまずさ。

【玉宸】 帝王の宮殿をいふ。

【玉書】 神仙の傳へたる書物。

【玉座】 天子の御座所、天皇の御座、おまし。

【玉案】 玉にて飾りし立派な机。

【玉屑】 ちら／＼と降る雪。不死長生の仙藥。詩文の名句を玉にたとへていふ。

【玉桂】 月の異名。

【玉盤】 玉でつくつたわん。

【玉趾】 他人の脚を敬して言ふ、おみあし。

【玉粒】 雹、あられの異名。

【玉釵】 玉の飾りあるかんざし。

【玉帳】 玉にてかざれる幕。將軍の居る陣屋。娼妓の玉代を記す帳簿。

【玉壺】 玉で製した透きとほるやうなつぼ。酒の異名。玉漏。

【玉笏】 玉でかざりし笏。

【玉骨】 梅花の形容。

【玉詠】 人の詩歌の敬稱。

【玉階】 宮殿のきだはし。

【玉堂】 他家の敬稱。立派なる家。女官の室、又漢代の役所の名。

【玉詔】 みことのり、詔勅。

【玉帶】 玉にて飾りしおび。

【玉路】 天子のゝりもの。

【玉牒】 皇室の系圖がき。天をまつる時その祭文を記したるふだ。

【玉摧】 賢人の死するをいふ。

【玉碎】 玉となつて碎ける、名譽の死をいふ。

【玉葉】 天子の御一族。

【玉觥】 玉杯に同じ。

【玉鈎】 玉のかぎの義、弓張月。

【玉漏】 宮中の水時計。

【玉璫】 玉をしきたる庭。

【玉盤】 玉にて飾りたるたらひ。

【玉貌】 玉姿に同じ。

【玉潤】 みづ／＼しき美しさ。

【玉臺】 上帝の居る處。

【玉質】 玉の如き美しき生れつき玉のてぐるま、貴人の車。

【玉聲】 玉のてぐるま、貴人の車。

【玉輪】 月の異名。

【玉酌】 酒の一種、もろみ。

【玉樓】 美しきたかどの、玉で飾りし御殿。左右の肩の稱。

【玉塵】 雪の異名。茶の異稱。

【玉鏡】 月の異名。

【玉瑛】 磨かぬ玉、あらたま。

【玉齒】 玉をならべたる如く美しき齒。

【玉蔘】 玉釵に同じ。

【玉簪】 前に同じ。

【玉關】 玉門關に同じ。

【玉樹】 槐の異名。才智のすぐれたる人の喻。

【玉爵】 玉杯に同じ。

【玉燭】 四時の氣候の調和して光明あること。

【玉韻】 人の詩歌を敬稱す。

【玉環】 蓮の異名。

【玉觴】 玉のさかづき。

【玉面】 玉面に同じ。

【玉璽】 天皇の印章をいふ。

【玉露】 最上の煎茶。玉のつゆ。

【玉髓】 月の異名。

【玉鑑】 鏡物、石英の一種。明月。

【玉體】 王公貴人の身體の尊稱。

【玉垣】 美人のはだの形容。

【玉垣】 神社の周圍にある垣。

【玉山頰】 酒に酔ひて美しき姿をくづすこと。

【玉壺氷】 心情の清きこと。たとへて言ふ。

【玉門關】 漢代に西域地方と内地との間に設けたる關門(今の甘肅省所在)。

【玉臺體】 陳の徐陵の作りし玉臺新詠に於て作りし詩體。

【玉置流】 玉置半助を祖とする書法の一派。

【玉石同架】 玉も石も同じ箱に並べる如く智者も愚人も同様に扱ふ。

【玉石同質】 善惡ともに亡びつくるをいふ。

【玉石俱焚】 善惡の差別なく共に滅びる喻。

【玉石混淆】 善い者も悪い者もまじり合つて居ること。

【玉卮無量】 玉の杯も底がなくは役にたぬをいふ。

【玉屑紛々】 雪がちら／＼と

【玩具】ダウダもてあそびもの、おもちゃ。
 【玩索】ダウソク いろ／＼に考へて意義をもとめる。
 【玩釋】ダウシキ 文意などを充分に研究するにいふ。
 【玩物喪志】ダウブツサウシ 役立ぬものを愛玩して本心をうしなふ。

①かく(缺)きず、玉が、ける、玉のきず
 ②過失、缺點、おちど、瑕疵
 【玷缺】ダウケツ ①おちど、あやまち ②缺點
 ③てぬかり。
 【玷漏】ダウロウ 前に同じ。

類語
 賭玩 ダウケン 珍玩 ダウケン 耽玩 ダウケン 愛玩 ダウケン
 悅玩 ダウエン 賞玩 ダウケン 聲玩 ダウケン 雜玩 ダウケン

【瑩】ハ 玉の俗字
 【瑩】ハ 玉の俗字
 【瑩】ハ 玉の俗字
 【瑩】ハ 玉の俗字

【玲】レイ ①明かに見える貌 ②金屬類又は玉の鳴る聲 ③すきとほれる貌
 【玲琅】レイロウ 字解の②を見よ。
 【玲瓏】レイロウ ①前に同じ ②清らかにすめる貌。

【玳】セイシ ①色のあざやかなるさま ②玉の中に在る石 ③きず(玷)玉のきず
 【玳者】レイシ ①いやしき心情。

【玳】レイ ①明かに見える貌 ②金屬類又は玉の鳴る聲 ③すきとほれる貌
 【玳琅】レイロウ 字解の②を見よ。
 【玳瓏】レイロウ ①前に同じ ②清らかにすめる貌。

【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字

【玷】テン ①玉の俗字
 【玷】テン ①玉の俗字
 【玷】テン ①玉の俗字
 【玷】テン ①玉の俗字

【珂】カ ①玉の俗字
 【珂】カ ①玉の俗字
 【珂】カ ①玉の俗字
 【珂】カ ①玉の俗字

【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字

【珍】チン ①めづらし、又そのもの
 ②たから(貴重なる物) ③たつとぶ、たふとし(貴)又そのもの ④うつくし、又そのもの ⑤うまし、又そのもの ⑥めづらしとす、普通と異なる、めづらしと思ふ
 【珍木】チンボク 珍らしくして容易に得られぬ樹木。
 【珍什】チンシツ めづらしき道具。
 【珍卉】チンキ 珍しき草花。
 【珍巧】チンコウ すぐれて巧みなる細工。
 【珍品】チンピン ①めづらしき品 ②賄賂等を稱することあり。
 【珍事】チンジ ①意外の出来事 ②めづらしきこと。
 【珍味】チンミ ①めづらしき味、又容易に食はれぬごちさう。
 【珍具】チンキ ①めづらしき道具 ②まれなる設備又は御馳走。
 【珍怪】チンクワイ 珍奇に同じ。
 【珍看】チンカン ①めづらしきかな。

【珍重】チンチュウ ①讚美又は貴重之意 ②書翰中にて身體を大切にせよとの意を表す語 ③珍しくして大切にす。
 【珍庖】チンバウ 珍しき料理、美味なる調理。
 【珍玩】チンワン ①めづらしきおもてあそびもの、珍らしがつてもあそぶ。
 【珍客】チンキヤク ①めづらしい客人、たまに来る人。
 【珍果】チンクワ ①めづらしきくだもの、奇果。
 【珍物】チンブツ ①普通になき珍らしき物。
 【珍彦】チンゲン 世にすぐれたる士。
 【珍奇】チンキ ①つねに存せざること、めづらし、又その物。
 【珍秘】チンヒ ①大切にして秘蔵する意。
 【珍産】チンサン ①珍饌に同じ。
 【珍珠】チンシュ ①たま、眞珠。
 【珍異】チンイ ①珍奇に同じ。
 【珍烹】チンポウ ①めづらしき料理、美味なる馳走。
 【珍祥】チンシャウ ①めづらしき、ざし、吉兆。
 【珍説】チンセツ ①めづらしきはなし。
 【珍惜】チンセキ ①めづらしき、大切にす意。
 【珍禽】チンキン ①めづらしき鳥。
 【珍新】チンシン ①めづらしき初物。
 【珍瑞】チンズイ ①めづらしき、世にまれなる吉兆。

【珍聞】チンワン ①珍らしきうはさ、耳よりなはなし。
 【珍幣】チンヒ ①貨幣、財物。
 【珍談】チンタン ①めづらしきはなし、耳あたらしき話。
 【珍膳】チンゼン ①美事な食物、美味な料理。
 【珍藥】チンヤク ①めづらしき能くきく薬。
 【珍麗】チンレイ ①すぐれてうるはし。
 【珍寶】チンバウ ①めづらしきたから、貴重品。
 【珍蔵】チンゾウ ①大切にしまひ置く、珍饌に同じ。
 【珍饌】チンゼン ①珍らしき食物、うまし物。
 【珍饌】チンゼン ①珍らしき食物、うまし物。

【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字

【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字

【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字

【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字

【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字

【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字

【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字

【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字

【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字
 【珩】ハ 玉の俗字

たま(玉)

〔琪〕

手にて抱へるほどの大いなる璧

〔珞〕

珞は玉の首かざり

〔珠〕

たま(河海に産する圓形の玉) 圓くして玉の形をなすもの 物の美稱

〔珠母〕

貝の名、あこやがひ。

〔珠玉〕

美しき容姿に喩ふ。

〔珠算〕

算盤にて計算する算法、たまごさん。

〔珠箔〕

すゐしやう、水精。

〔珠箔〕

玉をちらばめたる高樓。

〔珠數〕

ず、佛を念ずる具、念珠。

〔珠璣〕

たま、璣は圓くなき玉。

〔班〕

わかつ、わかる、くばる、配分す ならび(並)ならぶ(くらむ(位)席次、位をつける(ついで(序)かへす、ひきもどす、めぐり進まぬ貌(まじる、まだら(車の行く聲(ひとし、同じい)明らかなるさま

〔班史〕

漢の班固が著作せし漢書。

〔班田〕

國家より一般の公民に一定の法によりて田地を分ち與へたるをいふ、我國にては孝徳天皇の御代に行はれる。

〔班白〕

まだらの頭髮、老人の形容。

〔班次〕

位の順次、位次。

〔班如〕

立ちもとりて進まざる貌。

〔班列〕

次に同じ。

〔班位〕

地位、くらむ。

〔班序〕

ついで、順序、次第。

〔班師〕

出征せし軍隊を引返す。

〔班長〕

一つの組のかしら。

〔班々〕

まだら(明らかなる貌(車の音。

〔班散〕

分ち與ふ。

〔班馬〕

漢書の著者たる班固と司

馬遷の併稱はなれ馬。

班資(ハニシ)位と給金。

班祿(ハニロク)扶持を分ち與ふ。

班爵(ハニシヤク)班次に同じ。

類語

榮班(エイハン) 官班(クワンバン) 常班(ジョウバン) 輪班(リンバン) 同班(ドウバン) 下班(ゲクバン) 徽班(エイバン) 朝班(チウバン)

〔珮〕

おびだま、玉のおびもの

七畫

〔珽〕

玉の笏(美しき玉)

〔現〕

たまのひかり(あらはる、あらはす、出現す(うつ(實在)いまのよ(今世)玉に次ぐ美石(いま、げんに、まのあたり(國訓うつ(覺めてある時、又そのこと、ぼんやりせる状態、半睡半醒の状態、ゆめうつ))

〔珩〕

玉にてかざれる履物。

〔珩〕

玉にて飾れる美しき手箱。

〔珩〕

冠のかざり玉(玉の耳かざり。

〔珩〕

眞珠と小石(善と悪。

〔珩〕

王冠の玉のひも。

〔珩〕

植物の名、こぎく、かんぎく。

類語

珙珠(コウジュ) 連珠(レンジュ) 美珠(ミジュ) 寶珠(ホウジュ) 離珠(リジュ) 環珠(カンジュ) 赤珠(セクジュ) 念珠(ネンジュ) 數珠(スウジュ) 貴珠(キジュ) 明珠(メイジュ) 眞珠(シンジュ)

〔珩〕

耳かざり、みだま

〔珩〕

おびだま、おびものをかざる玉

〔珩〕

圭の古字

〔珩〕

珩素(コウソ) 非金屬原素の一、無水硫酸鹽及硫酸鹽となりて多く岩石中に存す

〔現世〕

今の世、現在の人生、うつしよ、しやば。

〔現代〕

いまの代、現今の時代。

〔現今〕

たゞいま、いま。

〔現在〕

時間上の三區別の一、いまのあたり、げんに。

〔現行〕

現在實地に行ふの意。

〔現存〕

現在にあること(生きて居ること。

〔現住〕

現に今すんで居る所(寺の今の住職。

〔現任〕

現在官職にあること。

〔現役〕

常備兵役の中にて現在兵營にあり服役中の軍人。

〔現身〕

生きて居る今のからだ(現世に於ける身體、又佛如來三身の一。

〔現狀〕

只今の状態、今の有様。

〔現況〕

現在のありさま、實地の状態。

〔現品〕

現在の品物、實地の品物。

〔現金〕

利己主義の露骨なるもの(現物のかね、げんなま。

〔現時〕

いま、今の時代、當世。

〔現象〕

事物のあらはれたる形(人の主觀に物のうつる相。

〔現場〕

その物事のありし場所。

【現示的教式】ゲンシテキケウシキ 實物教授と同
意、實物或は模型を直接兒童に觀察せ
しめて行ふ教授の形式。

【瑠玕】ラウカン ①玉に似たる一種の美石
美しき竹の異名。
【瑠璃】ラウリ ①玉石の相うつ聲 ②金属の
鳴る聲 ③鳥のなきごゑ。
【瑠璃】ラウリ ①罪人をしるる鐵の鎖 ②す
ず玉の聲。

球

キウク

【球技】キウキ たまつき。
【球竿】キウカン 體操用具の一。
【球根】キウコン 玉の如くまるくこえたる根
【球形】キウケイ 玉の如き圓形。
【球狀】キウジヤウ 玉の如き形の意。
【球莖】キウキ 地下莖にして慈姑の如く球
状をなすもの。
【球戲】キウキ 球技に同じ。
【球燈】キウトウ ぼんぼりさきちやうちん。

瑛

セン

【球】キウク たま、美しき玉 ②玉で
作つた磬(樂器) ③圓形を現はす語 ④國
訓まり(毬)

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

琅

ラウ

琅

【琅】ラウ ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

【理會】リクワイ 理解に同じ。
【理義】リギ すぢみち、道理。
【理窟】リクツ ①窟はあな、理の聚まる所
の穴、即ちすぢみち ②無理にこじつけ
た理由。
【理障】リシャウ 人の正智をくら
まして眞理にもとること。
【理髮】リハツ 頭のかみの毛をそろへ整へ
る、散髮。
【理學】リガク ①物理学・化学・天文学等す
べて自然に關する科學の總稱 ②物理学
の略語 ③哲學の古い名稱 ④宋代に理氣
の説を主張した學、宋學、程朱學。
【理論】リロン 事實と一致した絶對的説明
【理釋】リシキ 筋道を解きあかして述べ立
てること。
【理覆】リフク 野蠻未開の土地をよさめる
こと。
【理不盡】リフジン 無理無體にすること。
【理性的】リセイテキ 心の働きの知・情・意の
三能のうち知に傾く言行をいふ。
【理財學】リサイガク 經濟の學問。
【理想化】リソウワツ ①自分の理想どほりに

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

瑛

セン

【瑛】セン ①玉に似たる一種の美石 ②玉石の鳴る
清き響 ③瑠璃は軸藥の一 ④瑠璃は地名

①玉の名、環状の玉にて内徑が環内の二倍あるもの②人の名
瑯 瑤 瑛 瑜 瑠 瑠 瑠

瑪瑤は玉に次ぐ石、馬腦とも書く
瑠 瑠 瑠

①珊瑚は海中に棲む蟲の巢②珊瑚は股時代の祭器
瑠 瑠 瑠

①玉のひかり②六稜をなす一種の美石
瑛 瑛 瑛

①水晶の佩玉②玉の光
瑜 瑜 瑜

美しき一種の玉、又其ひかり
瑠 瑠 瑠

又主観客観の合一不二なるをいふ、又

境・行・果等の諸法をいふ。
瑠 瑠 瑠

①天子が諸侯を封ずる時與へしるしの玉②わりふ(割符)③天が善政に感じて降すよきしるし(吉兆)④めでたし、よるこばし⑤國訓みづ(善美の意を示す讚辭)
瑠 瑠 瑠

①穂の多くつきたる苗②稻の美稱。
瑠 瑠 瑠

①瑞兆②ズキナクめでたきしるし、吉兆。
瑠 瑠 瑠

①瑞兆②瑞兆③瑞兆④瑞兆⑤瑞兆⑥瑞兆⑦瑞兆⑧瑞兆⑨瑞兆⑩瑞兆⑪瑞兆⑫瑞兆⑬瑞兆⑭瑞兆⑮瑞兆⑯瑞兆⑰瑞兆⑱瑞兆⑲瑞兆⑳瑞兆㉑瑞兆㉒瑞兆㉓瑞兆㉔瑞兆㉕瑞兆㉖瑞兆㉗瑞兆㉘瑞兆㉙瑞兆㉚瑞兆㉛瑞兆㉜瑞兆㉝瑞兆㉞瑞兆㉟瑞兆㊱瑞兆㊲瑞兆㊳瑞兆㊴瑞兆㊵瑞兆㊶瑞兆㊷瑞兆㊸瑞兆㊹瑞兆㊺瑞兆㊻瑞兆㊼瑞兆㊽瑞兆㊾瑞兆㊿瑞兆

①玉に似たる一種の美石②ひかり(玉の光)③あきらか(明)あざやか(鮮)④てらす(照)ひかりかやく
瑠 瑠 瑠

①玉に似たる一種の美石②ひかり(玉の光)③あきらか(明)あざやか(鮮)④てらす(照)ひかりかやく
瑠 瑠 瑠

①玉に似たる一種の美石②ひかり(玉の光)③あきらか(明)あざやか(鮮)④てらす(照)ひかりかやく
瑠 瑠 瑠

①玉に似たる一種の美石②ひかり(玉の光)③あきらか(明)あざやか(鮮)④てらす(照)ひかりかやく
瑠 瑠 瑠

①玉に似たる一種の美石②ひかり(玉の光)③あきらか(明)あざやか(鮮)④てらす(照)ひかりかやく
瑠 瑠 瑠

①玉に似たる一種の美石②ひかり(玉の光)③あきらか(明)あざやか(鮮)④てらす(照)ひかりかやく
瑠 瑠 瑠

①玉に似たる一種の美石②ひかり(玉の光)③あきらか(明)あざやか(鮮)④てらす(照)ひかりかやく
瑠 瑠 瑠

①玉に似たる一種の美石②ひかり(玉の光)③あきらか(明)あざやか(鮮)④てらす(照)ひかりかやく
瑠 瑠 瑠

①玉に似たる一種の美石②ひかり(玉の光)③あきらか(明)あざやか(鮮)④てらす(照)ひかりかやく
瑠 瑠 瑠

①玉に似たる一種の美石②ひかり(玉の光)③あきらか(明)あざやか(鮮)④てらす(照)ひかりかやく
瑠 瑠 瑠

①玉に似たる一種の美石②ひかり(玉の光)③あきらか(明)あざやか(鮮)④てらす(照)ひかりかやく
瑠 瑠 瑠

き國の義、我が日本の美稱。
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

①大琴、琴に似たる樂器②憤むさま③おほし(多)又そのさま④あざやか(鮮)又そのさま、又一説に密なるさま⑤あざびしき風の聲の貌
瑠 瑠 瑠

の名

【瓊玉衡】センキョウコウ 渾天儀。

【瓊】レイ ヴ

硝石より製したる透明體、水玉

【瓊】瓊の俗字

【瓊】ケイ

瓊

①たま、に、一種の美しき赤玉②玉の如き美しきもの、形容

【瓊姿】ケイシ 玉の如き美しきすがた。

【瓊筵】ケイエン 玉の如く美しき宴席。

【瓊瑤】ケイユウ おびたまの一種。

【瓊瑩】ケイエイ 玉に似たる美しき石。

【瓊樹】ケイジュ 人品の高潔なるにいふ。

【瓊懷】ケイワイ 玉の如く美しき心。

【瓊田草】ケイテンソウ 植物の名、くさやつて。

【瓊芝菜】ケイシサイ ところてんぐさ、石花菜。

十六—十九畫

【瓊】瓊に同じ

【瓊】ロウ

①玉の相うちて發する聲の形容②雨乞に用ゐる玉③明らかなる貌

【瓊玲】ロウレイ 字解の①・②を見よ。

【瓊々】ロウロウ 前に同じ。

【瓊】エイ アウ ヤウ

①瓊瓊は玉に似たる石②玉をつらねたる首飾

【瓊瑤】ケイユウ 玉をつらねたる首かざり。

【瓊】クワン

瓊

【瓊】サン

祭器の一(圭を柄と爲し宗廟を祭る時酒を酌む器)

瓜部

【瓜】クワ

瓜

うり、蔓生にて水分に富む果實を結ぶもの、總稱、又その果實

【瓜分】クワブン 瓜を割く如く土地等を人に分ち與へること。

【瓜期】クワキ 任期の満ちること。

【瓜瓣】クワベン うりのさね、瓜の中の種子。

【瓜田之履】クワテンノクワ 嫌疑を受け易いおこなひにいふ、李下の冠の類。

【瓜瓞綿々】クワツツミンミン 瓜の蔓の如く子孫が段々盛大に繁榮する形容。

【瓜葛之親】クワカクノシン 親族の血統の相つらなる喻。

【瓜田不納履】クワテンノクワ 人よりうたがひを受ける如き行爲のさくべきことをいましめし語。

【瓜に及ぶ】及レ瓜くねにおよぶ 年期がきれる任期がみちる。

【瓜を投じて瓊を得】投レ瓜得レ瓊 くだらうじてけいを得 粗末なる物を贈りて見事なる返禮を受ける、蝦で鯛を釣る。

類語

甘瓜クワン 寒瓜クワン 玉瓜クワク 天瓜クワン

西瓜セイカクワ 木瓜モクワ 美瓜ビツ 破瓜ハクワ

五—六畫

【瓠】テツ

こらり、根もとに近い蔓になつた小さい瓜

【瓠】コケツク

瓠

①ひさご、ゆふがほ、ふくべ②こわれたるかめ・破器③ほろ／＼に缺けること

【瓠巴】コバ 古の琴の名人の名。

【瓠子】コチ かんべう、干瓠。

【瓠犀】コサイ ①ふくべのたね②美人の白き齒に喩ふ。

【瓠落】コハク ①ひさご、ふくべ。

【瓠落】コハク ぼろ／＼に缺け落ちる。

十一—十四畫

【瓢】ヘウ

瓢

①瓠の一種、ひさご、ふくべ、へうたん、又其實の中身をとりに去り酒等を入

れる様に造れる容器②ひしやく

【瓠樽】ヘウソン 瓠の熟したるものにて作りし酒入れ、酒を入れるへうたん。

【瓠瓠】ヘウヘウ ①瓜の一種②ひさごとかたみ③酒をいれるふくべ。

【瓠蟲】ヘウチュウ 蟲の名、天道蟲の漢名。

【瓣】ベン

瓣

①瓜のなかご、實②はなびら③多くの片よりなる果實の肉の一片④機械の兩室の間にある片瓣

【瓣香】ベンコウ 人を尊敬して私淑する意。

【瓣鯨類】ベンセイリウ 軟體動物の一。

瓦部

【瓦】ガ

瓦

①かはら、土を焼きて作りたる板にて屋根を葺き又土間に敷くもの②いとまき③楯の脊④圓調GRAM(重量の單位にて尺貫法の約二分六厘七毛の重さ)

佛語(Cranne)のあて字

【瓦石】ダツセキ かはらといし、價値なきも

の、意。

【瓦合】ダツガフ よくまとまらぬことの喻。

【瓦缶】ダツフ 土やきのほとぎ。

【瓦全】ダツゼン 瓦となりて全き義、つまらぬものとなつて命をたもつこと。

【瓦花】ダツカ さいめ。

【瓦盞】ダツサン 素焼の杯、かはらけ。

【瓦解】ダツカイ 瓦の如く、づれること。

【瓦鉢】ダツハツ ①泥鉢に同じ、すやきの鉢②僧家の食器。

【瓦甕】ダツウ すすやきのかめ。

【瓦甕】ダツウ かはら。

【瓦磚】ダツセン 前に同じ。

【瓦雞】ダツケイ 外形のみにて物の役に立たざるにいふ。

【瓦礫】ダツレキ かはらと小石、價値なきものにてたとへて言ふ。

【瓦斯】ガス ①氣體の總稱②石炭瓦斯の略

【瓦斯糸】又其織物の略。

【瓦釘】カハラクギ 瓦の滑り落ちるを防ぐために打つ釘。

【瓦葺】カハラキ 瓦にて葺きたる屋根。

【瓦合之卒】ダツガフノソツ 烏合の兵に同じ、敗散し易き兵士。

【瓦釜雷鳴】ダツカイノイ 無學者の大言壯語するを瓦製の釜の鳴るに喩へていふ。

甘部

甘

カン

【甘】あまし、うまし、うまい、おいしい砂糖の如くあまい、味がよい、言葉がやさしい、五味の一、又その食物【あま】んず、あましとす【たけなは(醋)】あかしこぶ、このむ【たけなは(醋)】あかし(丹)よくねむる

【甘心】カシシ ①氣持をよくする、又よき氣もち【思ひのまゝに處分する。】

【甘瓜】カンクワ ①まくはうり、甜瓜。

【甘言】カンゲン ①人の氣に入る言葉、へつらひの言葉【開きてうれしき言葉。】

【甘受】カンジュ ①甘んじて受く、心よく受く。

【甘苦】カンク ①たのしみとくるしみ、あまきとにがき。

【甘雨】カンウ ①よきあめ、よきうるほひ。

【甘味】カンミ ①あまきあぢ【あまき物。】

【甘草】カンサウ ①薬草の一種。

【甘脆】カンゼイ ①うまく柔らかき食物。

【甘酸】カンサン ①樂しみと苦しみ。

【甘靨】カンゼイ ①甘脆に同じ。

【甘鼠】カンソ ①はつかねづみの異名。

【甘蔗】カンショ ①さたらきび。

【甘諾】カンダク ①心よく承知する、快諾。

【甘橘】カンキョ ①蜜柑の一名、柑橘。

【甘薯】カンショ ①さつまいも、琉球芋。

【甘藷】カンショ ①前に同じ。

【甘露】カンロ ①あまきつゆ、天下太平の兆として天から降るといふ【年號の名】

【甘栗】アマクリ ①支那人の發明した栗菓子【栗を熱砂の中に蒸焼したる物。】

【甘酎】アマチウ ①味淋と焼酎の混合液に生焼酎の中間の甘味を加味したる飲料にして伊勢の名産。

【甘井先竭】カンセイソツツ ①よき水の出る井は汲む人が多いため早く涸れる義、轉じて才能ある者は多く人に用ゐられ早く衰へるにいふ。

【甘心如薺】カシシセイトシ ①憂苦を知らず心安んずる貌。

【甘棠之愛】カンタウアイ ①人民が治者を慕ふことの切なる情をいふ。

【甘露之變】カンロノヘン ①唐の文宗皇帝の時李訓・鄭注等が宦官を誅せんことを謀りしも果さず皆殺されたる事變。

類語

【甘】甘甘、肥甘、珍甘、甜甘

甚

ジン

【甚】はなはだ、いみじく、すてきに、非常に【はなはだし、非常である、いみじく過ぎて激しきもの、度にすぎし物事】なんぞ(何)

【甚口】ジンコウ ①大なる口、又非常な辯口。

【甚大】ジンダイ ①非常におほきい。

【甚雨】ジンウ ①大雨、豪雨。

【甚寒】ジンカン ①非常に寒い。

【甚深】ジンシン ①はなはだふかい。

【甚】幸甚、太甚

甜

テン

【甜】うまし(美)【あまし(甘)】

【甜瓜】テンクワ ①まくはうり、甘瓜。

【甜菜】テンサイ ①さたらだいこん、あまな。

【甜酒】テンシウ ①甘味ある酒類。

話

甜に同じ

嘗

嘗に同じ

嘗

生部

生

セイ シヤウ

生

【生】いく、いきる、いかす、命がある【うむ(生)子】をうむ【うまれる】、子が産れる、この世に出る、始まる、おこる、又そのこと【起す】、はじめ、なる、わく【なす】、つくる【いきること】、又いきてゐる人、いきてゐるもの【おほく長ず】、成長する、草木が生える【ふやす】、ふえる【いのち(生命)】【よすぎ】、なりあひ(生計)【いきながら】、生れながら、自然にそなはりて【なま】、熟せぬ、十分でない【しやうき】、き、きじ【雑りなし】、讀書人の稱、又自己の謙稱【俗語として語尾に用ふ】あやにく、思ひの外【國訓なる(果實がみのる)】

【生人】セイジン ①いきてゐる人。

【生口】セイコウ ①いけどり、ほりよ【牛馬の類。】

【生々】セイセイ ①萬物のたえず出来ること。

【生平】セイヘイ ①平生、ふだん、つね。

【生民】セイミン ①じんみん、たみくさ。

【生母】セイボ ①うみの母、じつのはら。

【生血】セイケツ ①いきち、生命あるものより取りたる血液。

【生辰】セイシン ①生れし日、誕生日。

【生色】セイシキ ①顔色に出る【いき】したる。

【生肉】セイニク ①なまの肉。

【生存】セイゾン ①いきながらへる、生息。

【生成】セイセイ ①できる、してかす。

【生兵】セイヘイ ①新兵、又あらての兵士。

【生年】センネン ①生れた年【生存の年數。】

【生命】セイメイ ①いのち、壽命。

【生佛】セイブツ ①いきぼとけ、高僧の尊稱。

【生孩】セイガイ ①生れたての子、あかご。

【生客】セイカク ①初對面の客。

【生活】セイカツ ①いのちをたもつこと、いきてゐると【くら】し、世わたり。

【生物】セイブツ ①いたるもの、生類。

【生面】セイメン ①初對面【新らしき方面。】

【生育】セイイク ①おひそだつ、生長。

【生息】セイソク ①生存に同じ。

【生前】セイゼン ①まだ死せざるうち、生きてゐる時【ささきの世、過去。】

四一八畫

【酸甘】カンコウ ①酸甘、蘇甘、蜜甘

【生動】セイドウ いき／＼して動く、繪畫等の眞に迫るさまをいふ。
 【生詞】セイシ 生きて居るうちに功德ある人をまつる神社。
 【生意】セイイ ①いきる心もち②いき／＼した心③別な考へを起す。
 【生訣】セイケツ いきわかれ、生別。
 【生魚】セイイコ なまのうを、鮮魚。
 【生禽】セイキン いけどり、生捕。
 【生鮮】セイセン 鮮かにして生々したる貌。
 【生靈】セイレイ ①生命②人民、人類③いきりやう、生きて居る人の怨靈。
 【生還】セイワン 命を全うしてかへる、無事にかへる意。
 【生路】セイロ 命が助かる、にげ道、活路。
 【生聚】セイシュ 民をそだて財をふやす。
 【生縛】セイバク 生網に同じ。
 【生縛】セイバク 生捕りて縛る、いけどる。
 【生著】セイシヤク 未だ玉化に服せぬ蠻民。
 【生獲】セイカク 生捕に同じ。
 【生蔓】セイマン 宿根草の一、しやらが。
 【生旗】セイキ 其人の生前につくる墓。
 【生類】セイレイ 生きてゐるもの、動植物。
 【生齒】セイシ ①齒がはえる②當年に生れし子、當歳。
 【生捕】セイボ 生捕に同じ。

【生來】セイライ うまれつき、性質、天性。
 【生得】セイトク ①生れながらの性質、天性、天稟②生捕③生來。
 【生害】セイガイ 自殺、自害。
 【生涯】セイガイ 一生の間、終世、一生涯。
 【生憎】セイソウ アハレをりあしく。
 【生活苦】セイカク 生活上の苦しみ、貧のなやみ。
 【生別離】セイベツリ いきわかれ、生訣。
 【生物學】セイブツガク 生物について研究する學科。
 【生産力】セイサンリキヨク 財物をつくり出す能力。
 【生理學】セイリガク 生物の生活原理を究める學、又人體の生理を研究する學。
 【生産額】セイサンガク 生産せし財物の數量。
 【生不學】セイフガク 未熟なる學者、なまかぢり。
 【生意氣】ナマイキ 物知顔、知つたかぶり。
 【生且淨末】セイシヤクマツ 生は男の俳優、且は立おやま、淨は道化又はかたき役末はあらごとし、すべて役者の稱。
 【生老病死】セイラウビシヤク 人生に免れることとの出來ぬ四苦。
 【生存競争】セイソンキョウサウ 生活せん爲め自然的に行はるゝ生物間の競争。

【生存活制】セイソンカクセイ 他の詩文を丸ぬすみすること。
 【生命保險】セイメイホケン 人の死亡を條件として所定の料金を支拂ふ保險。
 【生知安行】セイチアンカウ 生きながらにして眞理を知り安んず、聖人の人格。
 【生寄死歸】セイキシキ 此の世に生きて居るは恰もこの世に寄附するが如く死去は歸るが如しの意。
 【生氣躍動】セイキヤクドウ いき／＼せる氣力の盛んなるさま。
 【生物化學】セイブツケガク 動物と植物の兩化學の綜合。
 【生殖本能】セイジキホネン 種族保存の生物の本能。
 【生殖管理】セイジキカンリ 「女子國有」又は「側面結婚」の如く政府が生殖の事につき特別の保護を行ふ意。
 【生々世々】セイシヤクヤクヨヨ 生きかはり死にかはり、未來永劫。
 【生者必滅】セイシャクヒヤクメイ 生ある者はいつかは必ず死すべしとの意。
 【生滅々已】セイメイツクイ 生滅の諸現象を斷じ畢つて佛果を得ること。
 【生を偷む】セイをチウム 一日々々々々

【生を聊せず】不レ聊レ生 せいにせんんん 安心して生活することを得ぬ。
 【生を養ひ死を喪す】養ヒ生喪シ死 せいをやしなひしをもす 生ける者を十分にやしなひ死せる者を丁寧にとむらふ。
 【生ある者は必ず死あり】有レ生者必有レ死 せいるものは必ずしあり 生きて居るものは一度はかならず死ぬ。
 類語
 胎生 タイセイ 卵生 ランセイ 幸生 カウセイ 諸生 ショセイ
 狂生 キヤウセイ 儒生 ニュセイ 更生 カウセイ 餘生 ヨセイ
 寒生 カンセイ 衛生 エイセイ 發生 ハウセイ 攝生 セツセイ
 學生 ガクセイ 舍生 シヤセイ 業生 ガウセイ 族生 ソウセイ
 平生 ヘイセイ 資生 シセイ 門生 モンセイ 長生 チヤウセイ
 書生 ショセイ 群生 ゴンセイ 蒼生 サウセイ 後生 コウセイ
 寄生 キヤウセイ 先生 シヤウセイ 往生 ジヤウセイ 放生 ハウセイ
 養生 ヤウセイ 一生 イツセイ

【産】サン 産 産
 ①うむ、子をうむ、又うまる、うまれる、出生する②うみたるもの、うまれたる處③出る、生ずる、出来る④なりはひ、くらし(生業)⑤たから(資財)⑥樂器の名
 【産出】サンシュツ つくりだす、できる。
 【產地】サンチ ①其物を生ずる土地、産出地②人の生れ出た土地。
 【産衣】サンイ 生兒にはじめて著せる衣服らぶぎ。
 【産卵】サンラン 卵をうむこと。
 【産科】サンカ 産婦を取扱ふ醫術。
 【産物】サンブツ その土地にて産出する物。
 【産前】サンゼン 子をうむ前。
 【産婆】サンバ トリあげば、助産婦。
 【産業】サンゲフ ①生産の事業②よわたりのためのしごと、なりはひ。
 【産尊】サンジヨク 産婦のねどこ。
 【産後】サンゴ 子をうみたる後。
 【産褥】サンジヨク 産尊に同じ。
 【産額】サンガク 物の産出する量。
 【産神】サンシム 産出するがみ、うぶがみ。
 【産婆役】サンバヤク 事物の介抱又は仲介の

【産兒制限】サンジセイゲン 米國のサンガー夫人が唱導せし説にて自然的に産出すべき嬰兒を人工を加へてその數に制限を加へ多産を防ぐこと。
 【産業組合】サンゲフクミヤヒ 産物を出す事業を發達させるためにつくる組合。
 【産業賃食】サンゲフサンシヨク 労働者が雇傭關係に屬する一面に於て資本家の産業管理權にも加入してその事業の獨占を排除する意。
 【甥】サウ セイ 甥
 ①をひ(兄弟姉妹の子)②むこ(婿)③外孫(女の嫁ぎて産みし子)④妻の兄弟姉妹の夫⑤舅及び姑の子
 【甦】ソ ス 甦
 次(の)倍字
 用部
 事もの多く集る貌

用

ヨウ

①もちゐる、役に立てる、つかふ、はたらかせる。②聞き入れる、取上げる、人を任用す。③行ふ、はたらく、行動す、又はたらしき、つかひみち。④役立つ道具。⑤ものいり、入費、つひえ。⑥よう、仕事、所要。⑦もつて(以)。⑧たから(財)もつて(資本)。

【用人】ヨウニン 大名や貴人の家に仕へて諸事を取扱ふ者。

【用心】ヨウシン ①氣をつける、注意。②心をうふ、いましめ、警戒。

【用水】ヨウスイ 使ふために貯へる水。

【用兵】ヨウヘイ いくさをする事。

【用捨】ヨウシヤ 用ゐると捨てること。

【用件】ヨウケン なすべき事がら、ようむき。

【用言】ヨウゴン 動詞・形容詞等の如く語尾の變化する語。

【用度】ヨウド 入りめ、入費。

【用例】ヨウレイ 用ゐたるためし。

【用途】ヨウト つかひみち、用ゐる方面。

【用間】ヨウカン 間者をつかふこと。

【用意】ヨウイ ①こゝろがけ。②準備する。

【用金】ヨウキン ①公用の金子。②入用のかね。

●徳川時代大名が臨時に人民より徴收せし金、御用金。

【用紙】ヨウシ ①その事に使用すべき紙。

【用事】ヨウジ つとむべき事、なすべき事。

【用語】ヨウゴ つかふことば、使用する語。

【用器】ヨウキ 器具を用ゐる器。②用器。③用器。④用器。

【用舎行藏】ヨウシャカウゾウ 用ゐられる時は出で、能く働らき然らざる時は世を退きて安棲す、進退出處の適宜なること。

【用意周到】ヨウイシュウトウ よく心を用ゐてぬかりがない。

類語

國用ヨウ 聘用ヨウ 施用ヨウ 公用ヨウ
信用ヨウ 常用ヨウ 微用ヨウ 薬用ヨウ
官用ヨウ 適用ヨウ 試用ヨウ 軍用ヨウ
通用ヨウ 擧用ヨウ 歳用ヨウ 費用ヨウ
登用ヨウ 舉用ヨウ 食用ヨウ 效用ヨウ
善用ヨウ 節用ヨウ 好用ヨウ 小用ヨウ
財用ヨウ 佩用ヨウ

角

カク

人の名、一説に角の誤字

一一七畫

【田業】デンゲツ 農業、百姓しごと。

【田螺】デンラ 貝の名、たにし。

【田穉】デンシ わかき稲。

【田園】デンエン ①たはた。②郊外の地。

【田廬】デンロ ①ゐなかのいへ。②田間に設けたる小屋。

【田疇】デンチウ ①稲を植ゑる田と麻を植ゑる田。②田畑、又其の畔。

【田獵】デンリヤ かりをする、狩獵。

【田舎漢】デンシヤカン ゐなかもの、人を卑しめていふ語。

【田五加木】デンゴカキ 野草の一、たうこぎ。

【田園生活】デンエンセイカツ 都會の雜園を避け田舎又は郊外にて生活すること。

【田園都市】デンエントシ 家屋を餘り接近せしめず且つ庭園を多く設けて田園趣味を加味したる都市。

訓讀

【田に蹊して牛を奪ふ】蹊レ田奪シ牛ヲにけいしてうしをらぶ。牛が他人の田畑に闖入した罰としてその牛を奪ひとる。

類語

齊田デン 屯田デン 公田デン 名田デン
代田デン 良田デン 營田デン 方田デン
區田デン 寸田デン 守田デン 桑田デン

甫

フ

甫

①男子の美稱。②おほいなり(大)。③はじめ、はじめ、まさに。④大なるさま、又おほし(多)。⑤われ(我)。⑥あざな(字)。

【甫々】フフ 大なる貌、又多くある貌。

甯

【甯道】ヨウダウ ①兩側にかきを設けたる道路。②量目の名(今の斛)。③人の名。

甯

【甯】テイ ①寧に同じ。②人名。

田部

田

テン

田

①た、稲をつくる地。②はた、はたけ、はたけの形したる所。③たつくる、はたをつくる。④たみをやしなふ。⑤かり、か

火田デン 狩田デン 石田デン 井田デン
搜田デン 食田デン 壘田デン 穰田デン
天田デン 力田デン 山田デン 悲田デン
墓田デン

由

ユ

由

①よる(因)たよる、したがふ。②(經)以てす、因縁す、於てす。③より(自)。④もちゐる(用)。⑤よし、わけ、いはれ、すぢみち、しかた、みち。⑥たすく(補)。⑦由々(自得の貌)よるこぶ貌。⑧猶に通ず、なほ。⑨よこばえ(木が枝を生ずること)。

【由々】ユイユイ ①自得又は喜悅の貌。②ためらふ、猶豫。

【由藥】ユウヤク ひこばえ、めばえ。

【由旬】ユジュン 由旬那の略稱。

【由來】ユライ ①いんねん。②もとから。

【由基】ユキ 大嘗會の時新穀を奉る地として選定せられし田、悠紀。

【由緒】ユキヨ ①ゆかり、ちなみ。

【由々然】ユイユイ ①いはれ、來歴、ゆゑしよ。

【由旬那】ユジュナ 佛語にて距離の稱、十六里、三十里、又は四十里ともいふ(里

リす(吹・削に通ず)②周代の田制にて一井の地。

【田夫】デンブ ゐなかもの、ひやくしやう。

【田父】デンフ 前に同じ。

【田々】デンデン ①胸などを撃つ聲。②蓮葉等の水面に浮ぶ貌。③物のつらなるさま。

【田舎】デンシヤ ゐなか。

【田地】デンチ ①田はた、耕作地。②場所の意に用ふ。

【田宅】デンタク 田と家、田地と宅地。

【田里】デンリ ゐなか、むらさと。

【田時】デンジ 耕作にいそがはしき時。

【田租】デンソ 耕作地に課する租税、田税。

【田家】デンカ 田舎の家、百姓家。

【田圃】デンボ 田とはたけ、たんぼ。

【田畷】デンシユン 田の大夫、勳農の官。

【田畝】デンボ 田のうね、又はたけ。

【田麻】デンマ 野草の一、からすのごま。

【田野】デンヤ 田地、はたけ、又田舎の地。

【田紳】デンシン 田舎紳士をいふ。

【田鳥】デンチウ 渉水鳥の一、しぎ、鴨。

【田鼠】デンソ 鼠の一種、むぐらもち。

【田樂】デンガク ①食物の名、串にさし味噌をつけたるもの。②舞樂の名、古昔農夫の勞を慰めんために笛鼓を用ゐてをかしき樂をなせしに始まる。

【田業】デンゲツ 農業、百姓しごと。

【田螺】デンラ 貝の名、たにし。

【田穉】デンシ わかき稲。

【田園】デンエン ①たはた。②郊外の地。

【田廬】デンロ ①ゐなかのいへ。②田間に設けたる小屋。

【田疇】デンチウ ①稲を植ゑる田と麻を植ゑる田。②田畑、又其の畔。

【田獵】デンリヤ かりをする、狩獵。

【田舎漢】デンシヤカン ゐなかもの、人を卑しめていふ語。

【田五加木】デンゴカキ 野草の一、たうこぎ。

【田園生活】デンエンセイカツ 都會の雜園を避け田舎又は郊外にて生活すること。

【田園都市】デンエントシ 家屋を餘り接近せしめず且つ庭園を多く設けて田園趣味を加味したる都市。

訓讀

【田に蹊して牛を奪ふ】蹊レ田奪シ牛ヲにけいしてうしをらぶ。牛が他人の田畑に闖入した罰としてその牛を奪ひとる。

類語

齊田デン 屯田デン 公田デン 名田デン
代田デン 良田デン 營田デン 方田デン
區田デン 寸田デン 守田デン 桑田デン

類語

は唐里にて六町を一里とす。
夷由イウ 自由イウ 緣由エン 遠由エン
奸由ユン 經由ユイ 事由イウ

甲

カフ カン 甲

①草木の芽をつむむうすき皮(孝子)②
きの元(十千の第一)③第一番の義、又
最もすぐれしもの、稱④はじまる(始)
⑤なる(狎)⑥よろひ(籠)⑦ころも(衣)
⑧から(介)⑨龜蟹類の背を掩ふ堅い殻⑩
つめ、琴などを弾む時に用ゐるもの
⑪假に名の代名詞として用ふ、なにが
し⑫宋代の制にて十家一組の稱⑬臺灣
にて地積の單位、一甲は約百二十二坪
ほどに當る⑭聲の高い調子
【甲子】カフシ 元と、干支、十干と十二支。
【甲乙】カフイフ ①たれかれ②優劣をあらは
す語③順序を示す語。
【甲令】カフレイ 法律の第一條、又は第一篇。
【甲士】カフシ ①よろひをつけたる武者。
【甲兵】カフヘイ ①甲士②よろひと武器、轉
じて戦争。
【甲夜】カフヤ 午後八時、初更。
【甲卒】カフソツ 甲士に同じ。

【甲首】カフシユ ①かぶとを被りたる戦士②
よろひ武者のくび。
【甲科】カフカク 官吏登用試験に及第したる
者の第一等。
【甲斐】カヒ はたらきたる仕事の效驗。
【甲冑】カフクウ 船の上部のゆか、テツキ。
【甲板】カフバン 船の上部のゆか、テツキ。
【甲第】カフダイ ①かみやしき②甲科に同じ
【甲殼】カフカク ①かみ、かぶら。
【甲蟲】カフチュウ 殼を有する蟲類の汎稱。
【甲親】カフクワン ①かみやしき、甲第。
【甲鏡】カフカイ ①よろひ。
【甲聲】カフセイ 調子の高き聲、かんどゑ。
【甲州流】カフシウリウ 兵法の一にて武田氏の
臣小幡景憲の創始せしもの。
【甲鐵艦】カフテツカン 船體を鐵板にて包みし
軍艦。
【甲種興行】カフシユコウギョウ 衛生又は教育上
害ありとして十五歳以下の子供を入场
せしめざる演劇・活動寫眞等の興行物。
【甲冑生二鐵砲】カフクウセイニテツポウ 戦争の
ひさしきにわたたりてやまざること。

類語

堅甲ケン 犀甲カシ 衷甲チウ 兵甲ヘイ
鱗甲リン 合甲カフイ 帶甲タイ 支甲カフン

申

シン 申

①さる(十二支の一)方角の西南西、時
間にて今の午後四時②かさね(重)くり
かへす③いたす(致)文書を送り出す④
のぶ(舒)⑤あくび(欠伸)⑥せのび⑦ゆる
やかにのび⑧ひく(引)⑨國訓まをす
(語る、告げる)
【申令】シンレイ 命令を發す、又その命令。
【申告】シンコウ 上に申し上ぐること。
【申呂】シンリョ 宗代宣王中興の臣にて申僕
と呂僕の二人。
【申奏】シンソウ 天子に申上ぐ、奏聞。
【申救】シンキウ 大いに説き勸めて助ける。
【申盟】シンメイ くり返してちかふ。
【申報】シンポウ つけしらす。
【申飭】シンシヨク くりかへして諫める。
【申諭】シンユ 訓戒をのべる。
【申徹】シンテツ のべさとす、言ひきかす。
【申達】シンダツ 申したつする、通知する。

文甲ブン 金甲カン 鐵甲テツ 開甲カイ
保甲ホウ 精甲セイ 戌甲ウツ 素甲ソウ
上甲カフウ 合甲カフウ

【申請】シンセイ 上に向つて或事柄を申し出
づること。
【申覆】シンフク 申し上ぐ、のぶ。
【申證】シンシヨウ ①明かなること②明白な
る證據。
【申願】シンガン ついて願ける、第二陣。
【申嚴】シンゲン いましむ、きびしくさとす。
【申月】シンゲツ 七月の異名。
【申刻】シンコク 今の午後四時頃。
【申樂】シンラク 猿樂に同じ(其項を見よ)。
【申分】シンブン ①いひよらき、又いひぶ
ん②ひなん、缺點。
【申付】マシツク いひつけ、命令。
【申々如】シンシニジヨ おちつきたるさま。
【申韓學】シンカンガク 刑名學ともいふ、申
不害と韓非との學問、共に法律學者に
て法治主義を以て民を統御し嚴罰を以
て國を治めることを主張せし人。

男

ダン ナン 男

①を、をのこ、をとこ、丈夫、だんし
②むすこ、をとこの子③爵位の第五番
目④血氣さかりの男⑤父母に對する子

二畫

の自稱
【男子】ダンシ ①をとこ、女に對していふ
②をとこ、大丈夫③むすこ、男の子。
【男工】ダンコウ 男の職工。
【男系】ダンケイ 男親の系統。
【男女】ダンニョ 男と女、むすことむすめ。
【男兒】ダンニ 男子に同じ。
【男性】ダンセイ 女性の對①をとこ②をとこ
たる性質③文法上ことばが具有する男
の性質。
【男裝】ダンサウ 女子にして男子の装ひをす
ること、又そのよそほひ。
【男爵】ダンシヤク 五等爵の第五位。
【男色】ダンシヨク 男にして男の容色を愛す
るにいふ、かげま。
【男房】ダンバウ 昔の藏人職をいふ、天子の
側近く仕ふること女房と同様なりし
より言ふ。
【男風】ナンフウ 男色に同じ。
【男根】ナンコン 男の生殖器、前のもの。
【男籠】ナンチヨウ をとこめかけ、男子にし
て婦人に愛し養はれる者。
【男妻】ナントコメヒメ 一生妻をもたずして童
貞を守る男をいふ。
【男性美】ダンセイビ 女性の優婉なる美に對
し男性の剛壯勇健なる肉體及び精神上

の美を稱す、男らしきうつくしさ。
【男地獄】ナトコジゴク 男妾、をとこめかけ。
【男才女貌】ダンサイジョウバウ 男は才幹、女は容
貌第一の義。
【男女同權】ナンニョドウケン 男も女も社會上に
於ける權利の平等にして差別なき見方
をいふ。
【男尊女卑】ダンソウジョウヒ 男を尊びて女を卑
しむ風習をいふ。

旬

テン テン 旬

天子の直轄する土地、周制にて王都
を去る五百清里以内の土地、又町はづ
れの地②ぬく(挺)③をさむ(治)④かり
(狩)かる⑤田野の産物⑥周代の税制に
て車一乘(兵士七十五人)を出す土地
【旬人】テンジン 郊野を司る官。
【旬々】テンテン 車の音のさかんなるさま。
【旬服】テンボク 天子の直轄地(五服を見よ)
類語
大甸ダイ 邦甸ホウ 侯甸コウ 郊甸コウ
師甸シ 區甸ク

【番人】の坐るために設けてある高座。
【番鍛冶】バンカヂ 古、諸國より京都に勤番したる鍛冶工。

類語

交番カウバン 當番トウバン 輪番リンバン 更番セイバン
數番スウバン

【畫】

クワク クワイ
グワ エ

お

①かぎる、かぎり(界限)くぎる、くぎり、さかひわかつ(分)さかひをたてる、區別す②易の卦の象③はかる、はかりごと(計策)④糸(繪)糸がくにす⑤明らかにして曲りなき貌⑥一様にす⑦明らかにして曲りなき貌⑧一様にす⑨明らかにして曲りなき貌⑩はかりごとを立てること。
【畫然】クワクゼン 明らかにして亂れざる貌
【畫策】クワクサク はかりごとをめぐらす、計策。
【畫工】クワクコウ 画かき、繪師。
【畫手】クワクテ 前に同じ。
【畫伯】クワクハク 畫家の敬稱。
【畫足】クワクソク 無用のものを書き足す意。
【畫局】クワクキョク 繪畫を取扱ふ役所。

【畫帖】クワクテウ ①繪畫の写本②畫をかきこみたる帖。
【畫眉】クワクメイ かきまゆ、畫きたる眉毛。
【畫師】クワクシ 畫工に同じ。
【畫家】クワクカ 前に同じ。
【畫舫】クワクフウ 彩色したる船。
【畫報】クワクホウ 畫に依つて報道すること、又繪畫を挿入したる新聞・雜誌の類、グラフィック。
【畫餅】クワクヘイ 地に畫いた餅の意にて實用にならぬ譬、轉じてむだ、徒勞(例)畫餅に歸す。
【畫像】クワクゾウ 人がいた像、肖像畫。
【畫壇】クワクダン 畫家・美術家等の活動する社會。
【畫譜】クワクポ 季節の順によりて山・水・花鳥を描きしもの。
【畫題】クワクタイ 畫にかゝれる題目、畫の材料。
【畫讀】クワクダク 畫のかたはらに書きそへたる讀(讀はほめことば)。
【畫仙紙】クワクセンシ 支那産の紙の名。
【畫龍點睛】クワクリウテンシヨウ 龍を描き最後に眼のひとみを入れる意、物事の最後に手入してそれを完成せしめること。

機畫キカク 參畫サンカク 規畫キカク 措畫ソカク
點畫テンカク 字畫ジカク 筆畫ヒツカク 裁畫サイカク
秘畫ヒツカク 指畫シツカク 計畫ケイカク 石畫シツカク
主畫シュツカク 墨畫ボクカク 碩畫シツカク 口畫クツカク
繪畫エカク 壁畫ヘカク 圖畫ズカク

【畚】

ヨ シヤ

畚

①あらた(開墾)して後三年を経たる田②やきた(雜草等を燒きはらつて種をおろす田)又その田を耕す

【晦】

畷の本字

晦

【畷】

シユン

畷

①ひやくしやう(農夫)②たをき(田を掌る役人)

【異】

イ

異

①ことなり、ことなる、ちがふ、ことなす、別々にする、離れる、ちがひ、差別②すぐれたる、あやし(怪)めづらし(珍)③ことなれる事、變

つて居る事、怪しい事柄④ことなりとす、怪しむ、珍らしがる、奇とす
【異人】イジン ①他人、別人②外國人③奇特なる人④あやししい人、仙人の類。
【異才】イサイ 衆にすぐれたる才能、又その人。
【異土】イド よそのくに、他國。
【異父】イフ 同母にして父のみ違ふもの。
【異心】イシン ふたごころ、叛心。
【異日】イジツ 他日、別の日、いつか。
【異名】イメイ ①名を異にす②本名以外の名稱。
【異母】イボ 父は實父で母が違つて居ること、又腹ちがひ。
【異本】イホン 珍本、めづらしい書物。
【異存】イソン 人と異なりたる意見(例)異存がある。
【異同】イドウ 同は無意味の字、則ち異なること、ちがひ、差違。
【異邦】イハツ 異國に同じ。
【異形】イキョウ ①めづらしき形②あやしげなる形。
【異姓】イセイ 己と祖先を異にする人々。
【異志】イシ 異心に同じ。
【異性】イセイ 男女その性を異にせるをいふ、即ち男よりは女、女よりは男をさ

しいいふ。
【異物】イブツ ①珍奇なる物品②死人、死骸③人類以外の動物。
【異見】イケン 人に反對する説、異なる説。
【異狀】イジヤウ ①あやしき様子②平生とことなりたる有様。
【異相】イソウ ①かはりたる姿、人並よりかはつた人相②人間が死んで剛鬼となつたこと等にいふ。
【異俗】イソク 變つた風俗、珍らしい風習。
【異服】イフク あやしきもの、かはつたなり、又外國人の著物。
【異客】イカク たびごと、旅人。
【異容】イヨウ かはりたるすがた、あやしきさま。
【異香】イキヤウ すぐれてよきにほひ。
【異能】イノウ 凡人にすぐれたる材能。
【異彩】イサイ すぐれたる色彩。
【異域】イイク よその國、異國、異郷。
【異執】イシツ 見當違ひのことに固執して主張するをいふ。
【異條】イジョウ 本筋をたがへる意。
【異常】イジョウ 平生にかはりたる物事、なみなみならぬ事。
【異國】イコク 外國、よその國。
【異郷】イキョウ 他郷、他國又は外國。

【異教】イコウ 自分の信奉する以外の宗教。
【異等】イトウ ①すぐれたるともがら②まされる等級。
【異朝】イテウ 外國の朝廷。
【異義】イギ 普通とは異つてゐる意義。
【異稟】イリン めづらしき天賦の才能。
【異數】イソウ 特別の待遇。
【異腹】イフク はらちがひ。
【異聞】イブン ①珍らしき話、耳あたらしきうはさ②人となつたきこと。
【異態】イタイ ①なみはづれたるさま②形をかへること③仕方をかへること。
【異說】イセツ ①人とちがふ論②めづらしき意見又は論述③反對の論。
【異様】イサマ ①異りたる有様②あやしき風體。
【異圖】イト わるだくみ、むほん。
【異境】イキョウ ことなる國、他國、外國。
【異端】イタン 正しき教にそむきたる道。
【異論】イロン 異説の①・②に同じ。
【異類】イレイ ①ちがつたゝぐゐ②己と人種を異にする者。
【異慮】イリョ ①並々ならぬかんがへ②外のかんがへ。
【異趣】イシユ ①めづらしきおもむき②すぐれたる風致③わけ、むね④志す所を

同うせず。
 【異學】イゴク 異端の學問、又は其の學派。
 【異聲】イセイ ①めづらしきねいろ。②かはりたる音聲。
 【異寶】イハツ 貴重なるたから、珍寶。
 【異議】イギ 異論に同じ。
 【異饌】イセン ①珍らしきそなへ、よき飯食。②普通にまされる飯食。
 【異變】イヘン 異事變亂、平生と異なりたる状態の出現。
 【異分母】イブンボ 二項以上の分數式で各項の分母が同じでないもの。
 【異城鬼】イキゴキ 異域は他郷、外國等に於て死して鬼籍に入るをいふ。
 【異郷花】イキョウハナ ①外國にて見る花。②海外出張者の日本賤業婦。
 【異口同音】イコトウオン 多人數が同時に聲をそろへて同様のことをいふこと。
 【異父兄弟】イフケイテイ 兄弟にして父親を異にするもの、たねがはりの兄弟。
 【異世同調】イセイドウテウ 時代を異にしてその風調の同一なるにいふ。
 【異曲同工】イコクドウコウ 作り方を異にして出来上りの同じきこと。
 【異路同歸】イロドウキ 方法を異にして結局の同一なるにいふ。

【異國情緒】イコクジョウキョ ①外國風の氣分のあること。②作品に外國の風物や情味をとり入れて書かれたる一種の氣分、エキゾテイツク・ムード。
 【異教主義】イコウシユイ 基督教の教義に反対し熱情・肉感によつて生きる主義。
 【異體同心】イタイドウシン 身體を異にするも心は同一なる意、極めて親密な間柄等にいふ。

類語

奇異イキ 同異ドウ 怪異クワイ 變異ヘン
 靈異レイ 崖異ゲイ 表異ヘウ 分異フン
 龍異リウ 秀異シュウ 珍異チン 雄異ユウ
 詭異クワイ 敬異ケイ 妖異ユウ 祥異シヤウ
 疑異ギ 歎異タン 顯異ケン 特異トク
 茂異モウ 別異ベツ 大同小異ドウコウイダウ

雷

雷

①とどまる(止)とめる、とめ置く、後にのこす、残しおく、生存せしめる。②おくれる(遅)③ひさし(久)④しづか、ゆるやか(徐)⑤をさむ(治)⑥うかゞふ(伺)⑦黄色の絲(かたし(半))⑧ながれる(流)⑨星の名(すばるぼし)⑩ループ

ル(露國の貨幣の基本單位、邦貨の約一圓六錢、Rubleのあて字)
 【留心】リウシン 心をとめる、注意、留意。
 【屯田】ツンテン 屯田に同じ、兵士が永住の目的にて一所に屯し戦争の餘暇には農業に従ふこと。
 【留守】ルシュ ①居守に同じ、不在の意。②天子出御の後に留守する。③他行中家を守る。④舊幕時代の役目、留守居役。
 【留任】リウニン 任期が満ちたる後も尙ほその職にとどまること。
 【留決】リウケツ 決斷の定りがたき貌。
 【留別】リウベツ 旅に立つ人が後に留る者に別れを告げるをいふ(例)留別の宴。
 【留保】リウボ 法律上權利をうつす場合自己の利益を其の條件の中に含ませおくこと。
 【留後】リウゴ 留守ばん。
 【留連】リウレン 居つゞけ、又遊覽の意。
 【留神】リウシン 次に同じ。
 【留意】リウイ 物事に心を注ぐ、氣をつける。
 【留陣】リウジン 留りて陣取る。
 【留飲】リウイン 病の名、胃病の一種。
 【留置】リウチ ①とめおく、保存す。
 【留落】リウラク ①さすらふ、さまよふ。
 【留滯】リウタイ 物事のとどこぼる貌。

當

當

タウ

當

【當學】リウガク 學問修業のため外國に赴き滞留すること。
 【當藏】リウザウ 手許にたくはふること。
 【當題】リウダイ 名所を遊覽して詠む詩歌。
 【當繫】リウケイ とどめおく、捕縛して留め置く。
 【當置場】リウチヤウ 警察署などにてかりに罪人又は被疑者を留め置く所。
 【當置權】リウチケン 法律上の語、債權者が其占有物品に對して之を留置く權利。
 【當守居】ルスキ ①主人の不在中その家を守ると、又其人。②徳川時代諸大名の在國中江戸の邸を守つた職名、留守居役。

【當日】タウジツ その日。
 【當座】タウザ ①そのば、しばらくの意。
 【當局】タウキョウ ①關係をなす者。②時の要路にありてその事に臨む意。③事に當り又は臨む人。
 【當地】タウチ ①その地、この土地。
 【當來】タウライ ①まさに來るべきこと、未來。
 【當面】タウメン ①まのあたり、目前。②面會すること。
 【當處】タウシヨ ①こゝ、此のところ。
 【當家】タウケ ①この家、このうち。
 【當時】タウジ ①たゞいま、そのとき、そのころ。
 【當國】タウコク ①この國。②その國に臨みて政治を行ふ。
 【當惑】タウワク 仕方にまよふ、處置に困る。
 【當番】タウバン ①あたりばん。②交替して勤むべき時に當ること、又その人。
 【當然】タウゼン ①あたりまへ、まさにしかるべしの意。
 【當塗】タウト ①その道にあたる、政治をつかさどる、又その人。
 【當朝】タウテウ 當代の朝廷、この王朝。
 【當路】タウロ 當塗に同じ。
 【當該】タウガイ それにあたる意。
 【當節】タウセツ このせつ、いまどき、當今。

【類語】
 遊留リウユウ 開留リウカン 苦留リウク
 苛留リウカ 淹留リウエン 去留リウコ
 滯留リウタイ 稽留リウケイ 停留リウテイ 進留リウシン
 久留リウキウ 繫留リウケイ 遺留リウイ 扶留リウフ
 遷留リウセン 裁留リウサイ 止留リウシ 拘留リウコウ
 少留リウセウ

八畫

【當墟】タウロ 酒をあきなふこと。
 【當歳】タウサイ ①生れたる年 ②年齢の一歳
 【當選】タウセン えらびにあたる、えらびあげらるゝこと。
 【當鍋】タウカウ ①めしたきなべ。
 【當歸】タウキ 一種の藥草、やませり。
 【當籤】タウセン ①くじにあたる、あたりくじ。
 【當事者】タウジシヤ 法律上の語、或事件に直接關係せる者。
 【當座帳】タウゼチヤウ 商家にて當座の賣買取引に用ゐる帳簿。
 【當座預金】タウゼヨキン 預入人の請求次第何時にても拂ひ戻すべき銀行預金、期限を定めずして預け入れる金。
 【當意即妙】タウイソウミョウ その場しのぎみち略によつて早速とらまく處待するど。

當

【當】タウロ 酒をあきなふこと。
 【當歳】タウサイ ①生れたる年 ②年齢の一歳
 【當選】タウセン えらびにあたる、えらびあげらるゝこと。
 【當鍋】タウカウ ①めしたきなべ。
 【當歸】タウキ 一種の藥草、やませり。
 【當籤】タウセン ①くじにあたる、あたりくじ。
 【當事者】タウジシヤ 法律上の語、或事件に直接關係せる者。
 【當座帳】タウゼチヤウ 商家にて當座の賣買取引に用ゐる帳簿。
 【當座預金】タウゼヨキン 預入人の請求次第何時にても拂ひ戻すべき銀行預金、期限を定めずして預け入れる金。
 【當意即妙】タウイソウミョウ その場しのぎみち略によつて早速とらまく處待するど。

畫

畫の俗字

啜

テツ セイ テイ

啜

崎

キ

なはて、あぜみち(田間の道路)
 ①わりのこり(零餘)整数ならざる數口
 井田に割當てたる残りの田 ②かたよる
 ③あやし、めづらし、ことなり(異) ④かたはもの、不具
 【崎人】キジン ①品行氣風の常人と異なる人 ②俗事に拘らぬ人 ③かたは者、不具。
 【崎形】キケイ ①かたは者、不具。

畹

エン

畹

①はたけ、たんぼ(田畝) ②田二十畝の稱、一説に十二畝又三十畝ともいふ ③帝室の一族
 九一十四畫

陸

ショウ

陸

あぜ、稻田のあぜみち

畿

キ

疆

キヤウ

疆

キヤウ

①さかひ(界)くにさかひ、かぎり、はて、きは ②さかひす、かぎる、さかひをつける、へだてる、はむ ③たじす(界正) ④境を守る ⑤疆の白くなりて死すること ⑥かたし(堅)
 【疆内】キヤウナイ さかひの内、領内。
 【疆界】キヤウカイ さかひ、かぎり。
 【疆域】キヤウキキ さかひ、土地のさかひ。
 【疆場】キヤウキヤウ ①田のあぜ ②國さかひ。

疇

チウ

疇

①たはた、麻を植ゑる田 ②たがやしをさむ(辨治) ③田のくろ、あぜ、うね ④たれ(誰) ⑤きのふ、さき、むかし、以前 ⑥家業を世々相傳ふるもの、今は主として天文學者をいふ ⑦たぐひ(類)なかま、同類、分類せられたる項目 ⑧つれあひ(匹偶) ⑨ひとし(等) ⑩やはらぐ(和)
 【疇日】チウジツ 前日、さきの日。
 【疇官】チウクワン 字解の ①を見よ。
 【疇昔】チウセキ ①きのふ、又昨夜 ②さきごろ、過ぎしころ。
 【疇輩】チウハイ ①なかま、同類、同輩。
 【疇囊】チウナウ ①むかし、さきごろ、往時。

類語

畫疇 画チウ
 先疇 先チウ
 沃疇 沃チウ
 荒疇 荒チウ
 田疇 田チウ
 平疇 平チウ
 良疇 良チウ
 翠疇 翠チウ

十五一十七畫

𪛗

ヘキ ヒキ ヒヨク

疊

テフ テフ

疊

①つんざく(勢)ひきさく ②犠牲をさきさらすこと
 ①かさね(累)つみあげる、かさなる(重) ②國訓た、み(數物の一、室筵)た、む(しま)ひとちる、をり重ねる) ③(波浪)テフラウ ④かさなりたる波 ⑤波などの重なり起る貌。
 【疊重】テフチョウ ①かさねる、かさなる。
 【疊附】テフシヤ ①二階にも三階にもかさね造れるうてな。
 【疊峰】テフシヤウ ①峰の多く重なり聳えし山
 【疊嶺】テフレイ ①かさなりつゞきたる峰。
 【疊韻】テフイン ①同韻の文字を重ね用ゐて詩を作ること、又其詩。
 【疊嶺】テフケン ①かさなりたる山 ②山のかさなりたるさま。

類語

雙疊 双チウ
 三疊 三チウ
 綱疊 綱チウ
 震疊 震チウ
 積疊 積チウ
 白疊 白チウ
 百疊 百チウ
 層疊 層チウ

𪛗

疊に同じ

疇

シヨ ヒツ

疇

①あし(足) ②しるす(記) ③たゞし(雅) ④ひき、布帛二端の稱、動物を數へること ⑤とば、又徳川時代には鳥目十文の稱(一貫文を百疇とし舊銀貨の一分に當る) 七畫

疏

シヨ ソ

疏

①うとし、親みうすし、近しくない、はなれて遠い、うとむ、うとんず、うとまれる、又うときもの ②よく知らず、十分通ぜぬ ③とほる、とほす、開く ④まばら、隙がある、ぬける所がある ⑤あらい、精巧でない、又あらい米 ⑥し(布) ⑦あをもの、野菜 ⑧とほのく、まれにする ⑨事物をくはしくのべる ⑩書物の註解
 【疏水】スツキ ①土地を切りひらきて水を通ず、又その水道。

【疎外】ツグワイのけ者にす、疎んじて遠ざける。
 【疎斥】ツセキ 前に同じ。
 【疎狂】ツキヤウ 常道をはづれあはてる貌。
 【疎宕】ツタウ なみ外れて勇氣あること。
 【疎雨】ツウ マばらに降る雨。
 【疎直】ツチヨウ おろそかにして正し、愚直。
 【疏忽】ソコウ かるくしく事をなす、そそつかしきこと、又手ぬかり。
 【疏奏】ソウ 簡條書にしてくはしく申上げる、又その文書。
 【疏略】ソリヤク おろそか、稠密ならず。
 【疏畏】ソキ いみ憎みてうとんず。
 【疏食】ソシヨク 下等の米にて炊きたる飯。
 【疏朗】ソウラウ すきとほりて明らかなる貌。
 【疏率】ソウソウ 細事に頓著せぬこと。
 【疏通】ソウツウ ①とほる、滞りなくとほす。②分別の明らかなること。
 【疏髯】ソゼン まばらに生えて居るひげ。
 【疏族】ソソク とほるん、遠き血縁。
 【疏密】ソミツ ①あらかとこまかと、太きと細き。②交際のうといこと、親しいと。
 【疏惡】ソアク そまつ、質のあしきこと。
 【疏意】ソイ とほのく心、うとんずる心。
 【疏解】ソカイ ①書物のくはしき註解。②くはしく申しひらきすること。

【疏節】ソセツ 疎略なるみさを、おろそかなる行爲。
 【疎隔】ソカク へだてさほのける。
 【疎血】ソツク ①あら／＼し。②粗末なると。
 【疎遠】ソエン ①したしみちかづかず。②うとんじ遠ざかる。
 【疎豪】ソガウ そまつかしく手あらし。
 【疎備】ソビ ものうし、だらしなし。
 【疎廢】ソハイ うとんじやむ。
 【疎敷】ソフク ①稀れにあること、度々あること。②疎密の②に同じ。
 【疏傲】ソガウ 疏忽で気があらい。
 【疏闊】ソクワン ①おほまかなる貌。②まはりどほし。③ながくあはぬこと。
 【疏慢】ソマン なまける、おろそかにす。
 【疏懶】ソラン 前に同じ。
 【疏穢】ソタイ ①けがれを除き去る。②兵亂をしづむ。
 【疏屬】ソツク 遠縁の親戚。
 【疏關】ソヘキ 水路をひらき通ず。
 【疏塵】ソツ 衣服のそまつなること。
 【疏整】ソツウ きりひらきとほす、開整。

【疎】 ショソ
 疎に同じ、慣例により①とほす、とほる。②あをもの。③物事を一つ／＼くはしくのべる等の場合には疎字を用ふ。
 【疎放】ソハウ 物事にしまりなきさま。
 【疎密】ソミツ ①あらいこと、細かきこと。
 【疎野】ソヤ 禮儀作法に適はぬさま。
 【疎慢】ソマン おろそか、ぶしやう。
 【疎備】ソビ だらしなし、ぶしやう。
 【疎隔】ソカク うとみ遠ざく。
 【疎潤】ソクワン 音信をおこたる、御無沙汰。
 【疎誕】ソタン 疎放に同じ。
 【疎籠】ソレン 編み目のあらかすだれ。
 【疎虞】ソウ 結果の如何を考へず事を行ひて過失あるをいふ。
 【疎影横斜水清淺】ソエイワウシャイセイセン まばらなる梅の樹影が水にうつりて雅致ある情景をいふ語。

類語

- 簡疏ツカン 稀疏ツキ
- 情疏ツシヤウ 浮疏ツフ
- 手疏ツシュ 密疏ツミツ
- 奏疏ツソウ 上疏ツジャウ
- 寬疏ツクワン 渠疏ツキョ
- 扶疏ツフ 義疏ツギ
- 封疏ツフ 疎疏ツソ

九一十一畫

寔

シチ
 つまづく、けつまづく(頓)たふれる



【寔】ギ ①うたがふ、あやふしと思ふ。②まどふ(惑)おそる(恐)あやしむ、又そのこと、又まざらはし。③おそらくは、おほかた。④きらふ(嫌)おもとる(戻)うたがふらくは

【疑心】ギシン うたがひごゝろ、まどふ心。
 【疑兵】ギヘイ 敵をして實數よりも兵數多しと疑はしむる爲めに置く兵。
 【疑念】ギネン 疑心に同じ。
 【疑似】ギギ 互ひにまざらはしきこと。
 【疑問】ギモン ①うたがひたづねる。②うたがはしきこと。
 【疑貳】ギジ 疑ひて心のまどふさま。
 【疑義】ギギ 不審のわけ。
 【疑惑】ギワク うたがひまどふ、まよひ。
 【疑團】ギダン うたがひ、うたがひの心。
 【疑獄】ギゴク ①罪状がこみ入りて裁斷の

疋部 (九一十一畫) 寔

容易ならざる事件。②世人に疑念を懐かしむる犯罪の取調事件。
 【疑點】ギテン うたがはしき箇所。
 【疑懼】ギク うたがひおそれる。
 【疑心生暗鬼】ギシンアツラキヤズ 心にうたがひて種々の妄想を描くこと。
 【疑問代名詞】ギモンダイメイシ 疑問の意味を表す代名詞、何誰の類。
 類語
 嫌疑ツギン 斷疑ツツン 決疑ツクツウ 闕疑ツクツウ
 狐疑ツコ 質疑ツシツ 沈疑ツシン 繁疑ツハン

寔

疋部

疔

ダク
 ①やまひ、やむ(疾)②よる(倚)③國訓
 やまひかんむり、やまひだれ
 二二三畫
 テイ チヤウ

疋部・疑・寔 疋 (二一四畫) 疔・疔・疾・疔・疔

疔

ヒ
 かさ、頭にできるはれもの
 【疔瘡】ヒヤウ 頭のかさ、又そのかさぶた。

疔

キウ
 ①やまし。②心がなやむ。③うしろぐらし。④病みて久し

疔

サン セン
 腰や腹がひきつりていたむ病氣
 【疔氣】センキ 漢方醫の説にして大小腸・腰等の病をいふ。
 【疔痛】センツウ 疔氣の痛み。
 【疔瘕】センシヤク 胸腹が痛みて瘕瘕を起す病氣。
 四畫
 チン
 ①ねつびやう(熱病)②やむ(病)③やま

疥 (イウ) し(疾)①うまきくひもの
 【疥疾】チシツ わざはひ、なやみ、災患。

疣 (イウ) ①いぼ(皮肉の結ばれて突起したるもの)むだもの、餘計のもの、物の表面に附く粒状のもの②ふるふ(顔)

疥 (イウ) 【疥子】イウシ いぼ。
 【疥結】イウケツ 瘤結ともいふ、繩にて竹垣などを作る時の結び方、いぼゆひ。
 【疥瘡】イウサウ いぼ。

疥 (カイ) ①かゆし②ひぜん(皮膚病の名、疥癬)③おこり(癩)ぎやく、おこりを病む

疥 (カイ) 【疥瘡】カイサウ ひぜん、濕瘡。
 【疥癬】カイレイ かゆき吹出物の病氣。
 【疥癩】カイセン 皮膚病の一、ひぜん。

瘁 (エキ ヤク) 瘁の俗字

疫 (エキ ヤク) ①えやみ、はやりやまひ(流行病)疫病

②やくびやらがみ(瘧鬼)
 【疫病】ヤクビヤウ わるい流行病。
 【疫癘】エキレイ えやみ、流行病。
 【疫病神】ヤクビヤウガミ ①疫病を流行せしむる想像上の悪神②人にまくまるゝ者。

疱 (ハウ) ①もがさ(痘)はうさう(天然痘)②汁を含み皮膚面に浮上る腫物

【疱瘡】ハウサウ もがさ、天然痘。

疲 (ヒ) ①つかる、くたびれる、體力が衰へる、つからす、つかれ②うむ(倦)氣力が沮喪す、財つきてくるしむ③やせる(瘦)④やむ、やまひ(病)

【疲殆】ヒタイ 疲れおこたる。
 【疲倦】ヒクワン たいくつ、氣力のつきしと。
 【疲勞】ヒラウ くだびれてつかれる。
 【疲竭】ヒカウ つかれて精力のつきしと。
 【疲厭】ヒエン うみつかる。
 【疲瘠】ヒセウ やせよわる。

瘵 (ヒ) 瘵の俗字

瘵 (ヒ) ①かき、悪性のはれもの(腫物)②かゆき病

【瘵腫】ソショウ はれもの、あしきかさ。

疾 (シツ) ①やまひ(病)②くるしきこと、難儀、人に毒を與へるもの③にくむ(憎)④つとむ(力)⑤はやし(速)せはし、とし、すばやい、するどい⑥やまし(疾)⑦くるしみ(苦患)⑧嫉に通ず、ねたむ⑨やむ、うれふ、わづらふ、心配す⑩あやまち、缺點

【疾日】シツジツ 子の日と卯の日、子の日は股の村玉の亡びたる日、卯の日は夏の築玉の死したる日にして支那の王者は此の日に音楽を奏せずといふ。

【疾歩】シツポ はやく歩む、はやあし。
 【疾言】シツゲン はやくちに物をいふ。
 【疾呼】シツコ せき立てゝよぶ。
 【疾足】シツソク はやあし、早く歩くあしなみ。

【疾雨】シツウ 急雨、勢はげしき雨。

瘵 (シン チン) ①熱病②くちびるのかさ(唇瘡)③はしか、癩疹④はうさう⑤やむ(疾)

【疹子】シンシ はしか。
 【疹恙】シンヤウ 皮膚のふきでもの。

疹 (トウ) いたむ(痛)いたみ
 【疹冷】トウレイ 冷氣の激しきにいふ。
 【疹痛】トウツウ いたむ、うづく。

瘵 (カン) ①ひかんの病ひ、小兒が甘き物にあたりて起る病、心・肝・脾・腎の五瘵ありといふ②花柳病の一、陰部にはれものが出来るもの、瘡瘡

【瘵瘡】カンサウ 瘡瘡の病的なるさまをいふ
 【瘵瘡】カンサウ 腹を立てる、俗にむかつ腹を立てることにいふ。

疴 (ア) 疴に作る①やむ、やまひ、病氣②容易になほらぬ病氣③女が男となり死者がいさかへる如き變態の病氣④小兒の夢中にうなされて起る病氣、おびえ

【疴恙】アウ やまひ、病氣。

疵 (シ) ①きず、病所、患部、やまひ②あやまち(過失)短所、つみ、缺點③てこなふ(傷む)さま。

【疾首】シウシウ 心をなやます、甚しく心配する貌。
 【疾苦】シツク なやみ、くるしみ。
 【疾徐】シツコ 早きこと、おそきこと。
 【疾走】シツソウ はやく走る。
 【疾疫】シツエキ 流行病。
 【疾怨】シツエン にくみうらむ。
 【疾病】シツバイ 病氣、やまひ。
 【疾患】シツケン ①困難、くるしみ②病氣、わづらひ。
 【疾速】シツソク すみやか、はやし。
 【疾視】シツシ にくみつけること。
 【疾惡】シツアク にくみきらふ、嫌惡。
 【疾痛】シツツウ いたむ、いたみ。
 【疾電】シツデン いなびかり、電光。
 【疾雷】シツライ 急に鳴り出すかみなり。
 【疾風】シツフウ はげしき雷電。
 【疾疫】シツエキ やまひ、病氣。
 【疾趨】シツソウ はやくはしる、疾走。
 【疾藜】シツレイ 草の名、はまびし、いばら。
 【疾驅】シツコ はやく馬を走らす、轉じて速くかけ走ること。
 【疾言遽色】シツゲンソウシキ 早き言語とあはてし顔、落つかぬ貌。
 【疾首蹙額】シツシウシツカク 心にうれひいたむさま。

瘵 (シ) 瘵の俗字

瘵 (シ) 瘵の俗字

瘵 (シ) 瘵の俗字

瘵 (シ) 瘵の俗字

瘵 (シ) 瘵の俗字

【疾風知三勁草】シツオウケイナウラシム 疾風にあひて強き草のみ耐へる如く艱難に遇ひてその氣節のあらはるゝをいふ。
【疾雷不レ及レ掩レ耳】シツライイミヤオホフニヨロバズ 物事が急にして之を防ぐいとまのなきことに喩へし語。

類語

固疾シツ 痲疾シツ 罪疾シツ 廢疾シツ
痲疾シツ 寒疾シツ 熱疾シツ 腹疾シツ
心疾シツ 足疾シツ 天疾シツ 狼疾シツ
宿疾シツ 虐疾シツ 跳疾シツ 暴疾シツ
急疾シツ 飄疾シツ 衰疾シツ 笑疾シツ
内疾シツ 痛疾シツ

痲

くせせ、せむし
【痲復】クム ぐせせ、背の曲る病氣。
【痲振】クル 前に同じ。

疔

おこり(瘡)おこりを病む
セン テン

痲

カ

かさぶた
【痲】ゲン ケン
①筋肉のひきつる病氣②横痃は花柳病の一、よこね

病

痲

【病】ヘイ ビヤウ
①やまひ(疾より重し)いたづき、わづらひ、うれひ、くるしみ、缺點、悪癖
②わづらふ、やむ、病氣になる③くるしむ(苦)うれふ、心痛す、氣をもむ④うらむ(怨)やます、人をくるしめる
⑤はづかしむ(辱)病氣がおもくなる
【病人】ビヤウニン 病氣にかゝれる人。
【病中】ビヤウチュウ 病氣にかゝつてゐる間。
【病狀】ビヤウジヤウ 病氣の經過又は輕重のありさま、やうだい。
【病夫】ビヤウフ 病める夫、病氣中の男。
【病死】ビヤウシ 病氣にて死ぬこと。
【病床】ビヤウシヤウ やまひのとき、病辱。
【病身】ビヤウシニ 病氣がちのからだ、又その人。
【病室】ビヤウシツ 病人の居るへや、又病院にて患者の居る所。

【病牀】ビヤウシヤウ 病辱に同じ。
【病歿】ビヤウボツ 病氣の爲め死去するを。
【病革】ビヤウカク 病氣がおもくなる、容態がよくなる。
【病苦】ビヤウク 病氣の苦痛、やみくるしむ。
【病毒】ビヤウドク ①病の毒氣②わざはひの元となるものにも言ふ。
【病的】ビヤウテキ 物事が不健全にして常態にあらざるさま。

【病症】ビヤウシヤウ 病の性質、病氣のたち。
【病院】ビヤウイン 病人を診察施薬し又は之を收容して治療する所。
【病家】ビヤウカ 病人のある家。
【病衰】ビヤウスエ 病みておとろふ。
【病根】ビヤウコン ①病氣の原因、やまひのもと②わざはひの根源。
【病氣】ビヤウキ やまひ、わづらひ。
【病骨】ビヤウコツ 病身に同じ。
【病鬼】ビヤウキ 女のつはり、惡疽。
【病理】ビヤウリ 病氣について研究する理論
【病瘡】ビヤウソウ 病氣がなほる。
【病間】ビヤウカン ①病中に同じ②病氣が少しよくなること。
【病勢】ビヤウセイ 病氣のいきほひ、病狀の輕重をいふ。
【病癆】ビヤウラウ 長病、ながわづらひ。

【病源】ビヤウゲン 病氣のおこり、病のもと。
【病癆】ビヤウラウ 腫物をやむこと。
【病瘡】ビヤウソウ 瘡の出でざる病氣。
【病辱】ビヤウニツ 病人の寝ごと。
【病質】ビヤウシツ 病の性質、病症。
【病癖】ビヤウヒツク 病辱に同じ。
【病惱】ビヤウノウ 病氣になやみ苦しむこと。
【病癖】ビヤウヒツク 嗜好のかたよりて病的となりしをいふ。
【病體】ビヤウタイ 病身に同じ、病氣ある身體、又病人。
【病軀】ビヤウク 前に同じ。
【病羸】ビヤウレイ 病氣のた
めに衰へつかれること。
【病魔】ビヤウマ 病氣を興へる想像上の惡神
又は單に病氣のことをいふ。
【病魔】ヘイマ やみつかれたる馬。
【病入二膏肓】ヤマヒコウマウニイル ①病氣が非常に重い②除去し難き弊風又は弊害等につきていふ。
【病從レ口入】ヤマヒコウチヨリイル 病氣の原因は食物をつましまぬにありとの意。

病

【病と伴る】伴レ病 ヤマヒトイッパル けびやうをつかふ。
【病を移す】移レ病 ヤマヒトウツス 病氣と稱し

て君命に従はぬ。
【病を養ふ】養レ病 ヤマヒトヤシタム 靜養する、養生をする。
【病と謝す】謝レ病 ヤマヒトシマナシ 移病に同じ

類語

憂病ヘイ 貧病ヒン 積病セキ 痲病カク
痲病レウ 疾病ビヤウ 殘病ゼン 多病タビヤウ
熱病ネツ 忤病コ 痺病ヒ 邪病ジャ
時病ジ 臥病ヒ 羸病レイ 疵病シ
久病キウ 瘦病ソウ 俗病ソク 癖病ヘイ

症

シヤウ セイ
病氣の性質
六畫

痊

瘡

【痊】セン
①いゆ、いやす、病がなほる②病氣をなほす
【瘡】セン
病氣のいえること。
【痲】トウ
①いたむ(痛)②かさがやぶれる(瘡潰)

痲

イ
①きず(創傷)きづぐち、けが②戦後の疲弊・損害等の意に用ふ③きずつく(傷)

痲

カイ
おこり(瘡)間歇熱

痒

ヤウ
おこり(瘡)間歇熱

痔

瘡

【痒】ヤウ
①かゆし(癢に同じ)②やむ、やまひ(病)③かさ(癬)はれもの
【痔】チヂ
肛門の病、ぢ、しもがさ(隱瘡)
【痔漏】チロウ 痔疾の一、あなぢ。
【痕】コン
①あと、きずあと②かた(物の遺留せし跡)あとかた③腫れる病氣

【瘰癧】コシコツ あか、けがれ。
【瘰癧】コシコツ すなほでない。
【瘰癧】コシコツ ④あと、あとかた ⑤極めて
少なき分量。
【瘰癧】コシコツ 不正不善なる貌。
【瘰癧】コシコツ 瘰癧に同じ。

類語

瑕痕コシ 温痕コシ 黛痕コシ 舊痕コシ
展痕コシ 泥痕コシ 耗痕コシ 凍痕コシ
刀痕コシ 血痕コシ 苔痕コシ

七畫

瘰

【瘰】バイ クワイ
やむ、やまひ(病)

瘰

【瘰】トウ
もがさ、はうさう(天然痘)
【瘰】トウベウ うゑばうさうの原料となる
病毒。
【瘰】トウシン はうさう、痘瘡。
【瘰】トウコシ 痘瘡の瘰、あばた、いもくさ

瘰

ケイ

ひきつる、又筋肉のひきつる病氣、ひ
きつり
【瘰】テイレン 醫術の語、筋のひきつるこ
と、また其の病氣。

痛

痛

【痛】トウ ツウ ツ
①いたむ、いたく感ず、なやみ悲しむ
②いたし、いたい、いたみ、いたむこ
と③いためる、わづらつて居る④いた
く、はげしく、はなはだしく
【痛切】ツツセツ ひし／＼と身にしみる。
【痛心】ツツシン 心をいたむ、甚しく心配し
又は悲しむ貌。
【痛快】ツツクワイ 極めて心地よし、きみよし
【痛恨】ツツコン 甚しく残念に思ふ。
【痛苦】ツツク くるしみいたむ。
【痛哭】ツツク 甚しくかなしむ貌。
【痛悼】ツツタウ 人のかたみ、やみ悲しむ。
【痛惜】ツツセキ 前に同じ。
【痛痒】ツツヤウ ①いたみとか
ゆみ②心に感ずる意。
【痛傷】ツツシヤウ ふかく心を傷む。
【痛楚】ツツソ いたむ、かなしむ、なやむ。
【痛飲】ツツイン 大いに酒を飲むこと。

痛

瘰

セウ

瘰

【瘰】ツカ(胸・腹がふさがり痛む)②や
まひ、やむ(病)③よわし(弱)

類語

哀痛ツツイ 疾病ツツツ 巨痛ツツオ 酷痛ツツク
齒痛ツツシ 沈痛ツツシ 酸痛ツツツ 耳痛ツツワ
悼痛ツツワ 惻痛ツツツ 心痛ツツツ 愁痛ツツワ
陣痛ツツツ 頭痛ツツツツ 苦痛ツツツ

【痛論】ツツロン 勢はげしく論ずること、論
論のするどきさま。
【痛憤】ツツパン 甚しくいかる貌。
【痛罵】ツツバ げげしくのゝしる。
【痛諫】ツツカン きびしくいさむ。
【痛歎】ツツタン 甚しくいたみなげく。
【痛撃】ツツゲキ きびしくせめつけること。
【痛癢】ツツヤク 痛痒に同じ。
【痛哭涕涕長息】ツツクタイチヤウタイソク 賈
誼が時勢の非なるをなげき憂ひたる語
訓讀
【痛痒を感ぜず】不感痛痒一ツツヤウツツヤウ
何とも思はぬ、いたくもかゆくもな
い、無關心なるさま。

瘰

【瘰】グムウ(頭痛)
【瘰】セウヤウ いたきとかゆき。

瘰

【瘰】ホ
①やむ(病)つかる(罷)②やましむ、な
やます

瘰

【瘰】リ
①くだりばら、りびやう(利瀉)はらく
だし②くだりもの(下痢したる糞物)

瘰

【瘰】リビヤウ 腹が痛み大便の下の病氣。
【瘰疾】リビヤウ 前に同じ。

瘰

【瘰】シ
あざ、ほくろ(黒子)ほくそ、はよくそ

瘰

【瘰】ザ
はれもの、腫物、ねぶと、ひぜんがさ、
よう(瘰)
【瘰疾】ザシツ ぶきでもの、ねぶと。

八畫

瘰

【瘰】クワン
①やむ(病)つかる(疲)②やみつかれる
たんの病氣、たんせき

瘰

【瘰】タン
①たん(喉と共に咽喉より出る粘液)②
たんの病氣、たんせき

瘰

【瘰】ヒハイ
①ちゆうふうの病、中風②ふしのいた
む病氣③神経痛

瘰

【瘰】ハマ
①しびれ、しびる、又しびれること②
はしか(瘰疹)

瘰

【瘰】マシ
傳染病の一、はしか。
【瘰疹】マシ 傳染病の一、はしか。
【瘰醉】マシキ 薬又は毒のため感覚を失ふ
状態。
【瘰痺】マシヒ 痺れ、しびれる。
【瘰薬】マシヤク 痺れぐすり、瘰醉劑。

瘰

【瘰】リン
①せんき(病氣)②りんびやう

瘰

【瘰】リンシツ 瘰癧の毒。
【瘰病】リンシツヤウ 尿道がたゞれて小便の通
じがたき病氣。
【瘰疾】リンシツ 前に同じ。

瘰

【瘰】ヒ
①しびる(瘰)しびれ②國訓しびれ(長
坐せし時などに足に感ずる痺るが如き
かんじ)

瘰

【瘰】ビン
①やまひ、やむ、やまし(病)

瘰

【瘰】コ
①ながびく病氣(瘰疾)ちびやう②一事
にこり固りて熱中すること

瘰

【瘰】コシツ ちびやう。
【瘰病】コシツ 前に同じ。
【瘰癖】コシツ 物事にこること。

瘰

【瘰】コヘキ 瘰癧に同じ

瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧

瘰

瘰疽は指先の腫物

瘰

皮膚病の一、ひぜんの類

瘰

一種のかさ、しろなめ血を交へたるおり物 婦人病の一、ながち、しらち、こしけ

瘰

一種のあしき氣、健康を害する自然の毒氣

瘰

いゆ、いやす(龜)病がなほる

瘰

山川等の毒氣によりて起る熱病 山川のあしき氣、健康を害する自然の毒氣

やます(病)つからす

十二畫

瘰

いやす、なほす、療治す、又そのこと

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

こぶ(肉の起りて高くなる病)

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧

瘰

瘰癧は指先の腫物

瘰

皮膚病の一、ひぜんの類

瘰

一種のかさ、しろなめ血を交へたるおり物 婦人病の一、ながち、しらち、こしけ

瘰

一種のあしき氣、健康を害する自然の毒氣

瘰

いゆ、いやす(龜)病がなほる

瘰

山川等の毒氣によりて起る熱病 山川のあしき氣、健康を害する自然の毒氣

やます(病)つからす

十二畫

瘰

いやす、なほす、療治す、又そのこと

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

こぶ(肉の起りて高くなる病)

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰

瘰癧(病)つかる(勞)肺の病氣、らうがい

瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧・瘰癧

なまづ(皮膚に紫の斑を生ずる病)

十四—十五畫

癡 痴に作る、おろか、さとかからず、智慧が足らぬ、又馬鹿になる

癡人 チヂン おろかもの、ばか。

癡呆 チホウ ばか、おろか。

癡笑 チモウ げた／＼わらひ、ばか笑ひ。

癡話 チワラ 男女の戯れ話をいふ。

癡物 チワツ 性來智慧足らずしておろかなる者。

癡鈍 チレン おろかにして氣轉のきかぬこと。

癡情 チジヤウ 色情に動かされる心。

癡愚 チダ 癡呆に同じ。

癡狀 チガイ 癡呆に同じ。

癡態 チタイ おろかなる状態、たはけたる態度又は行動。

癡漢 チカン ①たはけ、ばかもの ②痴情にくるふ男。

癡人相惜 チジナイシラシム 痴人同志にて互ひに相あはれむをいふ。

癡人前説レ夢 チジナイマヘニユイラトク 馬鹿者に

夢のはなしをする、極めておろかなることの喩。

類語

狂癡 チキヤウ 大癡 チダイ 白癡 チハク 虎癡 チコ

愚癡 チダ 驕癡 チキウ 頑癡 チケン

癩 ねぶと(一種のはれもので瘍より輕し)

癩 痒い、かゆみを覚える、むづ／＼する、又そのこと

癩 チョウ 腹にかたまりを生ずる病氣、又そのかたまり

十六—十九畫

癩 癩亂は暑中の邪氣にあたり激しく吐瀉する病氣、くわくらん

癩 病の名、るるれき

癩 ライ 惡腫を生ずる一種の惡病(天刑病)なりらいびやう、かつたる

癩 ライビヤウ かつたる、天刑病。

癩 シヤク 國字①急に痙攣を起して腰腹部等が痛みだし甚しきは人事不省となる病氣、婦人に多し②憤慨する氣

癩 セン 皮膚に生ずる一種のかゆき瘡、ひぜん(疥癬)たむし(頑癬)

癩 エイ こぶ、頸すちに生ずる瘡

癩 エイシヨウ こぶ。

癩 ク 瘡

癩 癩(瘦)すらりとやせる

癩段 クキ やせ衰へること。

癩弊 クヘイ やせおとろふ。

癩 ヨウ 危險なる一種惡性のてきもの

癩疽 ヨウ 惡しき腫物。

癩 テン 癩癩は一種の病氣①くるふ(狂)きちがひ

癩狂 チシキヤウ 精神病、きちがひ。

癩癩 チシカン 病氣の名。

癩 ハツ

癩(背)ゆく(行)ひらく、兩足を左右に張りし形象文字

癩 四—七畫

癩 キ

癩

癩

癩

癩

癩

癩 癩(背)ゆく(行)ひらく、兩足を左右に張りし形象文字

癩 四—七畫

癩 キ

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩 癩(背)ゆく(行)ひらく、兩足を左右に張りし形象文字

癩 四—七畫

癩 キ

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩 癩(背)ゆく(行)ひらく、兩足を左右に張りし形象文字

癩 四—七畫

癩 キ

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩 癩(背)ゆく(行)ひらく、兩足を左右に張りし形象文字

癩 四—七畫

癩 キ

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

癩

ぐるに用ゐるものなるより支那にては普通大將となる義に通ず。
 【登覽】トウラン 高所よりながめる。
 【登獻】トウケン 物をたてまつる、献上。
 【登花殿】トウカワテン 昔の後宮の一、弘徽殿の右にあつて東面するごてん。
 【登龍門】トウリウモン 龍門は黄河の上流に在り鯉魚之を登れば龍に化すとの傳説に因み人の榮達すること、又名士に面會することにもいふ。
 【登絃禮】トウケンレイ 禮内の兵士が甲板に現はれて敬意を表すること、又その禮、登絃禮式。
 【登瀛洲】トウエイシウ 名譽ある地位に進むことの喩。
 類語
 退登トク 苦登トク 先登トク 前登トク
 攀登トク 擲登トク 豐登トク 降登トク
 紹登トク 晚登トク 爭登トク 善登トク

出す、さし出す。みだる(亂)あきらか(明)あらはる(現)あきらかにす、公にす、おもてむきにす。ちる(散)ひらく(開)あばく、さらけだす。すむ(進)うごく(動)つかはす(遣)東方の夷の名。
 【發凡】ハツパン 文書の大略、又は要點。
 【發引】ハツイン 葬式の時棺を墓地へ送り出すこと(引は柩車の前にとりつけて引く布)。
 【發心】ハツシン ころろさす、思ひ立つ。佛法に歸依すること。
 【發火】ハツクワ 火をはなつ、火が出る。
 【發布】ハツプ 廣く觸れ知らす。
 【發行】ハツカウ 世にひろめる、出版すること。
 【發刊】ハツカン 書籍を出版發行すること。
 【發汗】ハツカン 汗をかく。
 【發作】ハツサ ①おこる、おこす。病氣が急に起り又急にやむ作用。
 【發言】ハツゴン 言語を以て意見を發表すること、又いひ出す。
 【發狂】ハツキヤウ 精神がく
 【發車】ハツシャ 列車が動きはじめること、著車の對。
 【發足】ハツツク 出發又は出立に同じ、あゆ

み出す、かどで。
 【發見】ハツケン 未だ知られざる事物を初めて見出すこと。
 【發兌】ハツタイ 書物を印刷して賣出す意。
 【發明】ハツメイ ①新たに物事を考へ出すこと。②伶俐の意にも通じ用ふ。
 【發信】ハツシン 手紙又は電報を出すこと。
 【發芽】ハツガ 植物が芽を出す状態。
 【發育】ハツイク そだち生長すること。
 【發表】ハツペウ 一般にあらはし知らしめること。
 【發疹】ハツシン 皮膚に出るふきでもの。
 【發送】ハツツウ おくり出す。
 【發射】ハツシャ 銃砲のたまを打出すこと。
 【發軌】ハツケン 車を發すること。
 【發途】ハツト 出發、かどで。
 【發條】ハツジョウ ばね、ぜんまい。
 【發祥】ハツシャウ ①吉事の現はるゝこと。②吉兆をあらはす。
 【發案】ハツアン ①案を立てる。②己が意見を述べる。
 【發現】ハツゲン あらはれ出る、現はし出す。
 【發展】ハツテン ひろがる、はびこる。
 【發起】ハツキ 自ら主となりて事を起す。
 【發砲】ハツポウ 銃砲をはなつ。
 【發掘】ハツクワ 埋藏せる物を掘り出す。
 【發達】ハツツク 次第にのび進む貌。

發

發

【發々】ハツハツ ①魚のはねるさま。②風のはやき貌。
 【發情】ハツジヤウ 心を動かす、主として異性に對する情念のきざすをいふ。
 【發程】ハツテイ 發途に同じ。
 【發動】ハツドウ 活動する状、ふるひうごく。
 【發跡】ハツセキ 低き官より登りて立身すること、をいふ。
 【發想】ハツサウ 音聲に強弱・緩急の變化を與へて樂曲の妙趣を加ふる技巧。
 【發揚】ハツヤウ ①のべあらはす。②起し用ふことをいふ。
 【發酵】ハツカウ 酒を作るときもろみがわくと、凡てそれに類した作用をいふ(例)醱酵作用。
 【發解】ハツカイ 州縣の試験の優等者に對し地方官廳が公文書を中央政府に送り更にその人を京師にて試験せしめると。
 【發散】ハツサン 出で、散る、立ち去ること。
 【發意】ハツイ 思ひつく、考へだす。
 【發歲】ハツサイ 年の始め、歳首。
 【發遣】ハツケン 外に出す、さしつかはす。
 【發語】ハツゴ 文章の最初の言ひ出しの語。
 【發會】ハツクワイ ①集會を催ふ。②會を開き始む。
 【發憤】ハツパン ①心をふるひ起す。②胸のう

つを散す。①心に怒ること。
 【發聲】ハツセイ ①聲を出す、言ひ出す。②歌などをうたふこと、又宮中御歌會の時詩人の詠進歌を讀上げる役。
 【發熱】ハツネツ 熱がおこる、熱が出る、體温がのぼる。
 【發揮】ハツキ ①ふるひ起す。②はげましふるふ。③塞がれるを開き通ずること。
 【發賣】ハツバイ 初めて賣出すこと。
 【發榮】ハツレン 天子の行幸。
 【發鳴】ハツメイ ふるひはげむ。
 【發覺】ハツカク かくれたる事
 のあらはるゝをいふ。
 【發議】ハツギ 會議に於て新たに問題を設け其の理由を陳述すること。
 【發露】ハツロ あらはれ出づる貌。
 【發句】ハツク 連歌の上句即ち五七五の三句、轉じて俳諧をいふ。
 【發端】ハツタン はじまり、おこり。
 【發願】ハツガン 神佛に對する念願を起すこと。
 【發作的】ハツサツキ にはかにおこる作用。
 【發光體】ハツクワタイ その物自體より光を放つ物體。
 【發運使】ハツウンシ 宋代の官名の一。
 【發聲器】ハツセイキ 蟲類等の身體中にて音

聲を出す機關。
 【發頭人】ハツトウジン 主となりて事を起したる者、一般に惡事を企てし者に用ふ、主謀者、帳本人。
 【發行餘力】ハツカウヨリヨク 兌換券の發行に對し日本銀行に於て尙ほ準備金の餘力あるをいふ。
 【發行停止】ハツカウテイシ 其筋より新聞雜誌などの賣出しを一時禁止さるゝこと。
 【發電信號】ハツデンシヨウ 線路に故障のありし時列車乗務員に注意を與へるための爆發信號。
 【發電略號】ハツデンリョウゴウ 電信略號に同じ店名社名其他の名稱を一定の略號を用ひて電報用とせるもの。
 【發落】ハツラク 發蒙は覆へる巾をとること、振落は落葉を振ふことにて共に容易なること。
 【發蹤指示】ハツソウシヨシ 發蹤は繩を解きて獵犬を放つこと、指示は獲物のありかを手指を以て知らせること。
 【發聲映畫】ハツセイエイダウ 從來の活動寫眞に發聲裝置をほどこしたるもの。

興發ハコト 善發ハコト 召發ハコト 先發ハコト
 連發ハコト 空發ハコト 摘發ハコト 擅發ハコト
 奮發ハコト 激發ハコト 虛發ハコト 秀發ハコト
 英發ハコト 吐發ハコト 映發ハコト 促發ハコト

白部

白

ハク ビヤク



①しろ、五色の一②しろし、かざりなし、色どりなし③ひろく(啓)④きよし(潔)いさぎよし、正し、公明正大である⑤あきらか(明)あきらかにす、白くす⑥あらはす(現)⑦しらむ、白くなる明るくなる、夜があけかゝる⑧さかづき(杯)⑨賢愚・正邪・黑白等の意を示すに用ふ⑩まうす、申上げる⑪から、何物もなきことを表はす⑫しろめにてにらむ

【白丁】ハクテイ ①身分ひくきもの②葬式に白衣をつけて供物を持ち行く者。

【白人】ハクジン 白色人種、歐米人。

【白刃】ハクジン しらは、ぬきみのやひば。

【白日】ハクジツ ひる、まひる、又晴れたる日

【白文】ハクブン ①漢文に反點なきもの②本文のみにて註釋なき文章。

【白々】ハクハク 明らかなるさま、かざりなきさま。

【白田】ハクテン はた、はたけ、畠。

【白衣】ハクイ ①無位無官の身分、庶人、平民②白い著物、素衣。

【白圭】ハクケイ 磨き上げたる玉。

【白芋】ハクヨ 芋の一種、蓮芋。

【白米】ハクマイ 玄米の對、つきしらげたる米、精米。

【白兵】ハクヘイ ぬきみ、しらは。

【白沙】ハクサ 濱のしろきすな。

【白狀】ハクジヤウ 犯したる罪狀をありのままに申立てること。

【白身】ハクシン 白衣の人、身分いやしき人。

【白雨】ハクウ にはかあめ、夕立。

【白金】ハクキン しろがね、プラチナ。

【白夜】ハクヤ 月のある晩、月夜。

【白果】ハクカワ 銀杏の異名。

【白描】ハクビョウ 墨で書いた畫、水墨。

【白波】ハクハ 後漢の靈帝時代に白波谷といふところに盜賊張角の餘黨がたてこもつて賊を働かしに因み盜賊のことをいふ、しらなみ。

【白相】ハクサウ 富貴なる人の異名。

【白首】ハクシュ ①年をとつて白くなりし髪しらがあたま②しろくび、淫賢婦。

【白梯】ハクダイ つるしがき。

【白屋】ハクタク 茅を以てふきたる家、あばらや。

【白眉】ハクメイ ①兄弟中にて最も秀でたる者②同類中にてすぐれし人。

【白面】ハクメン ①年少く經驗なき者②すがた、容子。

【白宮】ハクキョウ アメリカ大統領の官舎、ホワイトハウス。

【白骨】ハクコツ 枯骨、雨露にさらされし骨。

【白聖】ハクセイ ①しらかべ、又しろつち②チヨーク、白墨③炭酸石灰。

【白徒】ハクト 正規の教練を経ざる兵卒。

【白粉】ハクコ しろい。

【白桃】ハクタク 桃の一種、けも。

【白鳥】ハクテイ ①白き鳥、鶯②蚊の異名。

【白眼】ハクガン ①眼の白きところ、しるめ②いかりて睨む目付。

【白麻】ハクマ 詔書のこと。

【白魚】ハクイコ ①衣服・書畫等につくむし、しみ、紙魚②小魚の一、しろうを。

【白帶】ハクタイ 子宮病、こしけ。

【白參】ハクサン 草の名、釣鐘草。

【白晝】ハクヂユウ ひる、日中。

【白黒】ハクコク 白は清・黒は濁、又善惡是非、黑白。

【白首】ハクセウ 容貌顔色の眞白なること。

【白雲】ハクウン 白く見える雲、しろくも。

【白頭】ハクトウ ①白髪のアたま②老人の異稱。

【白著】ハクチャウ あきらかになること、著明。

【白痴】ハクチ 白癡に同じ。

【白楊】ハクヤウ 木の名、いぬぎり、はまやなぎ。

【白銀】ハクギン ぎん、しろがね、又贈答の時に用ゐる銀、銀子。

【白説】ハクセツ 無駄ばなし。

【白槐】ハクケイ 天城・木曾・秩父等に産する落葉喬木の名。

【白髪】ハクハツ 白きかみ、しらが。

【白銅】ハクドウ 銀と銅との合金、ニツケル。

【白熱】ハクネツ ①白色の光を發する程非常に熱すること②極度に熱中するさま。

【白駒】ハクコ 日影、光陰。

【白雲】ハクウン 白雲の②に同じ。

【白薯】ハクショ ①さつまいも。

【白紙】ハクシ ①しらかみ②純にして何事にも染まぬ状態にたふ。

【白簡】ハクカン 彈劾文を書寫して天子に奏するをいふ。

【白戰】ハクセン ①から手にて戦ふこと②詩人が文才を競ふ時わざとその詩題に因んだ文字を文中に用ゐることを禁ずること。

【白醪】ハクラウ しろざけ、白酒。

【白鐵】ハクテツ 錫に同じ。

【白癡】ハクチ 生れながらにして智慧足らざる人。

【白頭】ハクトウ 馬の額の毛の白きものをいふ。

【白鑿】ハクハク 燒明鑿。

【白露】ハクロ ①しらつゆ②二十四氣の一即ち陰曆八月の節。

【白鞍】ハクアン 白覆輪の鞍。

【白旗】ハクキ 白色の旗、昔は源氏の旗、今は降伏の意を表すに用ふ。

【白虎】ハクコ 四神の一にして西方を守る神。

【白芷】ハクシ 藥草の名、よろひ草。

【白毫】ハクモウ 佛の額にある毛、その光は無量の國を照すといふ。

【白檀】ハクタン 熱帯産の樹にして梅檀に類す。

【白茶】ハクチャ 極めてうすき茶色。

【白襲】ハクサウ 表裏とも白きかさね。

【白日夢】ハクジツノユメ 白晝の夢、無き事に

たとへていふ。

【白羊宮】ハクヤウキョウ 天文にて十二宮の一

【白々地】ハクハクチ 明白の意。

【白玉盤】ハクキョウバン 月の異名。

【白血球】ハクケツキウ 血液の血球中無色のもの(赤血球の對)。

【白兵戰】ハクヘイセン 白刃を以て戦ふこと。

【白内障】ハクナイシヤウ 瞳子の不透明なる眼病、そこひの一種。

【白銅貨】ハクドウカワ 白銅にて鑄造したる銅錢、單に白銅といふ。

【白馬寺】ハクバジ 後漢明帝の時建てし支那の最初の寺院。

【白鹿洞】ハクロクドウ 朱子が子弟に教へし所にして江西省星子縣にある地名。

【白雲石】ハクウンセキ 色白く半透明にして硝子の如き光りある石。

【白帶魚】ハクタイキョ 臺灣語にて太刀魚。

【白雲郷】ハクウンキョウ 天上の世界。

【白腹魚】ハクフクキョ 臺灣語にて鯖。

【白額虎】ハクガクトラ 虎の額の毛の白くなりたるものをいふ。

【白織化】ハクシケワ 物事が最高調に達したる状態をいふ。

【白虎隊】ハクコウタイ 明治戊辰の役の時會津城にて官軍に抗したる少年決死隊。

【白蓮社】ビヤクレンシヤ 支那東晉の時文人僧侶等が集つて交友したる團體。
 【白蓮教】ビヤクレンキョウ 元の韓山童が組織した秘密結社の宗教團體。
 【白葦毛】シロアシガ 全身白くして鬣と尾とのみ黒き馬。
 【白煉瓦】シロレンガ 白色煉瓦、化粧煉瓦。
 【白鹿毛】シロカ 鹿毛に白毛のまじる馬。
 【白頭鳥】ヒヨドリ 鴨の異名。
 【白木綿】シロモヘン 染色せざる白の木綿。
 【白衣宰相】ハクイサイシヤウ 弘陶景の故事に因み官位なくして宰相の待遇を受くる人をいふ。
 【白水真人】ハクスイジン 錢の異稱。
 【白色人種】ハクシヨクジンシユ 皮膚の色の白き人種、歐羅巴人。
 【白衣使者】ハクイシシヤ 酒を賜り來る使者。
 【白面書生】ハクオモシヨセイ 經驗に乏しく年わかき者。
 【白虹貫日】ハクコウカンニツ 白い虹が太陽を貫ぬくは兵亂のきざしであるといふ荆柯の故事。
 【白魚入船】ハクイヨフネニル 敵の歸伏するきざしにいふ。
 【白哲人種】ハクセキジンシユ 白色人種に同じ。
 【白紙主義】ハクシシユイ 白紙が純にして何物

にも染らぬ如く常に正善を守りて行動せんとする主義。
 【白駒過隙】ハクコウカクキヤク 白駒のはせ去るのを戸の隙間より見るのは一瞬の間であるよりほかなきことに喩ふ。
 【白頭如新】ハクトウシノゴトシ 老年まで交つてもいつも心から打ちとけなければいつまでも新らしき友人と同じである。
 【白龍魚服】ハクリヨウキョフク 貴人の微行をいふ語。
 【白壁微瑕】ハクヘキニヒカ 白玉にかすかなる瑕のあると、大體は美なるも少しの缺點あるをいふ。
 【自然電球】ハクゼンデンキョウ 眞空にしたる電球の中に炭素線を入れしもの。
 【白河夜船】シラカハヨフネ 白河は川にあらず然るに未だ見ぬ京の物語する者に白河は如何にと問へば白河は夜船にて通りし故に知らずと答へたりとの物語に因み知つたかぶりをする人をいふ、又能く眠ることにいふ。
 【白紙委任状】ハクシキニシヤウ 印を捺すのみにて委任事項を記入せざる委任状。
 【白玉樓中之人】ハクキョウロウチノヒト 唐の李賀の故事に因み文人の死することをいふ。

【白扇倒懸東海天】ハクセンタカシマニカカルトウカイ ナン 我が富士山の雄姿を形容したる語。
 【白銀盤裡一青螺】ハクギンパンリイフセイラ 湖水のゆたかなる水面に青々として島山の浮べるさま。
 訓讀
 【白を擧ぐ】擧レ白はくをる。酒をのむと。
 類語
 皓白ハク 戴白ハク 緒白ハク 飛白ハク
 建白ハク 明白ハク 純白ハク 虛白ハク
 粹白ハク 老白ハク 肥白ハク 自白ハク
 廉白ハク 淳白ハク 貞白ハク 鮮白ハク
 素白ハク 深白ハク 淺白ハク 太白ハク
 乳白ハク 三白ハク 五白ハク 曳白ハク
 粉白ハク 潔白ハク 斑白ハク 大白ハク
 清白ハク 黃白ハク 堅白ハク 精白ハク
 面白ハク 面白ハク 黒白ハク
 一畫
 【百】ハク ヒヤク 百
 ①も、ひやく、ほ、十の十倍、多き数をいふ語、もろく、たび、も

もたび、ひやくたび、たしかなる意にいふ、はげむ(勵)
 【百二】ヒヤクニ 自然の地勢が險要を占め他にまさると百倍の意(二は二倍の義)。
 【百丈】ヒヤクヂヤウ 曳ふねの綱。
 【百口】ヒヤクコウ 妻子女族のこらず。
 【百工】ヒヤクコウ もろくの職人、又百官。
 【百出】ヒヤクシュツ 事の數多く出る形容(例)異論百出す。
 【百方】ヒヤクハウ 各方面、四方の國々(例)異論百出す。
 【百王】ヒヤクオウ 世々代々多數の君主、百代の帝王。
 【百世】ヒヤクセイ 末々の世、のちのち。
 【百司】ヒヤクシ もろくのつかさ、百官。
 【百全】ヒヤクゼン 少しも缺けたる所なき貌完全無缺なること。
 【百川】ヒヤクセン 天の川、銀河。
 【百行】ヒヤクコウ もろくの行ひ、すべての行爲。
 【百合】ヒヤクガフ 草花の名、ゆり。
 【百舌】ヒヤクゼツ 小鳥の名、もず。
 【百考】ヒヤクコウ 深く考へる、種々に考へ思ふ。
 【百年】ヒヤクネン もとせ、一生涯。
 【百折】ヒヤクセツ ①度々の失敗、②幾度も曲

折するさま。
 【百利】ヒヤクリ 多くの利益。
 【百足】ヒヤクソク 毒蟲の名、むかで。
 【百里】ヒヤクリ 一里の百倍、又その遠さ(例)諸侯の國の稱。
 【百味】ヒヤクミ もろくのあぢ、いろいろの食物。
 【百乘】ヒヤクセウ 百輛の車、又之を出して自由に運轉の出来るだけの廣さの土地(即ち十里の面積、卿大夫の領地をいふ)。
 【百姓】ヒヤクシヤウ ①天下の民は其數多く姓も甚だ多きより庶民のことを百姓といふ、②我國にては農民のこと。
 【百事】ヒヤクジ さまざまの事、もろくの事。
 【百草】ヒヤクソウ いろいろの草、ちぐさ。
 【百物】ヒヤクブツ さまざまの物、諸般の事物。
 【百官】ヒヤクカン もろくのつかさ、衆くの官職。
 【百芳】ヒヤクハウ もろくの花、百花。
 【百診】ヒヤクシ 診は妖氣、多くの悪い氣をいふ。
 【百花】ヒヤクカ 種々なる花。
 【百計】ヒヤクケイ 種々の計略、多くのはかりごと、もろくの手法。

【百科】ヒヤクコウ いろいろの學科。
 【百般】ヒヤクパン すべて、いろいろ、さまざま(例)百般の事業。
 【百敗】ヒヤクハイ 幾度もやりそこなふ。
 【百神】ヒヤクシン よろづの神、やよろづの神々。
 【百雄】ヒヤクユウ 一丈四方を堵、三堵を雄といふ、百雄は其の大きさの城。
 【百貨】ヒヤクカク いろいろの商品。
 【百揆】ヒヤクケイ 庶政を掌る官、今の總理大臣のやうなもの。
 【百粵】ヒヤクエツ 百越に同じ。
 【百感】ヒヤクカン もろのかんじ、萬感。
 【百辟】ヒヤクヘキ 辟は天子諸侯の稱、百辟は特に諸大名諸侯のこと。
 【百越】ヒヤクエツ 昔の江浙・閩粵地方。
 【百僧】ヒヤクソウ 法華講などの法會には講師・讀師・呪願師・三禮師・唄師・散花師・堂達の七僧を要し之に伴僧を加へ一人の僧となして法事をつとむ。
 【百慮】ヒヤクリョ いろいろの思想、又もろもろの物思ひ。
 【百家】ヒヤカカ ①多數の著作者、又は學者世間の人々。
 【百僚】ヒヤクリョウ 百官に同じ。
 【百端】ヒヤクタン ①くさく、さまざま、

類語

格的(カク) 鶴的(トウ) 表的(ヘウ) 標的(ヘウ)
質的(シツ) 棚的(ハク) 儀的(ギ) 審的(シン)
編的(ヘン) 傲的(オウ) 射的(シャ)

四畫

皆

皆

【皆】カイ ①みな、悉く、のこらず、すべて。②おなじ(同)のあまねし(遍)③ひとひと、たれもかれも。
【皆兵】カイヘイ 國民全體が兵役に服すると。
【皆目】カイメツ まるきり、さつぱり。
【皆中】カイチュウ 悉くあたる貌。
【皆朱】カイシュ 朱又は辰砂をまぜて赤くぬりたるぬりもの。
【皆納】カイナフ のこりなく納入すること。
【皆既】カイキ 日蝕又は月蝕の一體、悉く暗くなること、皆既蝕。
【皆勤】カイキン 或期間内一日も缺勤せずして出勤すること。
【皆無】カイム みな、のこらず、物がみなない、絶無。
【皆傳】カイデン 學藝技術等の奥儀をのこらず教へ授けるをいふ。

皇

皇

【皆濟】カイサイ 借を全部拂ひすす。
【皇】クラウ ワウ ①すめらぎ、すめら、あめ(天)かみ(上帝)みかど、きみ(君主)②特に功德の高大なる者③凰に通ず、黃鳥④燕麥に似たる草⑤おほいなり(大)⑥うつくし(美)うるはしく盛んなり⑦たゞし(正)又おごそか(莊)⑧はな(華)⑨殿前に土を盛りて門を造りし所、又たまやのもの(寢廟)⑩或る語に添へて天皇に關する事物を表はす⑪通達するさま⑫ひま、いとま⑬父母をまつる時の敬稱⑭道家・佛家にて神佛に對する敬稱⑮日本人が特に日本國を稱する語。
【皇土】クラウヂヤウ 現今のみかど、今上。
【皇天】クラウテン ①天にある神②皇は大、天は上帝③大空、蒼天。
【皇化】クラウカワ 天子の仁慈徳政、王化。
【皇考】クラウカウ ①みまかりたる父②先代の天子。
【皇別】クラウベツ 我民族のうち皇族より出でたる氏族。
【皇妃】クラウヒ ①續御の貴后に次ぐ者②太子の嫡室。

類語

【皇后】クラウゴウ 天子の妻、きさき。
【皇妣】クラウヒ ①天子の御亡母②亡母の尊稱。
【皇邑】クラウイフ 帝都、みやこ。
【皇居】クラウキヨ 天子のごてん、宮城。
【皇穹】クラウキウ 上天、あめ、そら。
【皇典】クラウテン 本邦の典故、皇國の貴重なる國史。
【皇姑】クラウコ 死したるおほをば。
【皇國】クラウコク 外國に對し我國を重んじていふ、すめぐに。
【皇宗】クラウソウ ①御歴代の天子②有徳の君。
【皇帝】クラウテイ 天子の尊稱。
【皇胄】クラウヂウ 帝王の血統を受ける者。
【皇祇】クラウキ 天神と地祇。
【皇室】クラウシツ 王室に同じ。
【皇城】クラウジヤウ 皇居に同じ。
【皇恩】クラウオン 天子の恵み、帝王の大恩。
【皇祖】クラウソ 天子の御先祖。
【皇々】クラウクラウ ①美しく盛んなるさま②心の定まらぬさま③物事の通達せるさまをいふ。
【皇孫】クラウソン 天子の御孫、又御子孫。
【皇胤】クラウイン 天子の御子孫、天子の御血統。

【皇軒】クラウケン 禁宮のまき、轉じて皇宮の意。

【皇祚】クラウソク 天子の御位。

【皇都】クラウト 王城の地、みやこ、帝都。

【皇族】クラウゾク 天子の御親族、天子の御一族。

【皇堂】クラウダウ はか、墳墓。

【皇陵】クラウレイ 歴代天皇の御墳墓、御陵。

【皇基】クラウキ 天子が國家を治め給ふ事業又は皇室の基。

【皇乾】クラウケン そら、あめ、天。

【皇統】クラウトウ 天子の御血すぢ。

【皇極】クラウキョク ①天子の御位②天子が國家を治める大中至正の道。

【皇朝】クラウテウ ①當代の朝廷の尊稱②我國又は我が皇室。

【皇辟】クラウヘキ 妻より亡夫を祭るときにいふ語。

【皇業】クラウゲツ 天子が國家を経營し給ふ御事業。

【皇路】クラウロ 大なる道、又人君の道。

【皇運】クラウウン 天子の御運命。

【皇嗣】クラウウシ 天子の御よつぎ。

【皇猷】クラウウイ 天子のはかりごと、帝王の道。

【皇道】クラウダウ 我國體を基礎とする日本の道。

【皇綱】クラウカウ 帝王が世を治める大法。

【皇墳】クラウフン 伏羲・神農・黃帝の三墳。

【皇舞】クラウブ 舞の名、五采羽を持ちて舞ふもの。

【皇維】クラウキ 政治のまもり、皇綱。

【皇澤】クラウタク 天子のめぐみ、皇恩。

【皇鑑】クラウカン ①帝王の御鑑識②大なるひかり。

【皇學】クラウガク 日本の制度・文物等を研究する學。

【皇繼】クラウケイ 天子の御よつぎ、皇太子。

【皇儲】クラウヂョ 皇太子、はるのみや、東宮。

【皇謨】クラウボ 天子の御はかりごと。

【皇衢】クラウク おほいなるちまた、四通の大道路。

【皇靈】クラウレイ ①御代々天皇のみたま②上帝。

【皇太子】クラウタイ 皇繼に同じ。

【皇太后】クラウタイゴウ 先帝の皇后。

【皇太孫】クラウタイソン 皇繼たるべき天子の御孫。

【皇祖考】クラウソカウ 亡祖父を祭る時にいふ語。

【皇祖妣】クラウソヒ 亡祖母を祭る時にいふ語。

皐

皐

【皐】カウ 皐に作る①さは、きし(水厓)②かぎり(限)③愚にして道理にくらし④五月の異名、さつき⑤つぐ(告)⑥よぶ(呼)⑦あゝ、長くひく聲のさま⑧たかし(高)⑨ゆるし(緩)
【皐比】カウヒ 虎の皮、將軍又は儒者の座席。
【皐々】カウカウ おろかにて道理を知らぬ貌

【皐月】カウゲツ 陰曆五月の異名、さつき。
 【皐門】カウモン ①王宮最外の高き門、五門の二。②諸侯の邸宅の外門。
 【皐變稷契】カウキョクセツ 堯舜時代の名臣にして周の文王の祖先と殷の湯王の祖先となりし四人の稱。

【皎】カウ(慣)
 カウ(慣)

皎

①月光の白きにいふ。②しろし(白)。(あきら)か(明)。(ひ)かる(光)
 【皎月】カウゲツ さえわたれる月。
 【皎皎】カウカウ きら／＼と白く光るさま。
 【皎鏡】カウキヤウ ①すみて明らかなる鏡。②明月の形容。

【皐】皐に同じ

七十一畫

【皐】ヒョク フク

【皜】カウ

皜

①ひかり(光)ひかる。②しろし(白)しろきさま、色が白。③あきら(明)白く光つてあかるい。④いさぎよし(潔白)。(ま)むなし(虚)。(ひろ)し(廣)。(ト)昊に通ず、あめ、そら

【皓白】カウハク 白し、又そのさま。
 【皓首】カウシュ しろがあたま、白頭。
 【皓然】カウゼン 白き貌。
 【皓々】カウカウ 白き貌、又いさぎよきさま。
 【皓髮】カウハツ 白髮、しろが。
 【皓齒】カウシ 白き齒、美人の形容。
 【皓魄】カウハク 月の異稱。

【皐】カウ(慣)
 カウ(慣)

【皐】カウ(慣)
 カウ(慣)

【皐】カウ(慣)
 カウ(慣)

【皐】カウ(慣)
 カウ(慣)

【皐】カウ(慣)
 カウ(慣)

【皐】カウ(慣)
 カウ(慣)

【皐】カウ(慣)
 カウ(慣)

【皐】カウ(慣)
 カウ(慣)

皐

【皦】ケウ

ケウ

①あきら(明)あかるい。②しろし(白)。(あ)きら(明)。(ひ)かる(光)
 【皦日】ケウジツ まひるのあかり、白日。
 【皦如】ケウジョ 字解の(皦)を見よ。

【皦】レキ ヲク

皦

【皦】白き貌。明かなる貌

【皦】シヤク

皦

①きよし(清)。(しろ)し(白)。(い)さぎよきさま
 【皦然】シヤクゼン いさぎよきさま。

【皦】シヤク

皦

【皦】シヤク

皦

①かは(動物)の體を被ふもの。②すべて物の外被。③ま(的)皮を張つた。④この(苦)。(う)は(表)物事の外部。⑤けもの(皮)、又かは(革)も(革)。(お)ほ(ひ)

皮部

皮部

①あらはす(顯)。(あ)きら(明)。(しろ)し(白)
 【皦々】カウカウ 字解を見よ。
 【皦々】カウカウ 字解を見よ。

【皦々】カウカウ 字解を見よ。

【皦々】カウカウ 字解を見よ。

【皦々】カウカウ 字解を見よ。

①あきら(明)。(しろ)し(白)。(ひろ)し(廣)。(お)ち(つ)ける(さ)ま。(古)く(昊)に通ず
 【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

【皦々】カウカウ 字解の(皦)を見よ。

皺

シウ スウ

①しわ(表皮がだるみて細條をあらはすもの)しわの如き形のもの、ひだ②ちぢむ、しわむ、しわがよる③くりのいが

皴

サ

①かさほろし、鼻の上にてできるかさ②鼻の赤くなる病氣、さくるばな

皴

テン セン

うすかは、皮膚の薄膜

皿部

皿

ベイ

さら(食器の一)

三十四畫

盂

ウ

①はち、わん(飯を盛る器)孟の形したるもの②草の名、ちからぐさ③獵をなすときの陣形の名

盃

杯の俗字

盆

ホン ボン

①ほとぎ、はち、酒を容れる瓦器、又平たき鉢の類②茶器・食器等をのせる臺③盥を焦る器④七月中元の節、又盂蘭盆會の略

盆

エイ

①みつ(充)いつぱいになる、次第にみちる②あふる(溢)みちあふれる③あまる(餘)のびる④贏に通ず、美しくつくる説、女のたをやかなる姿⑤水のさらさらと流れるさま

訓讀

類語

- 瓦盆、大盆、覆盆、瓶盆、酒盆、照盆、栽盆、老盆、盂蘭盆

【盆を請ふ】請レ盆をさかん ①まし加へられんことを望む②尙ほくばしく教へられんことを求める

訓讀

類語

- 富益、便益、損益、裨益、増益、徳益、調益、匡益、忠益、廣益

盃

ワン

椀に作る、わん、はち、さら、小盃

盍

カフ

①あふ(合)會す②何不の二字を合したる義、疑問の語にて「何ぞ」とよみ返して「ざる」と讀み收む③古く蓋に通ず

盍

アウ

はち、ほとぎ(飲料を容れる器)あふる、こぼれる、盛んにあらはれる

盍

カフ

【盍盆】アウボン ほとぎ、はち

盈耳

みよによくはいる、十分にきくこと

盈肥

十分に太り満ちたる説

盈衍

みちあふる②倉の名

盈貫

罪惡の多きにいふ②弓を十分に張る③錢がさしに一ぱいになつてさしきれぬ義

盈架

たなに充ち塞がる意

盈耗

満ちること、欠けること

盈々

肥えて美し

盈満

十分にき充ちたる説

盈缺

月の満ちて圓くなると欠けること

盈虚

満ち或はかけること、榮枯

盈塞

充ちふさがる

盈溢

みちあふさがる②恣にして分限を越える③あふる、十分である

盈進

速成を欲せず漸を追ひて進むをいふ

盈厭

満足する説、あく

盈羨

満ちあふれありあまると

盈祿

扶持の過分なるをいふ

盈樂

樂しみに充ちたる説

盈虧

盈缺に同じ

盈積

みちつもる

①さら(皿)一説にさらのふた(盤覆)②すぼむ(器の口が歛まる)③組合せて重ねる器、重箱

盞

盞の俗字

盃

クワイ

①はち(鉢)②かぶと

盞

盞の俗字

七 盞

盛

セイ シヤウ

盛

①そへもの、もりもの、器に盛り神佛に供へるもの②もる、器に容れる③さかんなり、裝飾の嚴かなる貌④さかん、さかり、勢がある、富さかえる、草木が茂る、廣大顯著である⑤さかんにす、おこす⑥さかる、榮える⑦さかんなりとす、壯とす⑧國訓もる(堆く積み上げる、山盛り)にす、藥をあはす、はかりの目をきざむ

【盛大】セイタイ 物の盛んなる貌。

【盛王】セイワウ 徳望あつき君王。
【盛冬】セイトウ 冬のまさかり、冬のさなか。
【盛世】セイセイ 太平にして盛んなる御代。
【盛式】セイシキ 立派なる儀式。
【盛年】セイネン 血氣さかりの年頃。
【盛色】セイシキョク ①美しき顔色②婦人の美しき容姿等にいふ。
【盛旨】セイシ ありがたきおぼしめし。
【盛位】セイイ 高貴なるくらゐ。
【盛多】セイタ ゆたか、物の盛んにして多きさま。
【盛名】セイメイ 名譽のたかきをいふ、人の聲名に對する敬稱。
【盛典】セイテン 大なる儀式、大典。
【盛作】セイサク 雄大な文章。
【盛事】セイジ 目出たき事、立派なる事。
【盛座】セイザ 盛んなる宴會、盛大な集會。
【盛門】セイモン 勢ひ盛んなる家がら。
【盛制】セイセイ ①徳のさかんなる法則②法則の敬稱。
【盛況】セイキョウ 盛大なるありさま。
【盛怒】セイド 甚しくいかる。
【盛壯】セイサウ つよし、さかんなり。
【盛使】セイシ 人の使者を敬していふ。
【盛服】セイフク 嚴かにして美事なる服装、又は立派なる衣服。

【盛指】セイシ ありがたきおぼしめし。
【盛氣】セイキ 氣色はげしく怒りを含む貌
【盛唐】セイタウ 中唐に同じ。
【盛衰】セイスイ 盛んになること、衰へること、榮枯盛衰。
【盛夏】セイカ 夏のさかり、まなつ。
【盛威】セイイ 勢力又は富力つよき親戚。
【盛族】セイゾク 勢力ある家がら。
【盛時】セイジ 勢ひ盛んなる時、富める時。
【盛暇】セイキヤ 見事なる贈物。
【盛運】セイウン 運氣さかんなり、又その氣。
【盛替】セイカヒ あつきの極めてきびしきをいふ、盛夏。

【盛貴】セイキ 隆盛にして位高きこと。
【盛準】セイジュン 完全なる法則、又法則の敬稱。
【盛宴】セイエン 盛大なるさかもり。
【盛聘】セイヘイ 訪問の禮の盛大なること。
【盛會】セイクワイ 盛大なる集會。
【盛筵】セイエン 盛宴に同じ。
【盛意】セイイ 人の親切を敬していふ。
【盛裝】セイサウ 美しく著飾さる、又其服装。
【盛溢】セイイツ さかんにして満ちあふる。
【盛福】セイフク 幸福の益々重なり進むと。
【盛飾】セイシキョク 美事なる服装、又は裝飾。
【盛徳】セイトク 高くさかんなる道徳。

【盛舉】セイキョ 盛んなる事業、立派なくはたて。
【盛寵】セイチュウ 深く愛せられること。
【盛觀】セイクワン 立派な見もの、壯觀。
【盛儀】セイギ 見事なる御馳走。
【盛強】セイキョウ 勢さかんにして強き貌。
【盛勳】セイコン さかんなるいさを、大なる功勳。
【盛麗】セイレイ さかんにして美事なる貌。
【盛藻】セイソウ さかんなる文詞、又文詞の敬稱。
【盛者必滅】セイジヤヒトクワ 盛んなるものも後には必ずおとろへる。
【盛徳鴻業】セイトクコウゲツ 盛大なる徳望と偉大なる事業。
【盛年不三重来】セイネンホサンサウライ 若い時は二度とない。

【盛】セイ シヤウ

類語
嘉盛セイ 齊盛セイ 豐盛セイ 大盛セイ
昌盛セイ 明盛セイ 美盛セイ 鮮盛セイ
茂盛セイ 殷盛セイ 熾盛セイ 雄盛セイ
貴盛セイ 富盛セイ 全盛セイ 繁盛セイ

盞

タウ

①ぬすむ(偷)ひそかに取る②ぬすびと

盞

【盗人】タウジン ぬすびと。
【盗用】タウヨウ 他人の物をひそかに使ふ。
【盗汗】タウカン ねあせ、睡眠中自ら出る汗。
【盗臣】タウジン ぬすみをなす臣下。
【盗伐】タウバツ 他人の竹木等をきりとる。
【盗位】タウイ 正當の順序によらず分を越えて位につくこと。
【盗劫】タウキョク ①かすめ取る②おひはぎ、強盗。
【盗弄】タウロウ 盗み取りてもてあそぶ。
【盗泉】タウセン 山東省泗州縣にある泉。
【盗掠】タウリョク ぬすみとる、おびやかす奪ふ。
【盗陌】タウマク 支那の昔の大盗人の名。
【盗視】タウシ 見ぬふりして見るをいふ。
【盗賊】タウゾク ぬすびと、どろぼう。
【盗難】タウナン 物を盗まれる災難。
【盗兒團】タウジダン 窃盜を働く不良少年少女の團體。
【盜難保險】タウナンホケン 一八六〇年英國にて創設せられしものにて盜難に對して一定の保險金を支拂ふ保險事業。

類語
盜盜タウ 淫盜タウ 耗盜タウ 邦盜タウ

【盟】メイ

【盟友】メイユウ 親しく交はる友。
【盟兄】メイケイ 親しき友に對する敬語。
【盟主】メイシュ 同盟者の内にて首長の地位に立つもの。
【盟府】メイフ 盟約書を藏め置く庫。
【盟首】メイシュ 盟約書の連名の首位に署名

盞

ロク

①つくす(湯)②こす(澆)水をこす③か(潤)④小さき匣⑤したむ

盞

サン

【盟】メイ

【盟】メイ

し違約者に對して制裁を加へる力を有するもの。

【盟約】マイヤク ちかひ、契約、盟誓。

【盟契】マイケイ ちぎり、やくそく。

【盟誓】マイセイ 盟約に同じ。

【盟敵】マイテツ 血をすゝりて誓約を結ぶ。

【盟境】マイゲン 盟約の爲めに築いた高境。

九畫

【盡】ジン



①つく、をはる、なくなる。②きはまる。
 (縁)③つまびらか(審)④やむ(止)⑤つくす、力一ぱい、使ひはたす、残らず出す、十分ならしめる。⑥ことごとく(悉)すべて、のこらず、ありたけ⑦まゝ、まかす。

【盡力】ジンリョク 力をつくす、ほねをよる、はたらく。

【盡日】ジンジツ ①その日一日の間、終日、ひねもす。②月末にあたる日、みそか。

【盡心】ジンシン 心をつくす、心配してほねをよる。

【盡年】ジンネン 天命をよはること。

【盡言】ジンゲン 憚らずして十分に述べる。

【盡忠】ジンチュウ まごころを以て仕ふ、忠義をつくす。

【盡家】ジンカ 一家中こぞりての意、家中。

【盡情】ジンジョウ 心のかぎりを盡す。

【盡意】ジンイ 心に思ふ限りを盡し極む。

【盡源】ジンゲン 物事のおこりを究め知る。

【盡瘁】ジンスイ 心を盡し力を勞する貌、つとめつくす意。

【盡節】ジンセツ 忠節をいたす。

【盡謀】ジンボウ はかりごとのある限りをつくす。

【盡禮】ジンレイ 十分に禮儀を厚くして待遇すること。

【盡殘】ジンゼン ほろぼしつくす。

【盡覽】ジンラン すべてをみる、見つくす。

【盡忠報國】ジンチュウホウコク 忠義をつくして國家の爲めにはたらく。

【盡善盡美】ジンゼンジンビ 善は心のよきこと、美は物のよきこと、完全無缺の意。

【盡信書不如此無書】ジンシンショフナコトナシムナシ コトゴトクシヨラシズレバシヨナキニルカズ 書經に記した事柄ものこらずまこととは請合へぬ。

【監】カンケン

①かんがみる(鑑)鏡にてらし見る、他の物をとつて我が戒とす、手本とす。②かじみ、かんがみ(鑑)てほん、いましめ。③めつけ役(検査)みはりの役、又みはりす。④上より見おろす。⑤らうや(牢獄)【監本】カンポン 昔支那の國子監(大學の如き學校)にて刊行せし書物。

【監奴】カンド 奴僕のかしら。

【監事】カンジ 引受けて事を擔當する人。

【監車】カンシャ 囚人の乗物、牢ごし。

【監房】カンバウ 囚人を入れるところ。

【監門】カンモン 門番に同じ。

【監軍】カングン 軍隊をみまはる役。

【監修】カンシュウ 文書の編輯を監督する。

【監査】カンサ しらべる、しらべみる。

【監國】カンコク 天子の行幸中に國事を監督する者。②國をすべ治めること、又その任にある者。

【監視】カンシ 他の行爲を取りしまつて守ること。

【監統】カンテウ すべ治める。

【監寢】カンビ 寢寢といふが如し、ねてもさめてもの意。

類語

散盡サンジン 窮盡キウジン 周盡シュウジン 小盡ショウジン

【監禁】カンケン 人或處所に禁足して他出せしめざるをいふ。

【監督】カンゴク 取締ること、又その任に當る人。

【監察】カンサツ ①他の爲す業を取締り視る意。②徳川時代の目附役。

【監領】カンリョウ 取締り支配する意。

【監獄】カンゴク 罪人を收容して刑の執行をなす所、刑務所。

【監護】カンゴ 監督してまもる。

【監觀】カンクワン しらべ見る、監察と同意。

【監物】カンモノ 古中務省に屬して出納をつかさどりし役人。

【監令官】カンレイクワン 徳川時代の目附役

【監守監】カンシウケン 官公吏が自己の監守せる金品を私消すること。

【監査役】カンサヤク 會社の業務を監督検査する重役。

【監禁罪】カンケンザイ 不法に他人の自由を束縛して之を幽閉する犯罪。

【監獄署】カンゴクショ 刑務所の舊名、罪人を入れ置く所。

【監察御史】カンサツウシ 百官を監督し農事刑獄を司る官名。

【盤】ハンバン

①はち、さら(物を盛る器)②たらひ(盥)③古く般に通ず、たのしむ。④婦に通ず、わだかまる。⑤古く響に通ず、いは、いはを。⑥めぐる(旋)めがらす、まげる。

【盤古】ハンコ 太古の帝王の名。

【盤回】ハンクワイ めぐりまがるさま。

【盤石】ハンシヤク 大石、いはを。

【盤曲】ハンキョク 山路のまがりめぐる貌。

【盤折】ハンセツ めぐりまがる、盤曲。

【盤坐】ハンザ ひざを組みて坐す、安坐。

【盤陀】ハンタ ①馬のくら。②石の平らかならざるさま。③鉛と錫の合金にして金屬をつぎ合すに用ゐるもの。

【盤玉】ハンギョク ①はち、さら。②書物の名。

【盤紆】ハンフ 山路などのめぐりくねる曲つてゐること。

【盤針】ハンシン 磁石、羅針盤。

【盤涉】ハンセツ 音樂の十二律の一、又ばんじき。

【盤桓】ハンクワン ①盤紆に同じ。②躊躇して進まざる貌、たちもとほる。

【盤旋】ハンセン めぐりあるく。

【盤渦】ハンクワ 水のうづまく

貌、又そのうづまき。

【盤々】ハンバン めぐるさま。

【盤遊】ハンイウ 遊びたのしむ。

【盤踞】ハンキョ ①わだかまりうづまくまる。②雄將などの一方に割據すること。

【盤嬉】ハンキ あそびたのしむ。

【盤錯】ハンサク まじりみだる、事の紛雜したる貌。

【盤石之安】ハンシヤクノアン かくして大丈夫なること。

【盤根錯節】ハンコンサクセツ 世事の複雑なる狀を婦りたる根。いりくみたる節にたとへていふ。

類語

家監カケン 狗監クケン 四監シケン 馬監バケン 官監カン 副監フケン 牧監ボクケン 治監チケン 鏡監キョウケン 景監ケイケン

類語

遊盤ユウパン 股盤コパン 銅盤ドウパン 玉盤ギョクパン 扇盤セウパン 情盤ジョウパン 甘盤カンパン 小盤ショウパン 燭盤シュツパン 寶盤ホウパン 羅針盤ラシンパン

十一畫

【盥】

クワン

クワン

①てあらふ、盥にて手を洗ふ。②てあらひばち、たらひ

【盥浴】クワンヨク 手をあらふことゆあみ、身體を清める意。

【盥漱】クワンソク 手をあらひ口をすすぐ。

【盥潔】クワンケツ 手を洗ひ清む。

【盥滌】クワンテツ 手を洗ひそぐ。

【盥濯】クワンタク あびあらふ、身體を清潔にする意。

【盧】

ロ

①飯を盛る器。②火を盛る器。③さけりりばくろ(黒色)④ひとみ(眼中の黒子)⑤良き犬の名。⑥櫛櫛の賽の目の名。⑦盧に通ず(あし)

【盧犬】ロケン 黒色の犬。

【盧子】ロレ 黒腫の稱、ひとみ。

【盧弓】ロキウ 黒塗りの弓。

【盧胡】ロコ 胡盧に同じ、大に笑ふ聲。

【盧庵】ロアン いほり、庵室。

【盧廡】ロフ 民家、民屋。

【盧橘】ロキツ 枇杷の異名、又一説に金柑。

【盧生夢】ロセイユノ 富貴功名のはかなきを夢にたとへていふ、邯鄲夢、黃梁夢。

融盥ロウ 盥盥タウ 盥盥タウ 盥盥タウ 盥盥タウ

十二—十五畫

【盪】

ダウ

①山のくま、山のまがりし所。②盪屋は地名(陝西省平安府所在)

【盪】

ダウ

①瀉に同じ、おす(推)つく(突)②うごかす(動)うごく③はなつ(放)④あらふ(滌)心を洗ひ清める⑤大なる貌

【盪舟】タウシユ 手にて水をかき船を押し進めること。

【盪汰】タウタ 洗ひうるほはすこと。

【盪泊】タウハク 水の上にあいよふ貌。

【盪滅】タウメツ 平げほろぼす。

【盪々】タウタウ 廣大なる貌。

【盪擊】タウキツ 水勢のはげしく打合ふ貌。

【盪】

レイ

目部

①め、めだま、めつき、視官、まなこ②みる(視)見あはす、目くばせ、目で合圖す③かど、かてう(條件)こわけ(細別)④かんじんの所、かなめ(要)⑤補佐して明らかに見せしむる者⑥しながら

な、なまへ、となへ(稱號)名を記せしもの、みだし名づける、稱す①人を半ふる者、かしら②國訓さくわん(王朝時代の國司の主典)め(はかり、ます等の刻みめ、茶盤のめ、すきま、采の面の點、すぢのあらはれたる模様、物の界をなす線、めかたの單位、鑑定、齒のならべる物の稱、縦横の線の交つて出來たすき、ありさま、境遇)

【目力】モクリキ 見ぬく力、眼力。

【目下】モクゲ ①たいい、さしあたり②めにした、又我より地位の低き者。

【目代】モクダイ 國司にして任地に赴かぬ時代理せしむる者。

【目今】モクイマ たいい、目下、刻下。

【目汁】モクシユ 目しる、なみだ、泪。

【目次】モクジ 書中の題目の順序、みだし。

【目成】モクセイ めくばせ、目語。

【目的】モクテキ めあて、めど、目ざす所。

【目使】モクシ ①めづかひにて意を通ずること②人を見下げて使役すること。

【目容】モクヨウ まなざし、めつき、めすがた

【目疾】モクシツ 目のやまひ、眼病。

【目前】モクゼン 目の前、さしあたり、眼前。

【目途】モクツ ①みこみ、めあて。

【目送】モクソウ ①見送る②目をつけて人の

行くを見る。

【目耕】モクカウ 王詔之の故事に因み田を耕すやうに讀書して行くこと。

【目賊】モクソク 臺灣にて烏賊。

【目笑】モクセウ 輕侮の意、顔を見合せてひそかに笑ふ貌。

【目時】モクジ 今の時、たいい、目下。

【目睫】モクセツ 目とまつげの間、極めて近い距離。

【目眦】モクシ 目じり、まなじり。

【目語】モクゴ 目でものをいふ、目つきにて意志を通ず。

【目標】モクベウ するし、めじるし。

【目算】モクサン みつもり、目分量、豫じめはかる計算。

【目数】モクスウ ①目に見てかぞへる②しなかず、品數。

【目論】モクロン ①自から知らずして他人の過失を論ずること②いふ③事を企てること、計畫、もくろみ。

【目錄】モクロク ①書籍の題目のみを巻頭に集め掲げたるもの②進物の品を記したるもの③師より門弟に藝術を傳へる階級の初段のもの。

【目斷】モクタン 目の及ばぬこと、見えぬと。

【目擊】モクキツ 擊は動、目の觸れる意にし

て親しく見ること。

【目禮】モクレイ 言語動作によらず目付にて會釋する禮法の一。

【目上】モクヘ 己より地位身分の高き者。

【目方】モクカタ 物の輕重、おもさ。

【目板】モクイタ 板と板の接目に打付けたる幅狭き板。

【目星】モクボシ 目又は注意の義、目星をつける。

【目張】モクバリ 物のすきまを紙にて貼り塞ぐをいふ。

【目附】モクツケ 武家の職掌にして非違を監察し君侯に上申する者。

【目安箱】モクヤスバコ 徳川時代人民より役人の非違を訴へるためその訴狀を投入せしめし箱。

【目的說】モクテキセツ 人の動作性行に伴ふ正邪善惡の區別の標準を研究する倫理說

【目的論】モクテキロン 萬物の存在には皆それ〴〵目的ありとする説。

【目論見】モクロンシ 事をくはだてる、計畫する。

【目食耳視】モクシヨクジシ 外觀をかざるのみにて本來の目的を失ふことに喩ふ。

【目光如炬】モククワウキョウノトシ 目がきらきら光るさま。

【目背盡裂】モクセイコトゴトクサク 目をむき出し てにらみつけるさま。

訓讀

【目を以てす】以レ目(め)をもつてす 目にて知らす、目語す。
【目を側つ】側レ目(め)をよばつ 恐れ憚りて横目にて偷み見る。
【目を寓す】寓レ目(め)をうす 目をつける、注意して見る。
【目を奪ふ】奪レ目(め)をうばふ 目のくらむ程美しきこと。
【目を掩うて雀を捕ふ】掩レ目(め)而捕(とら)む雀(め)を 捕(とら)む雀(め)を捕(とら)む 耳を掩(おほ)ふて鈴を盗むの類にて事を行ふにいたづらに小策を弄(もよほ)ふことをいふ語。

類語

刮目(カクモク) 題目(ダグイ) 條目(ジョウモク) 炫目(ケンモク)
注目(チュウモク) 細目(ホソメ) 書目(ショモク) 綱目(コウモク)
科目(コクモク) 盲目(マウモク) 奏目(ソウモク) 總目(ソウモク)
深目(シンモク) 張目(チヤウモク) 明目(メイモク) 品目(ヒンモク)
指目(シヨウモク) 眺目(テウモク) 眇目(ミョウモク) 單目(タンモク)
黃目(ワウモク) 暉目(クイモク) 比目(ヒモク) 横目(コウモク)
反目(ハンモク) 耳目(コクモク) 面目(コクモク) 十目(ジュウモク)
觸目(シュツモク) 寓目(ウモク) 名目(メイモク)

【四】目と同じ

横目

三畫

盱

盱

盱(ク) みあげる、上を見る。盱みはる、目を張る、又そのさま。盱あわて見る。盱質(質)の貌。喜悅の貌。うれふ(憂)おほいなり(大)草の名、はまにんじん。盱(盱)あわて見る貌。
盱(盱)目を見はり眉をつり上げる。

盲

盲

盲(マウ) ①めくら、めしひ、失明。②くらし(暗)はやし(疾)はげし(茫の假字)風がはやい。③のぞむ(望)。
盲人(マウジン) めくら、めしひ。
盲心(マウシン) 是非善惡を判別し能はざるにふ。
盲生(マウセイ) めくららの學生。
盲目(マウモク) めくら、めしひ、盲人。無學なる人。

【盲判】マウハン 事の仔細を考へず無責任におすはん、めくらばん。
【盲風】マウフウ はやし風、秋の疾風。
【盲啞】マウア めくらとおふし。
【盲從】マウジュウ 是非を判断せずみだりに従ふ。
【盲腸】マウチヤウ 大腸の一部分にして小腸に續くところをいふ。
【盲點】マウテン 眼球の内面にありて視神經の入り来る點。
【盲聾】マウソウ 目の見えざる者、盲人。
【盲聵】マウゴウ 織物の稱、經緯共に紺色の木綿糸にて織りたるもの。
【盲曆】マウリキ 無學者のため繪を以て表示したる曆。
【盲壁】マウカベ 窓の無き壁。
【盲龜浮木】マウキナラボク 目の見えぬ龜が浮び流れてきた木につかまるの意にて思ひがけぬ幸福救助等に言ふ。

類語

晦盲(クワイ) 群盲(グン) 偏盲(ヘン) 瞽盲(コウ)
色盲(シキ) 開盲(カウ) 文盲(モン) 瞽盲(コウ)

直

直

直

直(チヨク) ①なほし、まつすぐ、たゞし(正)正直。②まつすぐにす、のぼす、たゞす、無實の罪をいひらく。③あたる、その場に臨む、相當する。④とのみ、當直、とのみす。⑤たゞちに、ちきに。⑥わざと、ことさらに。⑦ぢか、直接、密接。⑧たゞ、但し。⑨何々のみならずと反りよむ。⑩あたひ物のねだん、あたひす。⑪國訓なほす(匡正す、修繕す、病をいやす)なほる(なほすの自動詞、正しく坐る)。
【直入】チヨクニヤ 躊躇せず入る、一筋に入る(例)單刀直入。
【直上】チヨクジヤウ ①すぐうへ、まうへ。②ひとすぢに上る、ひたのぼりにのぼる。とすぢに上る、ひたのぼりにのぼる。
【直下】チヨクカ ①すぐした、ました。②一直線におりる、ひたおりにおりる。
【直日】チヨクジツ 當直する日。
【直木】チヨクキ まつすぐに立てる樹木。
【直立】チヨクリツ まつすぐに立つ(例)直立不動の姿勢。
【直行】チヨクコウ ①まつすぐに目的地にゆくこと。②直情徑行。
【直言】チヨクゲン 恐れはゞからずまつすぐにいふ。
【直系】チヨクケイ 一直線につゞく血すぢ。
【直角】チヨクカク 互ひに垂直する二線のな

す角度、九十度の角。
【直往】チヨクワウ ①ひたすゝみにすゝむ。②まつすぐにゆくこと。
【直披】チヨクヒ 親展に同じ、親らひらく意。
【直事】チヨクジ 當直に同じ、とのみ。
【直射】チヨクシヤ 光線が一直線にあたる。
【直前】チヨクゼン ①たゞちに進み出づ。②直後の對、すぐ前。
【直音】チヨクオン 文法上にて促音と拗音を除きたる他の音。
【直泉】チヨクセン たてにふき出づる泉水。
【直徑】チヨクケイ さしわたし。
【直躬】チヨクコウ 正直を守りて曲事をなさざる貌。
【直航】チヨクカウ 他に寄港せず直ちに目的地へ航海すること。
【直通】チヨクツウ 一直線にとほる、汽車などにて乗替なしに進むこと。
【直動】チヨクドウ 地殻の垂直に運動すること、即ち地震の上下動。
【直接】チヨクセツ 間接の對、ぢか、ちき。無實の罪を發見して之を裁斷すること。
【直道】チヨクダウ みちを正しく守りて曲げざるをいふ。
【直筆】チキヒツ ①筆を眞直に持つて書く書

法。事實をありのままに書き現はすこと。②本人が直接書くこと。
【直諒】チヨクリヤウ まこと、正直にて正し。
【直稅】チヨクゼイ 直接國庫の收入となる租稅。
【直漢】チヨクカン 正直なる男。
【直腸】チヨクチヤウ 小腸の下端、肛門に近き部分の腸。
【直隸】チヨクレイ 君主又は中央政府より直接の支配を受けること。
【直線】チヨクセン 二線間の最も近き距離を連ねる想像上の線、まつすぐなる線。
【直寫】チヨクシヤ 有のまゝの姿にうつす、人工を施さずしてうつす。
【直諫】チヨクカン はゞからずして諫む。
【直虛】チヨクコ 禁中宿營の曹司・攝政・關白大臣の休息所。
【直轄】チヨクカツ 直接に支配する意(例)政府直轄の地。
【直繩】チヨクジヨウ 正直にして法にかなふ。
【直譯】チヨクヤク 外國文をその文句の通りに譯すること。
【直識】チヨクシキ 直言に同じ。
【直覺】チヨクカク 直接に事物を認識する心理作用。
【直觀】チヨククワン 感官の作用により直接に

外物を經驗して智識を得ること。
【直極】チキトフ 腰以下に縦ひだある著物、後世の僧服。

【直參】チキサン またげらい(陪臣)の對、ちき／＼主君に仕ふる者、すぐの家來、天下の直參とは旗本の如き將軍ちきぢきの家來。

【直渡】チキワタレ 商法に於て賣買契約の成立後直ちに引渡を結了するもの。
【直訴】チキソ 正規の手續をふまずしてちき／＼上に訴ふるをいふ。

【直傳】チキデン 師より直接傳授をうける。
【直談】チキタン 直接當人に會つて話す。
【直衣】チキイ 昔の服装の一。

【直段】チキダン 物のさうば、あたひ。
【直方體】チキホウタイ ましかくな立方體。
【直線美】チキセンビ 男性的な線の美。
【直翅類】チキシキ 昆蟲類の一種。

【直覺說】チキカクセツ 道德的及び宗教的意識を以て心靈的の眞理を直接に感得すべき機關なりとなす説。
【直觀的】チキカクシキ 直接に感覺し得べき實物によるの意。

【直觀說】チキカクセツ 直覺說に同じ。
【直接法】チキカクセツ 文法上の語にて動作の一法、動作をありのままに言ひ切る

もの、受く・歸る等の類。
【直取引】チキトリヒキ 物品交換者の實行々爲が相方同時に發生するもの。

【直系尊族】チキケイソウゾク 祖先より子々相傳して其人に至る間の血族。
【直情徑行】チキジヤウケイコウ 思ふ通り飾ることなく直ちに動作に現はすをいふ。

【直接國稅】チキカクセツコクゼイ 地租・所得稅等の如く直接國庫に納める税金。
【直觀教授】チキカクセツコウジュ 實物を教材として施す教授法。

【直節虚心】チキカクセツシン 竹を形容する語類語
狂直チキキヤク 亮直チキリヤク 敢直チカシク 中直チナチヨク
忠直チユク 曲直チキョク 正直チテイキヤク 司直チシチヨク
清直チセイキ 廉直チレンキ 堅直チケンキ 純直チジュンキ
勁直チキョウキ 當直チトウキ 宿直チシュキ 訥直チネツキ

直

直の俗字

【相】シヤウ サウ
あひ、たがひにみるどだい、し

たちたすく、たすけ、君主をたすけ政治を取しめるもの客をあしらふ者、接待役てびき、盲人を案内するもの、

①人體の骨組、物の形勢物の形勢を察して運命をうらなふこと、その術きねうた、米をつく杵の音に和してらたふうた、又それを歌ふこと②宰相となる、大臣となる。

【相人】サウニン 人相によりて吉凶を判断する者。
【相互】サウゴ したがひに、あひたがひ、ともにく。

【相生】サウセイ 相剋の對、即ち木は火を火は土を、土は金を、金は水を、水は木を生じて吉なりとの説。
【相好】サウコウ 佛語、相貌におなじ、かほすがた。

【相地】サウチ 地相の吉凶を判断す。
【相知】サウチ 相識に同じ。
【相見】サウケン 相あふこと、對面。

【相法】サウハフ 骨相を判断する規則。
【相思】サウシ 互ひに思ひあふ、あひぼれ。
【相者】サウシャ ①うらなひをする人②接待役。

【相府】サウフ 宰相の役所。
【相風】サウフウ 風の方向を知る具、かさみ

【相首】サウシュ 相對して向き合ふ貌。
【相室】サウシツ ①宰相の別名②家令。

【相剋】サウキヤク 五行の運行、相生の對、即ち木は土を、土は水を、水は火を、火は金を、金は木を剋して凶なりとの説。

【相殺】サウサイ 二人同種の債務を負へる場合互ひに談合してその債務を免れる方法②双方差引勘定すること。

【相眞】サウシン 無證なる者を諷刺する語。
【相傳】サウデン 代々ゆづりつたふ。
【相違】サウイ ちがひ、ちがふ、彼と是とちがふ。

【相業】サウゲフ 天子を輔佐する宰相の業。
【相術】サウジュツ 人相を観る方術、骨相學。
【相場】サウバ ①その時のねだん、時價②現物の取引にあらず時價の高下によつて行ふ取引賣賣。

【相對】サウタイ 絕對に對する語、比較的又は關係的等の意にして相對するものあること。
【相當】サウタウ ①優劣なきさま②相應じて釣合ふ。

【相貌】サウバウ 相好に同じ。
【相談】サウタン はなしあひ、又話し合ふ。
【相撲】サウボク 角力に同じ、我國特有の體術、すまふ。

お

【相應】サウオウ 相當に同じ。
【相識】サウシキ 互ひに知り合ふ人②知人友人。
【相續】サウジツク 家名財産などを承けつぐ、家督相續。

【相才】サウサイ 大臣としてのはたらき。
【相公】サウコウ 大臣・宰相。
【相印】サウイン 宰相の印、支那にては官に任じたるしるしに印を賜ふこと、我國の辭令書の如し。

【相伴】サウバン 饗應の時主人役を助け客の相手となること。
【相門】サウモン 大臣宰相の家がら。
【相國】サウコク 秦の時始めて置きし官名百官の長にして我が國の太政大臣に相當す。

【相器】サウキ 大臣宰相となるべき人物。
【相手】サウテ 對手、むかふ者。
【相物】サウモノ 鹽漬にしたる魚。

【相嫁】サウイメノ 夫の兄弟の妻を稱す。
【相聲】サウセイ 妻の姉妹の夫をいふ。
【相思病】サウシビヤク 相思は異性が互ひに思ひ合ふこと、戀わづらひ。

【相思蠟】サウシラ 貝の名、すがひ。
【相輪塔】サウリンタフ 相輪陀羅尼の説に基きてたてし塔。

【相坐之法】サウザノハフ 一人罪ある時は全家族を刑にあてる捉、連坐法ともいふ。
【相互感應】サウゴカンオウ 一輪道中に電流を通ずるとき他の輪道中に之と反對の方向の感應電流を起し、その電流を中斷する時は同方向の感應電流を起すことをいふ。

【相對賣買】サウタイバイ 公定相場によらず賣買の兩者が直接に決定する取引。
【相對性理論】サウタイセイリロン あらゆる自然法則は絕對的のものなりとの説に反對したとへ自然法則に絕對性を假定すともそれは考察の如何によりて相異なることを述べたる説。

類語
皮相サウヒ 奇相サウキ 骨相サウコウ 傳相サウデン
聖相サウセイ 賢相サウケン 勵相サウレイ 眞相サウシン
宰相サウサイ 臺相サウタイ 公相サウコウ 輔相サウブ
善相サウゼン 守相サウシュ 實相サウジツク 觀相サウカン

盼

ケイ
①にらむ(怨みを含みて見る)又そのさま②かへりみる、顧視する

【盼】ハン ハン

【木の名】目の黒白がはつきりとわか
れ愛らしき目【みる(視)】め、まなこ
【かへりみる(顧)】よこめて見る

盾

盾 ジュン トン
盾 ドン

【武器の名、たて】人の名

明

明 メイ ミヤウ

あきらか、あきらかに見る

省

省 セイ シヤウ

者

【かへりみる、よくみる、注意して見
る、自己に立ちかへつて考へる、たづ
ねる】あきらか(明)【あやまち(過失)】
【はぶく、去る、のぞく(除)】へらす
少くす、節減す【役所、官衙】行政上
の地方の區別【内閣を組織する中央政
府の役所】

者

【省文】セイラン 【省略したる】

【省悟】セイゴ 【かへりみてさとること】

【省問】セイモン 【訪問して安否を問ふこと】

【省減】セイケン 【はぶきへらす】

【省筆】セイヒツ 【點畫を省略した漢字】
【省察】セイサツ 【十分に考へる】自分の行
ひを振りかへり見て自から戒めると。
【省試】セイシ 唐代の官吏登用試験。
【省令】セイレイ 各省より發する命令。
【省略】セイリョウ 【はぶく、へらす】
【省線】セイセン 國有線路の省略、又省線
電車の略。

【眇視】ベシシ 【ながしめに見る】

眇

眇 ハン

戦國時代の人名

【宮省】キョウセイ 禁省
【三省】サンセイ 内省
【熱省】ネツセイ 澄省
【儉省】ケンセイ 歸省
【太省】タイセイ 大省
【損省】ソンセイ 損省
【簡省】カンセイ 簡省
【略省】リョクセイ 略省
【修省】シウセイ 修省
【刪省】センセイ 刪省
【巡省】ジュンセイ 巡省

眇

眇 シ

【みる(見)しめす(示)】

眇

眇 ベン メン

【みる、片目を閉ちて見る、ながしめ
にみる】ながめる、かへりみる【よこ
めにてにらむ】意を通はせて傾く【鏡
ぬ、交情の善からぬこと】にいふ。
【眇視】ベシシ 【ながしめににらむ】

眇

【すがめ(一方の目の小なるもの)】
【かち、かため(一目盲なる者)】
【まか(細)】【すそ(末)】【ちひさし(微)】
【とほし(遠)】【つくす(盡)】【はるか(遠)】
【たかし(高)】【なす(成)】【たへ(精緻)】
【みる、目を細くして見る】

とし足なへが遠く行かんとする義にて
力足らざる者の強いて事を行ふの危き
をいふ。

類語

要眇 ベウ 幻眇 ベン 杳眇 エウ 鴻眇 ベウ
微眇 ベウ 玄眇 ベン 幽眇 エウ 至眇 ベウ

眈

眈 タン

眈

【みおろす、ねらひ見る】たのしむ
【眈々】タンタン ねらひ見るさま。

眉

眉 ビミ

眉

【まゆ、まゆげ】毛長き眉【老人の異
稱】ふち、はた
【眉月】ビゲツ みがづき、三日月。
【眉目】ビメク 【眉と目、みめかたち】至
つて近きことのたとへ。
【眉宇】ビウ ひとひのあたり。
【眉軒】ビケン 意氣の盛んなるさま。
【眉雪】ビセツ 眉毛の雪の如く白きをいふ
老人の異稱。
【眉蹙】ビソウ 【まゆげとまつげ】事物の
接近せる貌【人を相する者の見る所】
【眉壽】ビジュ 眉毛が白くなる程命長し、

長命者を祝するにいふ語。
【眉黛】ビタイ まゆずみ、眉を畫くすみ。
【眉間】ミケン 眉と眉との間。
【眉庇】マヒ 窓の上のせまき庇。
【眉尖刀】ビセンノウ ながなた、薙刀。
【眉目如畫】ビメクニガクゴトシ 顔の美しきを
形容する語。

訓讀

【眉を揚ぐ】揚眉 意氣の盛んに
ふるひ起るさま。

類語

白眉 連眉 修眉 曲眉
毫眉 列眉 雙眉 秀眉
低眉 蛾眉 柳眉 愁眉

類語

老眇 昏眇 昏眇 耗眇

看

看 カン

看

【みる、手をかざして】

【見る、みまもる、注意して見る、ながめ
る】もてなし、あしらひ、待遇
【看守】カンシユ 【見張りまもる、見はり番】
【看板】カンバン 【興行物の外題・役者の名
等を記したる札】商家のかけ札【主家
の紋所又は家號を記したる法被】
【看的】カシキ 【射撃の時的の傍に在りて命
中せしや否やを檢查すること】

【看門】カシメン 門番、門衛。
【看客】カシヤク 見物人、観客。
【看々】カシカシ みる／＼うちに、漸くに。
【看病】カシヤク 病人の介抱をすること。
【看書】カシショ 本をよむ、讀書。
【看破】カシパ 見ぬく、見やぶる。
【看過】カシカツ みすごす、みのがす。
【看視】カシシ 見はり、又その人。
【看殺】カシツツ 【見ること(殺は助字)】見
ころしにすること。
【看經】カシケン 經文をよむこと。
【看護】カシゴ 看病に同じ。
【看做】カシス 眞實を知らず假想の事に向
つて下す斷定。
【看病夫】カシヤク 病人を看護する人。
【看護卒】カシゴツツ 軍隊にて兵士の病傷者
を看護する兵卒。

睦

ボク

睦

①つむしむ(敬)②うや／＼し(恭)③やはらぐ(和)むつぶ、むつまじく④したしむ(親)仲がよい⑤よし(好)⑥あつし(篤)

【睦友】ボクイウ 兄弟のむつまじきをいふ、俤友。

【睦親】ボクレン ①あつくしたしむ②近親と同意。

【睦月】ムツキ 陰曆正月の異名。

【睦言】ムツゴト ①むつまじく語る②夫婦和合して語る。

類語

友睦【ボクイウ】 蕭睦【ボクイウ】 恭睦【ボクイウ】 親睦【ボクイウ】 敦睦【ボクイウ】 慈睦【ボクイウ】 和睦【ボクイウ】 輯睦【ボクイウ】

睨

ゲイ

睨

①にらむ、ながしめに見る、ねめつけ②目斜めなり③うかゞひ見る

睽

エキ

睽

①ねらふ、うかゞひ、うかゞひ見る(窺)

睦

セフ

睦

【視】①たまふ(給)②ひく(引)③うまる(生)④このむ(好)⑤澤に同じ、さは

睽

ケイ

睽

①にらみあふ②互ひに不快に思ふ、反目する、そむく、又そのさま③はづす(外)④易の卦の名⑤目をみはる貌

睽

ケイ

睽

【睽孤】ケイコ そむきはなる、孤立。 【睽々】ケイケイ 目をみはるさま。 【睽疑】ケイギ 互ひに疑ひあふこと。 【睽乖】ケイワイ そむきはなる。 【睽違】ケイワイ そむく、たがひはなる。 【睽離】ケイリ そむく、そむき去る。 【睽睽】ケイケイ そむきみる、相反目す。

睽

カウ

睽

①さは(澤)②こと／＼く(盡)③ひろし(廣)④おほいなり(大)⑤きんたま(睽丸)男子生殖器の一⑥つや／＼し(睽丸)カウクワン きんたま、陰囊中にある球状のもの。

睽

エイ

睽

①あきらか(明)②ふかし(深)③かしこし、さとし(智)④天子の事物に冠する敬語⑤物事の理に明るし、ひじり(聖) 【睿智】エイレイ 天子の御心、御旨。 【睿知】エイチ 道理に明るくてかしこし。 【睿明】エイメイ 徹に通じ明かなり、すぐれて賢きこと。 【睿哲】エイテツ すぐれてさとし、又其人。 【睿藻】エイソウ 天子の作り給ふ詩歌、御製。 【睿智】エイチ すぐれて賢明なること。 【睿感】エイカン 天子の御感、御感。 【睿聖】エイセイ 天子のすぐれて賢明にあらせらるること。 【睿聞】エイブン 天子の御耳に達すること。 【睿圖】エイト 天子の御はかりごと。

瞽

ボウ

瞽

①くらし(不知)目が明かでない、智識に乏しい②みだる(亂)③よく見えぬさま④物を見るにくらみ易きこと⑤つゝしみて正視せざる貌⑥とりめ(雀瞽) 【瞽病】ボウビヤウ 物を見るとき目のくらみ易き病。

瞽

ボウ

瞽

【瞽迷】ボウメイ 智足らずして迷ふ。 【瞽々】ボウボウ よく見えぬ貌。 【瞽亂】ボウラン 亂れること。

類語

交瞽【ボウカウ】 狂瞽【ボウキヤウ】 眩瞽【ボウケン】 昏瞽【ボウコン】 闇瞽【ボウアン】 昧瞽【ボウマイ】

瞽

シン

瞽

①かため、めつちかち②めくら(盲目)めしひ

瞽

カフ

瞽

①いからす②いかる(怒)怒つて目をむく③盛んなる貌④目を低るゝ貌 【瞽目】カフメ ①まなこを怒らす②角立たる目③勇氣をふるひ張る貌。 【瞽怒】カフド いかる、瞽志。 【瞽恚】カフキ いかりうらむこと。 【瞽瞞】カフマン いかりのゝしる貌。 【瞽瞞】カフマン 怒りにらむ。 【瞽瞞】カフマン 瞽瞞に同じ。 【瞽瞞】カフマン 瞽瞞に同じ。 大いに勇氣を鼓舞するにいふ語。

瞽

ソウ

瞽

①めくら、めしひ②叟に通ず、長老の稱 【瞽瞍】ソウモウ 目の見えざる者、めくら。

瞽

カツ

瞽

①かため、めつちかち②めくら(盲目)めしひ 【瞽子】カツシ めくら、盲目。

瞽

ケイ

瞽

①おどろき見る、みつむ(凝視)②うれふ(憂)③たよる所なし、ひとりぼつち

瞽

メイ

瞽

①目のくらきこと、目がよく見えぬ、目明らかならず②あはす、目をつぶる、目をとぢる③くらし(昏)くらむ、目くらむ④うかぶ、安心して死ぬ⑤ねむる安らかにねむる

瞽

メイ

瞽

【瞽目】メイメク ①目をふさぐ、死ぬこと②うかぶ、安心して死ぬこと。 【瞽瞍】メイソウ 夜の雪。 【瞽瞍】メイソウ 目がくらむ、又めまひ。 【瞽瞍】メイソウ まなこくらし、めくら。 【瞽々】メイメイ よく見えざる貌。 【瞽濛】メイモウ 霧などのかゝりたる貌にいふ、くらし。

瞽

メイ

瞽

①一目盲せる兒、かための子②物の一面のみを見て他面を見ざるにいふ

瞻 シ
みる、順次に見る

瞽 エイ
眼の疾、目かすむ、かすみ

瞶 シユン
また、く、また、き

瞞 パン マン
モン ボン
なみ目、ひらめ

瞞 マンセン 愧ぢる貌。
瞞々 マンマン はつきり見えぬさま。
瞞著 マンチャク 目をくらます、だます、ごまかす。

瞠 タウ ダウ
みはる(直視)驚きて目をみはる

瞠々(凝視)あきれて見るさま
瞠若(驚愕)次と同じ。

瞭 レウ
あきらか(明)目がよく見える、判然とよくわかる

瞭然(レウゼン)あきらかなる貌、はつきりせるさま(例)一目瞭然たり。
瞭眊(レウバウ)明らかなること、暗きこと
瞭察(レウサツ)明らかに見る、見ぬく。

瞶 カン
白目の多き目

瞶目(カクモク)片目の白き馬
瞶々(カクカク)高き所よりねらひうつ貌。
瞶視(カクシ)みくだす、みおろす。
瞶臨(カクリン)見おろすこと。

瞰 カン
みる(視)見おろす

瞰下(カクカ)みおろす。
瞰射(カクシャ)高き所よりねらひうつ貌。
瞰視(カクシ)みくだす、みおろす。
瞰臨(カクリン)見おろすこと。

類 語

瞶 タウイ 驚きて目をみはる、あきれて見つめる。
瞶々(タウタウ)驚きて目をみはる貌。

瞽 ボウ ム モウ
ゆめ(夢)くらし、目が明かでない

分明でない
瞽々(ボウボウ)恥ぢる貌。
瞽然(ボウゼン)分明ならざる貌。
瞽々(ボウボウ)光明なくくらさま。

十二畫

瞽 ヘツ ベツ
わづかに見る、ちらりと見る、又そのこと

瞽見(ベツケン)ちらりと見る。
瞽觀(ベツクワン)前に同じ。

瞠 タウ チャウ
みつむ、正面より見る、直視す

瞠々(タウタウ)正面より見る、直視す

瞠 トウ ドウ
ひとみ、眸子無心に

瞠子(トウシ)ひとみ、童子。
瞠孔(トウコウ)前に同じ。
瞠睛(トウセイ)同上。
瞠瞳(トウトウ)①日明らかにならんとする貌
②日の出、拂曉。

瞻 セン
みる、みわたす、みやる、望見

瞻仰(センヤウ)あふぎしたふ。
瞻望(センバウ)①遙かに望む
②教し慕ふこと
瞻視(センシ)見る、又その目つき。
瞻慕(センボ)思ひしたふ、尊びしたふ。

瞻 セン
みる、みわたす、みやる、望見

瞻仰(センヤウ)あふぎしたふ。
瞻望(センバウ)①遙かに望む
②教し慕ふこと
瞻視(センシ)見る、又その目つき。
瞻慕(センボ)思ひしたふ、尊びしたふ。

類 語

瞬 シン
深く視る

瞬目(シュンボク)見下ろす、目を低れて見る
瞬々(シュンシュン)また、く、また、きをす

瞬息(シュンソク)また、く時間とひといきする時間、わづかの時間のこと。

瞬時(シュンジ)瞬刻に同じ。
瞬間(シュンカン)また、きをすするひま、極めてわづかの時間にいふ、一瞬間。
瞬視(シュンシ)また、きをして見る。
瞬膜(シュンマク)眼瞼と眼球との間にありて眼球を蔽ふ膜。

瞬間(シュンカン)また、きをすするひま、極めてわづかの時間にいふ、一瞬間。
瞬視(シュンシ)また、きをして見る。
瞬膜(シュンマク)眼瞼と眼球との間にありて眼球を蔽ふ膜。
瞬間(シュンカン)また、きをすするひま、極めてわづかの時間にいふ、一瞬間。
瞬視(シュンシ)また、きをして見る。
瞬膜(シュンマク)眼瞼と眼球との間にありて眼球を蔽ふ膜。

瞽 カン
みる(視)見おろす

瞽目(カクモク)片目の白き馬
瞽々(カクカク)高き所よりねらひうつ貌。
瞽視(カクシ)みくだす、みおろす。
瞽臨(カクリン)見おろすこと。

瞽 カン
みる(視)見おろす

瞽下(カクカ)みおろす。
瞽射(カクシャ)高き所よりねらひうつ貌。
瞽視(カクシ)みくだす、みおろす。
瞽臨(カクリン)見おろすこと。

瞽 カン
みる(視)見おろす

瞽下(カクカ)みおろす。
瞽射(カクシャ)高き所よりねらひうつ貌。
瞽視(カクシ)みくだす、みおろす。
瞽臨(カクリン)見おろすこと。

類 語

【瞽者】コシヤ めくら、盲人。
 【瞽瞍】コシヤ 舜の父の名、愚かなりし故この名ありといふ。
 【瞽瞍】コシヤ 瞽言に同じ。
 【瞽瞍】コシヤ 瞽前に同じ。

類語

狂瞽コシヤ 愚瞽コシヤ 瞽瞍コシヤ

瞿

ク

①驚き見る貌②いそがしく見廻る貌
 ③目を張り見詰る貌④つゞまやかなる貌⑤志の守る所なき貌⑥おそる(懼)⑦鳥の名⑧衝に通ず、まぢ⑨戟に通ず、ほこ

瞶

ク

【瞶然】クゼン 驚然に同じ、驚き見る貌。
 【瞶眇】クバツ ながむ、目をつけて眺める見の貌②望みを囑して期待する貌。
 【瞶々】クツク つゞまやかなるさま③それはほこして見廻すさま。
 【瞶曼】クツン ほとけ、瞶曼學は佛學。

瞷

ク

【瞷然】クゼン 驚然に同じ、驚き見る貌。
 【瞷眇】クバツ ながむ、目をつけて眺める見の貌②望みを囑して期待する貌。
 【瞷々】クツク つゞまやかなるさま③それはほこして見廻すさま。
 【瞷曼】クツン ほとけ、瞷曼學は佛學。

十四—十六畫

瞹

ボウ モウ

①めくら、めしひ②くらし(暗)③物事の道理を辨別する智力なきこと、又其者、あきめくら
 【瞹昧】モウマイ ①めくら②字解の③に同じ
 【瞹瞶】モウボウ 目がぼんやりして見えぬと
 【瞹々】モウモウ 暗くして明らかならざる貌
 【瞹昧主義】モウマイシユイ 人文の進歩は現存の信仰及び制度に危険なる結果を及ぼすとの誤解に反対する主義。

瞷

ヒン

しかむ、顔に皺をよせる

瞸

クワク

①おどろき見廻す、又そのさま、あはて見る②元氣がよくて動作の軽き貌、老人の元氣あるさま
 【瞸々】クワククワ 驚き見まわすさま。
 【瞸眇】クワクシヤ ①おどろきうごく貌②あわて見る。
 【瞸深】クワクシヤ ①輕健なる貌②年老いて

瞽

カク

元氣衰へざる貌。
 つぶす、目をつぶす、失明させる

十九—二十一畫

瞿

パン

①目の美しきさま②みる(視)③みる(被)からむる

瞽

チク トク チウ シユク チョク

①ひとし(齊)②なほし(直)直立するさま③さかんなり(盛)草木がさかんに生える④高くそびえ立つさま
 【瞽々】チクチク 高くそびえる貌。

瞶

カン

うかゞふ、のぞく、ひそかにみる

瞷

シヨク

①みる(視)心をとめて見る②みつむ、

目をつける

【瞷目】シヨクモク ①ながむ、目をつけて眺める見の貌②望みを囑して期待する貌。

類語

下瞷シヨク 瞷瞷シヨク 瞷瞷シヨク 瞷瞷シヨク
 瞷瞷シヨク 瞷瞷シヨク 瞷瞷シヨク 瞷瞷シヨク

矛部

矛

ボウ ム

ほこ、長柄の頭に刀をつけたる武器
 【矛又】ボウナ ①ほことさすまた②單にさすまたともいふ。

【矛戈】ボウクワ ほこ、兵器の一。
 【矛出】ボウシュツ 矛を出す爲に設けたる孔
 【矛戟】ボウキツ ほこ(戟は兩枝ある兵器、矛は單枝の兵器)。
 【矛鏃】ボウサツ 兵器、矛のこと。
 【矛鏃】ボウサツ 兵器、ほことつるぎ。
 【矛盾】ムシユン ①ほことたて②前後一致せず撞著するにいふ。
 【矛楯】ムシユン 前に同じ。

類語

夷矛ボウ 酋矛ボウ 戈矛ボウ 蛇矛ボウ

矛部 矛 (四畫) 矜

矜矜

四畫

矜

キン ゴン コン

矜

①矛の柄②おごそか(莊)③くろしむ(苦)かなしむ④あはれむ(憐)⑤つゝしむ(敬)うやまふ⑥をしむ(惜)⑦ほこる(誇)⑧たふとぶ(尙)たつとむりあやぶ(危)⑨そばだつ(聳)⑩にはか(邁)⑪堅くして強し⑫やむ(病)⑬鯨に通ず、やもめ、やもを

【矜大】キョウダイ ほこりおぼること。
 【矜伐】キョウバツ じまんする、ほこる。
 【矜式】キョウシキ ちやまひ手本とする。
 【矜負】キョウフ 己が才力にたのみほこる。
 【矜持】キョウヂ 偉大ぶる、ほこる。
 【矜尙】キョウシヤウ 高ぶる。
 【矜育】キョウイク あはれみ育てる。
 【矜泰】キョウタイ おごりたかぶる。
 【矜々】キョウキョウ 堅くつよき貌、又落つきて動ぜざる貌。

【矜勉】キョウベン つゝしみはげむさま。
 【矜莊】キョウシヤウ おごそかなる貌。
 【矜貴】キョウキ 自らほこりたかぶる。

【矜恤】キョウシツ あはれみ育てる。
 【矜持】キョウヂ 偉大ぶる、ほこる。
 【矜尙】キョウシヤウ 高ぶる。
 【矜育】キョウイク あはれみ育てる。
 【矜泰】キョウタイ おごりたかぶる。
 【矜々】キョウキョウ 堅くつよき貌、又落つきて動ぜざる貌。

元氣衰へざる貌。

つぶす、目をつぶす、失明させる

十九—二十一畫

瞽

パン

①目の美しきさま②みる(視)③みる(被)からむる

瞽

チク トク チウ シユク チョク

①ひとし(齊)②なほし(直)直立するさま③さかんなり(盛)草木がさかんに生える④高くそびえ立つさま
 【瞽々】チクチク 高くそびえる貌。

瞶

カン

うかゞふ、のぞく、ひそかにみる

瞷

シヨク

①みる(視)心をとめて見る②みつむ、

矜恤

【矜恤】キョウシツ あはれみ育てる。
 【矜救】キョウキウ あはれみ助く。
 【矜球】キョウキウ ほこりて分を越える貌。
 【矜誇】キョウキウ おごり高ぶる。
 【矜愍】キョウミン あはれむ、あはれみ。
 【矜滿】キョウマン おごりほこる。
 【矜滿】キョウマン 高ぶりてほしいまゝなり
 【矜憐】キョウレン 矜愍に同じ。
 【矜憐】キョウレン 困窮せる者を助け救ふ。
 【矜憐】キョウレン 矜愍に同じ。
 【矜憐】キョウレン 矜憐に同じ。
 【矜憐】キョウレン 矜憐に同じ。
 【矜憐】キョウレン つゝしみ深く眞面目なり
 【矜競】キョウキョウ 才能をほこりて優劣をきそふ。

【矜顯】キョウケン あはれみよる。
 【矜顯】キョウケン おごりたかぶる。
 【矜寡】キョウカ かもめとやもを、矜は老ひて妻なし、寡は老ひて夫なし。
 【矜獨】キョウドク 不動明王の左脇に居る侍者。

【矜顯】キョウケン あはれみよる。
 【矜顯】キョウケン おごりたかぶる。
 【矜寡】キョウカ かもめとやもを、矜は老ひて妻なし、寡は老ひて夫なし。
 【矜獨】キョウドク 不動明王の左脇に居る侍者。

【矜顯】キョウケン あはれみよる。
 【矜顯】キョウケン おごりたかぶる。
 【矜寡】キョウカ かもめとやもを、矜は老ひて妻なし、寡は老ひて夫なし。
 【矜獨】キョウドク 不動明王の左脇に居る侍者。

【矜顯】キョウケン あはれみよる。
 【矜顯】キョウケン おごりたかぶる。
 【矜寡】キョウカ かもめとやもを、矜は老ひて妻なし、寡は老ひて夫なし。
 【矜獨】キョウドク 不動明王の左脇に居る侍者。

【矜顯】キョウケン あはれみよる。
 【矜顯】キョウケン おごりたかぶる。
 【矜寡】キョウカ かもめとやもを、矜は老ひて妻なし、寡は老ひて夫なし。
 【矜獨】キョウドク 不動明王の左脇に居る侍者。

【矜顯】キョウケン あはれみよる。
 【矜顯】キョウケン おごりたかぶる。
 【矜寡】キョウカ かもめとやもを、矜は老ひて妻なし、寡は老ひて夫なし。
 【矜獨】キョウドク 不動明王の左脇に居る侍者。

【矜顯】キョウケン あはれみよる。
 【矜顯】キョウケン おごりたかぶる。
 【矜寡】キョウカ かもめとやもを、矜は老ひて妻なし、寡は老ひて夫なし。
 【矜獨】キョウドク 不動明王の左脇に居る侍者。

【矜顯】キョウケン あはれみよる。
 【矜顯】キョウケン おごりたかぶる。
 【矜寡】キョウカ かもめとやもを、矜は老ひて妻なし、寡は老ひて夫なし。
 【矜獨】キョウドク 不動明王の左脇に居る侍者。

七—八畫

〔稍〕

ほこ、周尺にて一丈八尺の矛、騎兵の持つもの

〔稽〕

ほこの類(刺)さす(刺)

矢部

〔矢〕

①ヤロカづとり(投壺の籌)②つらぬ(陣)③ほどこす(施)④ちかふ(誓)⑤なほし(直)⑥たゞし(正)⑦くそ(屎)

〔矢人〕レジン 矢をつくる工人。
〔矢丸〕レダマ 矢と弾丸、やだま。
〔矢石〕レシタ 矢と弩の石、轉じて戦争。
〔矢言〕レシケン ちかひのことば、誓言。
〔矢壺〕レシコ 矢を入れて背に負ふもの、やなぐひ、えびら②矢を放つ手頃の距離。
〔矢誓〕レシイ 矢言に同じ。
〔矢儀〕レシイ 矢のね、やじり。

矢

〔矢文〕ヤフイ ①矢につがへて送る手紙②たゞみかけて送るてがみ。

〔矢立〕ヤタテ 腰につける墨つぼ。

〔矢竹〕ヤタケ 矢の幹にする竹。

〔矢叫〕ヤサケビ 戦争のさわぎ。

〔矢束〕ヤツカ 矢の長さの稱呼にて一握したるだけの長さを束といふ。

〔矢面〕ヤオモテ 飛び来る矢に向ふ形容(例)矢面に立つ。

〔矢管〕ヤハズ 矢のはしの弦をかける所。

〔矢来〕ヤライ 木や竹にてつくりし櫛。

〔矢矧〕ヤギ 矢を作ると、又其工人。

〔矢頃〕ヤゴロ ①矢のとゞく遠さ②弓をひきしぼり將に放たんとする程合ひ。

〔矢庭〕ヤニハ ①弓をいれる所②直ちに、たちどころに。

〔矢袋〕ヤツスマ 矢の連り飛び来りてふすまを張りたる如く隙間もなきさま。

〔矢張〕ヤハリ そのまゝ、なほ、依然、元の如く等の意。

〔矢場〕ヤバ ①弓をいれる所②弓を射る所に装ひ密淫賣をするところ。

〔矢開〕ヤビキヤ 始めて弓を射ること。

〔矢口祭〕ヤダチノマツリ 將軍が狩獵の時山の神を祭ること。

〔矢大臣〕ヤダイジン 居酒屋にて樽にこしか

けて酒をのむ人。

〔矢狭間〕ヤヤマ 城壁中に設けたる眼孔。

〔矢催促〕ヤノオイツク しきりに迫りてうながす状をいふ。

類語 鳴矢シヨウ 馬矢バ 金矢シヤ 弧矢シヨウ 弓矢シユウ 東矢シヨク 流矢シヨウ 蓬矢シヨウ 枉矢シヨウ 飛矢シヨ

二一三畫

〔矣〕

イ 矣

①文の終に用ゐて断定の意をあらはす助辭②疑問の意に用ゐる字③焉に同じく「これより」の意を表はす④他の助字に冠し感嘆の意を現はす⑤句倒法の句中に挿入する語⑥一般に句中に用ゐる字

〔知〕

チ 知

①しる、感づく、自體に感ず②さとする心得て居る、見わけれる③したしむ(親)ちかづく④たぐひ(匹)⑤耳目の感情⑥おぼえ、記憶⑦つかさどる(主)⑧をさ

訓讀 〔知を弄す〕弄レ知(ちを弄す) みだりに才知をふりまはして高ぶる。

〔知を舞はす〕舞レ知(ちを舞はす) 前に同じ。

類語

心知シヤ 多知チカ 生知シヤ 前知チヤ 先知チヤ 後知チコウ 良知チヤウ 見知チケル 聞知チヤン 眞知チヤン 新知チヤン 舊知チヤウ 精知チセイ 微知チウウ 朋知チヤウ 靈知チレイ 承知チヤウ 通知チヤウ 報知チヤウ 豫知チヤウ 故知チカ

四一五畫

〔矧〕

シン 矧

①いはんや(況)まして②はぐき(斷)③國訓はぐ(矢竹に羽をはめて矢を造る)

〔矧笑〕

シシヤ 齒を露はして笑ふ貌。

〔矧侯〕

矧侯に同じ

矧

める①よき待遇②まじはり、交遊、友人、ちかづき③知事の略、州縣の長

〔知了〕チリウ 知りつくす、さとりきる。

〔知人〕チジン 知り合ひ、しるべ、友人。

〔知己〕チキ しるべ、知人、我をよく理解せる人を稱す。

〔知友〕チイウ 心をよく知れる人、友人。

〔知行〕チカウ ①知識と行爲②領地、采邑。

〔知名〕チチヤ 名を知られし人、名高き人。

〔知見〕チケン 知慧と見識の併稱。

〔知言〕チゲン ①人の言論の眞意をさとり心術を見きはめる②物の道理に適ひたる言③筋の通つた説。

〔知足〕チツク 満足して食らぬこと。

〔知者〕チシヤ 事理をさとれる人。

〔知命〕チメイ 五十の年齢。

〔知府〕チフ 府の長官(我國になし)。

〔知音〕チイン 我をよく理解せる人、伯牙の故事に因み親密なる友のこと。

〔知得〕チトク ①しる、辨知する。②の故事に因み親密なる友のこと。

〔知事〕チジ 事務を主宰するの意にして府縣の長官をいふ。

〔知悉〕チシツ シリつくす、くはしく知る。

〔知遇〕チユウ 人物を辨知して待遇する意

〔知照〕チセウ かけあふ、照會す。

〔知縣〕チケン 支那にて縣の長官。

〔知辨〕チベン 主宰して處理する意。

〔知曉〕チキウ ①さとり知る、明らかにしる②夜の明けんとすることを知る。

〔知識〕チシキ ①知る、認識、又知られてある内容②智學すぐれたる俗。

〔知覺〕チカク ①五官により外界の事物を知る作用②知りさとる、又かんじ。

〔知仁勇〕チジンユウ 道を知ること、行ふこと、つよめること。

〔知死期〕チシキ 生年月によつて人の死期を豫知すること。

〔知識慾〕チシキヨウ 知識を求めんとする人類の本能。

〔知更雀〕チモドリ 鳥の名。

〔知行合一〕チカウガイツ 明の王陽明の唱へし主義にして言行一致を徳の本とする意。

〔知者不レ惑〕チシヤバマドク 知者は理義に通じてみだりに迷はぬ。

〔知者不レ言〕チシヤハイズ 才智ある者は妄りに多言せず。

〔知レ足安レ分〕チリツクヤンブン 與へられしものに満足して身の分限に安んじくらすこと。

〔知レ雄守レ雌〕チリウシウシヨメ 資質聰明にして能く謙遜するの意。

①かね、さしがね(方を正す具)②かど(廉)③のり(儀)おきて(法)つね(常)きまり④さむ(刻)

【矩方】タハツ 眞四角、正方形。
【矩形】タケイ ますがた、長方形。
【矩券】タケン あてがふべきのり、手本。
【矩度】タド ①動作の紀律②のり、おきて。
【矩象】カザリ 地球と太陽を結合する直線と地球と月とを結合する直線とが直角をなす時をいふ。
【矩墨】タボク さしがねとすみなは。
【矩繩】タジヨウ 曲尺とすみなは、轉じて法律規則。

類語
規矩クキ 規矩クキ 高矩クキ
儀矩クキ 意矩クキ 師矩クキ 成矩クキ
方矩クキ 方矩クキ 前矩クキ 度矩クキ
專矩クキ 遺矩クキ 後矩クキ

七一八畫

短

みじかし(短)身のたけがひくい、物のたけがひくい

短

タン

短

①みじかし、たけが少い、久しく續かぬ、たらぬ、背がひくい、あさはか、乏しい、にぶい、又それ以上のこと②わかじに(天死)③そしる(誹)④あやまち
【短刀】タンドウ 短き刀、匕首・脇差の類。
【短小】タシヤウ ①みぢかく低い②背が低い
【短才】タシヤウ 能力の劣れると、又その人。
【短古】タシヤウ 古詩の句数の少きもの。
【短世】タシヤウ わかじに、天逝。
【短冊】タシヤウ ①細長き紙に字をしるして物のしるしにつける物②和歌・俳句等を記す料紙。
【短兵】タシヤウ 短かい兵器、刀劍類。
【短見】タシヤウ あさはかなる見識、淺見。
【短折】タシヤウ 短世に同じ。
【短命】タシヤウ 前に同じ。
【短後】タシヤウ うしろの短き作業服。
【短計】タシヤウ つたなきはかりごと。
【短氣】タシヤウ ①氣質の性急なること、氣みぢか②力を落す、落膽する。
【短促】タシヤウ ちぢめせばめる。
【短履】タシヤウ 臨時のやとひ、當座の履ひ。
【短袴】タシヤウ たけの短かきはかま。

【短長】タシヤウ ①長所と短所②長命と短命③戦國時代の合縱連衡の説、即ち彼に越くは短、之に歸するは長とするの意④單に長所の義に用ふ。
【短筆】タシヤウ つたなきふで、詩歌文章等の拙なるをいふ。
【短視】タシヤウ ちかめ、近視眼。
【短處】タシヤウ 缺點、おちど、きず。
【短策】タシヤウ 驛に行くちかみち。
【短暮】タシヤウ 日がみぢかい。
【短評】タシヤウ 簡單なる批評又は評論。
【短期】タシヤウ 短かき日ぎり、短期日。
【短策】タシヤウ つたなきはかりごと、拙策。
【短程】タシヤウ ちかき距離。
【短裾】タシヤウ 賤者の服、たけみぢかきあしぬのきもの。
【短莖】タシヤウ たけのみぢかきみの。
【短槍】タシヤウ てやり、柄の短き槍。
【短綆】タシヤウ 短かきつるべ繩。
【短歌】タシヤウ みぢかき歌、三十一文字の歌、和歌。
【短艇】タシヤウ こぶね、ボート。
【短銃】タシヤウ ヒストル、拳銃。
【短檠】タシヤウ たけのひくき燈火の臺。
【短慮】タシヤウ ①短氣②あさはかな考へ。
【短縮】タシヤウ ちぢめて短かくす。

規

規の本字

矮

ワイ アイ

矮

①ひくし、みじかし、たけひくし②ちぢめる、みじかくす
【矮人】ワイジン 一寸法師、身の丈極めて低き人、こびと。
【矮小】ワイセウ たけ低く小なり。
【矮屋】ワイヤ 低き家、小屋、あばらや。
【矮林】ワイリン みぢかき木の林。
【矮陋】ワイロウ せまくしてむさくるし。
【矮樹】ワイジュ たけのみぢかき樹木。
【矮雞】ワイキ せのひくきからだ。
【矮雞】ワイキ 雞の一種、ちやぼ。
【矮奴】ワイヌ 我國古民族中の一。
【矮人歌場】ワインカウ 次に同じ。
【矮子看戲】ワイカンキ 矮人の芝居見物、十分見ずしてよい加減に推量すること。

十二一十四畫

矯

ケウ

矯

①たむ、ため直す、曲つたものを匡正
【矯】ケウ ①つはる(詐)みだる(亂)②たけし(武)いさむ(勇)つよし(強)又それらのさま③あぐ(擧)上に向ける、又とぶ(飛)
【矯正】ケウセイ 曲れるをた直す。
【矯首】ケウシュ くびをあげる。
【矯枉】ケウワウ 曲れるものを正す。
【矯命】ケウメイ 君命なりと詐り稱する。
【矯革】ケウカク ため改む。
【矯風】ケウフウ 風俗の亂れたるを正す。
【矯殺】ケウヤツ 君命と詐りて人を殺す。
【矯俗】ケウソク あしき風俗を正す。
【矯虔】ケウケン 詐りて無理に奪ひ取る。
【矯詐】ケウサ 詐りたりまげる。
【矯誣】ケウフ 一つはりまげる。
【矯焉】ケウエン 武勇ありてつよき貌。
【矯揉】ケウジウ ためあらためる。
【矯奪】ケウダツ 上命なりと詐稱して奪ひとること。
【矯飾】ケウシヨク 一つはりかざる、うはべをつくる。
【矯弊】ケウヘイ 弊風悪習をためなほす。
【矯勵】ケウレイ 悪を改めて一心にはげむ。
【矯激】ケウゲキ たいしはげます④常道にはづれしこと。
【矯舉】ケウキョ 君主の徳を詐りてほめる。
【矯々】ケウケウ ①武き貌、勇ましきさま②

高く擧がる貌、志の超然たる貌。

類語 匡矯クワウキョウ 奇矯キキョウ 詭矯クワイキョウ 騰矯トウキョウ

【増】

ソウ

①いぐるみ(獵具の一)②いぐるみの矢(楛を結びつけし矢)又短かき矢

【増七】ソウヨク いぐるみ、楛文を結びつけて射る矢。

【増矢】ソウレ 前に同じ。

【増楛】ソウレヤク 絲をつけたる矢、いぐるみの矢。

【増織之説】ソウシヤクノセウ 己の利益を目的として人を説付けること。

【石】

セキ シヤク

石部 石

【獲】

ワク

①さし(尺)ものさし②のり(標準)③はかる

①いし②いはいしはり(砥)③いしぶみ(碑碣)④ますめ、一斗の十倍、こくめかた、百二十斤の稱⑤おもり、はかり⑥かたし(堅)又そのもの⑦八音の一⑧樂器の音の揚らざる貌

【石刻】セキコク 石にほりたる文章繪畫の類

【石鼠】セキジ 蟲の名、けら、蟻。

【石堰】セキエン 石にて造りしむせき。

【石荷】セキカ 植物の名、ゆきのした。

【石帯】セキタイ 東帯の時袍の腰につける帯

【石筋】セキジン 地上に液下したる石乳が

【石葛】セキカク 水邊に生ずる草の名、いし、やうぶ。

【石膏】セキコウ 火山地方に産する礦物にて

【石筆】セキヒツ 石盤に字を書く蠟石の筆。

【石跌】セキテツ 天然石につくりし臺。

【石鼓】セキコ 石のしわ、又それを描く畫法。

【石絨】セキジウ 輝石・角閃石などの纖維狀

【石階】セキカイ 石のきだはし、いしだん。

【石蟻】セキアリ かまきりの異名。

【石廊】セキラウ 石のらうか。

【石畫】セキガク 堅固なるはかりごと。

【石塊】セキクワイ 石のかたまり、いしころ。

【石鼓】セキコ 石の太鼓。

【石癩】セキリン 腎臟又は膀胱の中に石の如

【石腸】セキチヤウ 確乎たる意志を形容して

【石敢當】セキカンタウ 晉の力士の名。
 【石畫區】セキクワノシ 忠心堅固にして能く畫策に富む臣。
 【石楠花】セキナンカワ 高地に生ずる灌木の一種、しやくなげ。
 【石壕吏】セキガウリ 牧斂又は人情に乏しき官吏。
 【石龍芮】セキリウゼイ 水草の一、たぜり。
 【石長生】ハコネダマ 山間泉谷に生じ葉は銀杏に似たる植物。
 【石榴鼻】セクロバナ 赤く石榴の種子の如くなりたる鼻。
 【石龍芻】トウシンドラ 燈心艸の異名。
 【石炭瓦斯】セキタンガス 石炭をむしやきにする時發生する氣體。
 【石渠天祿】セキキョウテンロク 漢代皇室の二つの圖書館の名。
 【石器時代】セキキヨウジダイ 石の斧や刃物等を用したる太古。

【石に勅す】勅レ石 いしにるくす 石に文章を彫刻す。
 【石に激ぎ流に枕す】激レ石枕レ流 いしにきます 才氣がれまくらす 巧みにこちつけて言ひくめるる意に用ゐる語。

二一三畫

介石セキイ 玉石セキヨク 白石ハク 卷石セキケン
 嘉石セキカ 鈞石セキケン 隕石セキケン 黄石セキクワ
 巨石セキコ 寶石セキハク 側石セキソク 礫石セキリキ
 重石セキユウ 化石セキクワ 片石セキペン 瓦石セキキワ
 累石セキルキ 柱石セキユウ 文石セキブン 礬石セキバン
 砥石トイシキ 一石イフコク 磁石ジシキ

【砭】テイ

砭に作る、いかり、いかり石

【砭】コツ

砭

【砭】つかる(疲) ①はたらく、骨をりはたらくさま。

【砭】カウ コウ

【砭】とびいし ①いはゞし ②かたし、てがたし

【砭】セキ

砭石の一(砭味)

四畫

【砂】シヤ サ

砂

沙に同じ、すな、いさご、まさご(岩石が碎けて小粒となりしもの)

【砂利】ジャリ 小さな石、いさご。

【砂金】サキケン 砂の如き小粒をなして河床等より出る黄金。

【砂糖】サトウ 小石、つぶて。

【砂糖】サトウ 甘蔗より製したる甘味料。

【砂地】サナチ 砂の多きところ、すなはち。

【砂煙】サナケムリ 風等のため土砂が煙の如くたちのぼるもの。

【砭】フ

玉につぐ寶石の一

【砭】ケキ クワク

骨と皮と離れる音の形容

【砭】セイ サイ

砭

【砭】みざり、石だゝみ、軒下などの敷石

【研】ハイ ヒ

原素の一、又それを含む鑽石の一

【研】研の俗字

五畫

【砭】シヨ ソ

いしやま、石ある土山

【砭】ラ

砭

【砭】石の積み重つてゐる貌 ①性質又は體格のすぐれたる貌 ②石などが落ちて轟く聲

【砭】シ タイ

砭

【砭】と、といし、あをと ①たひらかなるもの、臂に用ふ ②ひとし(均) ③みがく(磨)とぐ、といしにてとぐ、はげむ、つとめる

【砭原】シケン 原野の平らかなるをいふ。

【砭】みがかく、刃物をとぐ ①品性をみがく。

【砭】あらと、青砥 ①修養の意

【砭】トイシ 刃物をすりみがく石。

【砭】シケン 平かにして正しき道。

【砭】アイ アク

玉の名

【砭】珉に同じ

【砭】サイ

とりで、堡壘

【砭】チン

砭

【砭】きぬた ①草をうつし ②まな

【砭】きぬたをうつし ③ち。

【砭】中耳内にある砭に似たる骨

【砭】砭にて打ち練ること。

【砭】ヘン

砭

【砭】フ

石製の矢のね、石鏃

【砭】ハウ ビヤウ

【砭】盛んなる聲

【砭】ビヤウ 舟が水を撃ちて進む貌。

【砭】水などの激する聲の貌。

【砭】石などの落ちる音の形容。

【砭】盛んなる貌。

【砭】波浪または太鼓などの大きな聲の貌。

【砭】ハウ

砭

【砭】いしはちき(石を飛す兵器) 職の俗字 ①いしはちき(石を飛す兵器) いしゆみ(古代の武器) ②たいはう、おぼづ、つゝ

【砭】砲兵と工兵 ③砲を製作する工人。

【砲火】ハクワツ 發砲する時の火。
 【砲丸】ハクダツ 大砲のたま。
 【砲手】ハクシュ 砲の發射を掌る者。
 【砲兵】ハクヘイ 大砲を運用する兵士。
 【砲列】ハクレイ 發砲の目的にて大砲を排列すること。
 【砲身】ハクシン 大砲の主要部、砲のつゝ。
 【砲架】ハクカ 砲身をのせる臺。
 【砲車】ハクシャ 大砲を牽く車。
 【砲金】ハクキン 昔砲身の材料としたる青銅。鑄物の材料とする金屬の一。
 【砲音】ハクオン 大砲のといろく音。
 【砲煙】ハクエン 發砲の時に出るけむり。
 【砲座】ハクザ 大砲をすゑる臺。
 【砲彈】ハクダン 大砲のたま。
 【砲煙】ハクエン 砲煙に同じ。
 【砲門】ハクモン 大砲のつゝぐち。
 【砲射】ハクシャ 大砲をうつこと。
 【砲鋼】ハクコウ 銅と錫を合金として銃砲の製造に用ふ。
 【砲眼】ハクガン 城壁などに設けたる大砲を打出す孔。
 【砲術】ハクジュツ 大砲を運用する術。
 【砲船】ハクセン 大砲を運用し敵をうつ船。
 【砲塔】ハクタウ 軍艦内にて大砲を裝置する所。

【砲壇】ハクダン 大砲、火砲。
 【砲銃】ハクジュウ おほづゝとこづゝ、大砲と小銃。
 【砲戰】ハクセン 砲火を交へて戦ふこと。
 【砲艦】ハクカン 船體小にして比較的大なる主砲を備へ海岸・河上の砲撃・防禦等に從ふ軍艦。
 【砲臺】ハクダイ 島嶼海岸等に大砲をそゝつけし所、だいば。
 【砲墩】ハクドン 前に同じ。
 【砲聲】ハクセイ 砲音に同じ。
 【砲壘】ハクレイ 砲臺に同じ。
 【砲擊】ハクキキ 大砲にてせめうつこと。
 【砲響】ハクキョウ 砲音に同じ。
 【砲兵工廠】ハクヘイコウショウ 陸軍に附屬して兵器彈藥等を製造修理する所。
 【砲煙彈雨】ハクエンダンウ 激しき戰爭を形容する語。

破

破

【破】ハ 破る、こはれる、そこなふ、戰爭にまける。① わける、わかつ。② わる、さく。③ 音樂のふしの名。つくす、又巧みにいひまはす、反對の議論をたふす。
 【破片】ハケン 物のこはれたるかけ。
 【破瓜】ハクワ 瓜の字を二分すれば八ふたつとなるより女子の十六歳又は男子の六十四歳をいふ。
 【破牢】ハクラウ 獄を破りて逃げ出すこと、破獄脱走。
 【破戒】ハクカイ 守るべき戒めを破りて放たなる振舞をなすこと。
 【破邪】ハクシャ 邪説を論破するをいふ。
 【破門】ハクモン ① 師の許より逐はれ師弟の關係をたつこと。② 宗派から信徒を除名すること。
 【破約】ハクヤク 約束をすて、守らぬこと。
 【破屋】ハクワツ 破れた家、あばらや。
 【破風】ハクフウ 屋根の切妻のところにある合掌形の板。
 【破格】ハクカク 定例を破る意、格外(例)破格の昇進。
 【破卻】ハクキョク やぶりすてる、しりぞけすてる。
 【破活】ハクカツ 魚などはねまはる形容。
 【破倫】ハクリン 人倫にはづれたる行爲あるをいふ。

【破船】ハセン 暴風雨等にて船舶がこはれること、又その船。
 【破産】ハサン 財産を失ふ、身代かぎり。
 【破裂】ハレツ ① やぶれさく、勢つよくはじけること。② 物事の調はざること。
 【破散】ハサン やぶれ散る。
 【破碎】ハサイ こなみぢんに破れくだく。
 【破損】ハソン やぶる、やぶれそこなふ。
 【破摧】ハサイ やぶりとくだく、破碎。
 【破睡】ハスイ ねむけをさます。
 【破毀】ハキ ① やぶりこはす。② 上級裁判所で原裁判所の判決を不當として取消すること。
 【破滅】ハメツ やぶれほろぶ。
 【破獄】ハコク 牢を破りて囚人が逃出すこと。
 【破算】ハサン 算盤の上にある數をはらひのけること。
 【破棄】ハキ やぶりすてる。
 【破潰】ハクツイ 破れつひえる。③ 洪水に堤などのきれること。
 【破綻】ハタン やぶれほころびる、物事の成立せざること。
 【破談】ハタン 相談せしことを取りけすと。
 【破雷】ハライ 雷を破る、花のひらく貌。
 【破題】ハダイ 文章の始めに於て題の意をいひあらはすこと。

【破膽】ハタン 驚き怖れる貌。
 【破顔】ハガン 顔を和らげ笑ふ貌(例)破顔一笑す。
 【破壤】ハクワイ やぶりこぼつ。
 【破鏡】ハクキョウ 夫婦の縁のきれるをいふ。
 【破天荒】ハクテンクワウ ① 人の未だ企てざりし事を第一になすと。② 類例なき企畫。
 【破竹勢】ハクチクセイ 刃物で竹を割る如くとめどなく進む盛んなるいきほひ。
 【破軍星】ハクケンセイ 北斗七星中第七位の星。
 【破傷風】ハクシャウフウ 傷口より微菌がはいつて起る病氣。
 【破廉恥】ハレニチ ばち知らず。
 【破落戸】ハクラクコ 破戸漢に作る、良民を害する者、ならずもの、ごろつき。
 【破廉説】ハクレンセツ 善惡の標準又は正しき眞理の存在を否定する説。
 【破瓜之年】ハクワノトシ 女子十六歳の稱、生殖器の發達せし年頃。
 【破邪顯正】ハクシャケンショウ 佛語、邪惡を打破して正道正果を顯すの意。
 【破産外交】ハクサンガイコウ 失敗外交の意。
 【破廉恥罪】ハレニチサイ すべて私心私慾より起りて犯したる犯罪。
 【破壤主義】ハクワイシユギ ① 他人の計畫を打こはさんとする意見。② 破壤説に同じ。

【破産裁判所】ハクサンサイバンシヨウ 破産事件を管轄する裁判所にして區裁判所に於て行ふ。
 類語
 裂破ハレツ 鑿破ハク
 傷破ハレヤウ 裁破ハク
 脆破ハレイ 剪破ハク
 脆破ハレイ 踏破ハク
 脆破ハレイ 推破ハク
 脆破ハレイ 擄破ハク
 脆破ハレイ 掩破ハク
 脆破ハレイ 腐破ハク
 六畫
 【硅】ケイ 珪の誤字、砂に通じ用ふ。
 【硅酸】ケイサン 珪素と酸素の化合物にして水晶・石英・瑪瑙・燧石等に類す。
 【硅素】ケイソウ 非金屬の一、化合物となりて天然に多量に存在す。
 【硃】シュ 朱の原料となるもの(辰砂)。
 【硃】シユ 硃に同じ。

碁

碁に同じ

碁

碁

石製のやじり、石のやのね

碇

碇

いかり(碇)いかり石、舟具の一。いかりをおろす、船をとどめる、又泊る

碇

碇

石の青き色。人に随従する貌、獨立心なきさま。小石の貌、又少きさま。石が多くて平かならざる貌。車の轉ずる音。碇青。ロクシヤウ。銅に生ずる緑色のさび。碇々。ロクシヤウ。字解を見よ。

碇

碇の俗字

碇子。ガイ。電氣を絶縁する爲めに使用

碎

碎

する陶器製のもの。

くたく、こはす、こはしてこなくにする、わる(割)くじく、苦しめる。こまかし、くだく、わづらはし、くだけたるきれ(細片)こなくづ(屑)

碎片。サイ。かけ、こはれ、破片。碎身。サイ。身を粉にしてはたらく、ほね身をまします。はげみ勤めること(例)粉骨碎身す。

碎金。サイ。詩文の辭句の美なること。碎破。サイ。くだき破る、又こはれる。

碎粉。サイ。こまかくしきつとめ。碎銀。サイ。銀をくだく、又こまかく碎きたる銀。小きき銀貨。

碎々。サイ。細かき貌、くだくしき貌。碎刺。サイ。くだくしき貌。碎削。サイ。こまかに切りくだく。

碎米。サイ。十字花科植物の一。碎米齋。タカラ。十字花科植物の一。

類語

- 破碎、敗碎、細碎、雜碎、齧碎、苛碎、粉碎、毀碎、糜碎

碇

碇

たちいし(立石)碇の四隅に立て、棺と共に墓に埋めたもの。いしぶみ、文字をしるしたる立石。貴人の棺を墓穴につるす時その繩をしはれる石

碑文。ヒ。石碑に刻した文、又は文體、碑誌。

碑陰。ヒ。石碑の裏面又は碑の背に刻したる文。

碑碣。ヒ。たていし、いしぶみ。碑銘。ヒ。石碑に記したる銘文。

碑誌。ヒ。石碑に記したる文、碑志。碑勝。ヒ。石ぶみとかけふだ。

訓讀。碑に勅す。勅。碑にひらく。章を石にほりつける。文

類語

- 口碑、石碑、墓碑、舊碑、忠魂碑

碇

碇

うす、からうす、ふみうす。し(岸)碇程。タイ。からうす。碇春。タイ。杵を用ひ白にてつく。

碇

碇に同じ

碇

碇

碇

碇に同じ

九畫

碇

碇

巖に同じ、いはを、いはけはし、又嶮しき山

碇

碇

さら、小ざら(小盤)

碇

碇に同じ

碇

碇

たていし、圓形のたていし。いしぶみ、石碑(圓形のもの)。山の特立せる貌、そびえたる貌。碇銘。ケ。碑銘に同じ。

碧

碧

あを、こきあをいろ(深青色)あをみどり。色青く美しき石。碧山。樹木の青く茂れる山。碧玉。青色の美玉。清水又は青空。

碧宇。そら、あをぞら、天空。碧血。なまぢ、青色をおびたる濃き血液。

碧空。あをぞら、おほぞら。碧曼。曼は秋の天、晴れたる空、あをぞら。

碧苔。あをごけ、青苔。碧海。海のこと、あをうみ、大海原

碧梧。あをぎり、梧桐。

碇

碇

零碎、小碎、飛碎、擊碎

人の名

シヤク、サク

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

碇

磬

磬に同じ

磬

ハン、パン

象

①いは、いはを、大石②廣大なる貌

【磬牙】ハシヲ 相連りて結ぶ貌。

【磬石】ハシヲ いはを、大石。

【磬紆】ハンウ 蟠りてまとひつく。

【磬繩】ハンバク 廣大なるさま。

磴

サイ

磴

カタシ

①うす、いしうす②かたし(堅)又そのさま

【磴々】ガイガイ かたし、堅固なるさま。

【磴々】タラタラ 物の聲の形容。

磴

カタク

類語

水磨 マシキ 白磨 マシク 消磨 マシク 砥磨 マシク
研磨 マシク 琢磨 マシク 切磨 マシク 磨磨 マシク

磬

ケイ

①古代の樂器(八音の一にて石又は玉で折れ曲つた形に造り懸けて鳴らせしもの)②馬をとめる、磬の如く馬をひきとめる③磬の如く體を曲めて禮をすること

【磬折】ケイセツ からだを曲げて禮をする。

【磬控】ケイコウ 磬は馬を走らす、控は馬を止む、即ち馬を御すること。

【磬鐘】ケイショウ 磬と釣鐘。

類語

陶磬 ケイウ 玉磬 ケイゴク 梵磬 ケイイン 浮磬 ケイイ
鐘磬 ケイショウ 清磬 ケイセイ 遠磬 ケイエン

磬

磬に同じ

十二畫

磬

キヨコ

石部 (十一—十二畫)

磬・磬・磬・磬・磬・磬・磬・磬・磬・磬

磴

カキ

磴

カイ、ガイ

石の打合ふ聲

十一畫

磴

セン

磴に同じ、かはら(瓦)

【磴茶】センチャ 支那産の茶の一種。

磴

イン

雷鳴などの轟く形容

磴

カキ

磴

セキ

①かはら(河原)②すなはら(沙漠)【磴歴】セキレキ 淺瀬の砂石多きところ。【磴磴】セキセキ 小石まじりの河原。

磴

キ

①いそ(海又は湖の水の岸に激するところ)②かはら、はまべ③なづ、ふれる、ぶつかる

【磴松】イツマツ 海濱に生じたる松。

【磴枕】イツマツラ 磴邊のたび、なままくら、かちまくら。

【磴端】イツバタ 水の磴石、はまべ、いそべ。

【磴巾著】イツギンシヤク 海邊の岩石等に固著せる海蟲の一。

【磴訓松】ソナレマツ 磴松に同じ。

磴

トウ

①いしだん、巖の階段、いしざか②いしばし(石橋)③小石の量の増す貌

【磴棧】トウサン 石のかけはし、石ばし。

【磴道】トウダウ 石をたゝみて作りたる道、石だん。

類語

懸磴 トウケン 石磴 トウシヤ 翠磴 トウスイ 複磴 トウフク
苔磴 トウタイ 蕨磴 トウケツ 蕨磴 トウケツ 滑磴 トウワツ

磨

バマ

磨

①みがく、する(玉石等をすりみがく、物事をみがく、はめる)②こする、物と物とをすり合す③うす、ひきうす、いしうす

【磨光】マクワウ 磨研してつやを出す。

【磨研】マケン ①とぎみがく②修め成す。

【磨琢】マタク みがく、とぐ。

【磨勸】マコン 宋代の中頃に起りし制度にして内外官吏の曲直を審査すること。

【磨滅】マツツ すり消す、すれてなくなる。

【磨淬】マツイ 刀剣類をにらぎみがく。

【磨碎】マツイ すりくだく。

【磨擦】マサツ こする、又すれあふ。

【磨礮】マガイ ひきうす、石うす。

【磨練】マレン ①みがきれる②修養の意。

【磨礪】マリイ みがくこと。

【磨鏡】マキヤウ かじみみがく、又磨きて明らかなる鏡。

【磨碧】マロウ ①石白②とぎみがく。

【磨鍔】マロウ すりみがく。

【磨崖碑】マゴイヒ 唐の元結が撰じた大唐中興頌を顔真卿が書いて涪溪の崖石にほりつけしもの。

磴

潤に同じ

磴

リン

①こいし、小石②雲母の異名③石の貌④うすらぐ、又すりへらされて薄き石⑤石間を水の流るゝ貌⑥玉石のひかり輝く貌⑦峻しき貌

【磴鏡】マキヤウ 峻しき貌

【磴】クラウ カウ

磴に作る①あらがね②黄石の名、又硫黄

磴

セウ

水中に隠れたる岩、かくれいは(暗礁)

磴

テイ

人名(漢武帝時代の人)

磴

ハン

①地名②古く磬に同じく用ふ

礎

カウ

礎

石多きやせ地①山の田

【礎礮】カウカウ 礎礮、石の多きやせ地。

【礎薄】カウハク 前に同じ。

【礎瘠】カウセキ 礎礮に同じ。

礮

レキ

①古代棺の繩を曳く人数を記す帳面、又その繩をとる者②戦國時代燕の宮殿の名

十三畫

礮

カク

きびしい、きつい、むごたらしい

礮

礮に同じ

礎

ソシヨ

礎

①いしずる、はしら石②物事のもとも、どだい、又大事を任すに足る人物
【礎石】ソシキ 柱の下に置く石、いしずる。

礮

礮に同じ

礮

礮に同じ

礮

礮素を含む有毒なる礦物

礮

ガイゲ

礮

礮に作る①さへぎる(進)さふ(支)ふせ(防)さまたぐ(妨)②さふはり、じやま、さまたげ
【礮滞】ガイタイ 支へられて滞る。
【礮宜】ガイヤン 支へて入らしめざると。

類語

礮

礮に同じ

礮

礮に同じ

礮

ライルキ

礮

①おほいし(大石)②石の状の形容③山の形の形容④うつ(撃)⑤かさなる(重)
⑥おこす(起)⑦まるばす(轉)礮に同じ
【礮石】ライルキ

礮

ライ

あな、小さき穴

礮

レイ

礮

①と、といし、あらと(粗礮)②みがく(磨)とぐ(研)すりみがく、はげむ、つとめる
【礮石】レイセキ といし、兵刃を磨くに用ゐる石。

礮

レイレ

といし(礮はあらと、礮はあをと)。

【礮洋】レイライ ときならぐ。

【礮儀】レイゲキ 箭のねをとぐこと。

【礮磨】レイロウ みがきとぐ。

礮

レキ

礮

①こいし、小石②すな(砂)
【礮石】レキセキ 小きいし、小石。
【礮丘】レキタカ 噴火口内に熔岩の堆積して生じたる圓錐形の丘。

類語

燕礮 レキ 砂礮 レキ 黄礮 レキ 礮礮 レキ

礮

ヘンバン

礮

十六—十七畫

①染料又は薬料となす一種の礦物②山礮は花樹の名③明礮は染色に用ゐる薬品
【礮】ヘンバン

礮

砲の正字

礮

ロウ

礮

①みがく、とぐ、する②すりうす(磨白)
【礮属】ロウレイ みがきとぐ。
【礮磨】ロウマ ①すりみがく②修め成す。

礮

ハク

礮

①はびこる(蔓)②まじる(混)③廣く充ちふさがる(貌)④あぐらをかく(胡坐)
【礮】ハク

示部

示

シジキギ

示

①しめす、人に見せる、しらす、さしづす、しめし、をしへ②みる(視)③土地の神、くにつかみ
【示帖】シテウ はりふだ、貼札。
【示教】シケウ ①をしへしめす②實物を見せて教へること。

【示現】シゲン 神佛が不可思議なる靈現をあらはすこと。

【示談】シタン ①裁判を仰ぐべき事柄を双方相談の上にて解決すること②總て表沙汰にせずして内済にすること。

【示寂】シシヤク 僧侶の死をいふ。

【示唆的】シサウキ 實際の行爲又はその結果を示して教唆する方法等にいふ語。

【示威運動】シイショウ ①威力を示す爲めの行動②おどす爲めの運動。

類語

指示 シシ 指示シシ 指示シシ

指示シシ 指示シシ 指示シシ 指示シシ

指示シシ 指示シシ 指示シシ 指示シシ

指示シシ 指示シシ 指示シシ 指示シシ

指示シシ 指示シシ 指示シシ 指示シシ

指示シシ 指示シシ 指示シシ 指示シシ

社

禮の古字
シヤ

① やしろ(國神をまつる宮)おみや、ほ
 ② 土地の神、くにつかみ ③ 立春及
 立秋後の第五の戌の日 ④ 周制にて二十
 五家の組合 ⑤ くみあひ、團體 ⑥ 一つの
 目的の爲めに同志の聯合したるもの
 臺灣にて最下級の行政區劃 ⑦ こそ(多
 數中の或る一つを指していふ語)
 【社中】シヤユウ ⑧ 組合の仲間 ⑨ やしろの
 うち。
 【社友】シヤウ 組合のなかま、組合の人。
 【社公】シヤコウ ① 國土を鎮護する神、くに
 つかみ ② やしろこ(髪も皮膚も全體も白
 き天性の人)。
 【社日】シヤチ 立春又は立秋後の第五の戌
 の日、又その日に行ふ祭事。
 【社司】シヤシ 神官、かんぬし。
 【社交】シヤカウ 社會上にて人と交際する意
 【社寺】シヤジ 神社と寺院。

【社長】シヤチヤウ ① 組合のかしら ② 村のを
 さ、又臺灣にて蕃社のかしら。
 【社倉】シヤウ 備荒貯蓄として各州縣に設
 置せし米倉。
 【社格】シヤカク 神社の等級を示す格式。
 【社員】シヤイン 社友に同じ。
 【社掌】シヤシヤウ 社司に同じ。
 【社家】シヤケ ① 數戸相集りて一戸をなす
 家庭 ② 神官。
 【社參】シヤサン みやまゐり、神社に詣でる。
 【社債】シヤサイ 會社の事業費として募集し
 たる借債。
 【社團】シヤダン 衆人が集合して一團となり
 したもの。
 【社會】シヤクワイ ① 二十五家を一組とした
 る民戸編制上の一團體 ② 同一の仲間 ③
 共同生活又は相互作用を爲す團體又は
 組織、一般にこの世の中。
 【社説】シヤセツ 新聞・雜誌などにてその社
 の主義主張として發表する論説文。
 【社頭】シヤトウ 神社のほとり。
 【社稷】シヤシヤク ① 土地の神と五穀の神 ②
 朝廷又は國家。
 【社鼠】シヤソウ 神社の内にすぐふ鼠、社鼠
 の驅逐しがたきことに因み君側の奸臣
 をいふ。

【社寶】シヤホウ 社會の寶物、又は會社或は
 社會の寶物にも等しき大切な人物。
 【社壇】シヤダン 神社をしづめ祀る所、又土
 地の神をまつる所。
 【社外船】シヤグワイセン 政府に關係なき會社
 又は個人の所有船。
 【社寺局】シヤジヤク 内務省に屬し神社佛閣
 に關する一切の事務を取扱ひし所、今
 は神社局(内務省に屬す)と宗教局(文
 部省に屬す)とに分離す。
 【社會的】シヤクワイチヤ 社會を主とする意、
 個人的の對。
 【社會黨】シヤクワイタク 社會主義の政治を標
 榜する政黨。
 【社會學】シヤクワイガク 社會に關する構造・
 形勢・發達・變遷等を研究する科學。
 【社會劇】シヤクワイゲキ 社會の實際問題を脚
 色したる演劇。
 【社稷主】シヤシヤクヌシ 昔は諸侯が受封の時
 必ず社稷を建て五穀を供し國家と存亡
 を共にせしことに因み國家のことを社
 稷といふ、その主は即ち國王又は帝王。
 【社稷臣】シヤシヤクノヒコ 國家の安危に任ずる
 忠良の臣。
 【社會意思】シヤクワイイシ 社會人全體に共通
 せる意志。

【社團法人】シヤクワイハフジン 社團を成立せる法
 人のこと。

【社會問題】シヤクワイモンダイ 社會の經濟に關
 し強弱兩者の利害の相反せるものを調
 和し貧弱者を保護して貧富の甚しく隔
 絶することを防がんとする目的につい
 ての諸問題。
 【社會主義】シヤクワイシユイ 社會に於ける財の
 分配を適當ならしめ貧富の懸隔を救は
 んとする主義。
 【社會奉仕】シヤクワイホウジ ① 社會全體の福利
 の爲めに努めること ② 客本位、薄利
 多賣の意。
 【社會政策】シヤクワイセイサウ 現代制度の上に
 立脚して經濟上の強者と弱者との調和
 をはかる政策。
 【社會事業】シヤクワイジヤク 社會一般の利益を
 目的として成立せる事業。
 【社會教育】シヤクワイイクウ 學校教育に對し
 社會一般の民衆に社會人としてその生
 活に必要な教育を施すこと。
 【社會講談】シヤクワイカウタン 現代的精神を取
 入れたる高級なる講談。
 【社會的生活】シヤクワイケイセツ 社會人な
 る人間の共同生活を圓滿ならしめる意
 【社會動物】シヤクワイドウブツ 共存生活をはな

れては生活し能はざるより人間のこと
 をいふ。

【社會精神】シヤクワイセイシン 次に同じ。
 【社會的意志】シヤクワイイシ 其の社會が出
 來て以來相傳はれる思想にて一般を支
 配する勢力あるもの。
 【社會的感情】シヤクワイイナカシヤウ 人類が社
 會に生存し又は交際することに因つて
 自然的に起る情。
 【社會心理學】シヤクワイシンリガク 個人として
 てなく社會人としての人類の心理作用
 を研究する學問。
 【社會民主主義】シヤクワイミンシュユイ 民主政
 治の下に行はれんとする社會主義。
 【社會改良主義】シヤクワイカイリヤウシユイ 現代
 の社會制度を維持しつゝ次第に改良せ
 んとする主義。

【社】シヤ 天子の行ひ給ふ春季と夏季
 のまつり。
 【祀】シ ① まつる、まつり(祭) ② とし(年)
 ③ 土地の神を祭る意。
 【祀社】シヤ 土地の神を祭る社。
 【祀姑】シヤ 族の名。
 【祀事】シヤ 先祖をまつることをいふ。
 【祀典】シヤ 祭祀の儀式。
 類語
 郊祀シヤ 封祀シヤ 報祀シヤ 宗祀シヤ
 制祀シヤ 祠祀シヤ 社祀シヤ 修祀シヤ
 婚祀シヤ 降祀シヤ 祭祀シヤ
 【祀】シ ① さかんなり(盛)おほいなり(大)はな
 はだし(甚) ② おほし(衆)物事の多きさ
 ま ③ しづか(舒)ゆるやかなり
 【祀々】シヤ ① ゆるやかなる貌 ② 物事の多
 きさま。
 【祀寒】シヤカン きびしき寒さ、烈寒。
 【祀連】シヤレン 匈奴の方言、天、そら。
 四畫

祇

エウ

まがごと、わざはひ(災)凶なる物象
【祇道】エウダウ あやしき道、魔術の類。
【祇孽】エウダウ わざはひ、災禍。

祇

ケン テン

昔波斯に行はれし拜火教の神

祇

キ ギ シ

①くにつかみ(地の神、又国土の神)②かみ、すべての神の稱③やすし(安)④おほいなり(大)⑤まさ(適)たい(但)【祇安】ギアン やすらかなる貌。【祇園精舎】ギエンシヤウジヤウ古天竺の須達長者が釋迦の爲にたてたる寺の名。

祈

キ

祈

①いのる、神佛に乞ふて福をもとめる又そのねがひ、いのり、ぐわんかけ②つぐ(告)さげぶ
【祈求】キキウ 神佛にいのりて福を求む。
【祈念】キネン 神佛を祈る、ぐわんをかけ

社

ハウ

社

さいはひ(福)神佛より授かる幸福
【新年祭】キネンサイ 毎年二月四日に行ふとしごひのまつり。
宗廟内にて先祖を祭ること、又その本祭の翌日に行ふ祭禮

類語

嘉社カカ 餘社ヨ 衆社シュウ 壽社ジュ
天社テン 祥社シャウ 祿社リク 福社フク

社

シチ

社

さいはひ(福)神佛より授かる幸福

祐

セキ

祐

位牌を蔵める爲め宗廟の中に設ける石のはこ
【祐助】イウジウ 佑助に作る④天よりのたすけ⑤上より下を助ける意。
【祐筆】イウヒツ 右筆に作る、貴人に侍して書記の役を勤める者。

祐

イウ

祐

①たすけ(神又は上よりのたすけ)たすく②さいはひ(福)
【祐助】イウジウ 佑助に作る④天よりのたすけ⑤上より下を助ける意。

祓

フツ

祓

①はらひ(除災來福の意)②はらふ(除穢の意)③きよむ(清)④のぞく(除)⑤さいはひ(福)
【祓除】フツヂウ 災を除き穢れを清む。
【祓禊】フツケイ 災禍をはらひ除く、又そのはらひ。

祐

フ

祐

祕

ヒ

祕

①あはせまつる(三年の喪の終りし時その位牌を先祖に合祀す)②あはせまつる(後裔を先祖に合葬す)
【祕宮】ヒミヤ 合せまつる、合祀。
【祕祭】ヒミサイ 合せまつる、合祀。

秘に作る④人力にて測られざる貌⑤閉ぢて示さざる貌⑥つかれる(勞)⑦ひむ(密)隠して知れぬやうにす
【祕文】ヒヒモン ①まじなひ②人に知らさぬ大切なる書物。
【祕方】ヒヒハウ 祕密にして大切なる調薬の方法。

【祕史】ヒヒシ 世間に現はれざる裏面の出来事を記したる歴史、裏面史、側面史。
【祕曲】ヒヒキョク 容易に傳へぬ音楽の曲。
【祕府】ヒヒフ 人に見せぬ大切なる物品をしまひおくゝら、主として官廷の書庫。

【祕法】ヒヒハウ 人に知らさざる仕方。
【祕事】ヒヒジ ひとみつの事柄、ないしよ事。
【祕計】ヒヒケイ 祕密なる計策、秘畫。
【祕書】ヒヒショ ①天子の藏書②其人に直屬して機密の事務を司る者、祕書役。
【祕封】ヒヒフウ 人に知らさぬやう固く封ず

又そのもの。
【祕訣】ヒヒケツ 奥の手、奥義、又は其書。
【祕庫】ヒヒコ 祕府に同じ。
【祕密】ヒヒミツ 人に知らさず内密にする意又その事。
【祕結】ヒヒケツ 大便の通じ感しきをいふ。
【祕畫】ヒヒガク 祕藏の繪畫、秘計。
【祕術】ヒヒジュツ 人に知らさざる大切のわざ奥の手。
【祕蘊】ヒヒウン 秘訣に同じ。
【祕傳】ヒヒデン 藝術などにて容易に人に教へ傳へざるもの、奥義。
【祕策】ヒヒサク 秘計に同じ。
【祕閣】ヒヒカク 祕府に同じ。
【祕典】ヒヒテン ①奥義、秘訣②奥ぶかき貌。いつくしみ大切にす。
【祕愛】ヒヒアイ 一般に發表せられざる記録内密のかきもの。
【祕隱】ヒヒイン かくす、あらはれざる貌。
【祕謀】ヒヒボウ 秘策に同じ。
【祕館】ヒヒカン 祕府に同じ。
【祕藥】ヒヒヤク 祕方によりてあはせたる藥又功能顯著なる藥。
【祕藏】ヒヒザウ 大切にひめたくはふ、又そ

祕

ヒ

祕

又そのもの。
【祕訣】ヒヒケツ 奥の手、奥義、又は其書。
【祕庫】ヒヒコ 祕府に同じ。
【祕密】ヒヒミツ 人に知らさず内密にする意又その事。
【祕結】ヒヒケツ 大便の通じ感しきをいふ。
【祕畫】ヒヒガク 祕藏の繪畫、秘計。
【祕術】ヒヒジュツ 人に知らさざる大切のわざ奥の手。
【祕蘊】ヒヒウン 秘訣に同じ。
【祕傳】ヒヒデン 藝術などにて容易に人に教へ傳へざるもの、奥義。
【祕策】ヒヒサク 秘計に同じ。
【祕閣】ヒヒカク 祕府に同じ。
【祕典】ヒヒテン ①奥義、秘訣②奥ぶかき貌。いつくしみ大切にす。
【祕愛】ヒヒアイ 一般に發表せられざる記録内密のかきもの。
【祕隱】ヒヒイン かくす、あらはれざる貌。
【祕謀】ヒヒボウ 秘策に同じ。
【祕館】ヒヒカン 祕府に同じ。
【祕藥】ヒヒヤク 祕方によりてあはせたる藥又功能顯著なる藥。
【祕藏】ヒヒザウ 大切にひめたくはふ、又そ

祖

ソ

祖

【祖譜】ヒラ 人に傳授せざる音楽の譜。
【祖論】ヒラク 祕密の庫をあけるかぎ、祕密の物事を闡明する手引となるもの。
【祖書官】ヒラシヤウカン 大臣に直屬して機密の事を司る書記官。
【祖書役】ヒラシヤウヤク 長官に屬し祕密の事を扱ふ者。
【祖密結社】ヒラシヤウケツシャ 許可を受け又は届出をなさずして私に組織する團體。
【祖密密算】ヒラシヤウヒサン 秘計に同じ。

①せんど②ぢぢ、おぢ(祖父)③一血統の宗主④せんど⑤のたまや⑥はじめ(始)⑦もと(本)或物事のはじめをなしたるもの⑧かみ(上)⑨ならふ(習)⑩のつと(期)⑪道路の安穩を守る神、又發足に際し道の神を祀ること
【祖父】ソフ 父の父、おぢ、ぢぢ。
【祖先】ソセン 先祖、みまかりたる父祖。
【祖宗】ソソウ 祖は有功、宗は有徳、祖先、せんど。
【祖母】ソボ 父母の母、おば、ばば。
【祖法】ソフフ 祖先の定めたるおきて。

【神官】シノクワン かんぬし、神主。
 【神宮】シノミヤ ①神をいつき祀る御殿、
 やしろ。②伊勢大神宮と明治神宮。
 【神怪】シノクワイ あやしき物語。
 【神來】シノライ 神靈を感じる意、靈感、英
 語のインスピレーション。
 【神政】シノセイ 宗教の首長が政治の主體と
 なる政體、神政一致。
 【神典】シノテン 神の功績を記したる書物。
 【神社】シノヂヤ 神をまつるやしろ。
 【神禹】シノウ 支那の夏の禹王の敬稱。
 【神勇】シノユウ 人間ばなれのしたる強者。
 【神祖】シノソ ①皇室の御先祖。②徳川氏は
 借して家康をいふ。
 【神苑】シノエン 神社の境内の庭。
 【神風】シノフウ 神が吹かす風、かみかぜ。
 【神祇】シノギ 天の神と地の神、天神地祇。
 【神託】シノタク 神のおつけ。
 【神氣】シノキ ①まことの有様。②萬物形成
 の根本。③神體の意。
 【神馬】シノバ ①神社に奉納する馬。②ふし
 ぎな馬匹。
 【神姿】シノシ 精神と身體、又崇高なる容子
 【神效】シノカウ 靈妙なる功能。
 【神國】シノコク 日本の別名、神州。
 【神速】シノソク ①極めて速かなること。い

ふ。②不思議にはやし。
 【神救】シノクウ 神のおつけ。
 【神情】シノジョウ こゝち、心地。
 【神授】シノジュ 神よりのたまもの、天授、
 天の與へ。
 【神符】シノフ おまもり。
 【神術】シノジュツ 不思議なるわざ。
 【神秘】シノヒ ①靈妙不思議にして人智に
 ては測り知られざると。②普通の理論・
 認識外に超越したる事相。③極めて秘密
 なる事、極秘。
 【神道】シノダウ ①靈妙なる方法、至妙の理
 義。②墓前に通ずる道路。③我國固有の宗
 教の名。
 【神略】シノリョク 神算に同じ。
 【神智】シノチ 不思議なる智慧。
 【神策】シノサク 神算に同じ。
 【神葬】シノサウ 神式にて葬むること。
 【神意】シノイ 神の心、神のおぼしめし。
 【神境】シノキヤウ ①神社の境内。②俗界をは
 なれし所。
 【神童】シノドウ 奇才ある兒童。
 【神經】シノケイ 動物體にて知覺・感覺及び
 運動をつたへる器官。
 【神算】シノサン 神妙なる
 計略、いみじきはかりごと。

【神話】シノワ 神代の物がたり。
 【神殿】シノテン 天神地祇をまつるおみや。
 【神僊】シノセン 神仙に作る、長生不死の人。
 【神駿】シノケン すぐれてよき馬。
 【神韻】シノイン ①詩文其他美術品などの優
 れたるおもむき。②心識の高妙なること
 ③神韻に同じ。
 【神罰】シノバツ 神よりくだしたるばつ。
 【神魂】シノコン たましひ、靈魂。
 【神廟】シノベウ 祖先をまつりたるたまや。
 【神學】シノガク 神に關して研究する學問。
 【神樂】シノガク ①神事に奏する音樂。②神妙
 なる音樂。③現代に傳はる古代の音樂。
 【神劍】シノケン ①神より授かる劍、又神に
 奉る劍。②くさなぎのつるぎ。
 【神器】シノキ 帝位の相續に伴ふ寶物、我
 國にては三種の神器、又轉じて帝位の
 意に用ふ。
 【神謀】シノボウ 神略に同じ。
 【神機】シノキ 神算に同じ。
 【神頭】シノトウ 矢の名。
 【神慮】シノリョ ①こゝろ。②神意に同じ。
 【神興】シノキョウ 神靈をのせるこし、みこし。
 【神職】シノシヨク 神に奉仕する職、かんぬ
 し、神官。
 【神聖】シノセイ 靈徳の神妙なること、尊く

して侵すべからざるもの。
 【神橋】シノハシ 神社に行く途中の橋。
 【神璽】シノシ ①三種の神器の一なる八咫
 瓊曲玉。②天子の藏せられる玉。
 【神識】シノシキ 精神と見識。
 【神變】シノベン 不思議なる變化。
 【神體】シノタイ 神靈の本體。
 【神藥】シノヤク ①神仙のくすり。②功能著し
 き藥にいふ。
 【神鏡】シノキョウ ①神前にかけるかどみ。②
 三種の神器の一なる八咫鏡。
 【神籙】シノライ 神韻の①に同じ。
 【神靈】シノレイ すぐれたる靈識の敬稱。
 【神籙】シノライ 神を周らし別に社なきも神
 の座として祭る所。
 【神譚】シノタン 神間に同じ。
 【神蹟】シノサク 物事のまことのあぢはひ。
 【神靈】シノレイ ①神の靈徳。②人の靈魂
 ③凡人と異なること。
 【神饌】シノゼン 神に供へる食物。
 【神權】シノケン 神より賦與されたる權利、
 皇帝の大權などにいふ。
 【神垣】シノガキ 神社の周囲の垣、たまがき。
 【神酒】シノサケ かみにそなへるさけ。
 【神今食】シノコジキ 古月次祭の夜に行はれ
 し神事にして六月・十二月の各一日

の夜戌の刻神嘉殿に於て天皇親しく伊
 勢大神に膳を供し祭らせ給ふ。
 【神代杉】シノダイスギ 多年土中に埋れし杉材
 【神社局】シノヂヤキョク 神社及神官・神職に
 關する事項を取扱ふ内務省の一局。
 【神祇官】シノギノクワン 大寶の制、百官諸司
 の上にあり神祇に關する一切の事務を
 司りし官。
 【神通力】シノトウリキ 靈敏にして萬般の事物
 を自由自在になし得る妙力。
 【神警祭】シノケイサイ 毎年十一月十七日に
 行ふかんなめまつり。
 【神道流】シノダウリウ 探原卜傳の創めたる劍
 術の一派。
 【神權説】シノケンセツ 君主の統治權は神より
 授けられしものとす説。
 【神經質】シノケイシツ ①神經過敏にして物事
 に感動し易く悲觀し易き病的性質、神
 經家ともいふ。②心理學上の氣質の一。
 【神來月】シノライグヅ 陰曆十一月の異名。
 【神無月】シノナヅグヅ 陰曆十月の異名。
 【神出鬼没】シノデウキボツ 行動の變化自在な
 る貌、忽ち現はれ忽ち消えるが如きを
 いふ。
 【神社佛閣】シノヂヤブツカク おみややおてら。
 【神茶毒盛】シノチヤドクモリ 百鬼を捕へるとい

ふ二神の名。
 【神經過敏】シノケイカクビン 過度に物事を心配
 すること。
 【神話主義】シノワシユイ 哲學上にて理性を超
 越し絕對に悟入せんとする傾向を總稱
 していふ。
 【神佛混淆】シノブツコンガウ 神と佛とを一しよ
 にすること。
 【神農虞夏】シノノクダカ 支那の太古の君王の
 名。
 【訓讀】
 【神を怡す】シノをイ 怡しんをいす 精神を慰める
 【神を留む】シノをル 留しんをいす 心をとめる、
 氣をつける。
 【神を放らす】シノをハ 放しんをいす 我が
 思ふ通りに氣をもつ。
 【類語】
 鬼神シノ 百神シノ 敬神シノ 存神シノ
 三神シノ 通神シノ 知神シノ 海神シノ
 水神シノ 精神シノ 貴神シノ 至神シノ
 聖神シノ 群神シノ 明神シノ 大神シノ
 庶神シノ 社神シノ 心神シノ 天神シノ

【崇】シノ スキ シユツ
 たより(神佛のとがめ)たよる

祠

①まつり、天子の行ふ春のまつり②まつる、祭る神③やしる、ほこら④たまや⑤社に仕へる人

- 【祠宇】シロウ やしる、ほこら。
【祠官】シロウ かんぬし、神主。
【祠祀】シロウ まつること。
【祠堂】シロウ 神のやしる、たまや。
【祠掌】シロウ 祠官に同じ。
【祠頭】シロウ やしるの附近、社頭。
【祠壇】シロウ 神をまつるところ、まつりのには。
【祠禮】シロウ 神明を祭りて祈請す、まつりの。
【祠饗】シロウ 酒食を供へ神をまつると。
【祠堂金】シロウ 堂塔を建てる資金として寄進する金。

類語

- 【舊祠】シロウ 古祠
【佛祠】シロウ 荒祠
【義祠】シロウ 社祠
【靈祠】シロウ 靈祠
【崇祠】シロウ 崇祠

崇

サイ

祿

祿に同じ

祥

シヤウ ジヤウ

①よるこび(慶)さいはひ(福)めでたきこと②しるし(兆)きざし③つまびらか(詳)④喪中のまつり
【祥兆】シヤウ めでたきしるし、瑞相。
【祥月】シヤウ 死人の翌年以後に於ける忌日。
【祥肉】シヤウ 三年忌に神に供へる肉。
【祥桑】シヤウ 不思議なる桑。
【祥雲】シヤウ めでたきしるしの雲。
【祥煙】シヤウ 吉兆となるけむり。
【祥瑞】シヤウ めでたきしるし、瑞兆。
【祥慶】シヤウ よるこび、めでたき事。
【祥應】シヤウ 祥瑞に同じ。
【祥變】シヤウ よるこびとわざはひ、吉と凶。

類語

- 【異祥】シヤウ 群祥
【群祥】シヤウ 吉祥
【休祥】シヤウ 休祥

柴を焚きて天をまつる祭禮

禎

禎

禎に同じ

禎

禎に同じ

禎

禎に同じ

祭

サイ

①まつる(祀)人又は神をまつる②まつり(祭祀)

禎

さいはひ、よろこび。

禎

祭の名(神の降臨を願ふために酒を地に注ぐ祭)

禎

さいはひ(福)①官吏の俸給、ふち、又秩祿を授ける意②形を以て禮をなすと秩祿を受けて官に上る。

禎

秩祿と官位。

禎

秩祿にかへたる公債證書。

禎

人間の運命。

禎

はな、ぼち、禪頭。

禎

秩祿と賞與。

禎

俸祿と官位、ふちと位。

禎

實力なくして官にある者③公職に在りて勤めを盡さざる者

- 【榮祿】シヤウ 百祿
【光祿】シヤウ 秩祿
【大祿】シヤウ 爵祿
【禎祿】シヤウ 後祿
【世祿】シヤウ 世祿
【重祿】シヤウ 重祿
【美祿】シヤウ 美祿

【祭文】シヤウ 文體の一、歌ざいもん②祭事に神靈に告げる文。

【祭日】シヤウ まつりの日、又大祭日。

【祭主】シヤウ 祭を行ふ主人公②祭の事を掌る者③基督舊教の僧職の名。

【祭司】シヤウ 耶蘇教の僧職の名。

【祭典】シヤウ 祭典に作る、神をまつること、又その儀式。

【祭告】シヤウ 君主が國家の大事を國神につげること。

【祭酒】シヤウ 昔饗宴には祖先を祭り酒席にても席上の長者が先づ酒を以て祭りたること②後世官名となり學政を司りし者、我大學頭の職掌に相當す。

【祭祀】シヤウ まつり、まつる。

【祭服】シヤウ 祭禮の時の衣服。

【祭政】シヤウ 神をまつること、國を治めること、祭祀と政治。

【祭具】シヤウ 祭祀に用ゐる道具。

【祭菜】シヤウ 神前のそなへ物。

【祭詩】シヤウ 自作の詩をまつて苦心をなぐさめること。

【祭資】シヤウ 祭事の入費。

【祭器】シヤウ 祭具に同じ。

【祭奠】シヤウ 祭典に同じ。

【祭壇】シヤウ まつりを行ふだん。

寸祿ソウロク 薄祿ハク 微祿ビロク 顯祿ケンロク
福祿フクリク 龍祿リウロク 吉祿キチロク 封祿フウロク
食祿シヨク 奉祿ホウロク 俸祿ホウロク 官祿クワンロク
家祿カロク 餘祿ヨロク

【稟】 稟の俗字

【禁】 キン

①とむ(制)さしとめる。②いましめる。
【戒】 ①つゝしむ(謹) ②とりしまる。③か
つ(勝) ④まじなひ(禁厭) ⑤のろひ(呪
咀) ⑥吉凶の忌、いみさける。⑦酒樽を陳
列する器。⑧きんり(禁裡) ⑨おきて(掟)
はつと(法度) 法律。⑩らうや、監獄
【禁中】 キンチュウ 禁廷、御所のうち。
【禁止】 キンシ ざしとめ、制しとむ。
【禁内】 キンナイ 御所、皇居。
【禁方】 キンパウ 秘傳の調判法。⑩秘密の技
術。
【禁令】 キンレイ 禁止のおきて、禁制。
【禁句】 キンク ①物事にさしあひある言葉
②作歌の上にて忌みさけるべき句。
【禁札】 キンサツ 禁制の條項を書きたる札。
【禁色】 キンシキ 昔許可なくしては裝束に用

禁

ゐられなかつた色。
【禁戒】 キンカイ さしとめ、いましめ。
【禁足】 キンソク 外出することを禁じ止む。
【禁物】 キンモノ ①所持又は賣買を禁じたる
物品。②惡みきらふべき物。
【禁制】 キンセイ さしとめ、法度(例) 天下の
禁制を破る。
【禁地】 キンチ 禁斷となりたる場所。
【禁門】 キンモン 天子の御門、轉じて宮中。
【禁呪】 キンシウ まじなひ、禁厭。
【禁垣】 キンケン 宮城の庭園。
【禁直】 キンチヨク とのゐ、宿直。
【禁省】 キンセイ 昔の宮中の役所。
【禁軍】 キンジュン 御所を守護する軍兵。
【禁酒】 キンシュ 飲酒をやめること。
【禁忌】 キンキ 日柄方位等につき忌むと。
【禁城】 キンシヤウ ごしよ、宮城。
【禁庭】 キンテイ 朝廷、皇居。
【禁苑】 キンエン 御所の庭園。
【禁旅】 キンリョ 近衛の軍隊、禁兵。
【禁書】 キンショ 法律にて發刊・閱覽等を禁
じたる書物。
【禁掖】 キンエキ 禁城に同じ。
【禁園】 キンエン 天子の庭園、轉じて御所。
【禁過】 キンカワ 制しとめる。
【禁裡】 キンリ 禁中に同じ。

禁

【禁溝】 キンコウ 御所のそとぼり。
【禁煙】 キンエン 喫煙禁止の意。②皇居にた
ちこめし霧。③寒食の時に火を用ゐるを
差止めること。
【禁裏】 キンリ 禁裡に同じ。
【禁厭】 キンエン 禁呪に同じ。
【禁獄】 キンゴク らうやにおしこめる。
【禁衛】 キンエイ 御所のまもり。
【禁網】 キンマウ 法律、おきて、法網。
【禁闕】 キンコン 禁中の小門、轉じて禁中。
【禁錮】 キンコ ①とぢこめて置く刑罰。②役
人になることを許さぬこと。③獄中に監
禁すること(刑罰の一)。
【禁闕】 キンケツ 禁門に同じ。
【禁斷】 キンダン 禁制の意(例) 殺生禁斷の場
所。
【禁閉】 キンペイ 禁中に同じ。
【禁園】 キンエン 王宮の小門の内、真御所。
【禁籍】 キンセキ 秘藏して他見を許さぬ書物
【禁鑰】 キンヤク 宮門のかぎ。
【禁治産】 キンヂサン 法律により財産を處理
することを禁止すること。
【禁慾主義】 キンヨクシヤウ 眞に道德的生活を
爲すには一切の欲求快樂を禁壓せざる
べからずとなす主義。

類語

戒禁ケイキン 嚴禁ゲンキン 刑禁ケイキン 威禁ケイキン
時禁ジキン 大禁ダイキン 法禁ハフキン 酒禁シュキン
邦禁ホウキン 國禁クニキン 宮禁キウキン 重禁ジュキン
憲禁ケンキン 門禁モンキン 戒禁ケイキン 苛禁カキン

【禊】 ケイ カツ

禊

みそぎ、水邊にて行ふ祓ひ(惡と穢を
除きはらふ祭)。
【禊祠】 ケイシ みそぎしてまつる。
【禊宴】 ケイエン 祓ひを行ふための酒宴。
【禊】 イン エン
まつる、きよめ祀る、天帝をまつる
【禊祀】 インシ まつること、祭祀。
【禍】 タツ
①わざはひ(殃)ふしあは
せ、まがごと(神咎)さいなん(災)又そ
れ等のこと。②こぼつ(毀)そこなふ(損)
【禍心】 タツシン ①人を害せんとする心。②叛
謀をはかる心。

禍

【禍厄】 タツヤク わざはひ、災難。
【禍母】 タツボ わざはひの起る本源、禍根。
【禍咎】 タツカウ 災難と神佛のとがめ。
【禍殃】 タツヤウ さいなん、わざはひ。
【禍胎】 タツタイ わざはひの生ずる因所。
【禍害】 タツガイ わざはひ。
【禍根】 タツコン わざはひのもと、禍母。
【禍累】 タツルキ 禍殃に同じ。
【禍階】 タツカイ 禍亂の階梯、その事より次
第に禍の及ぶにいふ。
【禍患】 タツワン わざはひ、さいなん。
【禍福】 タツフク わざはひと幸福。
【禍梯】 タツテイ 禍階に同じ。
【禍源】 タツゲン わざはひのもと、禍根。
【禍亂】 タツラン わざはひ、變亂。
【禍機】 タツキ わざはひあるしるし。
【禍難】 タツナン わざはひ、災難、反亂。
【禍變】 タツヘン 禍亂に同じ。
【禍由】 タツユ 禍亂の由。禍も禍も自分
の心より招くの意。
【禍從】 タツジュ 禍ハヒハクテヨリタラズ 言葉をつ
つしむべきことをいましめし語。
【禍福如二糾纏】 タツフクハキリトナラズ 禍福が
交々にいたりて繩の如くなるにたとへ
し語。
【禍福無門唯人所召】 タツフクモウチナラズヒトノ
シヨ

類語

【福】 フク

福

イストコロ 禍福には入るべき一定の門な
くたゞ人の善惡に應じていたること。
【類語】 陰禍インカ 酒禍シュカ 女禍メカ 親禍シンカ
飲禍インカ 嫁禍カハカ 消禍シウカ 禍カ
【福】 フク
①よることび、さいはひ、しあはせ、め
でたきこと。②神にそなへし肉。③さいは
ひす、福を受ける。
【福田】 フクデン 福德を生ずる三つの善行即
ち三寶の徳を敬するを敬田、君恩に報
いるを恩田、貧者をあはれむを悲田と
いふ。
【福利】 フクリ さいはひ、しあはせ。
【福音】 フクイン ①基督教の教旨。②さいはひ
なるたより。
【福相】 フクサウ 人相の幸運らしきをいふ。

【禮部】レイブ 支那の官衙の名にして我國の式部職に相當す。
 【禮帽】レイバウ 禮服を着る時の帽子。
 【禮遇】レイダウ 禮接と同じ。
 【禮答】レイタフ 相手の禮に應じて返す禮。
 【禮意】レイイ 敬禮の意志、敬意。
 【禮義】レイキ 物事を制裁する正しきのり。
 【禮經】レイケイ 聖賢の定めし禮法を記した書物。
 【禮聘】レイヘイ 禮を厚くして賢者を招く。
 【禮裝】レイサウ 禮服に同じ。
 【禮節】レイセフ 禮義の宜しきかなひたるをいふ、禮儀のけじめ。
 【禮數】レイスウ 身分に相應の禮儀・待遇。
 【禮樂】レイガク 禮儀と音樂。
 【禮器】レイキ 祭祀又は應接の時に用ゐる器具。
 【禮儀】レイギ 敬意又は謹慎をあらはす作法、又禮法の大別。
 【禮貌】レイバウ 敬意を以て禮儀正しく人をあしらふ。
 【禮籍】レイセキ 名位尊卑等を記載せる書物。
 【禮讓】レイジャウ 禮儀をあつくし人にへりくだる。
 【禮堂】レイダウ 寺院にて禮拜讀經などする所、禮拜堂。

【禮證】レイゼン 尊敬禮拜して賞讃する意。
 【禮拜堂】レイバウダウ 基督教にて神を拜し祈をさしげる會堂。
 【禮遇停止】レイダウテイジ 體面をきづける行為ありし爲め華族がその禮遇を取消されること。
 類語
 典禮レイ 制禮レイ 百禮レイ 賓禮レイ
 允禮レイ 軍禮レイ 嘉禮レイ 吉禮レイ
 周禮レイ 停禮レイ 頂禮レイ 無禮レイ
 祭禮レイ 報禮レイ 婚禮レイ 尙禮レイ

十四—十七畫

【禱】ダイ ナイ ネ 禱
 ①ちゝのたまや(生ける時は父、死しては考、廟に入れては禱といふ)②かたしる(軍旅に出づる時持つ木主の如きもの)
 【禱宜】ダイキ 昔は神主の下役、今は神宮・官國幣社の奏任・判任の神官。
 類語
 禱儀レイ 禱文レイ 禱言レイ 禱詞レイ 禱書レイ 禱文レイ 禱言レイ 禱詞レイ 禱書レイ

【禱雨】タウウ あまごひ。
 【禱祀】タウレイ いのりまつる。
 【禱書】タウレイ 祈願の文書。
 【禱福】タウフク 幸福をいのりもとむ。
 類語
 祈禱タウ 崇禱タウ 禱禱タウ 祝禱タウ
 齋禱タウ 祠禱タウ 拜禱タウ 默禱タウ

【禳】ジャウ 禳
 はらふ(神を祭つて災禍疫癘を除く)
 【禳災】ジャウサイ 禍害をはらふ。
 【禳禱】ジャウタウ 神にいのり殃禍を蔽ひて福を求む。
 類語
 禳儀レイ 禳文レイ 禳言レイ 禳詞レイ 禳書レイ 禳文レイ 禳言レイ 禳詞レイ 禳書レイ

【禱】トク 禱
 ①はげ、髪毛がぬけ落ちたるさま、かぶる、山林に樹木なきこと、木の葉など落ちて地の見えるさま②はげ、はげ、はげになる、誰の毛などすりきれしさま③國訓かぶる、かむる(童子の髪)の形、遊女に仕へる少女)
 【禿丁】トクテイ 僧侶をのしりいふ語。
 【禿山】トクサン 樹木なき山、はげやま。
 【禿筆】トクヒツ 毛のすり切れたる筆。
 【禿翁】トクウ 頭のはげたるおきな。
 【禿頭】トクトウ 毛の抜けたる頭、はげあたま

四—八畫

【禹】ウ ユ 禹
 ①支那の夏朝を創めし王②のぶ(舒)③ゆるやか(弛)
 【禹域】ウキキ 支那全土、禹の足跡の印せられしよりいふ、即ち禹の領土の意。
 【禹跡】ウセキ 前に同じ。
 訓讀
 【禹穴を探る】探禹穴一つつけをさる 名山大川等をさぐり遊ぶこと。

【禽】キン 禽
 ①とり(鳥)②鳥獸の稱③鳥獸の孕まざるもの④いけだる(擒)⑤とりこ(捕虜)⑥とりこにす、とらはる
 【禽囚】キンシウ とらはれ、俘虜。

【禾】カ 禾
 ①いね(稻)②穀類の總稱、こくもつ③な(苗)④わら(穀類の莖節)⑤國訓のぎ(穀の穂の先)のぎへん(漢字の畫が扁にある時の稱)
 類語
 家食カ 嘉食カ 水食カ 翔食カ
 時食カ 翠食カ 珍食カ 五食カ
 神食カ 豐食カ 飛食カ 逸食カ
 祥食カ 噴食カ 離食カ 歸食カ
 文食カ 孤食カ 遊食カ 驚食カ
 寡食カ 幽食カ 野食カ

【禿】トク 禿
 ①はげ、髪毛がぬけ落ちたるさま、かぶる、山林に樹木なきこと、木の葉など落ちて地の見えるさま②はげ、はげ、はげになる、誰の毛などすりきれしさま③國訓かぶる、かむる(童子の髪)の形、遊女に仕へる少女)
 【禿丁】トクテイ 僧侶をのしりいふ語。
 【禿山】トクサン 樹木なき山、はげやま。
 【禿筆】トクヒツ 毛のすり切れたる筆。
 【禿翁】トクウ 頭のはげたるおきな。
 【禿頭】トクトウ 毛の抜けたる頭、はげあたま

秀

シウ

秀

ま、禿頭病は髮毛の抜ける病氣。
①ひいづ、ひづ(草木の花のさきしげる)
②まさる、すぐれる、又そのものさかゆ(榮)
③しげる(茂)
④うつくし(美)
⑤よし(善)
⑥すぐ(超)
⑦すぐれたる人

【秀才】シウサイ すぐれたるはたらき、又其人②支那にて官吏登用試験の科目。
【秀士】シウシ 學藝にひいてたる士。
【秀句】シウク 詩文等にて極めてすぐれたる章句②たくみな洒落、かるくち。
【秀出】シウシュ 他にぬきんづ。
【秀吟】シウイン すぐれてよき詩歌。
【秀拔】シウハツ 衆にすぐる。
【秀眉】シウメイ 毛のこく美はしき眉。
【秀特】シウトク すぐれてぬき出でゐる。
【秀氣】シウキ ①ひいてたる精氣②山水の景色のすぐれたるをいふ。
【秀發】シウハツ 風貌の他にすぐれたると。
【秀望】シウバウ 名譽のすぐれたるにいふ。
【秀逸】シウイツ すぐれまさりたる貌、又そのもの。
【秀越】シウエツ 他にまさりすぐれてゐる。

【秀絶】シウゼツ 大いにすぐれてゐる。
【秀實】シウジツ 禾穀等の能く成長してみること。
【秀潤】シウジュン 書畫等のひとときはすぐれていき／＼してゐること。
【秀頤】シウエイ ①稻穂のほさき②衆にすぐれたる人。
【秀顔】シウガン 美しき顔。
【秀麗】シウレイ すぐれて美しき貌。
【秀靈】シウレイ すぐれてたえなること。

類語

英秀シウエイ 神秀シウシン 高秀シウカウ 俊秀シウジュン
挺秀シウテイ 特秀シウトク 前秀シウゼン 閨秀シウクワイ
雅秀シウヤク 翹秀シウキウ 芳秀シウハウ 貞秀シウテイ
擢秀シウタク 珍秀シウチン 鍊秀シウリョウ 孤秀シウコウ
峻秀シウジュン 崇秀シウチュウ

私

シ

①わたくし、自分に属する物事②不公平のさま③個人の秘密④慾心、ねちけたる心⑤一人にて居ること⑥ふだんに著る衣類、つねぎ⑦わたくしす、己のものとなす、己の勝手に行為、自分の利益をはかる⑧通達又は姦通⑨ゆばり、

小便、ゆばりす⑩姉妹が互ひに夫を稱する語⑪心の中にて、ひそかに、ないないに⑫家老のけらい、家臣の自稱⑬男女のかくし所(陰部)⑭國訓わたし、わたくし(自己の謙稱)
【私人】シジン ①一個人、一私人②家人、めしつかひ。
【私力】シリョク 自分の力、わがはたらき。
【私夫】シフ 情夫、まぶ。
【私用】シヨウ ①自分の用事②公の物をひそかに使ふ。
【私立】シリツ ①公立に對する語、私力を以て設立經營する②勝手にきめる。
【私心】シシン ①私慾②我が心中、自己の考へ。
【私有】シイウ 公有の對、一個人の所有。
【私回】シクワイ よこしま、わたくしごと。
【私交】シカウ 個人同志の交際。
【私行】シカウ 内々の行為、個人としての行動、又私用で出かけること。
【私利】シリ 自分一人の利益。
【私見】シケン 自分一個のみこみ考へ。
【私法】シハフ 私人相互間の權利義務の關係を規定したる法律(公法の對)。
【私曲】シキョク よこしま、邪曲、不公平。
【私印】シイン 公印に對し個人の印章。

【私宅】シタク 自分の住居。
【私事】シジ ①公事に對し一個人又は一家の事柄②ないしよごと。
【私刑】シケイ 英語のリンチ、犯罪者を法廷に持出さず私人の團體に於て殘虐なる制裁を加へること。
【私和】シワ 表沙汰にせず示談にすると。
【私官】シクワン 皇后に屬する官。
【私門】シメン 朝廷に對し人臣の家庭。
【私怨】シエン 私情より發したる怨恨。
【私信】シシン 公報又は官公文書に對し一個人の通信をいふ。
【私匿】シタク ①ひそかにかくす、又罪人をおかくまふこと。②私門に同じ。
【私家】シカ ①私門に同じ。②私益に對し一個人の利益をいふ。
【私乘】シシヤウ 個人が著述したる歴史。
【私財】シサイ 個人にて所有する財産。
【私通】シツウ ①ひそかに通ず、男女の密通又は姦通。
【私債】シサイ 公債に對し一個人の負債。
【私煮】シシヤ 民衆にてつくりたる鹽。
【私消】シセウ 公の物を私事に使ふこと。
【私恩】シオン 私交上の恩義。
【私娼】シシヤウ 隠し遊女、ぢごく。

【私欲】シヨク 私情より發したる慾念。
【私書】シシヨ ①公文書に對し一個人の文書②ないしよの手紙。
【私情】シジヤウ 一個人としての愛情、慾望。
【私從】シジユウ 自家のめしつかひ。
【私淑】シシユク 其人に親近せず他に在りてひそかに敬し模範となすこと。
【私設】シセツ 公設に對し私人によりて設置する意、又そのもの。
【私販】シバン 一個人の營業、又ひそかに賣買す。
【私報】シハウ 官職に在る者が役目以外の個人としての報らせをいふ。
【私第】シダイ 私邸、私宅に同じ、官公署等に對していふ。
【私惠】シケイ 君命によらずして人民にめぐむこと、わたくしのめぐみ。
【私訴】シソ 公訴に附帶して被害者たる私人が起す民事上の訴訟。
【私智】シチ 一個人の小さき智慧、正しからぬ智慧。
【私愛】シアイ ①氣に入りの女②又不公平
【私語】シゴ ①ひそ／＼ばなし、耳語。
【私德】シトク 自分一身に對する徳、節儉勉強などの類(公德の對)。
【私蓄】シチヤウ 個人のためはへ、又その物。

【私憤】シフン 私事のうらみ、いきどほり。
【私意】シイ 自分一己の考へ。
【私憾】シカン 自分の利害によつて人をうらむ。
【私悪】シアク 人にかくしたる悪事。
【私調】シテウ ①私事の面會②非公式の會見③内密の依頼。
【私撰】シセン 個人として著述すること、又その物。
【私學】シガク ①私立學校②己一個の利益を目的とする修學③現今は主として私立大學をいふ。
【私論】シロン 一般に通用せぬぎろん。
【私慾】シヨク 私欲に同じ。
【私親】シシン 自己の縁邊の者。
【私辨】シベン 自力にて費用を負擔すること、身錢を出す。
【私議】シギ 内々で批評論議すること。
【私願】シガン 自分一己のねがひ。
【私觀】シカウ 官吏が一個人の資格を以て面會すること。
【私權】シケン 法律上の語、私人相互間の關係を規定したる權利(公權の對)。
【私儲】シシヨ 私怨に同じ。
【私闘】シトウ 公の爲めならずして私怨、私慾などに基きたゝかひ。

【私生兒】シセイジ 正式の夫婦ならざる者の間に生れたる兒、私生子。
 【私印盗用】シインタクヨウ ミだりに他人の印章を使用して犯すつみ。
 【私印偽造】シインギョウ 他人の印章を不正の目的にて偽造すること。
 【私書偽造】シシヨギョウ 他人の文書を不正の目的にて偽造すること。

類語

榮私シイ 燕私シエン 寵私シヨウ 姻私シイン
 曲私シキョク 便私シベン 谷私シケン 家私シカ

三一四畫

秆

桿に同じ

籼

セン

うるち、うるしね(稻の一種)

秉

ヘイ

秉

①たば、一にぎりの稻の束②とる(執)手に握る、心にまもる③ますめの稱、

季

デン オン

とし、みのり(年)

秋

シウ

秋

①あき(四季の一)②みのり、又禾穀の熟する時③としつき(歳月)④をり(期節)とき、大切なる時期
 【秋千】シウセン 漢武帝の時後宮にて始めし遊戯、ぶらんこ。
 【秋水】シウスエ ①秋季に出る大水②秋季の澄める水③するどき刀の形容④鏡のかけ、又眼つき⑤はつきりとせる氣心。
 【秋分】シウブン 二十四氣の一、九月二十三日月頃晝夜の時間が平分する日。
 【秋收】シウシュ 秋季穀物をとり入れると。
 【秋晏】シウエン 秋の空。
 【秋社】シウシャ 秋の社日、秋分の前後に最も近き戊の日。
 【秋芳】シウハウ 秋季にさく花。
 【秋紗】シウサウ あきのすゐ、暮秋。

【秋河】シウカ あきのかは、秋川。
 【秋波】シウハ 女子の媚を呈する目つき、いろめ、よこめ。
 【秋季】シウキ 四季の一、あきの季節。
 【秋胡】シウコ 古の魯國の貞女の名。
 【秋宵】シウセウ 秋の夜、あきのよひ。
 【秋官】シウクワン 昔刑罰を司りし官、現今の我國の司法官に相當する。
 【秋思】シウシ 秋のものさびしきおもひ。
 【秋風】シウフウ 秋の風、あきかぜ。
 【秋郊】シウカウ 秋の郊外、秋の野原。
 【秋扇】シウセン 秋の扇、捨てゝ用ゐられざることゝ喩ふ。
 【秋砧】シウテン 秋季のきぬた。
 【秋涼】シウリョウ ①陰曆八月の別稱②秋のすゞしさ。
 【秋毫】シウガウ ①毛代りして薄くこまかになりし獸の毛②事の微細なるにたとへていふ(例)秋毫も犯さず。
 【秋蟄】シウキョウ 蟲の名、こぼろぎ。
 【秋晴】シウセイ 秋のはれたる天氣。
 【秋登】シウトウ 五穀のみのりの豊かなるにいふ。
 【秋報】シウハウ 新穀を神に奉る秋の祭禮。
 【秋景】シウケイ 秋の景色、秋色。
 【秋請】シウセイ 諸侯の秋季の参内。

科

カ

科

①しな、等級、品位②すぢ、條目③組織を有する研究上の智識又は證明を與へ得る系統④官吏の登用試験⑤おきて、法則⑥とが、つみ⑦くぼみたる所⑧しぐさ、動作
 【科人】カジン 罪人、とがにん。
 【科斗】カトウ 蝌蚪の略字、蛙の子、おたまじやくし。
 【科白】カハク 俳優のせりふとしぐさ。
 【科目】カモク ①こわけ、しな、分類せし簡條②官吏登用試験。
 【科料】カレイウ 刑罰の一、罰金よりも輕きもの。
 【科格】カカク 定められたる典例、方式。
 【科程】カカテイ ①ほどあひ、程度②學科、課業などにもいふ。
 【科條】カカウ 法律・規則等の簡條がき。
 【科場】カカウ 登用試験を行ふ處、試験場
 【科第】カカダイ 試験の科目によりて上下の次第を分つこと。
 【科頭】カカトウ かぶり物なき頭、すあたま。
 【科學】カクガク 一つの現象の原因及び結果を證明して概括したる系統的知識。

【秋陽】シウヤウ 秋の日、秋の日かげ、秋の日氣。
 【秋意】シウイ 秋の氣もち、秋季の景趣。
 【秋遊】シウイウ 馬のとびあがる貌、騰蹏。
 【秋嘗】シウシヤウ 秋季に新穀を神にそなへまつること。
 【秋興】シウキョウ 秋色をめで興ずること、秋氣の感興。
 【秋霖】シウリン 秋の景色、能く晴れたる秋の天氣。
 【秋霜】シウシュウ 秋の霜、志操の強固又は權威の盛んなるに喩へる語。
 【秋穫】シウワク 秋季五穀を收穫すると。
 【秋懷】シウクワイ 秋思に同じ。
 【秋聲】シウセイ 秋の聲、秋風の音、秋の景色についていふ。
 【秋彌】シウミ 秋の彌。
 【秋露】シウロ 秋そだてる露、あきこ。
 【秋宮】シウキウ 漢書に皇后宮を長秋宮とあり、皇后宮のこと。
 【秋刀魚】シウタウイ 海魚の一、さんま。
 【秋海棠】シウカイタウ 秋草の一、あきかいだう。
 【秋津國】シウキウクニ 日本の異名。
 【秋月寒江】シウゲツカンコウ 人品の高潔なるにいふ。

秋

耗

カウ

秋の本字
 類語
 ①いね(稻の屬)②耗に同じ

盈耗カウイ 空耗カウク 殘耗カウン 豐耗カウフ
 消耗カウウ 損耗カウン 減耗カウン 虧耗カウウ
 衰耗カウキ 彫耗カウウ 費耗カウヒ

【科學】クワガク 試験をいふ、官吏登用試験。
【科學的】クワガクテキ 論理的に組織されたる意、秩序正しきこと。
【科學評判】クワガクヒョウ 文藝上の作品を科學的に評價する様式。
【科學破産】クワガクハサン 科學の方則を以てしては宇宙の眞を相究めること能はざるをいふ。

【科學的管理法】クワガクキョウリ 商工業上の經營法を科學的に研究實施して能率の増進を計らんとする新運動。
【科學萬能主義】クワガクマンノウシギ 人生・宇宙のすべての事物は科學の力にて解決し得べしとなす主義。

【類語】
價科ケウカ 甲科ケウカ 乙科ケウカ 丙科ケウカ
催科ケウカ 舊科ケウカ 法科ケウカ 工科ケウカ
醫科ケウカ 嚴科ケウカ 峻科ケウカ 常科ケウカ
高科ケウカ 學科ケウカ 末科ケウカ 首科ケウカ
上科ケウカ 刑科ケウカ 茂科ケウカ 輕科ケウカ

【秒】ベウ
①のぎ(禾芒)②こまかし(微細)③時間の單位(一分の六十分の一)④角度の單位(一度の六十分の一)

位(一度の六十分の一)
【秒忽】ベウコツ 極めて少量なること、又細かく微妙なること。

【杭】カウ
うるしね、うるちね(稻のねばらざるもの)

【祗】ヒ
①しひな(皮のみにて総らざるもみ)②名のみにて實なきこと③けがれ(穢)けがす
【祗政】ヒセイ 政道の亂れたるにいふ、惡しき政治。
【祗穢】ヒキ しひなとぬか、役に立たざるものにとへ言ふ。

【秘】ヒ
五畫
秘の俗字

國名(秘露の略)
【租】ソ
①みつぎ、ねんぐ(年貢)②錢を拂ひて地を借る③つむ(積)つむ(包)

【租界】ソカイ 外國人の居留地、税金を取つて外國に貸したる地區。
【租借】ソシヤク 年々一定の賃金を出して土地・家屋等を借ること。
【租稅】ソゼイ 官より民に賦課して上納せしめるもの、ねんぐ、かゝりもの。
【租徭】ソニウ 年貢と人夫を徵發すること。
【租賦】ソフ みつぎ、取り立てもの。
【租借地】ソシヤクチ 租界に同じ。
【租庸調】ソウヨウテウ 日本・支那の古代の收稅法、租は田地にかゝる稅、庸は正丁の公役に當るもの、調は土地の所産に従ひ規定の絹布其他雜貨物を官に納むるもの。

【類語】
官租ソウ 本租ソウ 稅租ソウ 賦租ソウ
市租ソウ 負租ソウ 地租ソウ 田租ソウ
免租ソウ 庸租ソウ

黑黍の一粒のみの中に二個の實あるもの

【秣】ハツ マチ
①まぐさ(馬を飼ふわら、かひば)②まぐさかふ(馬に秣を與へ養ふ)

【秤】シヨウ
①はかり、てんびん(天秤)②公平なることにたとふ③量十五斤の稱
【秤杆】シヨウカン はかりのさば

【秦】シン ジン
①國名(周代には甘肅省秦州、後には陝西省全部を含む)②朝の名(始皇帝の創始せしもの、後に東西に分る)
【秦皇】シンキョウ 秦の始皇帝をいふ。
【秦聲】シンセイ 秦の國の音樂。
【秦鏡】シンキョウ 始皇帝が宮中に備へし鏡

【秧】アウ
秧

な(禾苗)しげし(禾の密なる貌)

【秧苗】アウベウ 田に植ふし苗。
【秧針】アウシ 稻のなを。
【秧插】アウサツ 田をさす。
【秧種】アウシュ 禾の葉多きさま。
【秧鷄】アウケイ 鳥の名、くひな、水雞。

【秩】チツ チ
①ついで(次)②ついで(序)③ふち(俸祿)④つかさ(司)⑤くらゐ(位)⑥つね(常)⑦ととのふ(整)⑧さとし(智)考へぶかきさま⑨きよし(清)⑩つゝしむ(敬)⑪十年間の稱⑫水の流れるさま
【秩米】チツマイ 官吏の給米、ふちまい。
【秩序】チツジヨ ついで、次第、順序。
【秩宗】チツソウ 百神を敍次することを掌る官職。

【秩々】チツチツ ①清くて明らか②秩序よく整へるさま③水の流れるさま④思慮ある貌⑤敬肅なる貌。
【秩敍】チツジヨ 官職のしだい、官序。
【秩祿】チツロク ふち、俸給。

【類語】
加秩チツカフ 祿秩チツロク 榮秩チツエイ 美秩チツビ
位秩チツイ 優秩チツユ 厚秩チツコウ 俸秩チツホウ

顯秩チツケン 寵秩チツチョウ 職秩チツシヨク 官秩チツクワン

【秣】シユツ ジユツ
①あは(粟)もちあは②あはもち

【秬】キヨ
①あは(粟)もちあは②あはもち

【秣】シ
①あは(粟)もちあは②あはもち

【秣】カツ
①わら(禾莖)わらしべ②わらのしきもの(わらしべにて織りしもの)
【移】イ
①うつす、位置をかへる、物事をかへ

る、變化さす、又うつる。①おくれる、のばす。②やる、わたす(渡)まはす。③古代の公文書の一體(回状様のもの)④國訓うつる(しみつく、染りつく、感染する)。

【移文】イブン 廻し文、ふれじやう、回状。

【移民】イミン 労働の目的を以て外國に渡航して永住する者。

【移住】イヂユウ 他の土地に移りてすむ。

【移易】イエキ うつしかへる。

【移栽】イサイ 植物を他の場所にうつしかへること。

【移書】イシヨ 移文に同じ。

【移病】イベウ 病氣の故を以て居を移すと。

【移封】イキウ 諸侯の封地をかへること、國がへ。

【移時】イジ しばらく、少頃。

【移謀】イサウ 回文に同じ。

【移動】イドウ 移り動かす、位置をかへる。

【移種】イシユ 植物の種子を移し植ふる。

【移實】イクワン 戸籍を他へうつすこと。

【移植】イシヨク うえかへ。

【移遺】イダク 回文をまはす、又その回文。

【移遣】イキ 遣しあたへる。

【移轉】イラン 事物の所在を移しかへる。

【移籍】イセキ 移實に同じ。

【移變】イヘン うつりかへる、移しかへる。

【移住民】イレイウジン 移民となりて來り住む者。いふ。

【移木之信】イボクノシン 徒木之信を見よ。

【移天易日】イテンエキジツ 天をかへ日をうつす、政權をみだりに行ふこと。

【移動警察】イドウケイサツ 汽車・汽船等に乗りて警察事故を取締る警官の別動隊。

類語
推移 イキ
回移 イウイ 倚移 イ
飛移 ヒ
量移 リヤウ 支移 シ 風移 フウ 星移 セイ

七畫

【稀】キケ 稀

①まれ(希)たまさか。②まばら。③すくなし(少)減多にない、ためしが少い。④うすし(薄)あはし(淡)。

【稀少】キセウ まばらにしてすくなき貌。

【稀代】キダイ ためしが少くてめづらしい。

【稀疎】キソ まばら、まれ、すくなし。

【稀薄】キハク まばら、うすし、まれ。

【稀覯】キコウ たまに見る、めづらしい。

【稀有】キウ めづたにない、ふしぎ。

【稀硫酸】キウリヤウ 水を加へてうすくしたる硫酸。

【稂】ラウ 稂

①草の名、莠の一種、稻を害する雜草。②物事を害ふもの、害物。

【稊】ラウイウ 害草、はぐさの一種、轉じて害物。

【稭】フ 米の殻、あらぬか、もみながら、すくも。

【稅】セイ タツ エツ

①みつき(租)ねんぐ、年貢を取たる。②とく(釋)おく(舍)③おく(贈)④よろこび(悅)よること。⑤とく(解)ときゆるす。⑥死者の尸にきせる爲に贈る衣。

【稅目】セイモク 租稅の種類。

【稅吏】セイリ 年貢の事を取扱ふ官吏。

【稅則】セイソク 年貢に關するきそく。

【稅制】セイセイ 租稅の賦課及び徵收等に關する制度。

【稅租】セイソ 年貢、みつき、租稅。

【稅率】セイリツ 稅金の目安、收入に對する稅金の割合。

【稅斂】ゼイレン 稅金を受入れること。

【稅權】ゼイケン みつきを徵收して利を占めるをいふ。

【稅賦】ゼイフ みつき、年貢。

【稅額】ゼイガク 租稅の金高。

【稅權】ゼイケン 租稅を徵收する權力。

【稅關】ゼイクワン 開港場などにありて輸出入物より關稅を徵收し又は密輸出入を監視する役所。

【稅務署】ゼイムシヨ 租稅に關する事務を取扱ふ役所。

類語
戶稅 ヲウゼイ 賦稅 アフゼイ 出稅 シユツ 田稅 テンゼイ 苗稅 ムウゼイ 徵稅 テウゼイ 租稅 ソウゼイ 常稅 ジヤウゼイ 假稅 カゼイ 雜稅 ジヤクゼイ 收稅 シウゼイ 減稅 ゼンゼイ

①のり、おきて、きそく。②一定せる分量のきまり。③ほど、程合。④みちのり(道程)⑤はかる(量)⑥釣の異名。⑦國訓ほど(身分)だけ、ばかり、ます、をり、とき、調子、工合、ころあひ、短き時間)。

【程文】テイブン 試験に用ゐる一定の法式ある文章。

【程式】テイシキ 模範、のり、てほん。

【程度】テイド ほどあひ、ころあひ。

【程限】テイゲン 程度、かぎり、ほど。

【程量】テイリヤウ ほどあひ、程度。①めかた、重量。

【程朱學】テイシユガク 性命理氣の學問にして宋の程明道・程伊川・朱子等の唱道せし哲學。

【程門立雪】テイモンリツセツ 程頤の弟子にして游酢・楊時の二人が師をしたひその教を求めんに熱心なりし故事。

訓讀
【程に倦む】テイゲンニウツム 歩きつかれる。

類語
歸程 ケイ 嚴程 ゲン 水程 スイ 章程 シヤウ 課程 ケイ 便程 ビン 法程 ホフ 商程 シヤウ 常程 ジヤウ 準程 ジン 典程 テン 方程 ハウ 標程 ヒョウ 品程 ヒン 期程 ケイ 訓程 クン

【稭】ト 稭

もちいね(もちごめの稭)

【稍】サウ セウ 稍

①周轉にて玉城を去る三百里の地。②や(漸)少しの度合、幾分、かなり。③ふち(廩食)毎月にたまはる扶持米。④ひとし(均)⑤ちひさし(小)。

【稍食】セウシヨク 毎月たまはる扶持米。

【稍々】セウセウ いくらか、やよ、かなり。

八畫

【稊】リク ロク 稊

わせ(早く熟する稊)

【稔】ジン ニン 稔

①とし(年)穀物が一回みのる期間。②みる、みのり、穀物がよく熟す。③物事

險程 ケン 故程 コイ 短程 タン 算程 サン 規程 ケイ 修程 シウ 行程 ケウ 前程 チョウ

【稊】テイ 稊

①のびえ、稊の一種、くろいぬびえ。②葉に通ず、川柳の穂、一説に其めばえ。

類語
戸稅 ヲウゼイ 賦稅 アフゼイ 出稅 シユツ 田稅 テンゼイ 苗稅 ムウゼイ 徵稅 テウゼイ 租稅 ソウゼイ 常稅 ジヤウゼイ 假稅 カゼイ 雜稅 ジヤクゼイ 收稅 シウゼイ 減稅 ゼンゼイ

【稭】カン 稭

秤に同じ、わら(禾莖)

類語
歸程 ケイ 嚴程 ゲン 水程 スイ 章程 シヤウ 課程 ケイ 便程 ビン 法程 ホフ 商程 シヤウ 常程 ジヤウ 準程 ジン 典程 テン 方程 ハウ 標程 ヒョウ 品程 ヒン 期程 ケイ 訓程 クン

【稔】ジン ニン 稔

①とし(年)穀物が一回みのる期間。②みる、みのり、穀物がよく熟す。③物事